

# 聖徒の道

7  
1998

第168回  
年次総大会報告

末日聖徒イエス・キリスト教会





「サウステンブル 1894年」 アル・ラウンズ画

ソルトレーク・シティにあるサウステンブル・ストリートを描いたこの絵は、1894年当時の様子を想像して描かれている。  
4つの歴史的建造物（ソルトレーク神殿、ライオンハウス、ビーハイブハウス、イーグルゲイト）のうち、最後に完成したのはソルトレーク神殿で、1893年に奉獻されている。  
1963年にイーグルゲイトの道路幅が拡張されたものの、これらの歴史的建造物はすべて現存している。

# 末日聖徒イエス・キリスト教会 第168回年次総大会報告

1998年4月4、5日の両日、  
ユタ州ソルトレーク・シティー、  
テンプルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた  
年次総大会の説教とその模様

**喜**ばしい発表が、第168回年次総大会の最後になされた。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、次のように語っている。

「ここ数か月、わたしたちは非常に遠く離れた地の教会員たちの間を旅してまいりました。この世の富にはあまり恵まれていない多くの方々とお会いしてきました。しかしその方々は、心の中に末日の業に対する非常に熱い思いを持っています。彼らは教会を愛しています。また福音を愛しています。そして、主を愛し、主の御心<sup>みこころ</sup>を果たしたいと望んでいます。わずかな金額かもしれませんが、彼らは<sup>じゆうふん</sup>自分の一を納めています。この人々は神殿に行くために、大変な犠牲を払っています。安い料金のバスや古い船に乗り、何日も何日も旅を続けるのです。そのためには、生活を切り詰めて、お金をためます。

この人々には、小さくても美しく十分な機能を持つ神殿が近くに必要です。そこで、わたしはこの機会をとらえて、30ほどの小さな神殿を早急に建設するプログラムを、教会全体に発表い



総大会に参加するため世界中から訪れた聖徒たち

たします。それは、アメリカ合衆国、カナダをはじめ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、フィジー、メキシコ、中南米、アフリカにも建設されます。主の宮の儀式を行うに必要な施設はすべて備えている神殿です。

これはすばらしい事業となるでしょう。過去に例のない事業です。……

わたしは神殿の儀式が回復された福音の重要な要素であることを<sup>あかし</sup>証します。そうである以上、わたしたちには、それが成し遂げられるようにするための手段を講じる責任があります。わたしたちが非常に大きな規模で進めている家族歴史の探求は、そのすべてが神殿

事業に向けられています。そのほかの目的はありません。神殿の儀式は教会が提供すべき最高の祝福となっています。

ただこれらの神殿のうち30から32が建設された時点で、さらに新たな神殿建設の発表がなされるということは言えません。」

今大会では、教会指導者たちから靈感と動機づけを与える有意義な説教の数々が語られたが、日曜日午後の部会の最後になされたヒンクレー大

管長のこの胸躍る発表は、大会の最後を飾るにふさわしいものであった。

2日間にわたった総大会の各部会は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の司会により行われた。

重要な管理上の決定は、土曜日午後の部会で行われた。七十人第二定員会の3人の中央幹部が七十人第一定員会会員として支持され、新たに13人が七十人第二定員会に召され、16人が地域幹部七十人に支持された（本誌「教会役員<sup>の</sup>支持」および「チャーチ・ニュース」の項参照）。——編集部□

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オクス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング  
編集長：ジャック・H・ゴーズリンド  
顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者  
実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー  
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ  
編集主幹：マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン  
編集副主幹：デビッド・ミッチェル、ディーン・ウォーカー  
編集補佐：ジェニファー・グリーン・ウッド  
工程管理：メアリーアン・マーティンデール  
出版補佐：ベス・デーリー

デザインスタッフ  
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ  
アートディレクター：スコット・パン・カンペン  
デザイナー：ジェリー・クック  
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マッシュ・H・マックスウェル  
予約購読スタッフ  
ディレクター：ケイ・W・ブリッグス  
配送部長：クリス・クリステンセン  
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「『聖徒の道』 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて資料管理部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック  
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

Copyright©1997 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月 原題—International Magazines July, 1998. Japanese. 98987 300

July 1998 no. 7. SEITO NO MICHI (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

# 索引

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

- あ 証 4 6 73 90
- 安全 53
- イエス・キリスト 4 12 19 68 70 73
- 怒り 86
- 一致 70 92
- 受け継ぎ 92
- 教え 9 28
- 親の務め 66 103
- か 家族のきずな(「結婚」「親の務め」の項も参照) 6 19 38 56 66 86 97 101
- 家族歴史 38
- 完成 33
- 犠牲 84
- 教会歴史 6
- 兄弟のきずな 92
- 清さ 56
- 清め 62
- キリスト教 12 62
- キリストの弟子となる 12
- 啓示 35
- 決意 33
- 結婚 56
- 現世 15
- 高潔さ 49
- 幸福 88
- 個人の価値 103
- 子供 6 66
- さ 才能 42
- シオン 33
- 姉妹のきずな 77
- 従順 47 49 53 84 88
- 什分の一 84
- 女性 77 97
- ジョセフ・スミス 35
- 試練 59 80
- 神権 44
- 信仰 4 59
- 信仰箇条 25
- 神殿と神殿事業 38 95 99
- 救いの計画 97
- 聖文の研究 9 35
- 聖約 19
- 聖霊 28 70 73 90
- 選択の自由 86
- 備え 15
- た 伝道活動 25 31 44 47 80

- な 忍耐 59 80
- は フェローシップ 28
- 福音 25 31 62
- 扶助協会 77
- 振る舞い 31
- 奉仕 15 49 68 101
- ま 目標 88
- 模範 44
- ら 労働 42
- わ 若い女性 68 97 99 101 103

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

- アイリング、ヘンリー・B 70
- エッジリー、リチャード・C 12
- オクス、ダリン・H 62
- クック、リチャード・E 31
- スコット、リチャード・G 92
- ステーリー、ドナルド・L 88
- ターリー、リチャード・E、シニア 90
- ティンギー、アール・C 44
- トーマス、キャロル・B 99
- ナドル、マーガレット・D 68 97
- ネルソン、ラッセル・M 38
- バックナー、ボイド・K 77
- バラード、M・ラッセル 35
- パラモア、ジェームズ・M 47
- ハンセン、W・ユージン 66
- ヒンクレー、ゴードン・B 4 56 73 95
- ファウスト、ジェームズ・E 19 23 49 103
- ヘイト、デビッド・B 6
- ヘイルズ、ロバート・D 80
- ペリー、L・トム 25
- ポールマン、ロナルド・E 84
- ホランド、ジェフリー・R 28
- マックスウェル、ニール・A 42
- ミラー、デール・E 33
- モンソン、トーマス・S 53 59
- ラーセン、シャロン・G 101
- ロビンズ、リン・G 86
- ワースリン、アン・G 9
- ワースリン、ジョセフ・B 15

# 目次

末日聖徒イエス・キリスト教会第168回年次総大会報告 …1

## 1998年4月4日(土)午前の部会

わたしたちは主について証する

ゴードン・B・ヒンクレー ……4

戒めに従って生きる デビッド・B・ヘイト ……6

聖文を愛することを子供たちに教える

アン・G・ワースリン ……9

弟子となり友となる リチャード・C・エッジリー ……12

備えの時 ジョセフ・B・ワースリン ……15

神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知ってください

ジェームズ・E・ファウスト ……19

## 1998年4月4日(土)午後の部会

教会役員の支持 ジェームズ・E・ファウスト ……23

教会監査委員会報告 テッド・E・デービス ……24

1997年度統計記録 F・マイケル・ワトソン ……24

信仰箇条 L・トム・ペリー ……25

「神からこられた教師」 ジェフリー・R・ホランド ……28

キリストは人の行動を変えてくださる

リチャード・E・クック ……31

「聖徒を完成する神の王国の道」 デール・E・ミラー ……33

驚くべき主の啓示 M・ラッセル・バラード ……35

新たな収穫の時 ラッセル・M・ネルソン ……38

## 1998年4月4日(土)神権部会

「押せ、肩の力もて」 ニール・A・マックスウェル ……42

伝道活動 アール・C・ティンギー ……44

「心と進んで行う精神」 ジェームズ・M・パラモア ……47

「わたしたちはこれらのことを尋ね求める」

ジェームズ・E・ファウスト ……49

危険な道 トーマス・S・モンソン ……53

いつか結婚する女性にふさわしく生活する

ゴードン・B・ヒンクレー ……56

## 1998年4月5日(日)午前の部会

神に頼って生きる トーマス・S・モンソン ……59

あなたは救われていますか ダリン・H・オークス ……62

子供たちと家族 W・ユージン・ハンセン ……66

キリストのもとに来る マーガレット・D・ナドール ……68

わたしたちが一つとなれるように

ヘンリー・B・アイリング ……70

証 ゴードン・B・ヒンクレー ……73

## 1998年4月5日(日)午後の部会

扶助協会 ボイド・K・パッカー ……77

「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う」

ロバート・D・ヘイルズ ……80

特権である身分の一 ロナルド・E・ポールマン ……84

選択の自由と怒り リン・G・ロビンズ ……86

従順——人生の大きなチャレンジ

ドナルド・L・ステアリー ……88

不確かな事柄と確かな事柄との隔たりをなくす

リチャード・E・ターレー・シニア ……90

幸福に至る障壁を取り除く リチャード・G・スコット ……92

福音の「最高の祝福」をもたらず新しい神殿

ゴードン・B・ヒンクレー ……95

## 1998年3月28日(土)中央若い女性集会

家族に心を向ける マーガレット・D・ナドール ……97

わたしたちのまことの身分を理解する

キャロル・B・トーマス ……99

若い女性——自由の旗 シャロン・G・ラーセン ……101

天使に近い者となるために

ジェームズ・E・ファウスト ……103

指導者の言葉 ……108

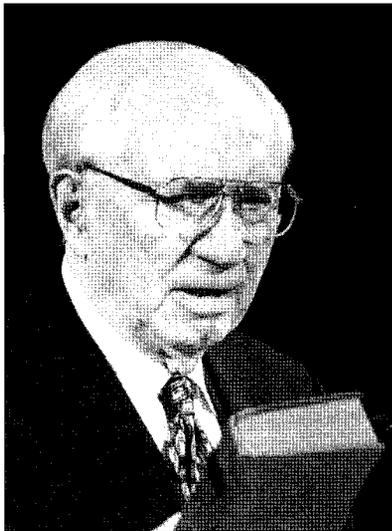
チャーチ・ニュース ……110

# わたしたちは あかし 主について証する

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

自分にしてほしいことを人に行うという黄金律を実践して、キリストのまことの弟子となりましょう。



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、今や教会における世界規模の大会となっているこの総大会に、皆さんを心から歓迎いたします。

大会の様子は合衆国とカナダ、そのほか世界中の多くの地域に、テレビやラジオを通して中継されています。これに匹敵するものはほかにないでしょう。この大がかりなプロジェクトには複雑な実務作業が欠かせませんが、それを担当して下さっているすべての方々の働きに称賛を送り、また感謝を申し上げます。

わたしたちは主を礼拝するために、主が神の御子であり実在の御方であられることを宣言するためにここに集っています。主に対するわたしたちの愛を、また主がわたしたちを愛しておら

れるという知識を再確認するために集まっています。だれがどのようなことを述べようとも、その愛を弱めることはできません。

しかし、中にはそれを試みている人々がいます。例えば、わたしたちをクリスチャンと見ていない教派があります。でも、それは重要なことではありません。わたしたち自身が自分をどう見るかが大切なのです。わたしたちにほかの教派と異なっている部分があることは率直に認めます。そうでなければ福音の回復は必要なかったのですから。この件については、パッカー会長とバラード長老が別の場で話をしてくれました。

このことについては議論をしてほしくありません。議論をする理由がないからです。わたしたちはただ、穏やかに、わびることなく、神と御子が御姿を現されて、主の業の時満ちる最後の神権時代が始まったことを証すればよいのです。

教義の違いについて話すときに、不愉快な態度を見せてはなりません。辛辣な態度に出ることなどはもってのほかです。ただし、啓示を通して授けられた、また鍵と権能を持つ古代の人々から直接授けられた知識を放棄したり、その知識に妥協を加えたりする必要はありません。この業が世の救い主が起こされた回復の業であることを、決して忘れないようにしましょう。この業は、何世紀にもわたって積み上げられてきた偽りと思われる慣習や教義

への改革ではないのです。

わたしたちはほかの宗教を尊重します。いや、そうでなければなりません。ほかの宗教の方々が成し遂げてこられた偉大な善行は認めるべきです。子供たちには、教会員でない方々への寛容と親切を教えましょう。そして、ほかの宗教の方々とともに、わたしたちの文明を偉大にした、また社会を傑出したものにした価値ある事柄を擁護するために、手を携えて努力するのです。

一例を申し上げますと、先日わたしの事務所にプロテスタントの牧師の方が来られました。ポルノグラフィーとの終わることのない戦いの指導者として活躍しておられる方です。彼に心から感謝しています。わたしたちは彼と彼の同僚と行動を共にし、彼の組織に金銭的な援助をしています。

わたしたちはいろいろな事柄においてほかの宗教の方々と力を合わせて働くことができます。わたしたち皆が大切に思っているものを脅かす社会悪に対する永遠の戦いです。信仰は同じではありませんが、彼らはわたしたちの友人、隣人であり、いろいろな目的において力を合わせて働く方々です。彼らの働きには、喜んで協力したいと思えます。

しかし、これらすべてを認めたくえでも、教義の妥協はありません。妥協はわたしたちの側には必要のないことであり、あってはならないことです。ただ、ともに働くときはある程度同志としての意識があります。

明確な使命を遂行するとき、わたしたちは最後である末日の神権時代に言葉を発せられた、よみがえりの主からの命令の下に働きます。この業は、主の唯一の驚くべき業です。わたしたちは主について証します。でも、傲慢な、独善的な態度を見せる必要はありません。

ペテロが述べたように、わたしたちは「選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、神につける民」です。なぜでしょうか。「それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝える」ためです(欽定訳1ペテロ2:9)。

信心家ぶって人を見下すような態度

は、わたしたちには似つかわしくありません。わたしは教会員でない、ある近隣の方からお手紙を頂きました。この方のお嬢さんが学校で、末日聖徒のクラスメートたちからのけ者扱いされているというのです。この方の話では、首にかけていた自分の宗教のメダルを末日聖徒の子供にもぎ取られた男の子がいるとうわさもあるようです。この話が事実でないことを望んでいます。もし事実であれば、嫌な思いをされた方々におわびいたします。

そのような事柄はもう超越しましょう。お子さんにもそう教えてください。自分にしてほしいことを人に行うという黄金律を實踐して、キリストのまことの弟子となろうではありませんか。わたしたち自身と子供たちの信仰を深め、教会員でない方々に思いやりを示しましょう。愛と尊敬はいかなる敵対心をも克服します。親切な態度というものが、わたしたちの信じることを人に伝えるうえで最も説得力のあるものになる可能性があるからです。

さて、もう一つお話ししたいことがあります。1週間前、わたしはニューヨーク州パルマイラを訪れました。そこで二つの建物の奉獻を行いました。一つは、ジョセフ・スミス・シニアの家族がパルマイラに越して来て初めて住んだ小さな丸太の家です。14歳の少年が近くの森に行って神に祈ることを決意したのは、まさにその小さな家に

おいてでした。こうして彼は、御父と御子のたぐいまれな示現を体験することとなったのです。

また、同じこの家で天使モロナイが少年ジョセフに現れ、彼の名を呼び、神が彼のために業を備えておられることを告げます。こうあります。「またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られることをわたしに告げられた。」(ジョセフ・スミス-歴史1:33)

正式な教育をほとんど受けていない農家の少年が、どうしてそのようなことを人に言えるでしょう。しかし、主の業は進みました。そして、この回復された福音が全世界に宣べ伝えられるまで、それは続くことでしょう。

パルマイラでもう一つ奉獻したのは、E・B・グランディンの建物です。1829年から1830年にかけて、『モルモン書』の初版が印刷されたのがこの建物です。初版の印刷は大胆な事業でした。グランディン氏は初め『モルモン書』をまがいものだと思っていましたし、また5,000部という部数も当時としては非常に大きい数字だったからです。喜ばしいことに、以来この驚くべき書物の発行は8,800万部を超えています。

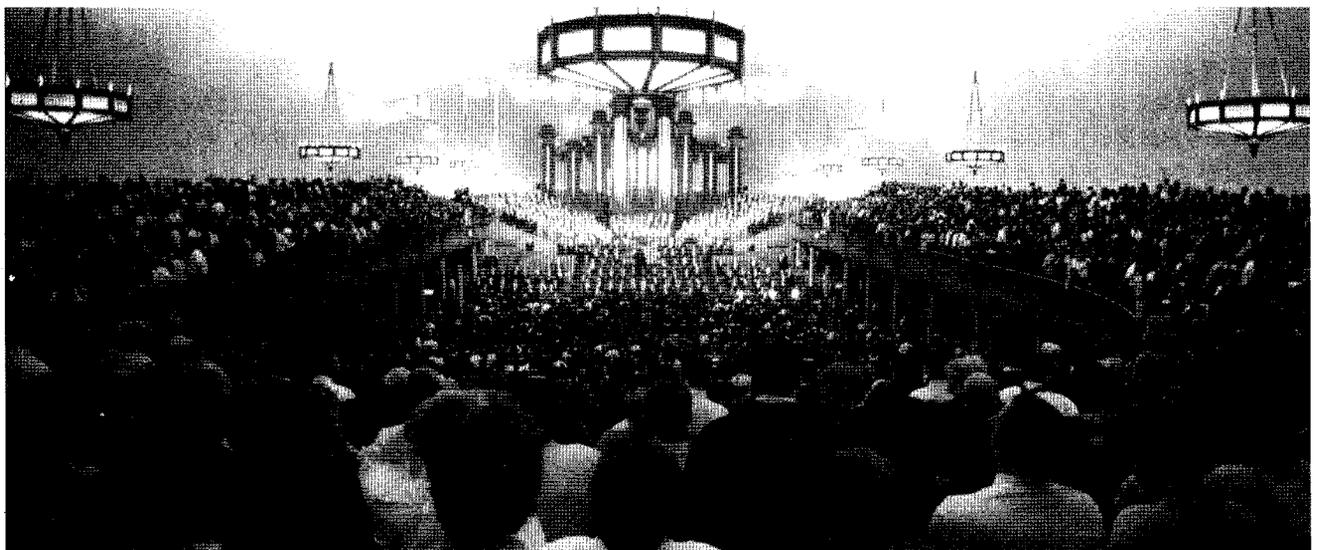
この建物は、ある教会員が私費で購入し、教会に惜しみなく寄贈してくださいました。その方に感謝いたします。この建物そのものが、神の御子につい

ての驚くべき証である『モルモン書』の真実性に確証を与えてくれます。

『モルモン書』を読んだ人で、それが神から出たものであることに反駁できる人がいるでしょうか。批判する人々はいろいろな解釈を加えるかもしれませんが、しかし、その努力を重ねれば重ねるほど、ちりから語られた声としてのその起源に関する記述の正当性がより明らかになってくるのです。

わたしは主がわたしに授けてくださった証に心から感謝しています。ジョセフ・スミスが神から召されたこと、最初の示現が実際の出来事であること、神権が回復されたこと、そしてこの末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であることへの証です。

ですから愛する兄弟姉妹の皆さん、主の業の最も栄光に満ちたこの時期に、主からの賜物としてこのすばらしい教義と儀式が授けられていることに、感謝の心をもってともに喜ぼうではありませんか。今は主の栄光の復活を思い起こす復活祭の季節です。わたしたちは主の復活を証します。この貴重な賜物と特権にこれからも感謝し続けましょう。そして主を愛する者として、自分の分をよく果たしましょう。この説教壇から語られる、皆さんの僕として召された者たちの言葉にどうぞ耳を傾けてください。わたしたちが祝福を受けられるよう、へりくだり、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

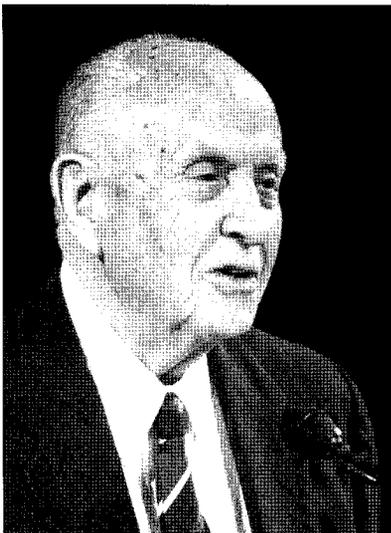


大会時のタバナクル内部の様相

# 戒めに従って生きる

十二使徒定員委員会  
デビッド・B・ヘイト

人生で与えられているこの偉大な機会を生かして、より良い生活を送り、善をなし、良き業を行い、人々に良い影響を与えてください。



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは何とすばらしい光景を目にし、何と美しい日を迎え、何と栄えあるひとときを過ごしていることでしょうか。特に地上における神の預言者の感動的な宣言あかしを聞いた後でこの壇上に立つ機会を得たわたしにとっては、いっそう感慨深いものがあります。

大管長が『モルモン書』の初版を掲げていたとき、わたしは数年前に開かれた伝道部長セミナーに出席したときの経験を思い出していました。パルマイラーフェイエット地域において2日間にわたって開かれたセミナーの最後に、わたしたちは復元されたピーター・ホイットマーの住居で夕食を取りました。この美しい小さな農家において168年前のこの週末に教会が組織されたのでした。それはさぞ感動的なひとときであったことでしょう。丸太造

りの小さな家には調理器具らしきものといえば暖炉だけでした。暖炉に目を向けると、そこにはなべがつるされていました。ホイットマー家の人々はそこで食事を作っていたのでした。当然のことながら、今日見られるような便利なものは何一つありませんでした。水は屋外の井戸から運ぶのです。

伝道部長たちとの非常に霊的な集会も終わりに差ししかかったころ、わたしは階段を上がって2階へ行きました。そこには寝室が二つありました。ピーター・ホイットマーの家族がそこで暮らしていたのです。けれども彼らはその一室を預言者ジョセフ・スミスに提供しました。ジョセフは一時そこで『モルモン書』の翻訳を行いました。そのようなつましい場所でオリバー・カウドリはジョセフの作業を手伝いました。わたしはその小さな農家に足を踏み入れて、そこで行われた事柄を想像し、天の祝福が彼らに注がれたことに思いをはせただけで、心が燃えるすばらしい気持ちを経験しました。

その日の晩に集会が終わり、小さな農家を後にしました。外へ出てみると、こうこうと輝く満月が木々の間から光を投げかけていました。わたしは妻のルビーにこう言いました。「1830年4月6日の夜がどのような様子だったか想像できるよ。わずかな人々が集まって、教会が組織され、賛同した6人の男性がニューヨーク州の法律に照らして合法的に臨席したあの晩のことをね。そこで語られたことや、教会の将来について預言されたこと、そしてどのような証が述べられたかを想像できるよ。」

そしてわたしはこう付け加えました。「1830年4月6日の夜はきっと満月だったと思う。まるで救い主がそこで行われたことやその場の状況にほほえんでおられることを示すかのように。」

後に、わたしは何人かが集まっていた場所でそのことを話しました。その場に居合わせた、当時ソルトレークのハンセン・プラネタリウムの館長を務めていたチャンパーレイン兄弟がわたしの話を耳にしました。チャンパーレイン兄弟は、親切にも1830年4月6日がどのような日であったかを海軍気象台に問い合わせしてくれました。しかし気象台にはそこまで昔の記録がありませんでした。そこで彼はよくよく考えて、もしや記録があるのではと思い、イギリスのグリニッジにある王立天文台に問い合わせました。しばらくして、彼から書類が届きました。書類には1830年4月6日に水平線のはるかかなたで起こった現象について示され、そこから1830年4月6日前後の数日間は満月、または輝くばかりの美しい月が続いていたことが判明したと記されていました。主の栄光が確かにその場に注がれていたのです。

わたしは今朝、ヒンクレー大管長がこれらの言葉に尽くせぬほどすばらしい出来事について語る言葉に耳を傾けて、わたしが人生を通じて教えを受ける機会を与えられてきたこと、世界中でまた神殿において数々の出来事を経験してきたこと、主の御霊みたまがこの業を導いていることを感じさせる教会の集会に出席してきたことを光栄に思っています。わたしはこの業が真実であることを証します。そして歳月が過ぎた今、まさにわたしは偉大な預言者の証にわたしの証を付け加えるという光栄にあずかっています。

数日前、わたしはケビン・キャンベルという名の若い男性から1通の手紙を受け取りました。彼はアイダホ州ジャニパーに住んでいる19歳の青年です。ジャニパーがどこにあるかをここでお話するつもりはありませんので、おおよその位置をご想像ください。ケビン兄弟はこのように書いてきました。「ヘイト長老がかなりの老齢の域



ソルトレーク神殿

に達しておられることを知りました。そこで、長老が次の世界へ向かわれる前にお手紙を差し上げようと考えた次第です。長老ほどの老齢に達した方はどのような生活をしておられるのでしょうか。わたしはこのことについてよく考えるのですが、想像もつきません。そこでご質問です。『現在の人生はどのようなものですか。』わたしが長老ほどの年齢を迎えたときに、何が待ち受けているか知りたいのです。』

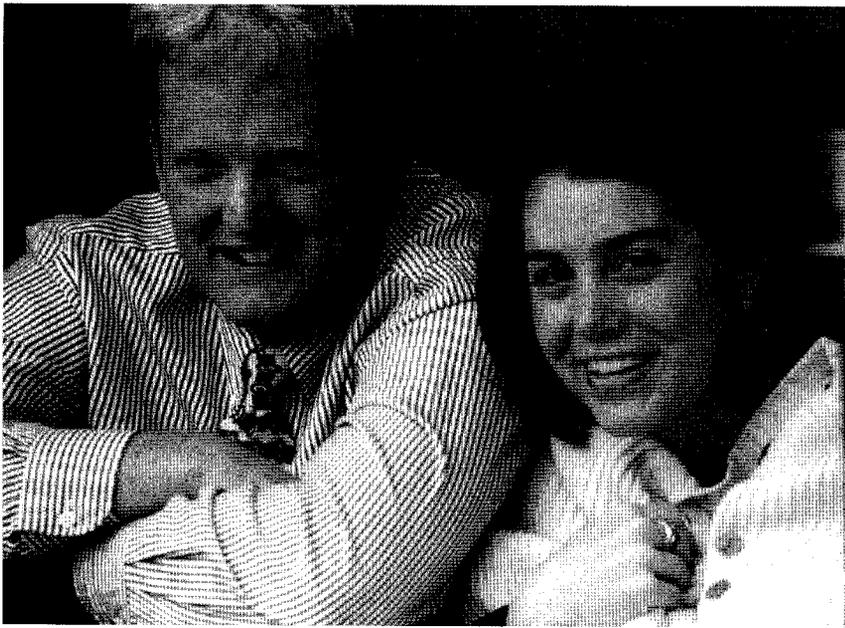
わたしはケビン・キャンベルに、「ご心配には及びません。すばらしい生活を送っています」と答えたいと思います。わたしは生涯を通じて祝福を受けてきました。人生に付き物のチャレンジ、機会、疑問、問題にも恵まれてきました。これ以外の説明を思いつきません。しかし、教わっている簡潔な原則に従い、わたしたちが知っているように正しく生活するならば、人生はすばらしいものとなります。わたしたちのような高齢者が受けるすばらしい祝福の一つは、自分の子供、孫、そしてひ孫たちと一緒に過ごす時間が増えることです。彼らと集まり、一緒に過ごす機会です。

つい最近も、ひ孫に当たる女の子レイチェルがバプテスマを受けるのでワードの集会所で開かれたバプテスマ会に出席する機会があったばかりです。さらに数日前の晩には、ひ孫の男の子リチャードがバプテスマを受けました。わたしたちは彼らをじっと見詰め、話をし、抱き締めました。また彼らの目の輝きと、彼らの心と霊を満たす福音の光を見る機会がありました。彼らはバプテスマを受けて、正式な教会員になることに非常に感激していました。彼らは真実の福音の原則を家族から教わっていました。リチャードのバプテスマ会ではこのようなやり取りがありました。握手をしながら、わたしは言いました。「リチャード、ほんとうの宣教師の握手をしてくれるかい。」すると8歳の男の子は小さな手にぎゅっと力を込めて、わたしの指が折れるかと思うほどの握手をしてくれました。わたしはこう言いました。「リチャード、きっとすばらしい宣教師になるよ。レイチェルはきっとお父さんやお母さんのようなすばらしい教会員になるよ。」

同じときにわたしたちは、アロン神

権を受けるピーター・ジュニアを囲んで立ち、父親が神権の祝福を与えるのを聞く機会に恵まれました。わたしたち年長者は輪の一員として立ち、その出来事が持つ意味をかみしめ、それを感じ、その場にいる全員がわたしたちの家族なのだということを実感しました。わたしは家族が大きく広がっていく中で、彼らが自分たちの父祖たちについて知るよう願っています。『モルモン書』の偉大な預言者ヒラマンがニーファイやリーハイを含む彼らの父祖たちについて息子たちに教え、また『モルモン書』に記されているように父祖たちが神の御言葉みことばに従い、戒めを守り、どのようにしてエルサレムをたって荒れ野に向かったかを教えたときに用いたように、わたしも父祖たちと呼んで、複数形でこの言葉を用いています。ヒラマンは子供たちに、彼らの父祖たちは多くのことを行い、それらの業は良いものであったことを教えました。

そこでわたしも、子供たちが世代を重ねていくときに、自分たちの受け継ぎを知り、自分たちが何者であるかを知り、彼らの父祖たちが信じたこと、彼らの父祖たちはチャレンジに立ち向か



ったこと、真理を探究し、全世界へ出て行って真理を宣言したこと、しかも単なる聖文の引用のみならず、自らの行動が正しいことを思いと心に感じて宣言したのだと知ってもらいたいです。

わたしたちは、子供たちが先祖を知り、父祖たちが人格、功績ともに立派だったと知ってもらうために、アイダホ州オークレーにある古い我が家を買戻して、以前の状態に修復する機会にもあずかりました。オークレー第1ワードの監督を務めていたわたしの父に、わたしの生まれる前年の1905年にワードから贈られた金時計を、わたしは手放さずに大切にしてきました。わたしたちは両親の受け継ぎのわずか一部を手にはしています。それは、彼らの働きが立派であり、両親がこのすばらしい業の前進に助力したことを思い起こさせるものです。

教義と聖約第1章で、主はこれが「わたしの戒めの書へのはしがきである」と宣言されました(6節)。教会が組織されてから18か月後に、兄弟たちはこれらの啓示を編集し、印刷して、預言者ジョセフが受けた戒めを人々の手に届けるために、オハイオ州ハイラムに集まりました。この最初の章の中で、主は、『モルモン書』を翻訳し、「暗黒から、また暗闇から」教会を「もたらす」ために、主がどのようにしてジョセフ・スミスに天からの力、

靈感、指示を授けられたかを説明しておられます(29-30節参照)。

今日、ヒンクレイ大管長に何が起きているかを少し考えてみてください。大管長は全世界を旅行し、このユタから出て行って、人々と会っています。教会を「暗黒から、また暗闇から」「もたらす」ことを話題にするとき、大管長はこの地から出て行って、報道関係者、メディア関係者、またあらゆるタイプの人々と会っていることを考えてください。彼らは神の預言者を見、預言者が証し、どのようなことが行われてきたかを説明する言葉を聞く機会を得ているのです。多くの有力な新聞、雑誌、その他出版物が教会に関する好意的な記事を数多く掲載しています。

今日の世の人々が、主が自ら切り出した石の板に指をもって書かれた十戒だけでも正しく理解するとしたら、それはすばらしいことではないでしょうか。モーセは、欲しいままに振る舞っていたイスラエルの子らが、語られた御言葉を理解していないと言わせないために、シナイ山を下りて来ました。モーセが石の板を持って下りて来たときに、民は主御自身の御言葉を読むことができました。それは「あなたはわたしのほかに、なにもものをも神としてはならない」(出エジプト20:3)そして「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない」(出エジプト

20:4)、すなわち礼拝の対象とするほかのものを作ってはならず、主を愛し、神を愛しなさいという戒めでした。主はわたしたちに、神の御名をみだりに唱えてはならないこと(7節参照)、安息日を覚えてこれを聖とすること(8節参照)を告げ、「あなたは殺してはならない」(13節)、「あなたは姦淫してはならない」(14節)と言われました。今日の世界において、アメリカ合衆国において、政治にきりきり舞っている博士と呼ばれる人々の間で、これらの戒めが正しく理解されるならば、どれほど世の中が変わるかを想像してみてください。そして主の戒めはさらに続きます。「あなたは盗んではならない」(15節)あるいは「偽証してはならない」(16節)そして隣人の牛、畑、妻、またすべて隣人のものをむさぼってはなりません(17節参照)。

わたしたちの主、救い主の福音が地上に回復されました。神は生きておられます。神はわたしたちの御父です。わたしはそれを知っています。イエスはキリストです。わたしは主の御声を聞きました。「わたしの声は御霊だからである。わたしの御霊は真理である」と主が説明しておられるその御霊を感じたからです(教義と聖約88:66)。わたしはそれが真実であることを知っています。ジョセフ・スミスは回復者であって、彼は見いだされ、訓練を受け、回復を担う器としてあらゆる点で従順であり、また雄々しく働きました。そして今日、わたしたちには生ける預言者がいて、世界のあらゆる場所において見事にわたしたちを代表しています。

兄弟姉妹、戒めに従って生活してください。正しいことを行ってください。人生で与えられているこの偉大な機会を生かして、より良い生活を送り、善をなし、良き業を行い、人々に良い影響を与えてください。福音は真実です。わたしは毎日の生活の中で何か善いことができるように、人々がより良い生活を目指し、地上に回復された福音を理解するよう励ましを与えられるよう願っています。イエス・キリストの御名によってお話しします。アーメン。

# 聖文を愛することを 子供たちに教える

中央初等協会第一副会長  
アン・G・ワースリン

愛情を豊かに注いでいる両親と献身的に働く教師たちの導きによって、幼い子供は聖文に親しみ、聖文に伴う精神に親しむことができるようになるのです。



**救**い主はニーファイ人の間で教えを説いておられたときに、かつて預言者イザヤが末日のイスラエルについて預言した言葉を確認して、このように言われました。

「『わたしは少しの間あなたを捨てたが、深い憐れみをもってあなたを集めよう。

……山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから去ることなく、わたしの平和の聖約は動くことがない』と、……主は言われる。」(3ニーファイ22：7，10)

救い主は続いて、末日の義人たちのために主の平和の聖約を伝えていく一つの方法を明らかにされました。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受

け、あなたの子孫の平安は深い。」(3ニーファイ22：13)

救い主のこれらの御言葉は初等協会のテーマであり、初等協会の目的として掲げられ成就しています。すなわち、子供たちにイエス・キリストの福音を教え、子供たちがイエス・キリストの福音に従った生活ができるように助けることです。

終わりの時に関する出来事が次々に起こるのを目の当たりにしていますと、主はこの聖句を直接わたしたちに向かって語っておられるのだと考えざるを得ません。わたしたちは末日のイスラエルです。主の子らに教えなければならぬのは、ほかならぬわたしたちなのです。平和を確立できるかどうかは、わたしたちの制御が及ばない外側からの力にかかっているのではないのです。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔らかな道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約19：23)

何世紀も昔に語られた主の御言葉は、希望と確信にあふれる言葉であり、主の子らを教える義にかなった両親に慰めを与えるものとなっています。子供たちの心の平安がまるでつかみどころのない夢のようにしか思えないとき、それらの言葉がわたしたちに語りかけてくるのです。救い主はわたしたちが子供たちに教えるならば、それを現実にすることができると約束されま

した。初等協会はこの大切な責任を果たす両親の皆さんを支援します。

指導者訓練の責任を受けてブラジルへ行ったときのことで。わたしはある初等協会の託児クラスを訪問する機会がありました。8人くらいの子供たちが教師と一緒にテーブルを囲んで座っていました。これら2歳と3歳の子供たちは、教師が手にした絵をしばらくの間熱心に見ていました。救い主が幼子と一緒におられる絵です。わたしはその様子を畏敬の念に打たれながら見守っていました。教師は主がどれほど子供たちを愛しておられ、彼ら一人一人をどんなに愛しておられるかを話していました。彼女はまた、天の御父も子供たちを愛しておられることを教えていました。わたしは子供たちがじっと耳を傾けている様子を見ているうちに、彼らはわたしが考えている以上によく理解していると感じました。子供たちは教師の言葉に耳を傾け、教師の愛を感じていました。この美しく純粋なひとときに、子供たちは「わたしは何者なのですか」という人生で最も大切な質問の答えを教えられているのでした。子供たちの霊はその子供らしい純粋な信仰によって、教えられている真理をすんなりと受け入れたのでした。子供たちは毎週日曜を迎える度に、託児のクラスでこうした経験を繰り返しているのです。それはまさに、幼い子供たちの人生において学ぶ準備の整った教えるには絶好の時期と言えるでしょう。

最近実施された子供の脳の発達に関する調査によって、子供が学習する方法と時期に関して新たな事実が明らかにされました。それを引用してみたいと思います。「新生児の脳細胞は誕生した瞬間から非常に勢いで増殖して、ほかの脳細胞と連結する。この連結から刺激が発生して一生涯にわたる人の行動パターンに影響を与える。誕生後の3年間が最も重要である。」(J・マデリン・ナッシュ、「Fertile Minds」Time「増殖する知能」『タイム』1997年2月3日号，49)

自分が何者であって、何をしなければならぬかを教えられるべき時期として、天の御父は、非常に幼い子供ら

の心に十分学習可能な能力をお与えになりましたが、それは驚くべきことではないでしょうか。言語を習得する期間は誕生から始まって10歳までがピークです。そしてこの言語能力は将来、知識と真理を理解する基礎となります。この基礎は彼らが耳にする言葉と、彼らを取り巻く世界が与える印象によって形造られます。両親が子供たちのために聖文を読んであげるのに理想的な時期がこの時期です。子供たちは聖文の言葉を学び始めることでしょう。

皆さんは、子供たちが聖典を手にして初等協会に向かう姿にお気づきかもしれません。今年、初等協会の子供たちは聖文から学び、聖文を活用する方法を教えられています。「わたしは聖文が真実であることを知っています」が分かち合いの時間のテーマです。ある日曜日の朝、わたしは初等協会を訪問して、分かち合いの時間に参加しました。そこでわたしは、子供たちがひざの上に自分の聖典を開いていることに気づきました。初等協会の会長と教師の指導で、子供たちは自分の聖典から預言者の物語を見つけていたのです。わたしも好きな聖句を子供たちと分かち合うように頼まれました。わたしが話を終えると、前列に座っていた4歳の少女が聖典をかざして、こう言いました。「その聖句、わたしの聖典にも載っているよ。」愛情を豊かに注いでいる両親と献身的に働く教師たちの導きによって、幼い子供は聖文に親しみ、聖文に伴う精神に親しむことができるようになるのです。

ある初等協会の指導者は、初等協会が聖文に焦点を当てていることにどれほど感謝しているかを話してくれました。彼女はご主人とともに、2歳、3歳、4歳の子供たちに毎晩寝る前に聖文を読んで聞かせていると話してくれました。わたしは彼女にもっと詳しく聞かせてくださいと頼みました。実は、そのように幼い子供たちがはたして聖文の言葉を理解できるかということにわたしは疑問を持ったのです。彼女とご主人も子供に聖文を読み聞かせ始めた当初は同じように考えたそうです。けれども、最初の1週間が過ぎてみると、

言葉は問題でないことに気づきました。子供たちは一緒に聖文を読み、御霊を感じるのが大好きなのです。子供たちは驚くほど多くのことを理解しているのです。

非常に幼い子供が持つ学習能力と理解力は一般に考えられているよりもはるかに優れています。子供たちは毎日新しい単語を覚えていく過程で、聖文の言葉を学習するというすばらしい可能性を秘めています。両親と教師の導きによって、子供たちはやがて天の御父が聖文を通して子供たちに語りかけておられることを理解するまでに成長します。彼らは遭遇する問題の答えを聖文から見いだすようになります。

ある友人が、家を引っ越したときに息子のアレックスが経験したことを話してくれました。アレックスは引っ越したくありませんでした。学校が変わるのが嫌だったのです。彼は家や家族からわずかの時間でも離れるのがとても不安で、学校へ行きたくないと思っていました。ある日のこと、母親はアレックスにテモテへの第二の手紙第1章7節の聖句を読んで聞かせました。「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」

彼女はこう言いました。「わたしは不安なときにこの聖句によって何度も助けられたことをアレックスに話しました。」彼女は愛と、聖文を通して得た個人的な経験を分かち合うことによって、アレックスが恐れに打ち勝つ助けをしました。けれども、もっと大切なことは、彼女が息子に聖文に結びついた経験をする機会を与え、聖文が息子の生活においてどれほど力を発揮するものかを理解させたことでした。

ニーファイはこのように述べています。「わたしは聖文に喜びを感じるからである。わたしは聖文について心に深く考え、わたしの子孫の知識となり利益となるようにこれを書き記す。」(2ニーファイ4:15)

預言者の教えが子供たちの生活に変化をもたらすものとなるように、子供たちが聖文から学ぶ習慣を身に付けさせるにはどうすればよいのでしょうか。

わたしたちは家族と一緒に聖文を読むよう奨励されています。聖文を読み、聖文に関する経験を分かち合うことを家族の習慣として確立すれば、子供たちはそれぞれの生活の中でもそれを習慣とすることでしょう。

子供たちがまだ小さかったころ、わたしたち夫婦は家族にこの習慣を確立することが大切だと感じていました。そこで、その年の学校の年度が終わるまでに『モルモン書』を読み終える目標を立てました。毎朝、朝食の前に1章ずつ読み、目標を達成しました。家族全員で分かち合ったすばらしい経験を否定するつもりはありませんが、読み終えてから、わたしたちはその過程で学ぶ事柄よりも目標を達成することの方に気持ちが向いていたことを反省しました。早朝、朝食のテーブルに着くまで、全員が慌ただしい時間を過ごします。神の御言葉がわたしたちの生活においてどのような意味を持つかについて意見を交換したり、深く考えたりする時間がほとんどありませんでした。救い主はニーファイ人に教えておられたときに、このように言われました。「自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい。そして、理解できるように、また明日のために心が備えられるように、わたしの名によって父に願いなさい。わたしはもう一度あなたがたのところに来るであろう。」(3ニーファイ17:3)

救い主はわたしたちが聖文を研究するときに従うべき手本を示されました。わたしたちは御言葉に耳を傾け、その意味を深く考え、理解できるように天の御父に助けを求め、そして、約束された祝福を受けられるように心と思いを備えます。深く考えるとは、文字に目を走らせる以上のことです。それは、生活の中で人と接したり、選択したりするときに助けとなるよう、御言葉の意味を調べることです。また、頭で理解した御言葉を、心で理解することなのです。わたしたちが天の御父についての事柄を知りたいと祈りをもって求めるときに、御霊はわたしたちの心に証をしてくれます。わたしたちはその証と知識を得たときに、キリス

トの模範に近づくように考え、生活し、人と接することができるのです。

子供たちは両親であるわたしたちに導きを求め、またわたしたちを模範とします。裏表なく、聖文が教えているように生活していれば、わたしたちは価値観が相反する世にあって真理を見分けるための指針となる確かなよりどころを子供たちに与えることができます。わたしたちは聖文を道案内することによって、子供たちがそれぞれの経験と、自分が選んだことに対する結果を分析、処理できるように助けることができます。このようにして、子供たちが常に永遠の見地から物事をとらえて、自分が何者であり、どこへ行くかを決して忘れることのないように助けることができます。

預言者ジョセフは、主を愛する、献身的で、賢い両親によって、自分が果たすことになる業のために備えられました。彼らは聖文を読んで聞かせ、聖文に基づいて子供たちを教えました。このような背景があったからこそ、若いジョセフは混乱して導きを必要としたときに、ごく自然に聖文に向かった

のです。ジョセフはこのように述べています。「12歳のころにわたしは、わたしの不滅の霊が幸福を得るために必要とされるあらゆることについて真剣に考えるようになりました。そこで、神の御言葉が収められていると教えられていた聖典を調べ始めました。」(The Personal Writings of Joseph Smith『ジョセフ・スミスの著作集』ディーン・C・ジェスパー編、4-5)

ヒンクレー大管長は両親に対して、次のような勧告を与えています。「子供たちに読み聞かせてください。神の御子の物語を、『新約聖書』や『モルモン書』からも読んで聞かせてください。これは時間がかかることですが、皆さんがとても忙しいと知っていますが、このことはあなたがたと子供たちの人生に大きな祝福をもたらします。子供たちの心には、地上を歩いた唯一の完全な御方である世の救い主に対する大きな愛が育つことでしょう。救い主が確かに実存する御方であると感じられるようになり、彼らが、男性として、また女性として成熟するにつれ、救い主の大いなる贖いの犠牲は、彼ら

の生活において新しく、いっそう栄えある意味を持つことになるでしょう。」(Church News『チャーチニュース』1997年12月6日付け、2に引用)兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは子供たちに聖文を読んで聞かせることによって、預言者が語ったこの大いなる約束を手に行うことができます。

子供たちが主を愛していることを知ってわたしたちが感じる喜び以上の大きな喜びはありません。また、わたしたちが主の愛を感じ、主の贖いの犠牲の意味を理解するときに与えられる平安に勝るものはありません。それぞれが経験している神聖な事柄を分かち合うときに感じる精神が、家族のきずなを強めるのです。ヨハネはこれを美しく表現しています。「わたしの子供たちが真理のうちに歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」(3ヨハネ1:4)

わたしたちが預言者の勧告に従うならば、この祝福にあずかることをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。



日曜日の部会でモルモンタバナクル合唱団を指揮するジェロルド・D・オットリー

# 弟子となり友となる

管理監督会第一副監督

リチャード・C・エッジリー

ほんとうに大切なことはほかの人々がわたしたちについてどのような定義を下すかではなく、救い主がわたしたちをどのような人物と見られるかです。



何年前にわたしがある会社で働いていたときのことです。人事部長が秘書のダーレーンを伴ってわたしの事務室に入って来ました。人事部長は敬虔なカトリック教徒でした。一目見て、ダーレーンは自分の意志でここへ来たのではなく、できればここにいたくないという顔をしているのが分かりました。人事部長は開口一番こう言いました。「ダーレーンにモルモンがキリスト教徒だってことを話してやってくれませんか。30分以上も議論したんですけど、彼女を納得させられなかったものですから。あなたから聞くのが一番だと思ひましてね。」

わたしはとっさに、わたしの生活ぶりを見て、ダーレーンはわたしが救い主を信じていることや主に忠誠を尽くしていることに疑いを持ったのかと思いました。しかしすぐに、彼女の疑い

はわたし個人に向けられたものではないと分かりました。

わたしは二人に腰かけるように勧めると、なぜわたしたちがキリスト教徒ではないと思うのかをダーレーンに尋ねました。彼女は牧師がそう言ったからだと答えました。次に、教会の正式な名称を知っているか尋ねると、彼女は知りませんでした。この教会についてはモルモンという名でしか知らなかったのです。正式名称は末日聖徒イエス・キリスト教会であると説明してから、教会としては少し変わった名前だからキリスト教徒でないと思ったのか尋ねてみました。わたしはそのカトリック教徒の人事部長に頼み、飛行機の中やホテルで、あるいは夕食を一緒にしたとき、また個人的なつきあいの中で何度も話し合ってきたことなどから、わたしたちがキリストとキリストの教え、そしてわたしたちの信条についてどのような考えを持っているかを、彼の方から説明してもらうようにしました。恐らくわたしが話すよりも彼の方がダーレーンを納得させられると思ったからです。

ダーレーンは、牧師の話を持ち出しました。彼が言うには、わたしたちが『聖書』を信じていないので、その代わりに『モルモン書』を使っているということでした。わたしはそこで信仰箇条第8節を引用しました。「わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる。また、『モルモン書』も神の言葉であると信じる。」

続いて、『モルモン書』は『聖書』を補う聖典であって、キリストについて

のもう一つの証<sup>あかし</sup>となっていることを説明しました。キリストの最も神聖で、大切な教えの多くを詳しく説明し、また明らかにしていることを話しました。すると彼女はこう言いました。「使徒たちが亡くなってから啓示は与えられなくなったので、『モルモン書』にキリストの教えが含まれているはずがありません。したがって、『聖書』の時代以降に聖文は存在しないと牧師は言っています。」わたしは彼女に尋ねました。「世界は不安と紛争であふれ、また多くの問題で揺れ動いています。このように急速な変化を遂げている時代に、独り子を犠牲になさるほど御自分の子供たちを愛された御父が、その子らに対して何の交流もなさらないとはおかしいと思いませんか。」話し合いはそれから15分か20分続きました。わたしたちが文字どおりに解釈している贖罪<sup>しよぐい</sup>と復活について、またそのほか救い主の大切な教えについて説明しました。愛にあふれた御父と進んで御父の御心<sup>みこころ</sup>を行われる御子について、持てるすべての力を込めて証をして、話し合いを終えました。

話し合いが終わっても彼女の反応は同じでした。「牧師が話したことはそのとおりなのです。」問題は依然解決されないままでした。解釈の相違による落胆と困惑が幾分後を引きました。

理解に欠ける一部の人々によって無意識であれ悪意に基づいているのであれ、多くの人々が間違った方向に導かれていることに無関心ではられません。人の心と良心の裁きは、万人の公平な審判者にお任せするのがいちばんよいと思います。だれがキリストの真の弟子かの判断は救い主にゆだねられています。主はこのように言われました。「わたしはよい羊飼<sup>ひつじかい</sup>であって、わたしの羊を知」る(ヨハネ10:14)。

わたしの友人で牧師をしているチャールズ・テラー師に、わたしたちの教会の基本的な教義の幾つかについて紹介しました。するとしばらくして、わたしに電話で、福音の理解が深められたと連絡してきました。彼は多少興奮気味にこう言いました。「モルモン教会の教えと教義を勉強する時間を取

っていただいたおかげで、モルモンはほんとうのキリスト教徒であることがはっきりしました。実のところ、最近知り合ったモルモンの人ほどキリストのような人々にわたしは会ったことがありません。」

わたしは彼が『モルモン書』を読んで救い主に関する『モルモン書』の証と教えに目を向けてから、彼がどのように感じ、理解しているかを聞きたいと言いました。すると彼はこう答えたのです。「もうすでに『モルモン書』を読み始めています。すばらしい書物ですね。キリストとキリストの使命に関する理解が広がりました。『モルモン書』を読んでいるとすばらしい霊を感じます。」

この友人は判断を下す前に、自分で学ぶ時間を取りました。彼は理解が不十分の状態、あるいは間違った考えに基づいて、人々に影響を与えるような言動を慎みました。判断を下す前に、そして当然のことですが自分の誤解を他人に押しつけようとする前に理解しようとする、これはわたしの責任でもあると感じました。

わたしの友人であるダーレーンにもう一度説明したいと思います。その名称が示すように教会のあらゆる教義、儀式、原則はイエス・キリストが中心となっています。『モルモン書』はイエス・キリストについて証しています。そしてキリストの教えを強調し、明確にしています。『モルモン書』の預言者ニーファイは世界に向けてこのように宣言しています。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の救しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーファイ25:26)

ニーファイはさらにこのように述べています。「わたしが語ってきたイエス・キリストのほかに、人に救いを与えることのできる名は天下に与えられていない。」(2ニーファイ25:20)

わたしはダーレーンとの話し合いで、その結末に悔いを残したことを長

年考えてきました。けれどもそのとき以来、わたし自身に誤解を正す責任がある場合を除いて、誤解や不合理な教えに基づいた見解にあれこれ悩むべきではないという考えを持ちました。ほんとうに大切なことはほかの人々がわたしたちについてどのような定義を下すかではなく、救い主がわたしたちをどのような人物と見られるかです。したがって、問題になるのはこの点です。すなわち、救い主御自身はわたしたち一人一人を、そしてわたしたち全員をどのように見ておられるかということです。

このような理由から、わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちと天の御父ならびにイエス・キリストとがどのような関係にあるかに最大の関心に向ける必要があります。

わたしの父は義にかなう、模範的な生涯を送りました。その父が最後の瞬間に、持てる力を振り絞り、ようやくかすかに聞き取れる声でこのように言いました。「わたしは救い主から友と呼ぶにふさわしい者と認められたら、もう何も望まないよ。」救い主から友と呼ばれたらどれほどすばらしいことでしょうか。父が望んだように、わたしも、はたしてキリストは御自分の羊の中にわたしを加えてくださるかどうかと考えます。キリストはわたしが主の教えの良い模範となり、主の神聖な原則に従って生きる努力をしたと認めてくださるでしょうか。わたしを弟子と呼んでくださるでしょうか。友と呼んでくださるでしょうか。これこそがほんとうに大切なことです。

救い主はヨハネによる福音書第15章で、弟子となるための基準を与えました。主はこのように述べておられます。「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」(14節) 救い主はさらにこのように述べて、過酷な試験が行われることを明らかにされました。「あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。」(マタイ7:16。17-18, 20節も参照) わたしたちは皆、このようにして裁かれるのです。すな



わち、わたしたちが良い実か悪い実のいずれを結ばせるかを。最後の裁きにおいて、わたしたちの実が確かに良いものであれば、神の右に座ることを許されるでしょう。そこに座る人々は主の友となる人々であろうと思います。

ですから、たとえ歩みが弱々しく、おぼつかなくとも、わたしたちがキリストのような生活を送ろうと熱心に努力しているならば、ほかの人がわたしたちをどのように考えようとも、それは大したことはありません。わたしたちがキリスト教徒であるかどうかの責任はわたしたちにあります。ほかの人々には、わたしたちの人格を自由に判断させてかまいません。真の公平な審判者はあるがままのわたしたちを裁いてくださることでしょ。弟子であるかどうかは自分で判断することであって、ほかのだれがするのでもありません。

わたしたちはバプテスマに際して、各人の自由な選択に基づいてキリストの御名を受けます。キリストの御名を身に受けることによって、主の教えに従うことを聖約します。わたしたちは聖餐を受ける度に、聖約を更新し、日常生活を吟味する機会が与えられます。

そこで次の標準的な質問をすることができます。個人としてまた家族として毎日祈りをささげているでしょうか。聖文を読んでいるでしょうか。家庭の夕べを開き、じゅうぶん 什分の一を納めているでしょうか。質問事項はさらに続き

ます。これらの質問を突き詰めると次のようになります。「わたしたちは弟子になろうとしているだろうか。」「わたしたちは友となるための道を歩んでいるだろうか。」

アルマはどのように尋ねています。「あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたの心の中に、この大きな変化を経験したか。」(アルマ5:14) 大切なのは心の中で起きる変化です。生活が変わることによって起きる変化です。

続くアルマの質問は一般的な質問から、具体的な質問に入っていきます。アルマはこう尋ねています。

- 「あなたがたは、罪のない状態で神の御前を歩んできたか。」
- 「あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして、……十分にへりくだっていると言えるであろうか。」
- 「あなたがたは高慢な心を取り去っているか。」(アルマ5:27-28)

ここでわたしたちは以下のような質

問を付け加えることができるでしょう。

- わたしたちは兄弟たちを自分のように愛しているか。
- わたしたちは仕事上の取り引きやその他の関係でまったく正直に行動しているだろうか。
- わたしたちは自分の関心事より家族を優先しているか。
- わたしたちは今日、世の中のために何か善いことをしたか。
- わたしたちは預言者の勧告と教えに従っているか。

そうです。問題は、わたしたちが目に見える形で礼拝しても、それがキリストのような生活を送っていることを真に証明するものかどうかということです。キリストのことを話し、キリストについて説き、さらにはキリストに関して預言しても、それだけでは不十分です(2ニーファイ25:26参照)。わたしたちはキリストの弟子として生活しなければなりません。なぜならば、救い主は個人の日々の生活を御覧になって、わたしたちが主の真の弟子、真

の友であるかどうかを判断されるからです。

世界中のダーレーンに申し上げます。わたしたちはキリスト教徒と呼ばれるにふさわしい実をもたらしているとわたしは考えています。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたち自身に対して申し上げます。わたしたちの行い、振る舞い、心、そして顔に救い主の教えの良い模範が浮き彫りにされ、全人類のために果たされた主の偉大な犠牲に対する感謝の気持ちが表されていることをわたしは望んでいます。

わたしたちの神学と個人の生活にキリストとのかかわりがあるかどうかを疑問視している人々がいれば、わたしたちはキリストが世の贖い主であられることを彼らに証します。キリストはわたしたちの主であり、光であり、救い主です。キリストは高い所から聖任されて、万物の下に身を落とし、いかなる人よりも大きな苦しみを受けられました。わたしたちはキリストを中心に据えて、あらゆることを教え、あらゆることを行います。この教会は、救い主の弟子であることを証するために務め励んでいる一人一人のキリスト教徒の集まりです。それは組織としてではなく、個人として追求することなのです。

主がかつて生きておられたこと、主が亡くなられたこと、そして現在生きておられることを証します。主はわたしたちの罪を贖ってくださいました。わたしたちがそれぞれの人生を一生懸命に生きるように、また生けるキリストの真の弟子であることが教会員にも教会員でない人にもはっきりと分かるような方法で礼拝をささげられるように祈っています。しかし、あらゆる人にとって真の公平な審判者である主イエス・キリストによって、わたしたちがそのように行っている者であることを認めていただくことの方がはるかに大切です。イエス・キリストによって真の忠実な僕、弟子、友と認められること以上に大きな報いがあるでしょうか。イエス・キリストの御名によってお話しします。アーメン。



総大会参加者とともに賛美歌を歌う大管長会。左から、トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

# 備えの時

十二使徒定員会会員  
ジョセフ・B・ワースリン

試しの生涯には限りがあります。しかし、それがいつ終わるのかはだれにも分かりません。備えの生涯は毎日毎日が貴いものです。



愛する兄弟姉妹の皆さん、教会の総大会に再び皆さんとともに出席でき、心から感謝しております。わたしは今、御霊の導きを祈り求めています。備えの時としての死すべき生涯の大切さについて皆さんとともに深く考えたいと思います。アミュレクはこう証しています。「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。」<sup>1</sup>

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちは人の永遠性について特別の理解を得ています。わたしたちは、人には前世があったことを理解しています。また、わたしたちは人を幸福に導く天の御父の偉大な計画を受け入れ、主なる救い主イエス・キリストに従う道を選びました。わたしたちは次の3つの原則を受け入れ、それを得るために奮闘しました。(1)選択

の自由、すなわち、善悪を選択する能力 (2)成長、すなわち学び、天の御父のようになろうとする能力 (3)信仰、すなわち、神のみもとへ戻れるようにわたしたちを導いてくれる、御父の計画とイエス・キリストの贖いに対する信仰、という3つの原則です。それによって、わたしたちはこの世へ来ることを許されたのです。この世の生涯について主は次のように言われました。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」<sup>2</sup>

わたしたちは、永遠に続く来世の生活があること、また、現世における思いと行いによってどのような生活をするようになるかが決まるということも理解しています。この世の生涯は非常に短いものですが、その大切さには計り知れないものがあります。

聖典には「主の道は一つの永遠の環である」<sup>3</sup> ということ、また神は「永遠から永遠にわたって存在〔する〕すべてのことを」<sup>4</sup> 御存じである、ということが述べられています。わたしたちもまた永遠の存在です。わたしたちがこの地上にいることは、御父の素晴らしい計画の中の重要な課程なのです。御父のこの計画は、神の子たちに幸福を与えるために定められたものです。「〔わたしたち〕が存在するのは喜びを得るためである。」<sup>5</sup> 預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「わたしたちが存在する目的は、幸福を得ることです。徳、正直、信仰の聖い……道を歩み続け、神のすべての戒めを守るなら、そこに達すること

ができます。」<sup>6</sup>

今というこの非常に大切な時は、家族とともに天の御父のみもとへ戻る永遠の成長の一つの過程です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう教えています。「わたしたちはすばらしい受け継ぎ、神からの賜物を得て、ここ〔地上〕にいます。自分の行いのすべてが永遠に続く計画をもたらすということを、一人一人が理解したら、この世はどれほど大きく変わることでしょう。もし……わたしたちが毎日、永遠の生活を形作るものになるものを積み上げているのだということを理解したら、人生はどれほど充実したものになることでしょう。」<sup>7</sup>

そのことへの理解は、日々の生活の中で求められる多くの選択について、賢明な決定ができるように、わたしたちを助けてくれます。人生を永遠の観点から見ることによって、わたしたちは現世における限られたエネルギーを最も重要なことに集中することができます。わたしたちは「自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえ」<sup>8</sup> て人生を無駄に過ごすようなことを避けることができます。わたしたちは霊的な永遠の生得権を売り渡すことなく、天に宝を蓄えることができますのです。

この現世は、試しの生涯の時期です。わたしたちの永遠の旅路はトラックを3周する競技にたとえられるのではないのでしょうか。わたしたちはすでに第1周を無事に走り終えて、すばらしい成長を遂げてきました。今は第2周を走っているところです。世界的な走者が、花をつむためにレースの途中で止まったり、行く手を横切ったうさを追いかけたり、というようなことを考えることができるのでしょうか。わたしたちは、この世的な事柄を追い求めて時間を過ごすときに、そのような状態になってしまいます。それを続けるかぎり、神の賜物の中で最も大いなる永遠の命へ向かう第3周に入ることはできません。<sup>9</sup>

救い主は新旧両世界において、人々に「あなたがたも完全な者となりなさ

い」とお命じになりました。<sup>10</sup> その欽定訳聖書の脚注には「完全」と訳された言葉に当たるギリシャ語には「完全な、完成した、完全に発達した」などの意味があると説明されています。天の御父はわたしたちに、この現世の試しの生涯の時間を用いて、自分自身を完全に成長させ、才能や能力を最大限に活用するようにと望んでいらっしゃいます。もしそうするならば、わたしたちは最後の裁きのときに、「完全な、完成した」息子、娘として、また従順な生活を通して磨き上げられ、御父が忠実な人々に約束された受け継ぎにふさわしい者として、喜びをもって天の御父の御前に立つことができるでしょう。

救い主はわたしたちにその模範を示し、「わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい」<sup>11</sup> とお命じになりました。モロナイが地上での働きの最後に、告別の勧告の中で述べた力強い誘いの言葉は、いつもわたしに強い感銘を与えてくれます。「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。」<sup>12</sup>

アルマは自分について来る人々に、バプテスマを受ける人には、人のために働き「互いに重荷を負い合うことを望み……悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み……いつでも……神の証人になること」が求められると説明しました。<sup>13</sup> わたしたちは、一人では救いを得ることはできません。兄弟姉妹を助けることをせずに、天の御父のみもとに戻ることにはできないのです。人は皆文字どおり神の家族の中の兄弟姉妹であることを理解したら、互いの幸福のために尽くすべき責任を感じ、親切な行いと関心をもって愛を示す必要があります。天の御父のどの子供と交わるときでも、「キリストの純粋な愛」<sup>14</sup> である慈愛を、自分の行動の動機としなければなりません。

わたしたちは成長し、さらに救い主に似た者となるにつれ、家族や友人を含め、自分が交わる人々を強めることができるようになります。主はわたし

たちを、福音の原則を学び日々の生活の中で実践できる聖徒の交わりの中に置いてくださいました。この交わりは同時に、訓練と試しの場でもあり、福音を実践しながら学び行う、実験の場でもあります。

パウロはコリントの聖徒たちにあてた手紙の中で、教会が一つになり、会員同士が助け合うようにと求め、次のように書いています。「からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。」<sup>15</sup> キリストの体、すなわち教会の力は、ひとえに会員一人一人の強さにかかっています。わたしたちは一人一人の会員が「神の相続人……キリストと共同の相続人」<sup>16</sup> としての神聖な可能性に気づけるように、自分にできるすべてのことをする必要があります。

わたしたちは人に奉仕するときに、毎年教会に改宗する数多くの人々にフェローシップの手を差し伸べ、愛を分かち合うようにとのヒンクレイ大管長の勧告を思い起こす必要があります。改宗者を温かく迎え「正しい道にとどめる」<sup>17</sup> ための、主の最も偉大な手段は、時間を割いて彼らに自己紹介をしたり、彼らの名前を覚えたり、あるいは、彼らの話に耳を傾けたり、彼らについて知る努力をしたりなどの方法で、わたしたち一人一人が差し伸べる愛です。

新しい教会に加入し、新しい生活のスタートを切るのは、決して易しいことではありません。なじめないと思うことがよくあるのです。

新しい会員が教会に活発で、信仰を守り続けるには、友達が必要です。そして、わたしたち一人一人がその友達になる必要があるのです。友情が築かれると、新しい改宗者たちは「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族」<sup>18</sup> になります。バプテスマを受けた人は、「その名が記録され」、会員記録に加えられます。「それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ」るためです。<sup>19</sup>

神の善い言葉でよく養われた場合に、新しい会員の生活に起こる奇跡的な変化に関連して、ジョン・A・ウィットソー長老はこう述べています。「謙遜なモルモン（モルモン）の宣教師の口から語られる福音を受け入れる、ごく普通の平凡な人々が、心を啓発する福音の真理によって、生活を大きく変え、以前とは異なる民になるのです。」<sup>20</sup>

わたしたちはこの現世において成長していく過程で、過ちを犯したり、道から外れたりすることがあるかもしれませんが、過ちをそのまま続けていくなれば、わたしたちは徐々に自分のいるべき場所から離れていくことでしょう。

わたしたちの人生は、宇宙船の航行にたとえることができます。モーターが始動すると、その航跡が正確に監視されます。定められたコースから少しでも外れるようなことがあると、直ちに軌道の修正が行われます。コースの角度がわずかに違っても、修正しないままにしておくと、軌道から大きく外れてしまいます。修正が遅れば遅れるほど、必要とされる調整の度合いも大きくなります。軌道修正がないとしたら、コースからどんなに遠くに外れて行ってしまうか、皆さんは想像できるでしょうか。

主はわたしたちのために、進むべきコースを教えてくれる預言者、聖文、親、賢明な指導者を備えてくださいました。預言者、聖文、親、指導者は、わたしたちが自分自身の進路を見詰め、必要に応じてその方向を修正する助けを与えてくれます。それは地上の追跡ステーションが衛星の進路を監視し、正しい軌道を保つのとまったく同じです。わたしたちがこの地上でどのようなコースを進むかということは、非常に大切なことなのです。それは、わたしたちが毎日下す決定によって決まります。わたしたちの現在の思いや行いを、将来の結果と切り離すことはできません。

自分自身の今の生活が、御父の計画の中に約束された数々の祝福に値するものかどうか、自問してみるとよいでしょう。試しの生涯には限りがあります。しかし、それがいつ終わるのかは

だれにも分かりません。備えの生涯は毎日毎日が貴いものです。

わたしはアメリカ南西部のナバホインディアンの女性が、慣れた手つきで美しい敷物に複雑な模様を織り込んでいくのを見たことがあります。彼女たちは色のついた一本一本の織り糸をとっても慎重に選んで準備し、それを正しい位置に正確に織り込んでいきます。彼女たちは様々な色を全体の中に芸術的に織り合わせ、創作者が頭の中に思い描いていた模様の敷物に仕上げていきます。

それと非常によく似た方法で、わたしたちも生活という織り物の中に模様を織り込んでいます。そして、その模様は最終的な形となって、やがてわたしたちの目の前に現れてくるのです。この世におけるわたしたちの生活は、日々の行いとともに、主というデザイナーのプランに従って、複雑な美しさを持つ織り物に編み込まれていきます。間違った選択をした場合、霊の織り物のまずいところを見ながら生活していかなければなりません。しかし、悔い改めを通して生活をやり直し、自分の人格の中に過って織り込んだ糸を取り除き、主が望んでおられるもっと美しい糸に置き換えていくこともできます。

わたしたちは、人生という名の織り物に、日々模様を織り込んでいるのです。主は、わたしたちがこの現世の前にいた時を第一の位と呼び、すべての人に次のような約束をされました。「第一の位を守る者は付け加えられるであろう。また、第一の位を守らない者は、第一の位を守る者と同じ王国で栄光を受けることはない。さらに、第二の位を守る者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられるであろう。」<sup>21</sup>

引き延ばしと優柔不断は、現世の後に来る生活に備えようと努力するわたしたちの足かせとなります。ジョセフ・フィールディング・スミス長老は次のように述べています。「福音の原則に当てはめて考えた場合、引き延ばしは永遠の命の盗人です。永遠の命とは御父と御子のもとで暮らすことです。」<sup>22</sup> 『モルモン書』の中には、アミ



大会の部会で演奏される音楽に熱心に耳を傾けるゴードン・B・ヒンクレー大管長

ユレクの心からの訴えが、次のように書かれています。「最後まで悔い改めの日を引き延ばすことのないように切に勤める。……なぜならば、現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。」<sup>23</sup>

ある人が次のように述べています。「人生は貴い贈り物であり、不要にその質を低下させるものから守る必要があります。……『今日という日は、今日しかありません。一日は一滴の水のように、長い人生の黄金のひとつとして、絶えず増え続ける豊かな命の水の池に注ぎ込んでいるのです。』」<sup>24</sup>

優柔不断な生き方は、この世において備えをなす妨げとなり、わたしたちの動きを封じ、まひさせてしまいます。わたしたちもニネベの民のようになる危険性があります。主はヨナに語った言葉の中で、ニネベの民を「右左をわきまえない人々」<sup>25</sup>と呼んでおられます。使徒ヤコブは「二心の者であって、そのすべての行動に安定がない」<sup>26</sup>と述べています。スイスの古くからのことわざが、優柔不断がどういうものかを、次のように説明しています。

「片足は中で、  
片足は外、

中でも外でも  
どっちでもない。  
熱くもなく、冷たくもなく、  
四角くもなく、丸くもない、  
貧しいことこの上なく、  
いつも身動きが取れないでいる。  
こんな人は  
いつまでたっても分からない、  
どこから始め  
どこへ行くのか。」<sup>27</sup>

夫婦関係、親子関係の中において、二心であってはなりません。子供が少し大きくなるまで、あるいは仕事を楽しめるまで、子供と楽しい時間を過ごすのはおあずけにしようと考えている人はいないでしょうか。心のもった長い手紙を書こうというつもりでいながら、それを書き終えることも、送ることもしていないために、大切な友情が色あせているということはないでしょうか。定期的に神殿に参入することについては忠実でしょうか。自分が読もうとしている本について考えてみてください。何か親切な行為をしてみようという強い気持ちがあるでしょうか。自分が支持している大義について深く考えてみてください。バッグの中に人生でいちばん大切なものを常にに入れておきながら、それを持って出かけたことは一度もない、というようなこ

とはないでしょうか。いつも、今日なすべきことを明日に引き延ばしてはいないでしょうか。明日からではなく、今日から生きる決心をしましょう。今日というこの日には、まだ時間が残されているのです。

わたしたちは、死という変化が必要なものであることを知っています。それは遅かれ早かれ、すべての人にやって来るものです。わたしたちの肉体は土に帰り、霊は霊界に戻って行きます。救い主の贖いの犠牲の功徳によって、人は皆、復活します。わたしたちはすべて残らず、偉大なエホバの法廷に立ち、現世における行いに応じて報いを受けます。

この裁きを念頭に置いて、地上におけるすべての判断を行うなら、わたしたちは死すべき試しの生涯を賢明に用いるようになり、現世においては、平和を得、来るべき世においては永遠の

命を授けられるでしょう。

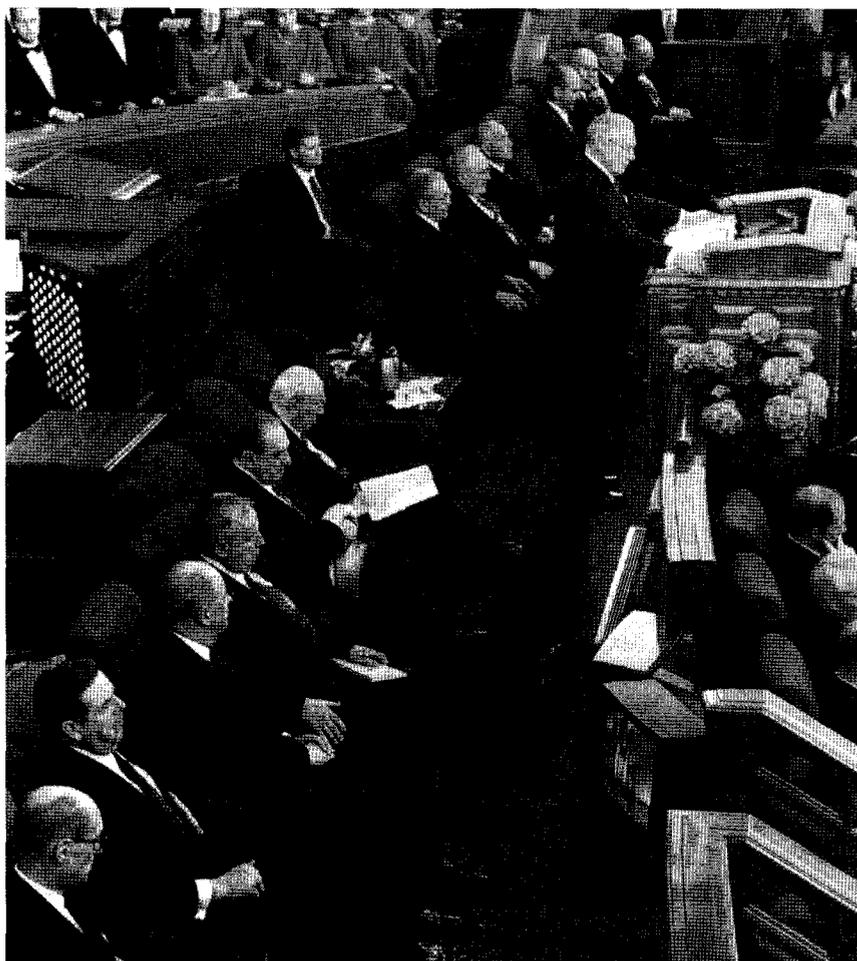
わたしは、これらの教えが真実であることを証します。皆さんは、心にささやきかける御霊の確認によって、福音の真理を理解することができます。主はこう言われました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」<sup>28</sup>

救い主は生きておられ、わたしたち一人一人を愛しておられます。わたしはそのことを、心から確信しています。わたしたちは、完全な福音を回復するために預言者ジョセフ・スミスをお立てになった、慈愛に満ちた天の御父の子供です。また天の御父は、その慈愛あふれる御腕の中にわたしたちを導き戻すために、この時代に、生ける預言者を授けてこられました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、その預言者

です。これらのことをイエス・キリストの御名によって証いたします。アーメン。

注

1. アルマ34:32
2. アブラハム3:25
3. 1ニーファイ10:19
4. モロナイ7:22
5. 2ニーファイ2:25
6. *History of the Church* 『教会歴史』 5:134-135
7. *Teachings of Gordon B. Hinckley* 『ゴードン・B・ヒンクレーの教え』 174
8. マタイ6:19
9. 教義と聖約14:7参照
10. マタイ5:48。3ニーファイ12:48も参照
11. 3ニーファイ27:21
12. モロナイ10:32
13. モーサヤ18:8-9
14. モロナイ7:47
15. 1コリント12:25-26。12-27節も参照
16. ローマ8:17
17. モロナイ6:4
18. エベン2:19
19. モロナイ6:4
20. "Symbolism in Irrigation Improvement Era" 『灌漑の中に見られるシンボリズム』『インブルーブメント・エラ』1952年6月号, 423
21. アブラハム3:26
22. *The Way to Perfection* 『完成への道』 202
23. アルマ34:33-34
24. トーマス・J・パームリー, R・スコット・ロイドによる引用 "Alumnus, 95, Returns to High School" *Church News* 「95歳の卒業生、高校へ戻る」『チャーチニューズ』1993年6月12日付け, 13
25. ヨナ4:11
26. ヤコブの手紙1:8
27. ハンス・B・リンガーによる引用, "Choose You This Day" *Ensign* 「今日、選びなさい」『エンサイン』1990年5月号, 26
28. ヨハネ7:17。14-16節も参照



中央幹部の座る上段の席。大管長会と十二使徒定員会会員の姿が見える。説教壇の前に立っているのは、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

# 神よ、どうか、 わたしを探って、 わが心を知ってください

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

主は儀式と聖約を通して、わたしたちを導き永遠の命に至る道筋を案内して下さるのです。



**愛**する兄弟姉妹、そして友人の皆さん。わたしはへりくだった思いでこの説教壇に立っています。これまで100年以上もの間、この説教壇は数え切れないほどの靈感あふれるメッセージに込められた神の御言葉によって聖められてきました。そしてそのメッセージは、聴く人の心を霊的に満たしてきたのです。この遺産を受け継ぎながら、この大会で語られるすべての事柄に対してわたしたちが心を開けるようにと祈ってやみません。

今日わたしは、主と聖約を交わすことによりもたらされる祝福についてお

話したいと思います。その前提として、主がイスラエルの家と交わされた聖約について見てみましょう。

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。」<sup>1</sup>

この聖約はどの種族の人でも「キリストに合うバプテスマを受けた」<sup>2</sup>人にとって共通するものです。パウロが述べているように、「もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。」<sup>3</sup>

聖約は単なる外形的な儀式ではありません。人が変わるための現実的で効果的な手段なのです。「再び生まれることは儀式を通して神の御霊から来る。」<sup>4</sup>わたしたちはいつも、主と交わす救いの聖約を尊び、神聖に保たなければなりません。これを実行するわたしたちに、主はこう約束しておられます。「啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受けて、数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。」<sup>5</sup>

多くの聖約はこの世と後の世で幸福を得るために欠くことのできないもの

です。最も大切な聖約の一つに夫と妻の間で交わされる結婚の聖約があります。人生最大の喜びは、この聖約からもたらされます。

バプテスマの聖約は、確認の儀式と対になって、永遠の命への門を開きます。

神権の誓詞と聖約は、ふさわしい教会の長老が「父が持つておられるすべて」<sup>6</sup>を受けることを約束しています。

神殿での聖約は、主がわたしたちに用意しておられる最も大いなる祝福を得るための土台となるものです。

わたしたちは主の晩餐である聖餐にあずかるという偉大な特権を得ています。聖餐を受けてバプテスマの聖約を新たにすることにより、あらゆる悪から守られます。救い主の犠牲の象徴である聖められたパンと水をふさわしい状態で頂くとき、わたしたちは進んで御子の御名を受けること、御子をいつも覚えていること、主が与えてくださった戒めを守ることを、父なる神に証明するのです。これを行うならば、わたしたちは常に主の御霊を受けられるでしょう。<sup>7</sup>定期的に聖餐を受け、これらの聖約に忠実であれば、律法はわたしたちの内に置かれ、わたしたちの心に記されます。このことを『チャーチニュース』(Church News)の記事から紹介しましょう。

「ある聖職者のグループが、特にたとえを中心とした、救い主の生涯についての夏期講座に出席していた。

講座修了試験の日になって教室に来てみると、試験はキャンパスの反対側にある別のビルで行われるとのメモがあった。またそのメモには、試験の開始時刻は今であり、2時間以内に完成しなければならないとも書いてある。出席者たちは焦った。途中で彼らは、新しい自転車パンクして泣いている小さな女の子のそばを通り過ぎた。また、片手で杖をつき、もう一方の手でようやく抱えている数冊の本を支え切れずに落としながらも図書館に向かってつらそうによるよろと歩く老人がいた。ユニオンビルディングのベンチには、無精ひげを生やしたみずぼらしい身なりの人が、〔疲れ切った表情で〕座っていた。



彼らが息せき切って指定された教室に着いてみると、そこに待っていた教授は、全員が期末試験に落第したことを告げた。

『救い主の生涯と教えを皆さんがほんとうに理解したかどうかははっきりと分かる唯一の試験は、皆さんが助けを必要としている人にどう接したかを見ることだったのです。』教授はそう言った。

この有能な教授のもとでの数週間にわたる学習を通して、彼らはキリストが何を語り、何を行われたかを学んでいたはずであった。』<sup>9</sup>

彼らはその講座で要求される課題に気を取られるあまり、教わったことを意図的に作られた3つの場面に適用できなかったのです。文字は学んでも霊にかかわることを学びませんでした。一人の女の子と二人の男性を見ごしにしたことは、講座で紹介された大切なメッセージが自分のものになっていなかったことを物語っていたのです。

わたしたちは時々自分の心の奥底を探って、自分がほんとうは何者なのかを見いだす必要があります。わたしたちの真の性格は、どんなに願っても隠すことはできません。内から輝き出る

からです。人を欺こうとすれば、自分を欺くことになります。わたしたちはしばしば、自分では美しい洋服で着飾っていると思いついていたがほんとうは裸だった、あの童話に出てくる王様のようになってしまうことがあります。

生涯を通じて、わたしは教会員の忠実さが高まってきていることに注目してきました。一定の基準に照らしてみても、現在の教会員の忠実さとはかつてないほどのものです。どの日曜日を取ってみても、わたしが子供のころと比べて倍以上の人々が世界中で主の晩餐である聖餐にあずかっているのです。

わたしたちは断食の律法を守り、靈感を受けた福祉プログラムに参加する忠実な教会員の篤志を通して、貧しい人や乏しい人を助けようとしています。数百万ドルに上る数々の救援物資が多くの国々に送られ、人々を飢えや苦しみから救っているのです。これは人種や皮膚の色、宗教にかかわらず、必要に応じて行われています。

また、古代の律法である<sup>じゅうぶん</sup>十分の一に従うことにより祝福を受ける人々も増えてきました。彼らは主から頂いた収入の10分の1を進んで主に返しています。さらに、神殿での礼拝の特権にあ

ずかる忠実な聖徒の数も何万という単位で増えています。また、現在奉仕している宣教師は5万8,000人に上ります。わたしはこのことをうれしく思いますし、主もきっとお喜びのことでしょう。しかし、わたしたちはこれらの数値の増大に見合うほどキリストに似た者となっているのでしょうか。わたしたちの奉仕は、純粋な、心からのものなのでしょうか。

聖約を守ることの大切さについてお話したいと思います。長い間培われ、貴ばれてきた、喜びと幸福をもたらす価値観から離反する傾向にある世の中であって、聖約はわたしたちを守ってくれます。今後、この倫理観の喪失はさらに進むでしょう。社会の基本秩序も弱体化します。将来、わたしたちの民、特に子や孫は、ソドムとゴモラの悪の攻撃をより多く受ける可能性があります。

あまりにも多くの家庭が崩壊しています。善が悪と呼ばれ、悪が善と呼ばれる時代です。<sup>9</sup>「方法が容易」<sup>10</sup>な現代であって、開拓者たちがわたしたちのために示してくれた犠牲と奉獻の数々を忘れていないでしょうか。ワーズワースはこう言っています。

「昔も今も、人はあまりにも世に迎合し、  
得ることや使うことに力を浪費している。……

人は朽ち果てるもののために、心を売ってしまった。……

何事にも安らぎがないのはそのためなのだ。」<sup>11</sup>

恐らく、現代であって道徳面での強さを維持し、かつてないほど強烈に吹きすさぶ悪の風に立ち向かうことは、いっそう困難になっています。それは、人をふるいにかけるプロセスです。今日、現代のパピロンやソドム、ゴモラに相当するものが、テレビやインターネット、映画、書物、雑誌、また娯楽施設で、魅惑的にそしてあからさまに提示されています。

前回の総大会で、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、安息日の遵守や家

族の崩壊など、社会の主流に向かって歩み寄りすぎることについて、次のように警告しています。

「今申し上げた点に関して、わたしたちは社会の主流に向かって歩み寄りすぎています。もちろん、立派な家族はあります。世界中に立派な家族は存在します。しかし、問題を抱えている家族があまりにも多いのです。しかし、これは治療可能な病気です。必要な薬は、簡単に実に効き目があります。それは愛です。」<sup>12</sup>

わたしたちの社会では、多くの神聖な価値観が表現の自由という名目の下にむしばまれてきています。低俗で不道德な言葉も、言論の自由という名の下に擁護されています。社会の主流は、イエスやモーセ、預言者ジョセフ・スミス、そのほかの預言者が有史以来警告している行いに対して、より寛大になり、容認しようとさえしています。

たとえ人から変わり者と思われようと、わたしたちは自分の価値観を曲げるべきではありません。わたしたちは昔からずっと特異な民と見なされてきました。しかしながら、霊的に正しいことは、社会的に正しいということに比べてはるかに良いことです。もちろん、個人としても民としても、わたしたちは人から好かれ、尊敬される人物でありたいと願っています。しかしわたしたちは、シナイ山で授けられ、後に救い主によって説かれ、現代の預言者によって教えられてきた、義にかなった原則を捨ててまで、社会の主流に歩み寄ってはならないのです。わたしたちは、御子であり、教会の頭であるイエス・キリストと神に逆らうことのみを恐れるべきなのです。

あらゆる種類の害悪は、正体を偽って現れます。性的な不道德もそうですし、ギャンブルでありながらゲームと呼ばれているかけ事もそうです。これらは、人々にさらに受け入れられようとして正体を偽っている、多くの害悪の典型的なものです。有史以来ずっといさめられてきた行為も正体を偽って現れています。それは、社会の根本を成す家族を崩壊させる行為です。『家族——世界への宣言』の中で大管長会

と十二使徒会はこう述べています。「わたしたち……は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。」

親の権威の失墜が社会にとって不可欠なつながりである家族をむしばんでいます。

パウロは当時この現象についてこう表現しました。「彼らは律法の要求がその心にしるされていることを現し、そのことを彼らの良心も共にあかしする。」<sup>13</sup> 教会の会員が聖約を交わした人に与えられる祝福を享受するには、主の律法が「心にしるされてい」なければなりません。この世の人々は悪が善で善が悪であると言い、わたしたちの子供や孫に限りない影響力を与えています。そのような中であって、どのようにパウロが述べたことを実行できるでしょうか。すべての両親および祖父母がさらに良い模範を示し神の戒めを守ってくださるようお願いしています。両親の皆さん、あとほんの少し努力をして互いに愛し合い寛容であってください。両親が家庭をできるかぎり悪い影響から守るならば、子供たちは安全に生活することができるよう。毎日、聖文を読み、祈り、家庭の夕べを定期的に関き、神権指導者の勧告に家庭においてもまた教会においても従順に従うことほど、わたしたちを霊の滅亡から救い出してくれる方法はありません。

このことに関して、ヨシユアも同様なことを言っています。「『ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。』……

民はヨシユアに言った、『われわれの神、主に、われわれは仕え、その声に聞きしたがいます。』<sup>14</sup>

主と預言者の勧告を受け入れるか拒むかはわたしたちに任されています。預言者に従わない人は往々にして従っている人を批判する傾向にあります。

その中には、教会の指導者に従う教会員を「愚かな羊」と批判する人もいます。イエスは言われました。「自分の羊をみな出してしまうと、彼は羊の先頭に立つて行く。羊はその声を知っ

ているので、彼について行くのである。ほかの人には、ついて行かないで逃げ去る。その人の声を知らないからである。」<sup>15</sup>

もちろん、これらの事柄はわたしたちの世代から始まったわけではありません。時の初めより、サタンは常に神に挑み猛烈な影響力を振るってきました。偽りの父であるサタンは「わたしもまた、神の子だ」<sup>16</sup> と言っています。サタンはアダムの子供に神に関する事柄を信じてはいけないとそそのかし、子供たちは「神よりもサタンを愛した。人々はそのときから、肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となり始めた」<sup>17</sup> のです。だれでもしていることだから、と口実を設け、「こういう時勢だから」と言い訳しているのです。

わたしたちが交わす儀式と聖約は、自分が何者であるかということと、神に対するわたしたちの責任について思い起こさせます。主はこれらのことを通して、わたしたちを導き永遠の命に至る道筋を案内してくださるのです。儀式と聖約を尊ぶとき、主はさらに新たな力を与えてくださるでしょう。

ジェームズ・E・タルメージ長老は、「心に神の愛を宿し」確固とした信仰を持つ人は「その行動の根拠となる規範や法則をわざわざ疑問に思うことなく奉仕と義の人生を追求する」<sup>18</sup> と断言しています。

わたしたちやわたしたちの家族が日々サタンの誘惑にさらされているこの世の中であって、ヒンクレー大管長の勧告を心に留めようではありませんか。「もし人が聖約に従って生活するようになれば、あらゆることはおのずと解決していくでしょう。」<sup>19</sup>

主と交わした聖約を忠実に守っている信仰深い教会員にとって、すべてのことを「一点一画に至るまでことごとく」知らされる必要はないのです。キリストのような行いはうわべからではなく人間の心の底からあふれ出てくるものです。そのような行いは福音の儀式で約束されている主の御霊の導きによってもたらされるのです。わたしたちが最も願うべきことはこの神聖な導きによってもたらされる聖めを堪能す

ることであり、最も恐れるべきことは、これにまつわる多くの祝福を失うことなのです。詩篇の作者が「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知」ってください、<sup>20</sup>と言ったようにわたしたちもそう言えるような人生を送れますようイエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

注

1. エレミヤ31:33
2. ガラテヤ3:27
3. ガラテヤ3:29
4. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・ス

ミス選、162

5. 教義と聖約42:61
6. 教義と聖約84:38
7. 教義と聖約20:77, 79参照
8. "Viewpoint: Too Hurried to serve?" *Church News*「見解：奉仕ができないほど忙しいのですか?」『チャーチニュース』1988年10月1日付け、16
9. イザヤ5:20参照
10. アルマ37:46
11. ウィリアム・ワーズワース, "The World" *The Oxford Book of English Verse*「世界」『オックスフォード英語詩集』アーサー・クイラー・クーチ脚編 1939年、626

12. 「将来に目を向けて」『聖徒の道』1998年1月号、79
13. ローマ2:15
14. ヨシュア24:15, 24
15. ヨハネ10:4-5, 11, 14-15, 27節も参照
16. モーセ5:13
17. モーセ5:13
18. *Conference Report*『大会報告』1905年4月、78
19. *Teachings of Gordon B. Hinckley*『ゴードン・B・ヒンクレーの教え』147
20. 詩篇139:23



# 教会役員の支持

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト



**兄**弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長からの要請により、これから中央幹部、地域幹部七十人、ならびに教会の中央補助組織会長会の方々の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思います。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エドラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員としてボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、

ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば同じようにその意を表してください。

わたしたちは、シェルドン・F・チャイルド、クエンティン・L・クック、フランシスコ・J・ビーナスの各長老を七十人第一定員会会員として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

わたしたちは、アトス・M・アモリン、E・レイ・ベイトマン、バル・R・クリステンセン、ロナルド・T・ハルバーソン、アール・M・モンソン、メリル・C・オークス、H・ブライアン・リ

チャーズ、ネッド・B・ローシェイ、D・リー・トブラー、ゴードン・T・ワッツ、スティーブン・A・ウエスト、ロバート・J・ホエットン、レイ・H・ウッドの各長老を七十人第二定員会会員として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方は同じようにその意を表してください。

わたしたちは、以下の方々を地域幹部七十人として支持するよう提議いたします。ヘンリー・F・アセバド、ホアン・A・アルバラデホ、モデスト・M・アミスタッド・ジュニア、ホラシオ・P・アラヤ、グスタボ・A・バリオス、クレイグ・A・ブロック、アデマール・ダミアニ、エドガルゴ・E・フェルナンド、フランツ・R・ガーク、ダニエル・L・ジョンソン、ウィルフレッド・R・ロベス、ジャイロ・マツザガルディ、ジェズス・ニエビス、アドリアニ・オチョア、エマニュエル・O・オバレ・シニア、ウィリー・F・ズズナガ。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいればその意を表してください。

わたしたちは、そのほかの中央幹部、地域幹部七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。兄弟姉妹の皆さんの信仰と祈りに感謝いたします。

では、新しく召された七十人第二定員会会員の方々、壇上の席においでください。



# 教会監査委員会報告

教会監査委員会

テッド・E・デービス提出

**教**会監査委員会は3人の会員で構成され、教会のあらゆる役員、職員、業務、部署、また教会の関連会社から独立しています。当委員会は大管長会に直接報告することになっており、託された責任を遂行するうえで必要なあらゆる記録類、および教会職員からすべての情報を入手しました。

教会にはあらゆる業務、部署から独立した教会監査部もあります。教会監査部は教会監査委員会から独立しており、職員は公認会計士など資格ある監査役員で構成されています。また監査部は、認可された専門の監査基準に従って教会のあらゆる業務を監査する方法を確立しております。これには地元の教会ユニットからの献金と支出を監督することも含まれています。

教会監査委員会は教会基金の収支管理と保全のために、財務運営の方針ならびに方法について、また1997年12月31日までの1年間の予算編成、会計、報告および監査方式について検討いたしました。1997年度の教会基金の支出は、定められた方針にのっとり、什分の一配分評議会で承認されたものです。同評議会は、啓示によって規定されたとおり、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されていま

す。承認された予算の管理は、予算承認委員会の管理の下、教会予算部によって管理されています。

教会の関連会社は専任の職員によって管理され、それぞれ独立した取締役委員会に報告します。これらの会社は標準的な実務処理方式に従って、個々に会計ならびに報告の制度を設けています。そして、教会監査部および独立した公認会計事務所、あるいはそのいずれかから監査を受けています。ブリガム・ヤング大学および教会運営のそのほかの高等教育機関は独立した公認会計事務所から監査を受けています。

財務運営、予算、そのほかの方針ならびに方法、そして1997年中に提出された監査報告書やそのほかの回答を検討した結果、監査委員会では1997年12月31日現在の教会基金の収支に関するすべての事柄は、啓示と定められた教会の方針と手続きに従って運営され、会計処理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告申し上げます。

教会監査委員会

テッド・E・デービス（委員長）

ドナルド・D・サルモン

フランク・M・マッコード

# 1997年度 統計記録

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

**兄**弟姉妹の皆さん、大管長会は教会員の参考のために、1997年12月31日現在の会員数の増加と現況を示す以下のような統計記録を発表しました。この統計は、今回の大会に先立って提出された報告書に基づいています。

## 教会ユニット

ステーク数 . . . . . 2,424  
地方部数 . . . . . 649  
伝道部数 . . . . . 318  
ワード数と支部数の合計 . . . . . 24,670  
上記のユニットを有する地域は、143の独立国と19の属領地に及んでいる。

## 教会員数

総会員数 . . . . . 10,070,524  
1997年にバプテスマを受けた記録上の子供 . . . . . 75,214  
改宗者 . . . . . 317,798

## 宣教師数

専任宣教師 . . . . . 56,531

## 1997年4月以降に他界した著名な教会員

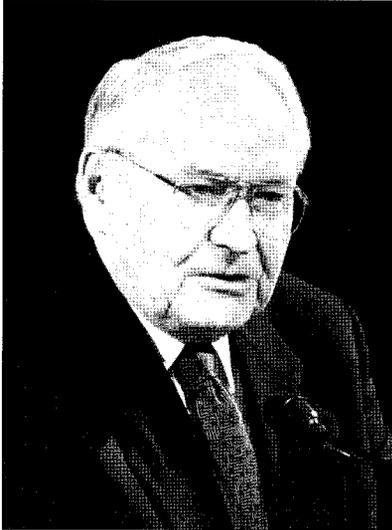
名誉中央幹部のポール・H・ダン長老、地域幹部七十人のオスカー・H・アグワヨ長老、ヘレン・カーネス・リチャーズ姉妹（元七十人会長会会員の故フランクリン・D・リチャーズ長老夫人）ジャネット・イレイン・ウィーチ・ソレンセン姉妹（元七十人定員会会員リン・A・ソレンセン長老夫人）、カーマ・ニールセン・カトラー姉妹（元七十人定員会会員の故クリントン・L・カトラー長老夫人）、元中央若い女性会長会第一副会長モーリーン・ジョンソン・ターラー姉妹。



# 信仰箇条

十二使徒定員会会員  
L・トム・ペリー

信仰箇条を救い主の教義の研究においてガイドとして用いるならば、  
主の回復された真の教会について証を述べる備えとなるでしょう。



1997年は教会にとってすばらしい年でした。モルモン開拓者のソルトレーク盆地到着を記念する150年祭が全世界の注目を集めました。新聞や雑誌、テレビ、ラジオがわたしたちのことを採り上げました。世界中の人々がわたしたちのことについて知る、何とすばらしい機会であったことでしょう。さて、わたしたちはこれを単に報道の一つとして終わらせるのか、それともあらゆる国民、部族、国語の民、民族に福音を伝えるという、わたしたちに課せられた責任を果たす機会とするのか、どちらにするかを決めなければなりません。

主が望んでおられるのは後者であると、わたしは確信しています。バプテスマの水から上がりイエス・キリストの教会の会員として確認を受けたとき、わたしたちは福音のメッセージを御父のほかの子供たちに伝えることを主と

聖約しました。わたしは自分たちに与えられたこの再生の機会に思いをはせたとき、自分にこう問いかけました。「王国に貢献するために、わたしはどのような備えをしているだろうか。」

わたしは自分のふさわしさを吟味しているうちに、3歳から12歳まで出席していた初等協会で受けた数々の教えを思い出しました。わたしは初等協会からかなりの影響を受けました。尊敬する両親の教えに対する理解をさらに深めてくれるものでした。初等協会の次はアロン神権やボーイスカウト、日曜学校の上のクラスに行きます。でも、その前に初等協会を卒業しなければなりません。条件が二つありました。当時の十二使徒の名前を覚えることと、13節の信仰箇条を暗唱することです。聖餐会せいさんで監督のそばに立って質問に答え、初等協会卒業の条件を満たしたことを証明するのです。初等協会の卒業候補生は通常、監督から信仰箇条のどれか一つを暗唱するように言われることをわたしは知っていました。監督はわたしの父でした。でもご安心ください。自分の子供だからといって容赦はしてくれませんでした。そうです。初等協会の進級証明書を渡す前に、いちばん長い第13節を暗唱するように言ったのです。

この経験を思い出したとき、ふとこう思いました。「あの二つの暗唱課題をどれほど覚えているだろうか。」当時健在だった十二使徒の名前は今も覚えていました。ラドガー・クラウソン、リード・スムート、ジョージ・アルバート・スミス、ジョージ・F・リチャーズ、デビッド・O・マッケイ、ジョ

セフ・フィールディング・スミス、ステイブン・L・リチャーズ、リチャード・R・ライマン、メルビン・J・バラード、ジョン・A・ウイツォー、ジョセフ・F・メリル、チャールズ・A・カリスです。でも信仰箇条の方は、最初の5節までは大丈夫でしたが、後は順番があやふやだったり思い出せない部分があったりで、だめでした。再教育が必要でした。そこでわたしは聖典から信仰箇条をコピーして洗面所の壁にはり、毎朝の歯磨きとひげそりのときに見ることにしました。すると数日で全部確実に覚えることができました。この経験を通して強く確信したのは、信仰箇条が預言者ジョセフ・スミスに啓示として与えられたということです。そして、この信仰箇条一つ一つの内容をよく勉強すれば、福音のあらゆる原則を説明し擁護することができ、回復された真理を探究する人々に詳しい解説をする機会が得られるとの結論に達しました。

教会員一人一人が信仰箇条を暗唱し、その一つ一つの条文に込められた原則を理解したら、どれほど大きな祝福がもたらされることでしょう。人々に福音を宣べ伝える備えができるのです。

ここで、信仰箇条がどのようにして与えられたかを見てみることにしましょう。預言者ジョセフ・スミスはしばしばモルモニズムの教義と儀式について説明を求められました。こうあります。『『シカゴデモクラット』(Chicago Democrat)紙の編集者ジョン・ウェントワース氏がジョセフ・スミスに『末日聖徒の起こりと発展、迫害、信仰について』概略を説明するよう求めてきた。』ウェントワース氏はニューハンプシャーの出身で、郷里の州の歴史を編さんするに当たり、その情報が必要だったのです。「ジョセフは彼の申し出に応じ、ウェントワース氏に数ページに及ぶ文書を送った。それには最初の示現や『モルモン書』の出現をはじめとする回復史の初期の出来事が多く含まれていた。また、末日聖徒の信条を13箇条にまとめたものもあった。それが信仰箇条として知られるものとなるのである。」ウェントワース氏に送

られた情報は『シカゴデモクラット』に掲載されることはありませんでしたが、1842年3月に教会の新聞『タイムズ・アンド・シーズンズ』(Times and Seasons)に発表されました。「1851年、信仰簡条はイギリス伝道部で出版された『高価な真珠』の初版に加えられた。そして『高価な真珠』の1878年の改訂と1880年の標準聖典への追加を受けて、信仰簡条は教会の正式な教義となったのである。」(Church History of the Fullness of Times『時満ちる神権時代の教会歴史』256-257参照)

ではここで、13箇条の一つ一つについて簡単に見てみましょう。暗唱して教会の基本的な教義を説明するのに役立つことと思います。

第1節は、永遠の父なる神と御子イエス・キリストと聖霊を信じるわたしたちの信仰の錨となるものです。これらの至高の方々がこの世を支配し統治しておられるという知識は、何とすばらしいものでしょうか。わたしたちのこの信条は神の存在や属性についての人の推測から来たものではありません。聖なる森で預言者ジョセフ・スミスが直接体験したことから得たものです。ジョセフ・スミスの経験により、父なる神、御子なる神、聖霊なる神の存在が人類に明らかにされました。こうして、この御三方が宇宙の偉大な管理評議会を構成しておられるとの示現が世に下されました。人類への御三方の関与を記したものとして受け入れられている記録にあるように、それぞれ別個の方々として人類に現されたのです。わたしたちはこの御三方が別個の方々であることを示された例を知っています。御父が明確な形の体と手足と霊的な思いを持っておられること、またイエス・キリストが肉体を得てこの世に来られる前に霊として御父のそばにおられたこと、そしてイエス・キリストを通してこの世が造られたことは明らかです。主は人間の肉体的特徴をすべて備えた存在として、人々の間で生活されました。復活の後、主はその同じ形で御姿を現されました。聖霊は、御霊、主の御霊、神の御霊、慰め主、真理の御霊とも呼ばれ、骨肉の体

を受けておられない霊の御方です。聖霊は御父と御子の証人として神と御子の属性を人に明らかにし、ともに神会を構成するその御二方について証されるのです。

第2節と第3節はわたしたちの救い主である主の贖罪への信仰を述べたものです。全人類は救い主を通して不死不滅の体を得ることが出来ます。これらの条文には、わたしたちに主を救い主として受け入れる義務があること、また、「人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられない」ことが述べられています(信仰簡条1:2)。

第4節と第5節は福音の第一の原則への信仰を述べたものです。それは主イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めです。また、福音の第一の儀式がバプテスマと聖霊の賜物の授与であることも学びます。これらの儀式は「預言によって、また権能を持つ者による按手によって、神から召され」た、それらの儀式を執行する権能を持つ人々によって授けられます(信仰簡条1:5)。わたしたちは、主が世の初めから地上の神の子らのために救いの計画を立てておられたことを信じています。そして、時に臨んで地上に神権者を立てられ、権能によって神聖な儀式を執行させることにより人類に祝福を与えようとなさいました。儀式は主の御心への従順を示すものだったのです。神の最も大いなる賜物である永遠の命を得るためには段階を踏まなければなりません。その一つ一つには試験がありました。その基本は、主の計画と主の律法に対して信仰を持つこと、罪を悔い改めて清く汚れない者となること、主の日の栄えの王国に入るのに必要な聖なるバプテスマの儀式を受けることです。そしてバプテスマの後に、大いなる賜物である慰め主を受けます。慰め主は、この世で進歩の過程をたどるわたしたちのそばにあって、導きと指針と指示を与えてくださいます。これらはすべて、神から人類に授けられた権能の下に行われるのです。儀式執行の権能を授けられた人々は、自分の権能の系譜を、人類にその権能を授けら

れた主御自身までさかのぼることが出来ます。

信仰簡条の第5節までの教えを土台にした第6節は、組織が必要であること、そして初期の教会にあったと同じ組織が回復されたことを告げています。その回復された教会は今日、聖なる神権の回復によって授けられた神聖な力を受けて、この地上に存在しています。

第7節と第9節は天が閉じられていないこと、神が過去と同じように今も、そして将来も続けて人類にその御心を明らかにされることを述べています。また、御霊の賜物も、過去の時代同様、今日の人類にも授けられています。

第8節は『聖書』について、「正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる」とし、「『モルモン書』も神の言葉であると信じる」としています。『モルモン書』は『聖書』に記された聖文の正当性を証明する第二の証です。主は末日における福音回復の計画の中で、救い主である主の使命のもう一つの証明として『モルモン書』を世に出されました。『モルモン書』はまた、天の御父の子供たちにとって非常に重要な宗教上の歴史を提供してくれます。

第10節は「イスラエルの文字どおりの集合」へのわたしたちの信仰を示すものです。シオンの再建があり、キリストが再臨されて「自ら地上を統治され」ます。預言者の弟であるサミュエル・H・スミスが最初の伝道旅行に出発し、『モルモン書』の真実性を宣べ伝えたのは1830年6月のことでした。シオンの集合はそのようにして始まりました。言葉はシオンの山から出て、福音の回復を受けた地上の民にもたらされたのです。今日、天の御父の子供たちを集める業は、主の再臨と地球の福千年の統治のためにわたしたちが備えをする間、続きます。わたしたちは主の永遠の福音を友人や隣人、そして地上のほかの民に宣べ伝えることによって、この偉大な集合の業に自ら熱心に携わることになります。

第11節と12節は信教の自由、宗教的寛容、選択の自由について述べたもの

です。選択の自由は、神から子供たちへの大いなる賜物の一つです。それにより人は選択の権利を得、自分の力で救いを勝ち取ることができます。また、この世の政府に従い、国の「法律を守り、尊び、支える」ように述べています（信仰簡条1：12）。

第13節は、わたしたちがどのような生活をして、この世の人々の前にあってどう振る舞うべきかについての特別な考えを述べたものです。こうあります。「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよい。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのこと

を堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」

信仰簡条は学者のグループにより作られたものではありません。靈感を受けた一人の人が、イエス・キリストの福音の本質的な教義を、余すところなく、しかも簡潔に述べたものです。そこにはわたしたちの宗教の原則に関する率直で簡潔な声明が含まれており、預言者ジョセフ・スミスが確かに神の靈感によって記したという確固とした証拠となっています。

わたしは皆さんに、信仰簡条とそれ

が教える教義を研究するようにお勧めします。それは「教会における靈感と歴史と教義についての最も重要な声明の一つであり、……条文一つ一つが、モルモンイズムとこの世のほかの人々の信条との違いを説明する建設的な声明となっている」からです（『時満ちる神権時代の教会歴史』257）。信仰簡条を救い主の教義の研究においてガイドとして用いるならば、主の回復された真の教会について証を述べる備えとなるでしょう。確信をもって「わたしたちはこれらのことを信じています」と宣言することができるのです。

この特別に明らかにされた真理が真実のものであることを証し、救い主である主イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。



モルモンタバナクル合唱団による賛美歌コーラスを指揮するクレグ・ジェソップ

# 「神からこられた教師」

十二使徒定員会会員

ジェフリー・R・ホルランド

家庭、説教壇からの話、管理集会、そしてもちろん各クラスで学ぶ、教会の優れた教えについて改めて認識し、尊んでください。



**救**い主が教導の業を始められて間もないころ、ニコデモがイエスを訪れて語った言葉はわたしたちすべてを代表して語ったものです。「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。」<sup>1</sup>

キリストが単なる教師以上の御方であられたことは言うまでもありません。キリストは神の御子、永遠の福音の計画の聖者、世の救い主、贖い主です。

しかしニコデモが歩み始めた道は、皆さんやわたしとさほど変わりません。それはすべての子供たちや若い生徒、また新たに改宗した人たちが、心の琴線に触れる感動を与えてくれる教師を認め、その教師にこたえることによって歩み出す道でもあります。

最近、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教会員、特に新たに改宗した会員を教会に定着させるよう訴えました。

この中で、ヒンクレー大管長は、すべての会員が信仰を強く保つため最低限必要なものとして、次の3つを強調しました。それは友情と責任と「神の善い言葉〔による養い〕」です。<sup>2</sup>

家庭と教会での靈感に満たされた教育は、神の善い言葉による養いというきわめて重要な要素を満たす助けとなります。わたしたちは教えてくださるすべての皆さんに大変感謝しています。皆さんへの愛と感謝の気持ちは言葉に尽くせません。皆さんに大きな信頼を寄せています。効果的に教えたり、うまくいっていると感じるようになったりするためには大変な労力を要しますが、その働きには価値があります。わたしたちは「大いなる召し」<sup>3</sup>を受けられるのです。確かに、この召しを尊んで大いなるものとする機会に至る所に存在します。それは永遠にわたり必要とされます。父、母、兄妹、友人、宣教師、ホームティーチャー、訪問教師、神権指導者、補助組織指導者、クラスの教師といった人々はそれぞれ自らの道を歩みつつ、わたしたちを教え、救いに導くために「神から来た」のです。実際教会内で、周囲に影響を与えていない人を探すのは不可能です。パウロが手紙の中で、「神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし」と記したのも何ら不思議ではありません。<sup>4</sup>

わたしたち一人一人が「キリストのもとに来」て<sup>5</sup>、主の戒めを守り、主の模範に従い天の御父のみもとに戻るの、人類が存在する最も高く尊い目的です。そして、人々がこの目的を果

たせるよう助けること、すなわち、彼らが贖いの道を歩むよう教え、説き勧め、祈りをもって導くのも、間違いなく人生でそれに次ぐ重要な務めです。以前にデビッド・O・マッケイ大管長が「神の子供たちの教師となる以上に大きな責任はこの世にない」<sup>6</sup>と語ったのも、そのような理由からでしょう。実際、わたしたちは皆、ピリポが遣わされたエチオピア人のような側面があります。彼と同様、宗教への探求心があり、聖文の研究に多くの時間を割き、この世の財産を手放しさえします。しかし、十分な教えを受けなければ、それらすべての目的、また将来求められる事柄の意味を理解できないこととなります。そうしてわたしたちは、大きな権力を持ったこのエチオピア人とともに次のように叫ぶのです。「だれか〔先生〕が、手びきをしてくれなければ、どうしてわかりましょう。」<sup>7</sup>

使徒パウロはこう教えています。「なぜなら、『主の御名を呼び求める者は、すべて救われる』とあるからである。しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。……信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」<sup>8</sup>

預言者から、神の御言葉を聞きさらに信仰を増すよう呼びかけられたら、家庭、説教壇からの話、管理集会、そしてもちろん各クラスで学ぶ、教会の優れた教えについて改めて認識し、尊んでください。教会の中で、靈感された教えを決して失われた芸術としてはなりません。そのような教えを伝統として絶やさないうために、固い決意をもって求めていかななくてはなりません。

キンボール大管長は以前次のように勧めました。「ステーキ会長、監督、ならびに支部長の皆さん、教会において、教育の質の向上に特別な関心を払ってください。……わたしは、多くの会員が教会に来てただ漫然とクラスや集会に参加し、……〔霊的に感化されることもなく〕家路に就く場合が多すぎるのではないかと懸念しています。特に〔日々の生活での〕ストレス、ま

た誘惑や試練に悩む……ときに、このような状況にあれば非常に不幸なことです。わたしたちは皆、御霊に触れ、養いを得る必要があります。」そしてキンボール大管長は、次のように結論づけました。「これを実現する最も大切な方法の一つに、効果的に教えることが挙げられます。わたしたちは、会員が教会に来るために多大な労力を注ぎますが、出席した会員が教会で何を  
得るのかについて十分な関心を払っていない場合がよくあります。」<sup>9</sup> この件に関して、ヒンクレイ大管長はこのように述べています。「教会における指導の真髄は、効果的に教えることです。」繰り返します。「教会における指導の真髄は、効果的に教えることです。」さらに大管長はこう続けました。「永遠の命は、兄弟姉妹がそのような効果的な方法で教えを受け、自らの生活を変え、訓練することによってのみもたらされます。強制により彼らに義を行わせ、天国に行かせるのは不可能です。皆が導きを得なくてはなりません。つまり教育が必要なのです。」<sup>10</sup>

救い主が弟子たちに最後に語られ、今日わたしたちに第一に伝えられる御言葉の中に次のようなものがあります。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、……あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」<sup>11</sup> また復活と昇栄の後、使徒の頭であったペテロに対し、「わたしの小羊を養いなさい……わたしの羊を飼いなさい……わたしに従ってきなさい」<sup>12</sup> と言われました。

主からの勧告のうち、次の言葉ほど強調されたものはないことを、忘れてはなりません。「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって」福音を教えなさい。

主が尋ねられたように、わたしたちは「真理の御霊によって」福音を教えているのでしょうか。それとも「何かほかの方法によって」教えているのでしょうか。主は次のように警告しておられます。「もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出では

ない。」<sup>13</sup> 同様に、ほかの聖句では次のように戒めておられます。「御霊を受けなければ、あなたがたは教えることができない。」<sup>14</sup>

天からの御霊による働きかけなしには、永遠に関する事柄は何も学べません。親、教師、指導者として、わたしたちはモーセが約束の地で対処した方法に倣い、課題に取り組みなくてはなりません。ほかの方法では達成不可能だと知っていたモーセは、エホバに次のように語りました。「もしあなた自身が一緒に行かれないならば、わたしたちをここからのぼらせないでください」<sup>15</sup>。

これこそ、会員が集会に集い、様々なクラスに参加する際、ほんとうに求めているものです。福音の知識を新たに幾つか学び、友人に会うことは大切な要素ですが、単にそれだけを目的に教会に来る会員はほとんど存在しません。会員が教会に集うのは、霊的な経験を求め、平安を感じ、信仰を強め、新たに希望を得たいと望んでいるからです。つまり、神の善い言葉で養われ、天の力により強められるよう望んでいるのです。話の責任や、教え、あるいは指導する責任を受ける人は最善を尽くし、教会に集う目的を満たせるよう

にする義務があります。自ら神を知るよう熱心に努め、神の独り子の光を求め続けるときにのみ、この義務は達成されます。そして、自らの心が正しく、最善を尽くして自らを清め、自身の力の及ぶかぎり祈り、涙を流し、備え、悩むならば、神はアルマとモーサヤの息子に語られたと同様、わたしたちにも次のように言われるでしょう。「頭を上げて喜びなさい。……あなたがたに成功を得させよう。」<sup>16</sup>

わたしたちは新会員の方々についてももちろん心配しています。彼ら一人一人がわたしたちとともに教会にとどまり、すべての祝福を享受するよう願っています。宣教師が示したと同様に、キリストの精神、説得力、教義、そして個人的な関心をもって引き続き彼らを教えるならば、新しい改宗者はわたしたちとともに教会にとどまるだけでなく、文字どおり教会を離れることは決してないと思います。継続して入念に教え導く必要性は明らかです。今日のような時代において、わたしたち皆が必要とするのは、モルモンが語ったように「神の言葉の力」なのです。なぜなら、それは「剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を」<sup>17</sup> 及ぼすか





らです。現在、また将来において人生に危機が訪れるとき、少々の聖句と詩を織り交せて形成した人間の哲学は、そのような影響はもたらしません。わたしたちは青少年や新会員に対し、生活で困難に陥ったときに支えとなるような方法で、ほんとうに養っているでしょうか。神学的な嗜好品のように、霊的に栄養価のない内容で済ませてはいないでしょうか。ジョン・テラー、大管長はかつてそのような教え方を「調理した泡」と表現しました。一日中食べても決して満足することはないからです。<sup>19</sup> 数年前、ある寒さの厳しい冬に、ポイド・K・パッカー長老は、かなりの数に上る鹿が、干し草で胃袋がいっぱいだったにもかかわらず餓死したことについて触れました。動物保護事務所は親身になって鹿を助けようとしたのですが、彼らが与えたのはいわゆる量であり、本来必要であったのは栄養価という質の方でした。残念ながら、職員が鹿に「えさ」を与えはしましたが、「養い」までには至らなかったのです。

わたしは、半世紀以上も前にJ・ルーベン・クラーク副管長が青少年について語った言葉が大好きです。これは新会員にも当てはまります。このように言いました。「〔彼らは〕霊的な事柄に飢えています。福音を学びたいと心から願い、あるがままの形で学ぶよう望んでいます。……

……皆さんは〔彼らの〕後ろにそっと近づき、宗教について耳もとでささ

やく必要はありません。……これらの真理を率直に伝えればいいのです。』<sup>19</sup>

サタンでさえ、自分の教えを説くに当たって難解な言葉を用いないのなら、わたしたちはどうあるべきでしょうか。家庭で子供たちを教えるときでも、教会で聴衆を前に話すときでも、自らの信仰を分かりにくい言葉で伝えるのは絶対に避けましょう。わたしたちは、「神から来た」教師とならなければならないことを心に銘記しましょう。疑いの種をまかないでください。利己的な行動や虚栄心を遠ざけてください。よくレッスンを準備してください。聖文に基づいた話をしてください。明らかにされた教義を教えてください。心からの証を述べてください。祈り、実行し、向上しようと努めてください。また、管理集会においては、啓示に示されているように、「教え合い、教化し合」いましょう。そうすれば、集会で学ぶことにより「高い所から教えを受け」られるでしょう。<sup>20</sup> こうして教会も皆さんも、より良いものとなるのです。パウロはローマ人にこう語っています。「なぜ、人を教えて自分を教えないのか。』<sup>21</sup>

教えることに伴う力について、印象深い話が預言者エレミヤの生涯を基に記されています。この偉大な人物は、たいいていの教師や話者、教会役員が召されたときに感じる気持ちにさいなまれました。自分は経験、ふさわしさの面で欠けるという思い、そして恐れです。「ああ、主なる神よ」とエレミヤは叫びました。「わたしはただ若者にすぎず、どのように語ってよいか知りません。」

しかし主は、エレミヤを励まして言われました。「彼らを恐れてはならない、わたしがあなたと共にい〔る。〕……あなたは腰に帯して立ち、……彼らに告げよ。』<sup>22</sup>

そこでエレミヤは人々に語りました。しかし、最初はあまり成功しませんでした。それどころか、事はいつそう悪化し、しまいには投獄され、人々の物笑い種となりました。虐待され、中傷されたエレミヤは怒り、実際、もう二度と人に教えを説かないと決心し

ました。相手が求道者であろうと、初等協会の子供であろうと、新会員であろうと、そして、一筋縄ではいかない青少年であろうとです。「主のことは、重ねて言わない、このうえその名によって語る事はしない。」落胆した預言者はそう語りました。そんなとき、エレミヤにとって人生の転換期が訪れました。彼が述べた証、読んだ聖句、教えた真理のすべてに対して何かが起こりました。彼が想像もしなかった何か起きたのです。口を閉ざし、主から遠ざかろうと決心したにもかかわらず、彼は自分にはそんなことはできない、と悟りました。なぜでしょうか。「主の言葉がわたしの心において、燃える火のわが骨のうちに閉じこめられているようで、それを押えるのに疲れはてて、耐えることができ」なかったのです。<sup>23</sup>

これこそ、福音にあって、教師と学ぶ者の双方に起こることです。それは、ニューファイとリーハイにも起こりました。ヒラマン書にはこうあります。「そして見よ、神の聖なる御霊が天から降って、彼らの心の中に入られたので、彼らはあたかも火で満たされたかのようになり、驚くべき言葉を語ることができた。』<sup>24</sup> それは、マグダラのマリヤが経験した天与の喜びにも似ています。マリヤは園の墓で思いがけず、復活された愛する主にまみえました。そして、主に向かってただ「ラボニ」<sup>25</sup> と言いました。それは「先生」という意味です。

教えを受けてきたわたしたちすべての者から、教えてくださるすべての方々に、心を込めて感謝をお伝えします。家庭や教会にあってわたしたちがさらに教授技術を向上できますように。そして、教え合い教化し合ういっそうの努力をしていけますように。あらゆる集会、あらゆるメッセージを通じて、神の善い言葉で養われますように。わたしたちの子供や改宗者、隣人、新たな友人から、わたしたちの誠実な努力に対し、「あなた〔は〕神からこられた教師である」と言っただけですように。教師である主、イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

注

1. ヨハネ3:2
2. モロナイ6:4。ゴードン・B・ヒンクレー「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号、56も参照
3. 「教師——その大いなる召し（教授技術向上のための資料）」スペンサー・W・キンボール “No Greater Call” 「大いなる召し」（1967年10月1日、日曜学校大会）も参照
4. 1コリント12:28
5. 教義と聖約20:59
6. デビッド・O・マッケイ、*Conference Report* 『大会報告』1916年10月、57
7. 使徒8:26-31参照
8. ローマ10:13, 14, 17, 下線付加
9. *Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編、524, 下線付加
10. “How to Be a Teacher When Your Role as a Leader Requires You to Teach” 「指導者として教える必要が生じたら、いかに教えるか」中央幹部神権管理会、1969年2月5日、下線付加
11. マタイ28:19-20
12. ヨハネ21:15-19
13. 教義と聖約50:14, 17-18
14. 教義と聖約42:14
15. 出エジプト33:15
16. アルマ8:15:26:27
17. アルマ31:5
18. ジョン・テラー、*The Gospel Kingdom* 『福音の王国』G・ホームー・ダラム選、78参照
19. “The Charted Course of the Church in Education” 「教会教育課程計画」〔ユタ州アスベングローブにおけるプリガム・ヤング大学夏期セミナー、1938年8月8日〕4, 9
20. 教義と聖約43:8, 16参照
21. ローマ2:21
22. エレミヤ1:6, 8, 17
23. エレミヤ20:7-9参照
24. ヒラマン5:45
25. ヨハネ20:16

# キリストは人の行動を変えてくださる

七十人

リチャード・E・クック

**改宗者が福音にあって「いきいき」として——そのためには養いが必要ですが——彼らは学生として、両親として、仕事において、一市民としてにわかに「いきいき」してきます。**



**わ**たしはクック姉妹とともに、正式な伝道部が組織される1年ほど前にモンゴルへ宣教師として派遣されました。この召しを振り返ってみると、わたしたちの人生で最も忘れ難い、充実した、そして祝福された時期の一つに数えることができます。モンゴルで過ごした時間から、今なお祝福と豊かな経験という報いを受けています。

主は宣教師に対してこのように言われました。「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」（教義と聖約18:15）

この約束はすべての宣教師にとって

灯台とも呼ぶべきものです。しかし伝道活動からもたらされる祝福はほかにもあります。それは数多くまた多岐にわたっています。すぐにもたらされる祝福もありますが、時間を必要とするものもあります。

わたしたちは2月に、プロボでこの「時間を必要とする」祝福を経験しました。伝道を通して大家族となった我が家の一員に加わった、モンゴル人のかわいらしい女の子の命名と祝福に立ち会ったのです。彼女の名前はタンガラグといいます。母親のダバジャーガルは現代の開拓者であり、モンゴルで最初にバプテスマを受けた女性で、父親のサンチルはプリガム・ヤング大学の経営学修士課程の学生です。

わたしはサンチルを、モンゴルで彼が教会員になる以前から知っています。知り合ってから1年後、サンチルは、献身的な宣教師たちから福音を何度も学びバプテスマを受けました。改宗からわずか2年しか経ていないこの若い父親が、次のような言葉で始まるすばらしい祝福を述べることができたのは、まさしく奇跡です。「タンガラグ、わたしはあなたが善い人になれるよう祝福します。」わたしはこの最初の言葉を決して忘れないでしょう。

サンチルは祝福の中で、バプテスマを受ける前には知るどころか想像すらしなかったことを述べました。この祝福の儀式に立ち会って、福音がこの青年と家族をここまで変えたことを実感

したこの日は、まさに宣教師としての報酬を受ける日となりました。

キンボール大管長はこうに述べています。「最も満ち足りた経験は福音が人々に与える影響を目の当たりにすることです。福音を知ると人生観が変わり、それまでに感じたことのないような視野が開けます。気高く神聖な事柄に目を向けるようになり、目を見張るような奇跡が起こります。彼らはキリストを仰ぎ見て、いきいきとします。」(『改宗者と若い男性について』『聖徒の道』1997年7月号, 58)

わたしの経験では、改宗者が福音にあって「いきいき」とすると——そのためには養いが必要ですが——彼らは学生として、両親として、仕事において、一市民としてにわかに「いきいき」してきます。彼らの生活と子孫の生活が永遠の変化を遂げるのです。

モンゴルに到着して間もなく、わたしたちは二人の若い長老たちと一緒にムレンという都市まで行くようにとの要請を受けました。旅を終えて戻ろうとしましたが、悪天候のために飛行機の出発が延期されました。搭乗する飛行機が到着するかどうかを確認するために、毎日飛行場へ行きました。到着すればその飛行機で帰れるからです。わたしたちは、ほかの乗客と同様、その日に出発できるか市内に戻って宿泊しなければならないか分かるまで空港で待ちました。

同じ便に乗ろうとしていた人々の中に海外からの観光グループがいました。彼らは馬に乗ってモンゴルでも最も遠い、開発がほとんど手つかずの地域に行ってきたということでした。

空港で待っていると、観光グループの一人が長老に近づいて、こう言いました。「わたしはあなたがどういう人か知っていますよ。ここで何をしようというのですか。この国の人々はあなたがたを必要としていません。豊かな文化を持つ汚れない人々ですから。このまま引き揚げて、彼らをそっとしておいてください。」

その長老はとても感情を害してわたしのもとへやって来ました。わたしたちは長老がどのような返答ができたかを話し合いました。しかし、それから2週間もたたないうちに、わたしはベンソン大管長が語った話を読みました。そこには完全な答えが示されていました。

「周囲には大きな問題が山積しているにもかかわらず、わたしたちが一個人または教会として静かにまた一貫して個人を変えようと努力しているのはなぜかと尋ねる人がいるかもしれません。……しかし、崩壊へと向かう都市は単に、墮落する個人の姿が時を経て反映されているにすぎません。……神の戒めでは、社会に真の改善をもたらす唯一の方法は個人が向上することだけであると強調しています。」(A Plea for America『アメリカへの祈り』18)

「主は心の内側から外側に向けて働きかけられますが、この世は外側から内側に向けて働きかけます。この世は貧民窟から人々を連れ出そうとしますが、キリストは人々から悪や汚れた面を取り去り、自分自身で貧民窟から抜け出られるようにされます。キリストは人間自体を変え、それから環境を変えられます。この世は環境を変えることによって人間を形成しようとしています

が、キリストは人の行動を変えられます。」(『神によって生まれる』『聖徒の道』1986年1月号, 6参照)

キンボール大管長はかつて、伝道活動は教会の生命線であると語りましたが、まったくそのとおりです。それは、新しい改宗者が教会に活力と力を与えるからだけでなく、宣教師自身も改宗者がキリストに対して決意する過程に参画することによって同様の新しい力を得るからです。これらの力は、ダニエルが示現で見たように福音が転がり出て全地を満たすために神の御手に使われる者が手にする強大な力となります(教義と聖約65:2参照)。

わたしたちには選択の自由がありますが、伝道活動はどのような形であろうと、任意のプログラムではありません。わたしたちは伝道活動による祝福について語りますが、伝道は実際に行わなくてはなりません。伝道はわたしたちの義務なのです。聖文とジョセフ・スミス以降のすべての預言者の言葉は、全世界に出て行って、隣人に警告の声を上げるのはわたしたちの義務であることを思い起こさせてくれます。

ウィルフォード・ウッドラフはこの点について非常に明確に述べています。「神が世界を創造されて以来、この世代の人々に警告の声を発する責任について今日ほど強く求められている人々はいません。わたしたちは昼夜を問わず声を遠く高らかに発し、あらゆる機会をとらえて、この世代の人々に神の言葉を宣言しなければなりません。わたしたちは実行するよう求められています。〔これ〕はわたしたちの召しです。わたしたちの義務であり、務めなのです。」(Deseret News Semi-Weekly『デゼレトニュース 隔週刊』1880年7月6日付け, 1)

伝道活動を自らの責任としてとらえ、さほど重要でないほかの仕事によって妨げられることのないように祈っています。わたしたちは神のすべての戒めを守ることによって祝福を受けます。しかし宣教師が受ける祝福に勝るものはほとんどありません。何とすばらしい業でしょうか。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。



# 「聖徒を完成する 神の王国の道」

七十人

テール・E・ミラー

シオンを築くために、わたしたちの時間、才能、持ち物をささげるなら、わたしたちの心は清められ、知恵が増し加わり、日の栄えの資質が培われます。



古代の預言者たちが示現の中で現代のわたしたちを見たとき、言葉にならないほどの喜びに満たされたと預言者ジョセフ・スミスは話しています。彼らは、この時代の大きい終わりについて預言し、歌い、ほめたたえ、記録に残したのです。神は確かにこの地上の神の王国にあふれるばかりに御霊を注いでおられます。

わたしたちは、主の王国が決して閉ざされた社会ではないことを世界に向けて宣言します。主は、神の真理の完全な道を歩むようにすべての人を招いておられます。その報いとして、主は喜びと永遠に続く幸福を約束しておられます。そのために支払う代価は、打ち砕かれた心と悔いる霊、そして主の

足跡に喜んで従うことです。

このことに関する主の御言葉に耳を傾けてみましょう。「見よ、善い望みを持ち、刈り入れのために鎌を入れていくすべての者に、わたしは語る。

見よ、わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは世の命であり光である。……

……まことに、まことに、あなたに言う。わたしを受け入れるすべての者、すなわち、わたしの名を信じる者に、わたしは神の子となる力を与えよう。」(教義と聖約11：27—28, 30)

兄弟姉妹の皆さん、主の王国を建てる手助けのために鎌を入れることが、わたしたちの生活の中心とならなければなりません。前世において、わたしたちが皆このことに賛成したと考えるのは理にかなっているように思います。教育、職業、結婚、あるいはわたしたちの時間、才能、持ち物の使い方に関する重要な決定は、どうしたら主に最もよく仕え、主の王国を建設し、主にあって完全な者となれるかを考えながら祈りの気持ちで決めるべきです。

シオンを築くための働きには様々な方法があります。ある意味では、シオンはその中心から地理的な広がりを持ち、その境を広げながら全世界を覆うようになります。わたしたちが人々と福音を分かち合うことにより、シオンの境を広げているのです。これがこの地上でわたしたちが行う働きの一つです。

また別の意味では、シオンは、わた

したちの召しを通してそのステークを強めるために働く組織です。それぞれのステーク(杭)は次々に福音の土の中に深く打ち込まれ、防御と避け所となる場所を備え、キリストに従う者たちが悪魔のわなに固く立ち向かえるようにします。ステークは、地上における神の民を完成するための土台となる文化を形成しています。

聖典には、シオンには3番目の意味があつて、それはきわめて個人的なことであると述べられています。それはわたしたちに内在する完成へと向かう力のことです。喜んで奉仕する人々は、主のぶどう園で働くように招きを受け、心の清い者となるように着実に自らを変えていくのです。

教会と会員との相互関係には、際立った作用があります。シオンを築くために、わたしたちの時間、才能、持ち物をささげるなら、わたしたちの心は清められ、知恵が増し加わり、日の栄えの資質が培われます。そしてわたしたちが御父と御子の臨在を受けられるように聖霊が備えてくださるのです。わたしたちは鎌を入れてわたしたち自身と神の王国という二重の刈り入れをします。

したがって、永遠に大切なことは、自分に次のように問いかけることです。「わたしは心の清い者と認められるでしょうか。」ベニヤミン王の説教を聞きに集まった民のように、「そのとおり、わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御霊のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かで真実であることを知っています。御霊は、わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました」(モーサヤ5：2)と、一点の曇りもなく言えるでしょうか。

この大会の最後に、ヒンクレイ大管長がベニヤミン王と同じ問いかけをしたら、わたしたちは心に大きな変化が生じたと言えるでしょうか。わたしたちの性質は、神が喜びにならないことを捨てるに十分なだけ強められ、

いつも善を行うように変わったでしょうか。

初期のニューファイ人の聖徒の生活に、教会としてまた個人としてのわたしたちのあるべき姿の明確な理想像を見ることができます。それは主が、その両方に働きかけておられるからです。

わたしたちが完成に向かって歩むとき、容易に自分の至らなさを感じます。主はわたしたちをよく知っておられ、わたしたちの心の思いも御存じなのは間違いのないことです。わたしたちが謙遜かつ従順で、絶え間なく成長していくなら、主は確かに道を示してくださるでしょう。今この時にも、主はわたしたちの知らない所で道を備えてくださっています。戒めを守って主に仕えることにより、わたしたちの理解の目が開かれるでしょう。わたしたちには、将来キリストのように完全になる可能性が秘められています。わたしたちは、それを神から受け継いでいるからです。

キンボール大管長は、一つの指針と

して、わたしたちの心にシオンをもたらし、シオンを実現するための3つの原則について話しました。

「まず第1に、わたしたちは魂を迷わせ、心をしゅくさせ、暗くする自己本意な考え方を捨てるようにしなければならない。……

第2に、わたしたちは完全な協力体制を敷き、互いに調和を保って働くようにしなければならない。決意を一つにし、行動に一致しなければならない。……

第3に、わたしたちは祭壇を築いて、主によって求められるものは何でも犠牲としてささげなければならない。そのためにはまず、打ち砕かれた心と悔いる霊をささげる必要がある。次いで、自分に託された務めと召しに最善を尽くす。そして、自分の義務を理解し、それを完全に果たす。最後に、指導者から要請されたとき、そして御霊のささやきに促されたときに、自分の時間と才能と財産を奉獻する。」(『聖徒の道』1978年10月号、129—130)

家庭は、利己心を捨て自分本位にならないことを教えるのに非常に適した実験場です。そして大管長会と十二使徒評議会による『家族——世界への宣言』の勧告をいつも見える所に掲げておくことほどすばらしい処方せんはないでしょう。その意味深い宣言の中の二つの文が、家庭内における完成への道を示しています。

第1に、「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。」

第2に、「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」この宣言の中から、家族会議や家庭の夕べのテーマを限りなく列挙できるでしょう(『聖徒の道』1996年6月号、10—11)。

兄弟姉妹の皆さん、この王国は地上のどの組織とも異なっています。ビジネス用語を借りて表現するなら、この王国は非常に優れた競争力を持った組織です。この王国だけが人を永遠の命へ導きます。この王国だけが、堅固な岩すなわち啓示の岩を土台にして建てられています。この王国だけが主イエス・キリストの完全に回復された福音を所有しています。また個人のレベルにおいても、この王国はわたしたちを清めるための訓練を行います。この王国はわたしたちが成長できるように、簡単にできること以上のことを行うように励まします。この王国は、来世に持って行ける大いなる霊的な賜物を増やせるようにわたしたちを促し、教化します。この王国は、火のバプテスマを授けます。この王国は、神からのみ与えられる方法で個人に力を与えます。

この王国があらゆる時代を通じて預言された地上における偉大な神の王国であることを感謝と喜びをもって証します。この道が、神の御子の贖いにより愛ある天の御父のみもとに帰る旅路でわたしたちを導く唯一真実の道です。このことをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。



# 驚くべき主の啓示

十二使徒定員会会員

M・ラッセル・バラード

わたしたちに今与えられている、明らかにされた真理を受け入れ、研究し、感謝する必要があります。わたしたちは御父のすべての子らに対して惜しみなく、また愛をもって福音を宣言する必要があります。



人類史上最も驚くべき出来事が1820年の早春に起こりました。その日、ジョセフ・スミス・ジュニアは神に導きと光と真理を求めのために家の近くの森に入りました。ジョセフはひざまずいて謙遜にまた心からの祈りをささげました。そのときに起きた出来事を彼自身の記録から読んでみましょう。「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

……その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御

方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。』

この瞬間に世界は一変しました。長い間沈黙を守ってきた天が再び開かれ、明らかな光と真理があふれるばかりに注がれて、ついに末日聖徒イエス・キリスト教会が地上に組織されることとなったのです。

啓示の霊が力強く預言者ジョセフ・スミスに注がれるなどということは尋常でない出来事でした。ジョセフが啓示を受けるその場に居合わせた人々がいます。彼らはそうしたときに御霊の臨在やはっきりとした現れがあったことを証しています。彼らが一様に語る変化はジョセフを包み込んだ白さあるいは輝きです。教義と聖約第76章が与えられたときのことを、一例として挙げてみましょう。フィロ・ディブルはこのように記しています。ジョセフは「輝くばかりの白さを身にまとい、その顔は透き通るように輝いていた。』<sup>2</sup> プリガム・ヤングはこう証しています。「〔ジョセフ〕をよく知る人たちは、啓示の霊が彼に臨むと、すぐにそのことを理解できた。なぜなら、彼の容貌がそういうときに特有のものになるからである。ジョセフ・スミスは啓示の霊によって人々に教えを説き、評議会で教えた。そしてジョセフ・スミスを親しく知る人々は彼が啓示の霊を受けたことをすぐに知ることができた。そのようなとき、彼の容貌には特有のまばゆさと透き通るような輝きがあったからだ。』<sup>3</sup>

啓示を受けるという驚くべきこの体

験を分かち合った一部の人は、主から与えられるこれらの啓示が水のごとく滑らかに流れ出ること、単語のつづりや句読点などささいな部分での訂正を除くと、ジョセフが受けた啓示は編集する必要がまったくなかったことに感銘を受けています。パーリー・P・プラットはこのように述べています。「それぞれの文章はゆっくり、そして非常にはっきりと、文と文の間に並の筆記者が普通の筆記法で記録できるに十分な間を置いて語られた。……主題の流れからそれないようにするために口ごもったり、見直したり、読み直したりすることは一度もなかった。またこれらのどの啓示にも修正や挿入、訂正がなされたことはなかった。わたしの知る限りでは、預言者は彼らがついてこられるように、そのようにして口述していた。わたしは一つ一つが数ページの長さの啓示を口述する場に何度か居合わせ、その様子を自分の目で見た。』<sup>4</sup>

興味深いことに、これらの一部始終を見て最も驚いたのは、ジョセフをいちばんよく知っている人々でした。彼らはジョセフが受けた正規の教育とジョセフの生来の能力がどの程度でしかなかったかをだれよりもよく知っていました。このため、彼らは神が奇跡的な方法で生ける預言者を通して語られたことをだれよりもはっきりと知っていました。

ジョセフの妻であるエマもパーリー・P・プラットと同じような証を述べています。彼女は、啓示がもたらされる方法を知ったときの驚きは長年にわたって心を離れなかったと証しています。預言者が亡くなって何年かたった後に、エマはこのように述べています。「彼が靈感を受けていなかったとしたら、だれも聖典の記録の口述はできなかっただろう。わたしはそのことをうれしく思っている。彼の筆記者をしていたとき、〔ジョセフ〕は何時間も続けてわたしに向かって口述した。食事が済んでまたその仕事に戻るときも、何かの用事で中断された後でも、彼は原稿を見たり、前の部分をどこか読ませたりということもなく、前に終わっていたところからすぐに口述に取りかかること

ができた。』<sup>5</sup>

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは啓示という驚くべき奇跡を持つ価値を十分に理解しているでしょうか。わたしたちは啓示によって、『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』を受けています。これらの書物には神の子らであるわたしたちに対する神の御言葉が収められています。わたしたちが主から受けてきたこれらの啓示は何と驚くべきものでしょうか。わたしは常々、ジョセフ・スミスが主の御手に使われる者であって、それによってイエス・キリストの完全な福音の回復が成し遂げられたか、あるいはジョセフは主の御手に使われる者でなかったかのいずれかです、とお話ししてきました。この教義には少しの妥協点もありません。わたしは全世界に対して声を大にして、いかなる条件を付けることもなく、一点の疑いもなく証します。ジョセフ・スミスは神の啓示によってこの神権時代の幕を開き、イエス・キリストの真の教会を回復する業に着手しました。

人類に与えられた最もすばらしい啓示の中に教義と聖約第76章があります。短く「示現」とも呼ばれている啓示です。この示現は預言者ジョセフにとって最も力強くまた重大な意味を持つ霊的な体験の一つであったと思われまます。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが正しい者と正しくない者の復活についての理解を求めて祈ったときに、この示現が、実際には連続した6つの示現から成りますが、二人に与えられました。ジョセフとシドニーは約1時間半にわたって文字どおり主と言葉を交わしました。救い主はその間に、ジョセフが後に「神の示現によって描かれた永遠、過去にあったまま、現在あるまま、そして未来にあるままの永遠」<sup>6</sup>と表現した示現を示されました。示現が開かれると、二人は御父の右に神の御子の栄光を見ました。そして思わずこう叫んだのです。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊

を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり……。』<sup>7</sup>

続いてジョセフとシドニーが見たのは、反抗したために神の御前から落とされた前世のルシフェルでした。そして、滅びの子たちと永遠の世界における彼らの行く末を見ました。次に二人は、日の栄えの王国、月の栄えの王国、星の栄えの王国に関する示現を見ました。彼らは各王国に入るための条件と、それぞれの王国が栄光において異なっていることを知りました。彼らは日の栄えに入る資格を持つ人々が「とこしえにいつまでも神とそのキリストの前に住む」ことを知りました。<sup>8</sup>

預言者ジョセフとシドニーは実に驚くべき経験をしました。主は1時間以上にわたって、わたしたちの前世での生活、地上での生活、死後の生活を彼らに示されました。この啓示によって、わたしたちの永遠の幸福と平安に関する天の御父の計画は、人類の理解の手が届くところまで驚くほど広範囲にまた詳しく知らされることとなったのです。もちろん、ジョセフは示現で見たすべてを記録してはならないと指示されたことを付け加えておかなければなりません。当時の聖徒たちは、ジョセフに与えられた新しい情報のすべてを受け入れる準備ができていませんでした。けれども、預言者のその後の教えに目を向けると、聖徒たちの霊的な理解力が増すのに応じて、ここにも少し、そこにも少しと、この偉大な啓示が断片的に教えられていった様子をうかがい知ることができます。

主が絶えず教育、特に霊的な教育の大切さを強調しておられるのはここに理由があるのです。わたしたちは無知で救われることはできません。<sup>9</sup>けれども、わたしたちに受ける用意ができていく程度までしか、主は光と真理を明らかにすることがおできにならないのです。このため、わたしたちは聖文と生ける預言者の言葉を研究することによって霊的な知識と理解を深めるために、全力を尽くす義務があります。わたしたちが啓示を読んで研究するとき、御霊は、学んでいることが真実で

あることをわたしたちの心に確認してください。こうして、主の御声がわたしたち一人一人に及ぶのです。<sup>10</sup>福音の教えを深く考え、日常生活で応用するならば、わたしたちはさらに光と真理を受けるための準備を整えることができます。今日、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が教えてくれることを理解する備えがわたしたちにできていて、熱心に耳を傾けることができるように願っています。なぜならば、大管長は使徒たちとともに、現在の悩み多き時代を切り抜け、そして生きる方法を示してくれるからです。

聖典にはこのような約束があります。「あなたがたは……父がどれほどの大いなる祝福を……持っていて、あなたがたのために備えておられるかをまだ理解していない。あなたがたは、今はすべてのことに耐えることはできない。しかし、元気を出しなさい。わたしがあなたがたを導いて行くからである。王国はあなたがたのものであり、その祝福もあなたがたのものであり、また永遠の富もあなたがたのものである。」<sup>11</sup>

わたしは天の御父とその愛する御子イエス・キリスト、そして福音に対する理解を深めてくれる啓示にどれほど感謝していることでしょうか。この知識はわたしの人生と家族の生活において祝福となってきました。数年前、カートランド神殿を訪問したときにわたしたちは神殿内に座って、預言者ジョセフとオリバー・カウドリは明らかにされた真理の中に「輝く神の御座……そこには御父と御子が座しておられた」<sup>12</sup>のを見たときに、あるいは「主が……教壇の手すりの上に立っておられるのを」見て、主が「あなたがたの罪は赦されており、あなたがたはわたしの前に清い。それゆえ、頭を上げて喜びなさい」<sup>13</sup>と言われたときに、どのような気持ちがあったらうかと想像してみました。

兄弟姉妹、約2,000年前に<sup>へんぼう</sup>斐斐の山で起きたことと同じように、モーセ、エライアス、エリヤが現れて、鍵と、神権時代と、結び固めの力を託したときに、ジョセフとオリバーが覚えたに違いない感動がどれほど大きなものだった

たかを想像できるでしょうか。

光と真理を求めている人であれば、1918年10月にジョセフ・F・スミス大管長に与えられた啓示を読んで、明らかにされた真理の持つ霊と力を感じない人はいないと思います。教義と聖約第138章には人の永遠性に関する教義と、この教会の偉大な業の目的があふれんばかりに記されています。スミス大管長はこのように述べています。

「わたしの理解の目が開かれ、主の御霊がわたしのうえにとどまった。そして、死者が小さな者も大なる者もともに群れを成しているのが見えた。

非常に多くの正しい者の霊が、一つの場所に集まっていた。彼らは死すべき世に住んでいた間、イエスの証に忠実であった者たちであり、……

これらの者は皆、父なる神とその独り子イエス・キリストの恵みにより、栄光ある復活の望みを確固として持って死すべき世を去ったのである。

わたしは彼らが喜びと楽しみに満たされ、解放の日が近づいたので、ともに喜んで見えた。……

この大群衆が死の鎖からの解放を喜び、語り合いながら待っていると、神の御子が現れて、……

また、そこにおいて神の御子は、永遠の福音と復活の教義、墮落からの人類の贖い、および悔い改めを条件とする個人の罪からの贖いについて彼らに宣べ伝えられた。……

そして、聖徒たちは彼らの贖いを喜び、ひざまずき、神の御子を贖い主、および死と地獄の鎖からの解放者として受け入れた。

彼らの顔は光を放ち、主の前から発する輝きが彼らのうえにとどまった。そして、彼らは主の聖なる名を賛美した。……

このようにして、真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者に、福音が宣べ伝えられた。

これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の赦しのための身代わりのバプテスマ、あんにしよ 接手による聖霊の賜物について教えを受けた。

またこのほかに、……知っておく必

要のある、福音のすべての原則が教えられた。

そしてこのように、神の御子の十字架での犠牲によって贖いが行われたことが、死者の間に、すなわち、小さな者にも大なる者にも、不義な者にも忠実な者にも知らされたのである。]<sup>14</sup>

スミス大管長は「主の来臨の時に全地がのろいをもって打たれて、ことごとく荒廃することのないように、時満ちる神権時代に、主の神殿で死者の贖いと親子の結び固めのために大なる業が行われることをあらかじめ示す」<sup>15</sup>のために尽力した、古代と現代の預言者たちの姿を見ました。

スミス大管長は「この神権時代の忠実な長老たちが、死すべき世を去っても彼らの働きを続け、死者の霊たちの大なる世界において暗闇と罪の束縛の下にいる者たちの間で、悔い改めと神の独り子の犠牲による贖いの福音を宣べ伝えているのを見た。

悔い改める死者は、神の宮の儀式に従うことによって贖われるであろう。

彼らは自分の背きの代価を支払い、洗われて清くなった後、その行いに応じて報いを受けるであろう。彼らは救いを受け継ぐ者だからである。]<sup>16</sup>

神からその忠実な預言者たちに与えられた驚くべき啓示を通して、わたしたちは何と偉大な永遠の光と知識を授けられていることでしょうか。この最後の偉大な神権時代に与えられてきたすべての啓示を通して得た理解に対して、わたしたちはどれほど感謝すべきでしょうか。わたしは世界中のどこへ行っても、忠実な教会員にお会いすることができます。彼らはわたしと同様、御霊の力によって明らかにされたので、末日聖徒イエス・キリスト教会が真の教会であることを知っています。心から知りたいと願う人はだれでも、同じ御霊の力によってこれらの真理について確認を受けることができます。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちに今与えられている、明らかにされた真理を受け入れ、研究し、感謝する必要があります。わたしたちは御父のすべての子らに対して惜しみなく、また愛をもって福音を宣言する必要がありますが



す。それによって、すべての人がイエス・キリストの回復された福音の光と知識に従って歩むためです。主がわたしたち一人一人にさらなる知識と証を祝福して下さいますように、また過去において預言者たちに示され、未来にあっても預言者たちに示される啓示の霊をわたしたちが心を開いて、受け入れることができますように、イエス・キリストの御名によってへりくだりお祈りします。アーメン。

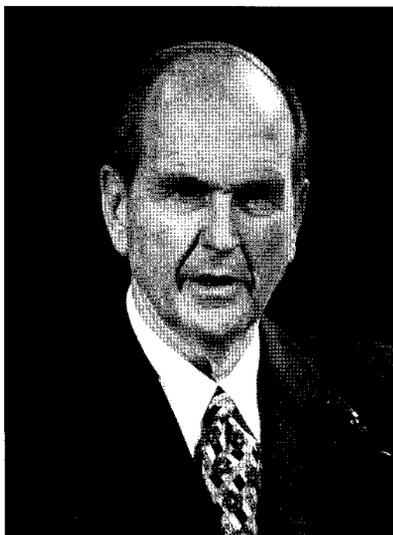
注

1. ジョセフ・スミス—歴史1:16-17
2. "Early Scenes in Church History" *Four Faith Promoting Classics*、「教会歴史初期の時代」『信仰を鼓舞する4冊の名著』81
3. *Journal of Discourses*『説教集』9:89
4. *Autobiography of Parley P. Pratt*『パーリー・P・ブラット自叙伝』48
5. "Last Testimony of Sister Emma" *The Saints' Herald*「エマ姉妹の最後の証」『ザ・セイント・ヘラルド』1879年10月1日付け、289
6. *Times and Seasons*『タイムズ・アンド・シーズンズ』1843年2月1日付け、82
7. 教義と聖約76:22-23
8. 教義と聖約76:62
9. 教義と聖約131:6参照
10. 教義と聖約18:34、36参照
11. 教義と聖約78:17-18
12. 教義と聖約137:3
13. 教義と聖約110:2、5
14. 教義と聖約138:11-12、14-15、18-19、23-24、32-35
15. 教義と聖約138:48
16. 教義と聖約138:57-59

# 新たな収穫の時

十二使徒定員会会員  
ラッセル・M・ネルソン

家族歴史の新たな時代の到来です。



家族の愛はすばらしいものです。家族の愛はすばらしいものです。幼子の母親に対する愛ほどはつきりした形で表現される愛はありません。両親に対する子供たちの愛あるいは子供たちに対する両親の愛ほど、確かなものはありません。

最近、わたしたちにとって大切な孫たちの一人、5歳になる孫娘に会う機会がありました。わたしは彼女を抱いて、こう言いました。「おじいちゃんはおまえを愛しているよ。」

彼女はどちらかと言えばそっけなく、「分かっているわ」と答えました。

「どうしておじいちゃんが愛しているって分かるの」と尋ねました。

「どうしてって、わたしのおじいちゃんだからよ。」

彼女にとって理由はそれで十分でした。わたしたちは心から孫を愛しています。また、祖父母を愛しています。4人の祖父母のうち3人とともに生活した思い出をわたしは大切にしています。

しかし祖父のネルソンには会ったことがありません。祖父はわたしの父がまだ16歳のときにこの世を去りました。祖父は亡くなるまで、ユタ州の公立学校指導主事を務めていました。祖父は、立派な懐中時計を持っていました。その時計は後に父からわたしの手に渡りました。現在、この懐中時計はわたしたちをつなぐ、形あるきずなどなっています。

わたしは祖父を思い起こすとき、深い感謝の念を抱きます。わたしが子供のころに受けた教育の多くは、祖父がその一員として開発したものでした。わたしは、この教会の会員であることに喜びを感じています。祖父の両親は約150年前にデンマークで改宗しました。わたしの8人の曾祖父母は全員がヨーロッパで改宗した人たちです。そのうち1人はスウェーデンで、2人はイングランドで、3人はノルウェーで教会に入りました。これら開拓者の先祖に言葉に尽くせないほど感謝しています。わたしが彼ら先祖に負っている負債について『聖書』にはこのように記されています。「まく者も刈る者も、共に喜ぶため」に、「ひとりがまき、ひとりが刈る。」<sup>2</sup>

昔まかれた種が実を結んだために、現在わたしたちは家族の愛という収穫を刈り取っています。家族のきずなを強めるための備えは、1823年、天使モロナイが預言者ジョセフ・スミスに初めて姿を現したときに始まりました。モロナイは子孫の心を先祖に向けさせるためにエリヤが訪れることを宣言しました。<sup>3</sup>

エリヤの地上への再訪はこの神権時代に建てられた最初の神殿において実

現しました。主の指示を受けた<sup>4</sup>エリヤとほかの天使たちはその神殿で、以下に述べるような神権の権能の特別な鍵を、回復された教会に託しました。

- モーセはイスラエルの集合の鍵を託しました。<sup>5</sup>
- エライアスはアブラハムの福音の神権時代をゆだねました。<sup>6</sup>
- エリヤは先祖の心の子孫に、子孫の心を先祖に向けさせるために訪れました。<sup>7</sup>

この出来事によって、世代間に生まれる自然な愛が豊かにはぐくまれることになりました。この回復に付随するのがエリヤの霊と呼ばれているものです。言葉を換えれば、家族が神聖な起源を有していることを証する聖霊の現れです。<sup>8</sup> エリヤの訪れを契機に、宗教に関係なく全世界の人々は亡くなった親族の記録を猛烈な勢いで集め始めました。<sup>9</sup>

エリヤが訪れたのは先祖の探求を奨励するためだけではありませんでした。家族がこの世の境を超えて永遠に結ばれることを可能にしたのです。実のところ、わたしたちが先祖を探求するほんとうの理由は家族に永遠の結び固めを受ける機会を提供することです。主は預言者ジョセフ・スミスを通してこのように宣言されました。

「これらは死者と生者に関する原則であり、わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。……わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない……ように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」<sup>10</sup>

現在の神権時代に家族歴史に対する関心の種を最初にまいた人々の中に、十二使徒定員会の会員であったオーソン・ブラットと兄のパーリー・P・ブラットがいました。二人の努力によってブラット家の系図が編さんされました。そして、約3,000人の先祖のために神殿の儀式を執行することができました。<sup>11</sup>

しかし、多くの教会員は自分の親族に対する責任をよく理解していません



でした。ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこの問題を非常に危惧しました。そして主の御心を伺うために熱心に祈りました。その後、ウッドラフ大管長は1894年4月の総大会において、教会員に一つの啓示を示しました。<sup>12</sup> それを引用したいと思います。「わたしたちは末日聖徒たちが今から、できるかぎり昔まで自分たちの系図を調べ、その父や母たちに結び固められるよう望むものである。また、子供たちをその両親に結び固め、その結びつきをできるだけさかのぼっていただきたい。…これは、主がその民に伝えられる御心である。」<sup>13</sup>

この年の後半、大管長会と十二使徒会はユタ系図協会を設立しました。<sup>14</sup> 教会歴史記録者事務所の2階でささやかに始められた系図協会でしたが、<sup>15</sup> やがて集められた資料の数と規模は飛躍的に拡大されることとなります。現在、家族歴史図書館は近代的な5階建てのビルに事務所を移し、28万冊の蔵書と70万枚のマイクロフィッシュ、そして200万巻以上のマイクロフィルムを有しています。この種の図書館としては世界最大規模となっています。

家族歴史部は1964年から図書館の分室を設置し始めました。現在、世界各地

に設立されている家族歴史センター<sup>16</sup> は3,000か所を超えています。

この大切な業を支えるために導入された技術も、長年の間に大きく変化してきました。1927年にカードファイル方式が導入されて、執行されたすべてのエンダウメントに索引が付されました。<sup>17</sup> この索引方式は1969年まで採用されました。そしてこの年から、新規に執行されたエンダウメントは「ジャイアント」(GIANT)と呼ばれた大型コンピューターを初めて使ったシステムに記録されることになりました。<sup>18</sup> 「ジャイアント」は20年以上にわたって用いられました。<sup>19</sup>

系図協会は世界各地でマイクロフィルム化を実施することによって記録を収集し、同協会の資料として保存してきました。後にこれらの複製版は家族歴史図書館と家族歴史センターに置かれて、各地で閲覧ができるようになりました。マイクロフィルムを作成する事業は世界の110か国で実施されました。収集されている写真は20億枚以上、人名は約130億に上っています。記録のマイクロフィルム化によって家族歴史図書館は所蔵する資料を劇的に増やすことができました。これらの資料は全世界で爆発的な成長を遂げている系

図探求活動を支援するために活用されています。また、これらのマイクロフィルムは現在実施されている自動化されたシステムに納められている情報の核となっています。

1980年代になると、パーソナルコンピューターが情報管理の分野に改革をもたらします。家族歴史部はこのテクノロジーを採り入れて「パーソナル・アンセstralファイル」(Personal Ancestral File)<sup>TM</sup>を開発し、教会員が先祖のデータをまとめられるようにしました。1990年には「ファミリーサーチ」(Family Search)<sup>®</sup>が発表され、リチャード・G・スコット長老がその年の10月の総大会で「ファミリーサーチ」に含まれる「アンセstralファイル」(Ancestral File)<sup>TM</sup>や「家族歴史図書館カタログ」(Family History Library Catalog)<sup>TM</sup>、「国際系図索引」(International Genealogical Index)<sup>®</sup>、そのほかについて説明しました。<sup>20</sup> 妻とわたしはこのメッセージに刺激されて、わたしたちや親族が長年にわたって集めた情報をこのツールを用いてまとめることにしました。

また、家族歴史プログラムを分散化し簡素化するという目標から、記録抄出プログラムが生まれ、何千人もの教

会員が参加しています。<sup>21</sup> 抄出プログラムによって生み出された記録は3億人分に上ります。<sup>22</sup>

増え続ける系図情報に索引を付ける作業も、多くの教会員の援助によって進められてきました。その一つの例がイギリスの1881年度人口調査資料です。このプロジェクトには全ブリテン諸島の家族歴史協会から8,000人を超えるボランティアが集まり、3,000万人の名前を書き写しました。この努力が実を結び、マイクロフィッシュとして出されました。コンパクトディスク版も間もなく教会配送センターから入手できることになっています（訳注——日本では未定）。

また、アメリカ合衆国1880年度人口調査のデータもコンパクトディスク版で発行されることを発表いたします。そして現在、ボランティアの人々によって、エリス島を通してアメリカ合衆国に入植した人々の到着記録などのプロジェクトが進められています。

ボランティアの方々すべてに深く感謝いたします。過去、現在、未来にわたり、数々のプロジェクトに熱心に携わっておられます。

こうした業績について説明していると、この業にあまりかかわっていない方々の罪悪感を募らせてしまうのではないかと懸念しております。もしそうでしたら申し訳ありません。恐れや不慣れが障害になっているかもしれません。また、コンピューターと聞いただけでしりごみする方もおられることでしょうか。できれば残された日々をコンピューターには触れずに暮らしたいとひそかに思っている方もおられると思います。一方、コンピューターにアクセスできる方には「希望をもってアクセスしてみてください。素晴らしいものが入ってますよ」と申し上げたいと思います。

「刈り入れの時」<sup>23</sup> は来ています。家族歴史の新たな時代の到来です。ゴードン・B・ヒンクレ大管長は最近こう語っています。「主は優れた才能を持った男女に靈感を与えて、この神聖な業の前進という大義実現のために新しいテクノロジーを開発させてこれら

した。」<sup>24</sup> これまでは名前と日付を集めてそれをまとめることが中心でした。今は、コンピューターの案内によって実際に先祖を探することができるのです。

新しい「家族歴史史料ガイド（仮題——日本での発刊は未定）」（Family History Source Guide）<sup>TM</sup>を紹介します。このコンパクトディスクは教会配送センターで入手できます。<sup>25</sup> これは皆さんを世界中の国や州、地方の系図記録に導き、そこから先祖の記録を見つける方法を教えてくれます。またこれには、地図、手紙の書き方のガイド、英語以外の言語の翻訳、系図関連用語の定義などの資料も含まれています。「家族歴史史料ガイド」があれば、系図専門家が何百年もかけて得た知識や経験の多くに指先で触れることができます。ボタンを押せばすべて皆さんのものです。活用し、そして楽しんでください。

新たに出された「重要記録索引（仮題——日本での発刊は未定）」（Vital Records Index）<sup>TM</sup>は、多くの民間ならびに宗教関係の記録を基にした抄出プログラムの成果をコンパクトディスクにしたものです。この記録と「国際系図索引」に収められた情報には多少の重複がありますが、「重要記録索引」の中のほとんどの名前は神殿の儀式がまだ行われていません。この索引には約2,500万の記録が収められており、今後数か月中にブリテン諸島で500万、北アメリカで450万などのように地理区分ごとに発行されます。これは抄出に携わった大勢の方々の努力の結晶です。

わたしはこうした発展に胸の高鳴りを覚えます。今まで手の届かなかった作業が、今や手もとでできるようになりました。「神には、なんでもできないことはありません。」<sup>26</sup> 新しい刈り入れの時が来ました。主の御心<sup>27</sup> に従い、すべての神権時代をつなぐ環<sup>28</sup> をもたらす道が開かれたのです。

始めるのに道具は要りません。系図表と家族の記録から始めましょう。<sup>29</sup> 知っている人の名前を書いてください。それから、生きている親族からの情報を付け加えましょう。家庭でこの簡単なことを行えば、さらなる助けを

受ける準備は完了です。死者のためにバプテスマを受けるとき、この神聖な業が真実であることを感じ、喜びを得ることでしょう。

先祖に対するわたしたちの義務について思いをはせるとき、主の業が広大なものであることも心に留める必要があります。ジョセフ・F・スミス大管長はこう語っています。「イエスは殺されたときその業を終えておられなかったし、死から復活した後も終えられたわけではなかった。地上に降臨した目的は達成されたが、すべての業を成就されなかった。ではいつ成就されるのだろうか。それは……この地球の終わりに至るまでに生まれた、あるいは生まれるであろう父祖アダムのすべての息子娘を贖い、救うまで成就しないのである。これらがイエスの使命である。わたしたちは自分自身とわたしたちに頼るすべての人を救うまで業を終えないであろう。わたしたちはキリストと同じように、シオン山の救い手になるはずだからである。わたしたちはこの使命を与えられている。死者はわたしたちなしには完全ではなく、わたしたちは死者なしには完全にはなれない。」<sup>30</sup>

この目的のために、主の御心がヒンクレ大管長に伝えられ、さらに多くの神殿が建てられるようになりました。<sup>31</sup> 末日聖徒はエンダウメントを受け、先祖や子孫と結び固められる民であるはずで

祖父の時計を見ると、わたしたちを見ている先祖のことが心に浮かびます。彼らはわたしたちが名前を調べてつながりを見だし、彼らのために神殿の儀式を施すのを待っています。神の祝福があって、わたしたちが皆この業を成功させることができますように。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. アンドリュウ・C・ネルソン
2. ヨハネ4：36、37
3. 教義と聖約2：1-3参照
4. 教義と聖約110：2-10参照
5. 教義と聖約110：11参照

6. 教義と聖約110:12参照
7. 教義と聖約110:13-16参照
8. エリヤの霊は、個人の改宗、定着、活発化に非常に良い影響をもたらすことができる。
9. 系図は現在、家庭でコンピューターによって非営利的に利用できるよう、応用が急速に進められている。「先祖」と題したテレビの連続番組は空前の反響を呼んだ。353の公共放送機関中340の機関から申し出があり、この数字は過去最高を記録した。この努力から、『先祖——家族歴史と系図の初心者用ガイド』(Ancestors: A Beginner's Guide to Family History and Genealogy)と題した本が出版された。この本は出版から1年を経ずに3万5,000部を売り上げた。一部の専門家はインターネット利用の20パーセントは系図関連で占められていると推測している。
10. 教義と聖約128:15。マタイ5:48参照。この聖句と『新約聖書』のほかの箇所では、「完全」の語源はギリシャ語の“teleios”に由来しており、「果てまで連れて行く、終了する、完成する」の意味を表す。
11. ブレック・イングランド, *The Life and Thought of Orson Pratt* 『オーソン・プラットの生涯と教え』183参照。1853年、ワシントンD.C.での伝道中、オーソン・プラットは、マサチューセッツ州のウィリアム・プラットの子孫に関する情報提供を求めた新聞広告を見て連絡した。この接触から、プラット長老は初期のニューイングランド州の祖先とのつながりを見いだした。20年後、プラット長老は11代まで祖先をさかのぼり、プラット家の兄弟たちはおよそ3,000人の祖先のためにバプテスマを受けたことを報告した。*Journal of Discourses* 『説教集』16:300参照。
12. ウッドラフ大管長は、1894年4月5日、大管長会と十二使徒定員会とともにこの啓示について話し合った。*Wilford Woodruff Journal* 『ウィルフォード・ウッドラフの日記』1894年4月5日, 296参照。教会歴史部所蔵
13. *The Discourses of Wilford Woodruff* 『ウィルフォード・ウッドラフ説教集』G・ホーマー・ダラム選, 157, または*Millennial Star* 『ミレニアルスター』1894年5月28日付け, 339
14. 大管長会と十二使徒定員会は、協会設立の条項を承認し、フランクリン・D・リチャーズ長老に協会の組織を開始するよう指示した。リチャーズ長老はまた、当協会の初代理事長に任命された。ジェームス・B・アレン, ジェシー・L・エンブリー, カーライル・B・メール, *Hearts Turned to the Fathers: A History of the Genealogical Society of Utah, 1894-1994* 『先祖へ向ける心——ユタ系図協会の歴史1894年—1994年』45
15. 設立当初、蔵書数約300冊から始まった。『先祖へ向ける心』47参照。
16. 『先祖へ向ける心』280参照。1987年に系図部が名称を家族歴史部に変更したのに関連し、この名称も変更となった。『先祖へ向ける心』278参照。
17. TIBカード索引と呼ばれる(訳注——バプテスマ、エンダウメントのための公式記録カード)。この索引により、儀式の執行の重複が減少した。『先祖へ向ける心』96-103参照。
18. 系図情報と氏名表の意(訳注——“Genealogical Information and Name Tabulation”の頭文字を取った名称)
19. この方式により、神聖な儀式の重複が減少するようになった。『先祖へ向ける心』304-309参照。同部は1991年5月から「テンブルレディー」(Temple Ready)™というシステムを採用し、人名の処理を行っている。
20. 『贖罪——愛の収穫』『聖徒の道』1991年1月号, 5-7
21. 5万人以上の教会員が「家族記録抄出プログラム」を通じて多くの成果を上げている。『先祖へ向ける心』314-317参照。
22. 1998年2月24日の時点で、3億2,943万4,125人の名前が抄出されている。
23. 教義と聖約101:64
24. 未公表の声明, 1997年9月29日。許可を得て引用。
25. 初期の版はウィンドウズ95 (Windows95)™環境で使用できるよう作成。
26. ルカ1:37
27. 教義と聖約128:15参照
28. 教義と聖約128:18参照
29. 系図作業を始めるに当たり助けとなるパンフレット『どこから始めればよいか』(Where Do I Start?) (英文)はワード家族歴史相談員から入手できる。
30. ジョセフ・F・スミス 『福音の教義』423
31. 多くの会員にとってより近い場所で参加できる、小規模の神殿も含む。



十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(左)とラッセル・M・ネルソン長老。二人が見せているのは、ニール・A・マックスウェル長老が若いころに育てていた豚が入賞し、授与されたリボン。

# 「押せ、肩の力もて」

十二使徒定員会会員

ニール・A・マックスウェル

労働は、たとえ経済的に働く必要のない場合でも、霊的には常に必要なものです。



兄弟の皆さん、わたしはアロン神権者のとき、豚を飼っていました。当時を振り返ると、農村の青年教育機関の一つである4Hクラブで、純粋なデュロック種の豚の飼育に参加して、労働について多くのことを学びました。これから話すことが決して大きでないことを証明するために、ネルソン長老に手伝っていただいて、数年間の様々な品評会でわたしの優秀な豚が勝ち取った100近いリボンをちょっとお見せしましょう。

ネルソン長老の手もとにあるピンクのリボンは、60年前のもので、わたしが初めて勝ち取った賞です。そのときの審査員は優しい人で、豚の出来はもうひとつでしたが、わたしに必要な励ましとなるように4等賞をくれたのだと思います。この紫のリボンが、後の品評会で優勝したときのものです。

ネルソン長老、ありがとうございます

した。

兄弟の皆さん、わたしは苦い経験から、地元の食肉出荷工場で豚肉価格の動向を見守る必要があることを学びました。利益と損失の細かい記録は、わたしの帳簿係である父の助けを借りて付けました。すべてにおいて、両親はいつも協力的で、最後には豚の世話まで手伝ってくれました。95歳になったわたしの大切な母もそうでした。どのように働くか身をもって示し、わたしの間違いを愛をもって正してくれました。

豚のえさを安く手に入れるために、わたしは定期的にパン屋へ行き、3日たった古いパンを1斤わずか1ペニーでたくさん買い入れました。さらに、地元の乳製品工場にちょうどよい時間に行くと、ただで70ガロンのスキムミルクがもらえました。今は1ガロンに2ドル50セント払っています。皮肉な話です。こうして節約することによって、えさに必要な穀類を少ない現金で買えたのです。

豚の出産は真夜中過ぎになることがよくありました。ずっと起きていて立ち会おうと、疲れ切ってしまうのが現実でした。しかし、すべてやり終えたときには、達成感があって、家計にも幾らか貢献しました。同年代のほとんどの少年が、同じような仕事をしていました。兄弟の皆さん、当時はだれもが貧しかったので、自分が貧しいとは思いませんでした。働くのが当然のことでした。今日では、こんちもらうのが当然と考える人がいます。

しかし豚の飼育には、人との付き合いで困ることもありました。わたしはすでに人目を気にする年代でした。い

までもはっきり覚えています。中学校の校長が教室にやって来て、みんなの前で大声でこう言ったのです。「ニール、お母さんが呼んでるぞ。君の豚が逃げたんだ。」わたしは机の下に隠れたい気持ちでした。それでも走って家に帰り、豚を集めるのを助けました。

父は愛のある厳格な人で、わたしが精いっぱい働くとき時々注意が行き届かなくなることを知っていました。わたしは「卓越した仕事」とは無縁でした。ある夏の日、父を喜ばせるために、柵に必要なたくさんの杭を立てることにしました。一直線にしっかり埋め込むのです。一日中懸命に働きました。そして、父が帰って来る道を今か今かと見ていました。父は帰宅すると、心配そうに見守るわたしの前で、注意深く杭を調べ、水準器まで持ち出してチェックしました。そして、申し分のない出来だと断言したのです。そして褒めてくれました。自分の流した汗が父の称賛を勝ち得て、心は喜びで満たされました。

短い自叙伝のような話になったことをお許しください。わたしは若いときに労働について学べたことに、心から感謝してきました。とは言っても、兄弟の皆さん、いつも「歌いで義務を果たし」肩の力で車を押したわけではありません。しかし、そこで肩の力と車について学んだことが、後に大きな車を押すときに役立ちました。現代の若人の中には、車を押すとは、車を運転することだと誤解している人がいるようです。

天父は神の子供たちのための壮大な計画をこう表現されました。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(モーセ1:39) 主が使われた「業」の意味を考えてください。主が愛と贖罪をもって行っておられるのは、業です。主も働かれるのです。わたしたちも同じように「救いの達成」「収穫の律法」しよくざい「額に汗して」といった言葉を使います(モーセ5:1。ジョセフ・スミス訳創世4:1も参照)。いずれも無意味な言葉ではなく、働くことの大切さを強調しています。事

実、労働は、たとえ経済的に働く必要のない場合でも、霊的には常に必要なものです。

伝道している2人の孫や、最近執事に聖任された3人の孫を含め、今晚話を聞いている7人のすばらしい孫たち、そして立派な若人の皆さん、労働が「完全な福音」の一部であることを心に留めてください。喜びにあふれていますが、伝道活動は労働です。喜びにあふれていますが、神殿活動も労働です。悲しいことに、現代の無気力な若人たちは、きちんと働ける人も幾らかいますが、ほとんどは勝手気ままな生活をしようとしています。

残念なことに、立派な若人の中には、働くことをせずに、無料パスをもらっているような人もいます。ガソリン代と保険料の付いた車を含め、様々な特典を与えられ、支払いはすべて親にしてもらいます。しかも、子供から感謝の言葉を聞くのは、まれなことです。

若人の皆さん、学校の勉強や家の仕事、教会の責任、アルバイト、奉仕活動など、様々な仕事に費やす時間は、時期や環境によってももちろん変わってきます。それぞれの仕事が皆さんの才能を伸ばします。しかし、警告灯に注意してください。例えば、アルバイトをしているならば、給料をすべて自分のために使うでしょうか。<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一を納めますか。伝道のために貯金しますか。スペンサー・W・キンボール大管長は、明快な助言をしています。「[もし若人が] 得るものすべてを自分のために使うことを許されたら、その利己的な態度は墓に入るまで続くだろう。」(The Teachings of Spencer W. Kimball『スペンサー・W・キンボールの教え』560)

学校の宿題は確かに必要ですが、勉強が霊的な働きをすべて締め出していないでしょうか。学校の成績はとても大切ですが、クリスチャンとしての奉仕の成績はどうでしょうか。

教会の責任は、重要な能力を伸ばします。この種の働きが必要なくなることは決してありません。しかし、皆さんは本気で責任を果たしているでしょうか。

家の仕事も重要ですが、自分の部屋の掃除や服の片付け以上のことをしているでしょうか。

いかなる仕事を抱えていようと、皆さんやわたしが行う最も困難な仕事は、利己心をなくすことです。実に難しいことです。

仕事のバランスを取る必要があります。なぜなら、父親が頻繁にする残業のように、ある種の仕事は、ほかのことを行う時間を奪う傾向があるからです。偏った仕事好きは抑えなければなりません。スペンサー・コンディー長老が引用しましたが、オーケストラの指揮者たちに与えたシトラウスの警告にあるとおりです。「金管楽器を励ますような合図を送ってはいけません。さもないと、弦楽器の音は二度と聞こえなくなる。」

父親の皆さん、気をつけてください。自分のときよりよいものを子供に与えようと考えすぎではいけません。しかし、子供が経験すべき手ごころな仕事を取り除き、今の自分を形成してきた機会を子供から奪って、知らずに状況を悪化させないようにしてください。

確かに、状況は変わりました。ほとんどの若人は、牛の乳搾りや豚の飼育などはしません。現代の仕事の中には、機械的で不自然に思えるものがあるかもしれません。しかし、若人の皆さん、有意義な仕事をさせようと努力している両親に、忍耐強くあってください。この点において、もっと多くの息子たちが、ほんの時たま、父親と働く機会を得ることができたら、どんなに祝福されることでしょうか。父親と息子のチームワークがまだできていなければ、これから3か月間に共同で行う仕事を一つ選んでください。

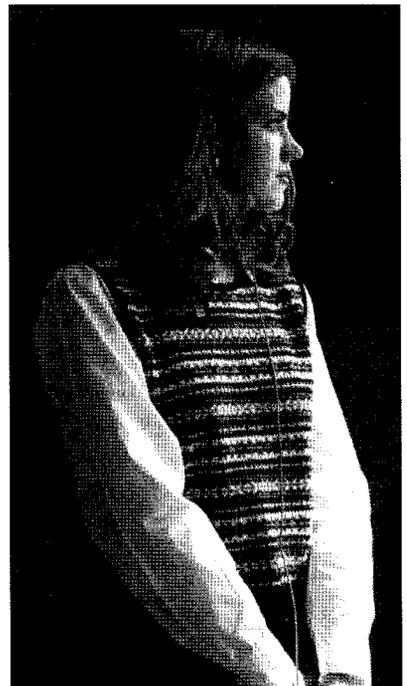
若人の皆さん、各々の持っている<sup>たまもの</sup> 賜物が何かは知りませんが、確かに与えられています。どうか自分の賜物を使って才能を伸ばしてください。また、<sup>はんりょ</sup> 伴侶を亡くした人や病人のために、ごみを出し、芝を刈り、落ち葉を掃き、あるいは雪かきなどを行ってください。

仕事のやり方を知っていれば、生活に役立ちますし、卓越した経験があれば、特に有利になります。

若人の行う仕事に対し、よくできたときには特に、直ちに惜しみなく褒めるようにしましょう。

末日聖徒が労働という価値観で今後も知られるかどうかは、新しい世代の人々にかかっています。ブリガム・ヤング大管長はずっと以前にこう勧告しました。「長老たちがその高潔さを買われて……会社から好まれるようになっていただきたいと思っています。福音を守って生活し、末日聖徒の名にふさわしい行動を取るならば、わたしたちはそうしたすべての仕事をまったく安心して任せられる人物になることができるでしょう。もし任せられない仕事があるとすれば、それはわたしたちが福音に従った生活をしていないからです。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』24)

若人の皆さんは、時が来たら自分の職業を選択します。神経外科医、森林警備員、機械工、農業、教師など、何を選ぶかは、原則によるのではなく、好みの問題です。こうした職業の選択は明らかに重要なことですが、皆さんが歩むべき真の道を示してはしません。兄弟の皆さん、皆さんは神の息子であり、御父のみもとへ至る道を歩むように招かれているのです。そこで職を失うのは葬儀屋だけではないでしょ



う。しかし、働くための能力や知恵は、決して失われません。学習する能力も同じです。若い兄弟の皆さん、労働なしに日の栄えの王国に入る近道はありません。楽なエスカレーターはないのです。

アロン神権者であれ、メルキゼデク神権者であれ、今ほど、自分が何者であるか知ることが大切な時代はありません。ずっと昔から、皆さんはこの偉大なドラマに携わってきました。「初めに神とともにいた」のです（教義と聖約93：29）。神の霊の息子として前世の大会議に参加し、天父の救いの計画の下に現世を経験できることを知って、喜びの声を上げました。

さらなるドラマが忠実な人々を待ち受けています。その日には、すべてのひざがかがみ、すべての舌がイエスはキリストであると告白します。すべての人が主は神であり、正義と憐れみにおいて完全な御方であると認めます（モーサヤ27：31；16：1；アルマ12：15参照）。主を愛する人々は日の栄えの王国に入って、主が備えられた「目がまだ見ず、耳がまだ聞か……なかった」ものを受け継ぐのです（1コリント2：9）。イエスはすでに、そのような栄光ある場所をわたしたちのために備える業を終えられたのです。

兄弟の皆さん、年齢を問わず、皆さんの霊的な歴史と未来を表す言葉は「広大な」という形容詞です。いつも果たすべき多くの仕事があります。主の業を行う方法を知っている人には、特にです。わたしはヒンクレー大管長の次の言葉を喜びをもって支持します。「わたしたちには、教会の歴史上、最も優れた若い世代がいる。」（*Teachings of Gordon B. Hinckley* 『ゴードン・B・ヒンクレーの教え』69）

わたしは皆さんの将来の可能性を信じています。皆さんは特別な仕事を行うために地上に送られてきたえり抜きの霊です。それが今晚、親しみを込めて伝えようとしてきたことです。

皆さんを愛しています。神の祝福があって、みもとに戻る道を歩んでいきますように、イエス・キリストの聖なる御名により祈ります。アーメン。

# 伝道活動

七十人会長会

アール・C・ティンギー

**専任宣教師になる喜びは、アロン神権を持つ若い男性が望み得る何より大きな祝福の一つです。**



**今** 晩わたしは、伝道に備えているアロン神権者、専任宣教師、そして伝道に出よう若人を励まし、備えておられる父親や祖父の立場にあるすべての皆さんに向けて話させていただきます。

何か月前、わたしはミズーリ州ファーウェストを訪ねました。かつてそこには、3,000から4,000人に及ぶ教会員が住んでいました。今では、家もなくなり、草原だけが残っています。1838年7月、預言者ジョセフ・スミスは、「1839年4月26日になればファーウェストをたってイギリスでの伝道活動に着手しなさい」という旨の十二使徒会への啓示を受けました。

『ウィルフォード・ウッドラフ説教集』（*Discourses of Wilford Woodruff*）には、次のように書かれています。「この啓示を受けたとき、その地であって皆の心は比較的落ち着いていた。しか

し、十二使徒たちが啓示を成就するときになると、聖徒たちは皆、その地を強制退去させられていた。……

ヤング大管長は、ともにいた十二使徒たちにこう尋ねた。『この啓示を成就するために、我々はどうしたらよいでしょうか。』<sup>2</sup> 十二使徒会の何人かはこう言った。『主は我々十二使徒の思いを受け入れてくださるでしょう。啓示を成就するために、命まではお求めにならないでしょう。』

ウィルフォード・ウッドラフはこう続けています。「主の御霊が十二使徒のうえに注がれ、彼らは言った。『主が言われたのだから、わたしたちはその啓示と戒めを成就しましょう。』それがヤング大管長や彼とともにいた者たちの感じたことである。」

こうして十二使徒たちは、啓示に従って伝道に旅立ちました。ウィルフォード・ウッドラフは病に冒され、立つこともままならない状態でした。また、ヒーバー・C・キンボールによれば、ブリガム・ヤングはあまりにも病状が重く、助けなしに30ロッド（約150メートル）も歩けなかったとのことでした。さらに彼は、病床の妻と子を残して旅立ちました。このときブリガム・ヤングは、長いキルトを肩にかけていました。コートがなかったからです。<sup>3</sup>

1852年8月28日、聖徒らがソルトレーク盆地に到着した5年後のことですが、ブリガム・ヤングは、特別な大会を召集しました。この大会では約100人の男性が遠い国々への伝道に召されました。十二使徒ジョージ・A・スミスによって宣教師に与えられた責任は次のようなものでした。「今大会でわ

たしたちが召す伝道の任期は、それほど長いものではありません。恐らく家族を離れる期間で言えば3年から7年くらいでしょう。]<sup>4</sup>

今日、教会の宣教師がこのように極限の状況で伝道に赴くことはありません。彼らは比較的快適な状態で伝道に出ます。適切な服装をし、十分な食事を取り、ジェット機で旅立つのです。

現在、5万8,000人以上の宣教師が136の国や属領地で働いています。7月には、全部で331の伝道部となります。専任宣教師になる喜びは、アロン神権を持つ若い男性が望み得る何より大きな祝福の一つです。

ほとんどの宣教師は、世界15か所の宣教師訓練センターの一つで特別な訓練を受けます。プロボにある最も大規模な訓練センターには、現在およそ3,000人の宣教師がいます。最近宣教師訓練センターを訪れ、幾つかのおもしろい統計を入手しました。宣教師たちは、1か月に約2,300キロ以上ものシリアルを消費します。つまり、2.3トン以上です。そのうちの1,000キロは砂糖だらけの「ラッキーチャーム」です。「ラッキーチャーム」は朝食用シリアルとして大人気なわけです。宣教師になる最良の備えの一つは、「ラッキーチャーム」を食べることかもしれません。自分の子供の好みをもっと栄養価の高い食べ物に向けさせようとしているご両親には、栄養豊かな「オールブラン」を宣教師たちが1か月にわずか7キロしか消費しないことをお伝えしておきましょう。

アロン神権を持つ若い男性の皆さん、ここで伝道に備える方法を6つ提案したいと思います。

第1に、イエス・キリストの福音は真実であるという個人的な証を確固としたものとしてください。自分は神権を有しており、イエス・キリストはわたしの救い主であられるという事実を自分自身で知ってください。

第2に、『モルモン書』を読むときに、それが天使モロナイから預言者ジョセフ・スミスに授けられたものであり、金版から翻訳されたものだとして証できるくらいに研究し熟考する必要があります。

第3に、清くあることです。過ちを犯したなら、監督のもとに行き、助けと勧告を受け、悔い改めることができます。

第4に、什分の一と献金をささげることです。このことによって、この偉大な福音の原則を真に証することができます。伝道に備えて貯金してください。伝道にかかる費用は無料ではありません。宣教師は伝道費用を自分で準備するよう求められています。

第5に、働くすべを身に付けてください。自ら進んで朝早く起き、その日一日を一生懸命働き、そして決まった時間に寝るようにしましょう。伝道の備えをするに当たって、働くすべをぜひ身に付けてください。

第6に、所属ユニットでホームティーチャーとしての召しを果たし、人に仕える喜びを味わってください。

専任宣教師の皆さんにも幾つか提言をしたいと思います。

まず最初に、口を開いてください。主はこのようにおっしゃっています。「あなたはいつも口を開き、喜びの声を上げてわたしの福音を告げ知らせなければならない。』<sup>5</sup>

店の従業員、バスの乗客、通りを歩いている人など、あなたが出会うすべての人に話しかけてください。

2番目に、一生懸命働いてください。伝道の業には数多くの障害が付き物です。すぐに落胆してしまうこともあるでしょう。「あなたがたはわたしの選民を集めるために召されている。わたしの選民はわたしの声を聴き、その心をかたくなにしないからである。』<sup>6</sup>

3番目に、従順で、信仰深く、誠実であってください。同僚とペアを組んで働くことによって、身の危険から守られます。主に忠実であり、かつ同僚を守るとき、宣教師は最も安心して伝道の業に携わることができるのです。宣教師に課せられた規則を守ってください。そうすれば、御霊の導きを十分に受けられるでしょう。

4番目に、福音を教え、証を述べてください。「あなたがたはわたしの御霊の力をもって出て行き、二人ずつ組んでわたしの名によってわたしの福音を宣べ伝え、ラッパの音のように声を上

げ、神の天使のようにわたしの言葉を宣べなければならない。』<sup>7</sup>と主は勧告しておられます。

5番目に、伝道を終えてからも宣教師時代の霊性を保ち、身なりを整えて、人から信頼されるように努めましょう。ブリガム・ヤングはかつて帰還宣教師に対してこのように言いました。「頭を上げ自信をもって帰還しなさい。頭のでっぺんから足のつま先に至るまで清潔に保ち、心を清めなさい。』<sup>8</sup>

次にアロン神権を持つ若人の父親として祖父の立場にある方々に向けてお話しします。

どうか息子さんやお孫さんが伝道に出られるよう助け励ましてあげてください。

義になかった家庭を築き、平安に満ちた雰囲気を提供することで、若人が立派に成長し、よく仕える備えができるようにしてあげてください。

戒めを守り、身をもって模範を示してください。皆さんが什分の一やその他の献金を納め、聖餐会に出席し、聖文を読み、家庭の夕べを開くことによって、息子さんたちは伝道に出る備えをすることができます。

皆さんは、将来適切な時期に夫婦宣教師として働く備えをする必要があります。世界中で、もっと多くの夫婦宣教師が必要とされています。

専任宣教師として働くことによって受ける喜びと祝福は、個人的で神聖なことなので、それをうまく表現することは難しいものです。最初の伝道が終わって35年たったとき、かつての求道



者で当時まだバプテスマを受けていなかったある家族から1通の手紙を受け取りました。その手紙には次のようなことが書いてありました。当時その家族には4人の幼い子供がいましたが、子供たちは皆神殿で結婚し、3人が専任宣教師として奉仕し、3人が監督の召しを受け、1人は扶助協会の会長を務め、12人の孫が福音の中で成長しているのです。わたしがこの家族を探し出し、イエス・キリストの福音を教えることに携わったと知れば、手紙を読んでわたしがどれほど感動し、喜びを感じたか十分想像できると思います。

最後に伝道活動を通して与えられる祝福について証したいと思います。昨年、父が88歳で亡くなりました。青年時代、父は大恐慌のさなかに宣教師に召されました。当時伝道に出られる人はまれでした。伝道に出ることは非常に困難なことでした。父は、「伝道に出たことは今まで行った選択の中で最善の選択であった」といつも言ってい

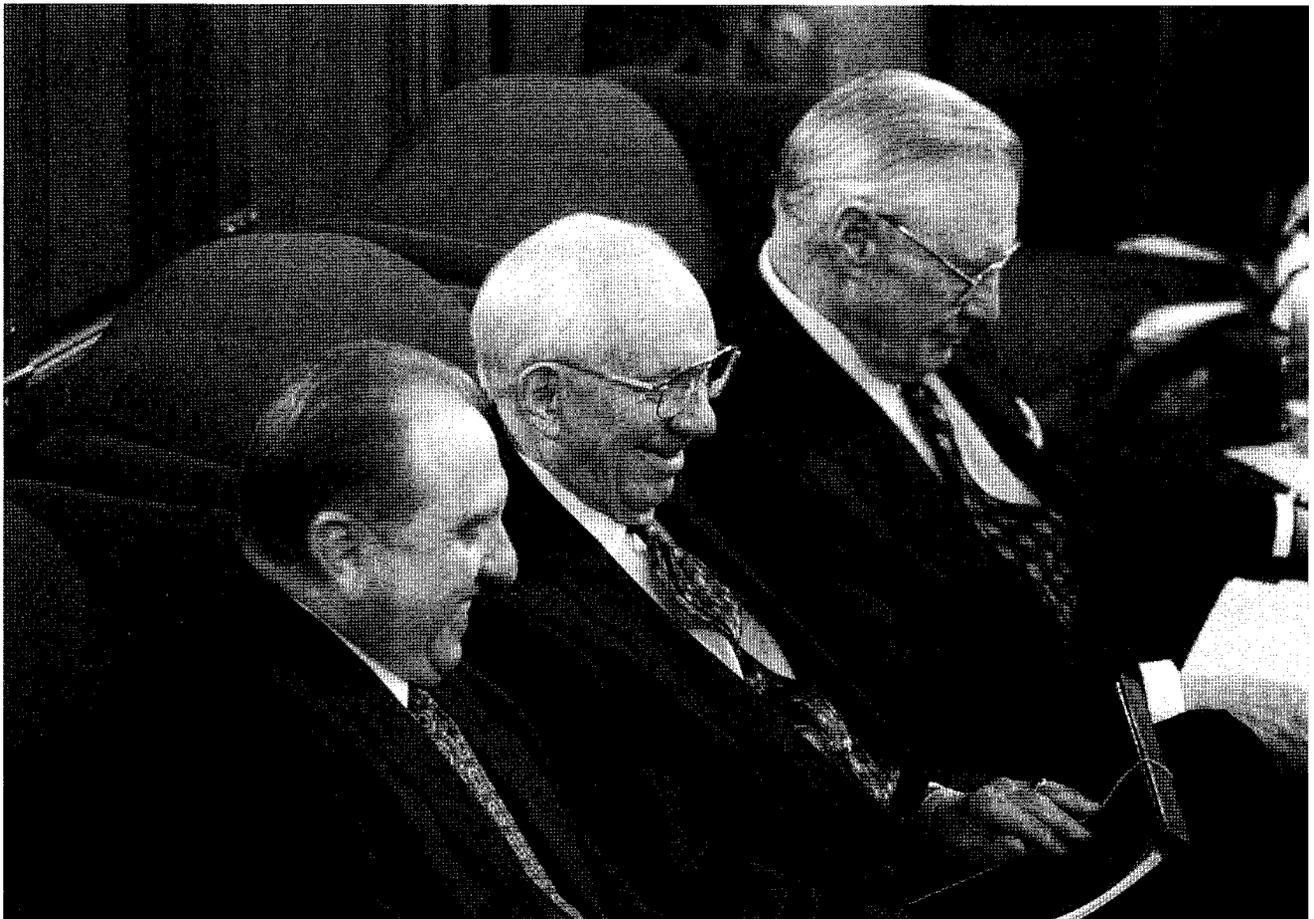
ました。そして亡くなったときには、10人の子供(9人は今も健在です)、56人の孫、116人のひ孫に恵まれていました。

父の子孫から、32人が専任宣教師の召しを受け、子孫と結婚した伴侶のうちの15人も同じように伝道の業に携わりました。したがって、合計47人が伝道に出たこととなります。言い換えれば、約100年間にわたって専任宣教師として伝道の業に携わっていることになるのです。これらの偉業を達成できた一つの理由は、一人の青年が伝道に出たことにあるのです。父が伝道に出たことと、わたしを感化し、その模範に従うよう導いてくれたことに対して、わたしは永遠に感謝し続けるでしょう。

主の教会で宣教師として奉仕できることは特権である、と証いたします。神権者として第一の責任は、宣教師になることです。わたしたちが皆、主から受けている義務を忠実に果たせましよう、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

注

1. 教義と聖約118章
2. *The Discourses of Wilford Woodruff* 『ウィルフォード・ウッドラフ説教集』G・ホーマー・ダラム編、309
3. オーソン・F・ホイットニー、*Life of Heber C. Kimball* 『ヒーバー・C・キンボールの生涯』275-276; ウィルフォード・ウッドラフ、*Leaves from My Journal* 『日記からの抜粋』69参照
4. "Minutes of Conference" *Deseret News* 「大会議事録」『デゼレトニュース』1852年9月18日付け、1
5. 教義と聖約28:16
6. 教義と聖約29:7
7. 教義と聖約42:16
8. *Discourses of Brigham Young* 『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウイツォー選、328



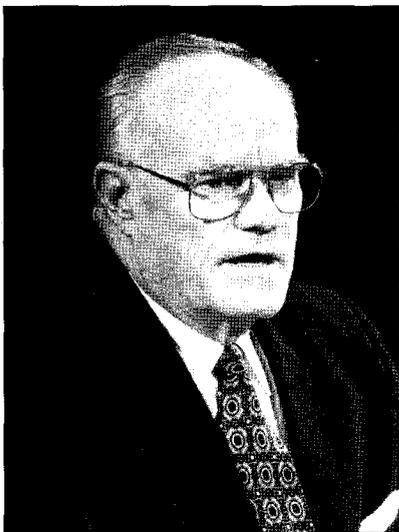
部会前のひととき談笑する大管長会。トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

# 「心と進んで行く精神」

七十人

ジェームズ・M・バラモア

皆さんが行える善き業はたくさんあります。その業によって皆さんやほかの人々が変わる様子を見て、きっと驚くことでしょう。



この地上にいる神の王国の神権者に敬意を表します。今晚、皆さんとともにこの場にいられるのは名誉なことです。この場にいる、そして全世界に広がる神権者には驚嘆すべきものがあります。数か月前のことですが、教会本部ビルでエレベーターを待っていると、3人の男性が来て、受付の人にこう尋ねました。「兄弟たちがおられるのはここですか。」受付の人はほほえみました。何というすばらしい呼び名でしょうか。

どこへ行こうとも、わたしたちは兄弟です。すぐその場できずなが結ばれ、安らぎが生まれます。担当の訪問を終えて家路に就くとき、わたしは自分が目にした兄弟としてのきずなと愛、そして善き業について、神に感謝せずにはいられません。皆さんはすばらしい方々です。わたしの友です。

神権者の皆さん、これは、ある学校

の教師の話です。彼女は夏休みを終えて学校に戻って来た生徒に、休み中に父親から自立について何を学んだかを尋ねました。何人か答えた後で、彼女はジョニーに聞きました。ジョニーはこう答えました。「父からは水泳を教わりました。父にユタ湖の真ん中まで連れて行かれ、湖に放り投げられました。わたしに、岸まで泳いで帰って来いと言うんです。」教師は言いました。「すごい。とても勇気が要ったでしょう。」ジョニーは答えました。「閉じ込められていた袋から抜け出すのが大変でした。」若い友人の皆さん、人生には難問が待ち構えています。しかし、天の御父はその難問を安全に解決する手段を与えてくださっています。そのことについて少しお話ししましょう。

主は皆さんがこの地上での旅路の中で、この上ないすばらしい経験をするよう願っておられます。もし皆さんが途中の数々の選択の機会で見いだしていくならば、その旅路は文字どおり無数の驚くべき経験や霊的な確認に満ちあふれたものとなることでしょう。天の御父が備えてくださった道には標識が明確に記されていますが、この世の様式や手段がわたしたちを惑わします。しかし、「あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者」(欽定訳1ペテロ2:9)であることを忘れないでください。皆さんを通して真理や善き業や永遠の命が全世界に知れわたるので、わたしたちはその一翼を担っています。1831年、主が預言者ジョセフ・スミスに言われたように、わたしたちには「心と進んで行く精神」が必要となります(教義と聖約64:34)。

若い兄弟の皆さん、命は永遠です。主イエス・キリストとその僕たちにより、この世に希望と証がもたらされました。わたしたちの旅路は、天の御父のもとから地上に来て、再び御父の待つふるさとに帰り、そこで永遠に生活する計画なのです。わたしたちは皆、この善きおとずれを世の人々に宣べ伝ええます。これは永遠の命と永遠のきずな、すなわち永遠の結婚と永遠の家族に関する天からのメッセージです。その意味、その価値、その約束を超えるものは何もありません。この知識と愛があれば、希望と夢を実現し、人々が永遠の真理を、そしてこの知識と愛がもたらす内なる平安と安らぎを見いだせるように助けることができます。

例えば、わたしの友人ボブはたばこを吸っていた一人の長老を助けました。ボブはほとんど毎朝、自分の定員会に属するその長老と会い、たばこをやめられるようともに祈り、代わりにあめやガムを渡しました。後にボブは、この長老が妻と神殿の聖壇越しに手を握り、永遠に結び固められるのを見ることとなります。何がこの長老を変え、そのような祝福をもたらしたのでしょうか。福音と「心と進んで行く精神」です。

若人の皆さん、皆さんが「心と進んで行く精神」をはぐくめるように、幾つかのことを話しましょう。まず第1に、わたしたちは以下のことを世の人々に宣べ伝ええます。それは、神が存在しておられること、その神が、愛する御子を遣わし、御自分のもとから地球を往復する旅路が大切なものであることを世の人々に伝えるため、愛する御子を遣わされたことです。天の御父はその旅路の成功のために計画を授けてくださいました。『聖書』には次の勧告の言葉があります。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。」(箴言3:5) 人が考えた哲学は、これからも存在するでしょう。しかしそれらは、永遠の命はおろかこの世の平安さえ約束してくれないのです。主に全幅の信頼を置きましょう。聖文と生ける預言者は主を証し、道を示してくれます。



第2に、神は御子イエス・キリストを通して境界線を定められました。つまり、安全な旅ができるように神が授けてくださった戒めです。「心と進んで行く精神」をもってこの戒めに従順であるとき、わたしたちの心に変化が起こり、わたしたちの考えや思い、服装、生活の仕方、取る食べ物や飲み物、奉仕の仕方が変わります。息子アルマは「彼らは新たな者となる」(モーサヤ27:26)と言っています。わたしたちを守ってくれるこの境界線は、安全な旅には欠かせません。

5歳のころ、母はわたしがこの境界線について理解できるように、毎日のようにこう言いました。「ジミー、流砂の近くに行っちゃだめよ。」そこは我が家からほんの数メートルの所。わたしと友人はどうしたでしょう。そう、行ってしまったのです。流砂に近づくと、一人の友人が、湿っていてほかの部分よりも黒く見える砂に足を乗せました。最初、彼の足は動かず、みんな笑いました。ところが、次第に足が砂に潜り始め、抜けなくなりました。彼はパニック状態に陥りました。砂から出られず、悲鳴を上げています。わたしたちは懸命に走ってカウボーイの家に行き、ありったけの声で助けを求めました。すると彼はロープをつかむと、一緒に流砂の所へ走って行きました。友達はまだ腰まで砂に埋まっています。カウボーイはすぐにロープを投げて友

人の体に巻き付けると、わたしたちにそのロープを持たせました。そして丸太を砂の上に置いてそれに乗り、友達を砂から引き上げたのです。

主が定められた境界線を越えるとき、わたしたちは流砂のようなものに捕らえられます。この世の手段は、多くの場合この流砂のように、非常に破壊的なものです。それらは主が定められた境界線である戒めから、わたしたちの心をそらそうとします。このような、この世的な手段(麻薬、飲酒、喫煙、同棲、ある種の音楽など)には、以下のような特徴があります。

- 非常に心を奪われやすく感じる。
- 普通の生活様式であるかのように映る。
- だれからも容認されるように思える。
- テレビ、映画、インターネット、ビデオなどで絶賛されている。

これらは主が定められた境界線の外にわたしたちを連れ出すものです。後をついて行けば、絶望感に襲われ、健康上の害悪、財政の破綻を招き、そのほか様々な問題による破滅をもたらします。

主の境界線は、『若人のために』という小冊子に明確に定められ、従う人は皆、確かに偉大な祝福を受けます。わたしたちは宣教師として、また会員として、人々が戒めという主の境界線を見だし、大切にするように助けます。「心と進んで行く精神」をもって、言い換えればピンクレー大管長が世界各地を

訪問するときのように、進んで、楽しく、熱意を込めて行くならば、わたしたちは一つ一つの機会によってわたしたちの態度は変わり、それぞれの機会に感謝するようになることでしょう。

第3に、若い人だけでなく年配の方にも言えることですが、物事を始めるときは結果を考えましょう。皆さんは19歳のとき、あるいは定年時にどこにいるよう望みますか。伝道ですか。それなら、今夜その決意をしてください。約束します。そうすれば皆さんやほかの人々の生活は変わり、神が皆さんを伝道に導いてくださるでしょう。主が求められるのは、「心と進んで行く精神」だけです。皆さんが行える善き業はたくさんあります。その業によって皆さんやほかの人々が変わる様子を見て、きっと驚くことでしょう。

イタリアのバリという町で証会がありました。すると驚いたことに、一人の若い宣教師が立ってこう言うのです。「宣教師がいなければ、わたしはここにいませんでした。」彼は母親と祖父母が30年前、フランスのパリでベン・ウォルトン長老とジェームズ・パラモア長老に会ったことを話してくれました。多くの集会の後、その家族はバプテスマを受けました。そして、その息子が伝道に出ていたのです。後で分かったことですが、この家族を通じて170人以上がバプテスマを受けました。わたしは伝道という特権を得て、その2年半はわたしの証に欠かせないものとなりました。感謝に堪えません。

わたしは証します。神は生きておられます。御子は贖い主であられ、この福音は世界中の全人類に祝福をもたらします。

わたしたちが皆、以下の事柄に従えるよう願っています。

- 神と御子に信頼を寄せる。
- 与えられた境界線を守って生活する。
- 「心と進んで行く精神」をもって結果を考えながら物事を始める。

主は「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊ぶ」と言われました(サムエル上2:30)。そのような旅でありますよう、イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

# 「わたしたちはこれらのことを尋ね求める」

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

「託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす」〔アルマ53：20〕青年であることをわたしたちは希望しています。わたしは、……信条と行いをこれまで以上に一致させることを皆さんに訴えたいと考えています。



兄弟の皆さん、今晚こうして皆さんと集えることを喜びとしています。このように大勢の神権者を前にしてお話しすること以上に大きな責任をわたしは知りません。なぜならば、神権は地上に存在する最も大きな力だからです。B・H・ロバーツはこのように述べています。「神権は厳粛なものです。全能の神から委任された力を持つこと、神の名において話し、行動する権能を頂き、神御自身が語りあるいは行われると同じ拘束力を持つ権能を受けることは、名誉であるとともに大きな責任でもあります。」「若い神権者の皆さんに目を転じると、わたしは「非常に勇敢であり、体力と活力がみな

ぎっていた」ヒラマンの若い兵士を見ているような思いに駆られます。皆さんが彼らと同じように「託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす」<sup>2</sup> 青年であることをわたしたちは希望しています。

わたしは今晚、信条と行いをこれまで以上に一致させることを皆さんに訴えたいと考えています。信仰箇条第13節に基づいて話を進めることにします。それはこのように記されています。「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよい。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」「<sup>3</sup> 兄弟の皆さん、わたしたちは身に受けているキリストの御霊に導かれるままに行動することによって、業の担い手としての責任を果たしているのでしょうか。ブリガム・ヤングはこのように述べています。「わたしたちが望むのは、聖徒たちが善行を重ねることにより、例えばわたしたちの教会の会員である整備士が大変正直で信頼できる人物で

あることから、この鉄道会社からこう言われることです。『モルモン長老を機関士として派遣してください。そうすれば乗客は恐れずに列車に乗れます。モルモン長老は、危険があると分かれば、命を預った人々を守るために必要なすべての手段を尽くすからです。』わたしはモルモン長老たちがその高潔さを買われて、エンジン製造工として、警備員として、機関士として、事務員として、経営の管理者としてこの会社から好まれるようになっていただきたいと思っています。福音を守って生活し、末日聖徒の名にふさわしい行動を取るならば、わたしたちはそうしたすべての仕事をまったく安心して任せられる人物になることができるでしょう。もし任せられない仕事があるとすれば、それはわたしたちが福音に従った生活をしていないからです。』<sup>4</sup> ヤング大管長が当時の神権者に強く勧めていたことは今日わたしたちにも同じように大切なことです。職場であれ、学校であれ、家庭であれ、わたしたちが行うすべてのことにキリストの御霊があふれていなければなりません。

スベンサー・W・キンボール大管長は「正しい行いをすると一度だけ決意する」ようにと教えました。キンボール大管長は重大な決意を人生の早いうちになしたので、繰り返しそのような決意を改めてすることはありませんでした。彼はこのように述べています。「わたしたちは一度あることを片付けてしまえば、もう二度とそれにはかかわる必要がなくなります。……そうすればわたしたちが何をし、何をしないかを何百回も思い悩み、再三再四決定する必要はなくなるのです。』<sup>5</sup>

第二次世界大戦中にわたしは、忠実な末日聖徒の家庭から戦地へ向かったとても大切な青年たちが少しずつ標準を下げ、靈性を失っていく様子に気がつきました。外国のある地域では、安心して飲める水はありませんでした。そのために水を浄化する化学薬品を加えるのですが、それによって水はひどい味になります。ある青年たちは味をごまかすためにコーヒーを飲み始めました。軍は時々、たばことアルコール

飲料をわたしたちに支給していました。一部の青年はその支給品をまったく受け取りませんでした。ほかの青年たちは、自分でたばこを吸ったりアルコール飲料を飲んだりしなくても、支給品を受け取って、品物や現金と交換していました。けれども中には、ためしに吸ったり飲んだりして、それから一生、これらのとりこになった青年もいました。戦争中に身に付いた習慣によって、靈的に成長する可能性と主の多くの祝福を失ったのです。

神の神権を持つ者は非の打ち所のない人でなければなりません。わたしは、エジプトからパレスチナに戻ったときに父アブラハムが示した高潔な態度にずっと尊敬の念を抱いてきました。アブラハムはおいのロトとともに戻りました。間もなく、アブラハムの家畜の牧者とロトの家畜の牧者との間で争いが起きました。「アブラムはロトに言った、『わたしたちは身内の者です。わたしとあなたの間にも、わたしの牧者たちとあなたの牧者たちの間にも争いがないようにしましょう。』」<sup>6</sup> アブラハムはロトに右でも左でも好きな方の土地を選ぶように言いました。ロトはより肥えた地を選んで東へ行きました。このためアブラハムは西の土地を取りました。時は移り、ロトとロトの一族全員は戦いで捕虜になり、160キロ以上北のダンへ連れて行かれました。アブラハムはロトの悲運を聞くと、武器を持たせた318人の僕とともに追跡を始めました。アブラハムはロトとその一族を救出しただけでなく、ソドムにあった彼らの土地をも取り返しました。逃亡先から帰って来たソドムの王は感謝して、戦利品をアブラハムに差し出しました。しかしアブラハムはその申し出に対してこのように言って断りました。「わたしは糸一本でも、くつひも一本でも、あなたのものは何も受けません。アブラムを富ませたのはわたしだと、あなたが言わないように。」<sup>7</sup> アブラハムはこれらの出来事の中で、彼の公平さ、高潔さ、信仰を表しました。そして主はアブラハムに靈的な祝福とこの世の祝福を報いとして与えられたため、最終的にアブラハムはロト

よりも繁栄することとなりました。

正直は人格の中で非常に重要な位置を占めます。国の法律も神の律法もまったく意に介さない、傍若無人に振る舞う人々を見たことがあるでしょう。彼らは人としての行動規範など自分には関係ないといった顔をしています。「罰せられないようにうまくやるにはどうしたらよいだらうか」という考え方が多くの人々の間で見られます。「道義をわきまえた人と信義を重んじる人の違いは、後者は不正直な行為によってたとえ成功したとしても、その行為を悔いる」<sup>8</sup>と言った人がいます。

正直さを身に付けるには若い年代から始めることが大切です。わたしは11歳のときに、不思議な12歳の誕生日が来るのを首を長くして待ったものです。なぜ不思議かと言えば、12歳になると執事とスカウトになれるからでした。わたしの特別な誕生日が来るとすぐにもスタートを切れるように、母に助けられて信仰箇条とスカウトの規律とモットーを覚え、そのほかの条件を満たす準備をしました。

家族に女の子がいなかったため、わたしたち兄弟は、牛の乳搾りや家畜の世話といった外の仕事のほかに、家の中の仕事を分担していました。ある日、母はわたしに皿を洗って、台所を掃除するように言いつけると、近所の病人の世話をするために出かけました。わたしはその仕事をすると断ったのですが、皿洗いを後回しにしました。時間がどんどん過ぎていきましたが、仕事は終わっていません。実は手をつけることさえしていなかったのです。母が帰って来て、台所を見ました。そしてエプロンを着けると、流しに向かいました。母はたった一言しか言いませんでしたが、それは12匹のすずめ蜂から刺されるよりもきつい一刺しでした。それはスカウトの規律でした。「わたしは名誉にかけて行きます。」わたしはその日、もう二度とわたしの行いのせいで母にその言葉を言わせまいと決意しました。

名誉を守るためにはあらゆる行動が正直でなければなりません。一部の青少年は両親からの負債をそのままに

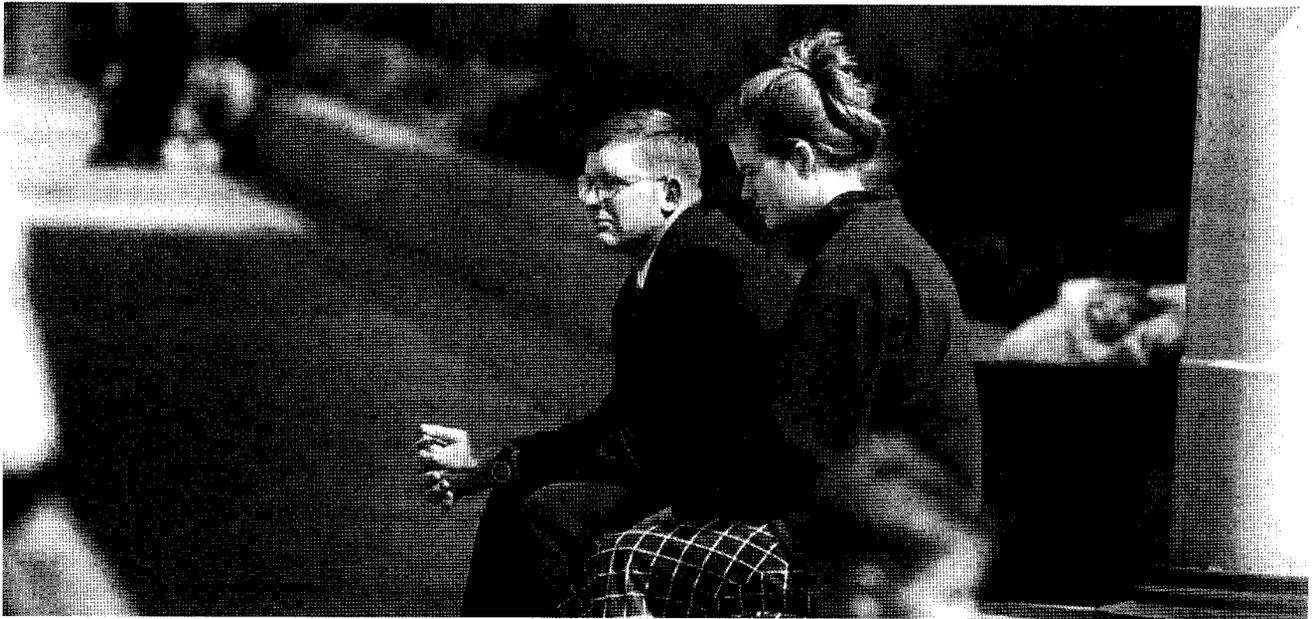
していませんか。「映画に行くから5ドル借りていい？」この言葉には借金を返すという意味が含まれていますが、安易な約束であるために、それを口にしたときもうすでに忘れてしまっているのです。

わたしたちは信用を誤用することのないように注意しなければなりません。様々な場所でクレジットカードを使用しているために、支払い切れないほどの負債を負っている消費者が増えています。このような話を思い出しました。「一人の年老いた農夫が通信販売の会社に次のような手紙を書きました。『787ページに載っているガソリンエンジンを1台送ってください。使えるものだったら、小切手を送ります。』」

しばらくして彼はこのような返事を受け取りました。『どうか小切手を送ってください。使えるものだったら、エンジンをお送りします。』」<sup>9</sup>

現代社会はこの世にかかわるものを増やすためにがむしゃらに突っ走っています。こうした社会の風潮は、従来の収穫の法則を変えることができるといふ思いを多くの人々に抱かせています。すなわち、正当な労苦と労働という対価を支払わなくても収穫を刈り取るという法則に換えてしまうのです。瞬時に成功を勝ち取るために、彼らは短期間で金持ちになれると約束している、高リスク型の計画に投資しています。これらの投資はすべて、損失を招くことがしばしばあり、時には経済的な破滅を迎える人もいます。箴言にはこのように書かれています。「忠実な人は多くの祝福を得る、急いで富を得ようとする者は罰を免れない。」<sup>10</sup>

わたしたちは教会員として、また特に神権者として、純潔の大切さを信じています。教会の男女にとって道徳的な清さに関する標準は一つしかありません。二重の標準といったものは存在しないのです。特に神権者は結婚前の純潔と結婚後の貞潔に関する標準を維持する責任が大きいとわたしは考えています。「主の器を担う者たちよ、清くありなさい」と主は言われました。<sup>11</sup>これは思いと行いにおいて清くありなさいという意味です。預言者ジョセフ・



スミスは「神の前に行こうとするのであれば、わたしたちは自らを清く保たなければなりません。神は清い御方だからです」と述べています。<sup>12</sup> 夫婦が清く純潔であって、人生の浮き沈みにあってもお互いに対して完全に自分をささげるならば、二人の愛はますます深まって、やがて天において大きな実りをもたらすことでしょう。初期の末日聖徒の使徒であったパーリー・P・プラットはこのように述べています。「愛に基づくこの結びつきから、ほかのすべての関係、対人関係のうちに喜びや愛情が生まれて、人類のあらゆる枝にまで行き渡るのである。」<sup>13</sup>

預言者ジョセフ・スミスが信仰簡条第13節に記したように、「わたしたちは……慈善……、またすべての人に善を行うべきことを信じ」ています。教会が設立されて以来、専任宣教師は善い働きを行って来ました。わたしたちは現在働いている5万8,000人以上の宣教師に感謝しています。大管長会は全世界から訪れた、多くの大使、首相、統治者、著名な公人、政治家の方々とお会いする機会があります。彼らから、しばしば「あなたがたの宣教師とお会いしたことがあります。様々な場所で彼らを目にしています」という話を伺います。時々これらの著名人はプロボの宣教師訓練センターを訪れて、数千人の宣教師を目の当たりにしています。

これらの公職者は例外なく大きな感動を覚えているようです。宣教師は外見をきちんと整え、堂々としています。訪れた人々から、「うちの子供たちも教会の学校に入れて、教会の若い人たちと交際させたいですね」という声を聞くのも決してまれなことではありません。

宣教師の務めは限られた期間だけ果たす責任ではありません。宣教師は帰還した後も、伝道地で人々に教えた原則に従って、模範となるような生活をする必要があります。スペンサー・W・キンボール大管長はこのように述べています。「帰還宣教師の皆さんにお願いします。……皆さんはアルマやモーサヤの息子たちのように、紛れもない神の天使として人々に出会い、彼らに教え、バプテスマを施すというすばらしい経験をしてきました。伝道中に身に付けた身だしなみ、原則、習慣を捨てないでください。学生生活に戻った皆さんにネクタイを締め、ワイシャツとダークブルーの背広を毎日着てほしいと言っているではありません。けれども、かつて教えた福音の原則の中で求められている清潔、威厳、誇りを皆さんの日常生活に反映できるように、身だしなみを整える習慣を維持していただきたいと思います。わたしたちは王国が栄えるためと、皆さんを誇りにしている人々のために、これをお願

いします。」<sup>14</sup>

パウロの勧告にはすべてのことを堪え忍べるように望むことが含まれています。クリントン・カトラー長老は、希望と忍耐と揺るぎない意志が天の祝福を招くことについて模範を示してくれました。彼は文字どおり、主の御手に使われる者となったのです。クリントとカーマ・カトラーは高校時代からの恋人で、バスケットボールで奨学金をもらって大学に通うようになると、二人は結婚しました。けれどもすぐに経済的に苦しくなり、クリントは電話会社で働き始めました。クリントの最初の仕事は会社のトラックを洗い、グリースを補給し、管理することでしたが、後に本社に呼び寄せられ電線の修理の仕事を命じられました。クリントは3年半の間フルタイムで働きながら、大学もフルタイムで通い、1960年12月に優秀な成績で卒業しました。そのとき、すでに4人の子供がいました。

それから、転勤と昇進が繰り返されました。1963年にユタ州リバーデールで働いているときにクリントは監督に召されました。3年後に彼らはユタ州ミッドベールに引っ越しました。クリントはそこでステーク会長会の第二副会長に召されました。

さらに3年後、クリントはコロラド州デンバーに転勤を命じられ、そこでリトルトンステークの会長に召されまし

た。転勤はまだ続きました。アイダホ州ボイシに転勤すると、彼はボイシ西ステークの会長に召されました。次の転勤でクリントはソルトレーク・シティーに戻って来ました。そして彼は地区代表に召されました。1984年に彼は最後の昇進をして、副社長補佐兼販売管理部長となりました。彼の会社は主が必要とされる場所へクリントを転勤させたように思われます。

クリントは退職するとユタ州へ戻って来ました。間もなく、ワシントン州シアトル伝道部の部長として働く召しを受けました。そして、1990年4月に最後の奉仕の召しが来ました。七十人第二定員会において中央幹部として働く召しでした。彼の奉仕の召しは1994年4月9日をもって終わりました。癌と雄々しく闘った後に息を引き取ったのです。

管理の召しや仕事上の昇進が忠実さやふさわしさの物差しとなるという意味でお話しているつもりはまったくありません。現在も過去にもそのようなことはありません。わたしたちは皆、教訓と模範によって福音を教える謙遜で忠実な教師から豊かな祝福を受けています。けれどもカトラー長老の模範は、天の御父が信仰、希望、忍耐を持

つ者を強めてくださり、わたしたちの能力と機会を、たとえそれらが月並みなものであっても、増し加えてくださることを示しています。

教会員は好ましいことを追求します。わたしたちはうわべだけのこの世的な美しさを求めるのではなく、神がわたしたちの心に植えられた純粋で本来人に備わっている美しさを追求します。わたしたちは高尚な思いと立派な行動に駆り立てる力を授けてくれるものを尋ね求めるべきです。ジョン・テラー大管長はかつてこのように語りました。人は「現在地上にある状態よりも高尚で偉大な祝福と栄光を得るために、与えられた機会を活用するならば、……神の息子として清く、徳高く、英知豊かな、誉れある者となり、御父の勧告を尋ね求め、御父の勧告によって導かれ、治められる者となる定めにある。」<sup>15</sup> 実に、わたしたちはプリガム・ヤング大管長とともに、このように言ってもよいでしょう。わたしたちは「優しく、親切で、謙虚で、誠実であること、信仰に満ちて高潔であること、……慈しみは、それを持つすべての人の周りに愛の光輪を放ち、彼らの顔は光を発散し、彼らの交わりはそのすばらしさのゆえに魅力的」であることを望んでいます。<sup>16</sup>

この教会の歴史を通じて、わたしたちはすでに「多くのことを堪え忍んできました。将来に目を転じて、「すべてのことを堪え忍べるようにと望んでいます。未来に何が待ち受けているか完全にはだれにも分かりませんが、わたしたちは堪え忍ぶであろうことを確信しています。ではどのようにしてすべてのことを堪え忍ぶのでしょうか。答えは驚くほど単純です。信仰によって、一致によって、神の預言者に従うことによって堪え忍ぶのです。わたしたちはこれまでそのようにしてきました。またこれからもそうするでしょう。

地球が創造されて以来、神は無限の英知によって預言者を通して主の民を導いてこられました。どの時代にあっても、主のすべての権能を行使できるのはたった一人です。今日、その権能を持つ預言者はゴードン・B・シンクレー

大管長です。世界中のすばらしい教会のプログラムを顧みるとき、だれがシンクレー大管長の預言者としての指導力に疑問を持つでしょう。わたしたちは、神が大管長を支えあらゆる面で強められることを祈っています。わたしたちがシンクレー大管長や大管長とともに働く者たちを預言者、聖見者、啓示者として完全に支持することによりすべてのことを堪え忍ぶことができるようになります。わたしたちがそのことを実行できるようイエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

注

1. *New Witnesses for God*, 『神の新たな証人』 1:195
2. アルマ53:20
3. 信仰箇条1:13
4. 『教会歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』 24
5. *The Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』 エドワード・L・キンボール編, 164
6. 創世13:8
7. 創世14:23
8. H・L・メンケン, *Dictionary of Humorous Quotations* 『ユーモア引用辞典』 エバン・エサー編, 141
9. ジェイコブ・M・ブラウディー, *Braude's Treasury of Wit and Humor* 『ブラウディーのウイット・ユーモア集』 45
10. 箴言28:20
11. 教義と聖約38:42
12. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』 ジョセフ・フィールディング・スミス編, 227
13. *Writings of Parley Parker Pratt* 『パーリー・パーカー・プラットの書簡』 パーカー・プラット・ロビンソン編, 54
14. 『スペンサー・W・キンボールの教え』 593
15. *The Government of God* 『神の統治』 29-30
16. 『教会歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』 241



# 危険な道

第一副管長

トーマス・S・モンソン

今日の若人の生活には、重大な結果を招く戦いがあります。簡潔に言えば、善を行うか悪を行うかの戦いです。



1945年7月16日、米艦インディアナポリス号は、カリフォルニア州メア島の海軍工廠から、極秘の荷を積んでマリアナ諸島のティニアン島へ向けて出港しました。その積み荷の中には、あらゆる苦難と後悔と死をもって、第二次世界大戦を終結させる非常に精巧な兵器がありました。船は7月26日にその荷を降ろし、護衛艦のないまま、フィリピンのレイテ島に向かいました。

船はフィリピン海の敵の海域を進んだので、艦長は敵からの探知や攻撃を防ぐために、ジグザグに航行するよう、任意の指令を出しました。しかしそれは行われませんでした。1945年7月29日、日曜日の真夜中近く、この巡洋艦はレイテ湾に向かって航行中に、敵の潜水艦に発見されました。潜望鏡を出して隠れていたその潜水艦は、1400メ

ートルの距離から6発の魚雷を一斉に発射しました。魚雷が命中し、弾薬や燃料が爆発して艦首を引き裂き、送電室が破壊されました。電気が止まったため、通信兵は遭難信号を送れませんでしたが。退艦命令が出たとき、伝達手段がすべて壊れていたため、口伝えで知らせるしかありませんでした。命中からちょうど12分後に、船尾が垂直に30メートルも押し上げられると、船はそのまま海底に沈んでいきました。

1,200人近い乗組員のうち、およそ400人が即死したか、船とともに沈みました。残りの800人は沈没を逃れて、海に飛び込みました。

4日後の1945年8月2日、ロッキード・ベンチュラーのパイロットが、海上を漂う異常な油の帯に気づいて、25キロほどそれをたどりました。そして、インディアナポリス号の撃沈から生き残った人々を見つけたのです。

大がかりな救助活動が始まりました。船がその地点に急行し、飛行機は空から食料や水、緊急用品を投下しました。海に逃れた約800人の中で、助かったのはわずか316人でした。残りの人々は、サメのすむ危険な海で命を奪われたのです。

それから2週間後に戦争は終わりました。インディアナポリス号の沈没は「第二次大戦、海軍最後の惨事」として今も語り継がれています。

この船の乗組員の恐ろしい経験には、今に当てはまる教訓があるでしょうか。彼らは危い場所にいました。危険が潜み、敵が忍び寄っていました。船はジグザグに航行するようという命令を

聞かずに進み続け、簡単に標的になったのです。破局がその結末でした。

インディアナポリス号がレイテに向かった日に、わたしは海軍に入りました。そして、カリフォルニア州サンディエゴに近い海軍訓練所で、基礎キャンプの厳しい軍事教練と激しい戦闘訓練に耐えていました。

ついに最初の休みがやって来ました。泳げる者は皆、軍のバスでサンディエゴに行けるが、泳げない者は残って水泳の訓練を受けるように言われました。自分が泳げて、水泳の経験が何年もあることをどんなに喜んだことでしょう。ところが、思いがけない命令を受けました。泳げると答えたわたしたちは、バスを待つ場所ではなく、プールに向かって行進させられたのです。プールの端に集合すると、服を脱ぐように言われました。そして一人ずつ飛び込んで、反対側まで泳ぐように命じられたのです。ほとんどの兵士は苦もなく成し遂げて、サンディエゴ行きのバスに乗るのを待ちわびていました。しかし、正直でなかった者がいました。ほんとはカナヅチなのに、泳げると答えたのです。下士官は、彼らが2、3度水中に沈むまでは、救助用の竹竿を差し出そうとはしませんでした。教訓は何でしょう。正直に話すことです。もし皆さんが危険な道にいるなら、最後にはそれが命を救うことになるでしょう。

わたしたちはこの世の旅で、危険な道を歩むことがあります。安全な場所へ導く地図はありますか。助けを求められる人がいますか。

今晚は、皆さんを安全な場所へ導いてくれる6つの標識を紹介しましょう。

- 1.よい友達を選ぶ。
- 2.両親に助言を求める。
- 3.福音を勉強する。
- 4.戒めを守る。
- 5.愛をもって仕える。
- 6.目的をもって祈る。

今日の若人の生活には、重大な結果を招く戦いがあります。簡潔に言えば、善を行うか悪を行うかの戦いです。

その昔、モロナイはこう助言しています。「見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリス

トの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわかまえることができる。

しかし、悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわかまえることができる。」<sup>1</sup>

先ほど紹介した、危険な道から皆さんを守る6つの標識について、一つ一つ説明しましょう。

**1. よい友達を選ぶ。**友人は皆さんの将来に影響を与えます。皆さんは彼らに似た者となって、彼らの選ぶ場所に行く傾向があるからです。この世で歩む道が、来世で歩む道に通じていることを忘れないでください。

教会のワードとステークを対象に行った標本調査から、重要な事実が分かりました。神殿結婚をする友人を持つ人は、一般に神殿で結婚し、そうでない友人を持つ人は、一般に神殿で結婚していません。同じことが、伝道についても言えました。友人からの影響は、明らかに最も強い要因の一つです。両親からの勧めや教師の指示、神殿に近い住まいなどに匹敵します。

皆さんの選ぶ友達は、成功を助けるか、あるいは妨げるかのどちらかです。

**2. 両親に助言を求める。**両親や家族は皆さんを愛し、永遠の幸福のために祈っています。父親の皆さん、息子の模範になって、行くべき道を示し、信仰と義をもってともに歩んでください。

急いで裁いてはいけません。わたしは大学院のテキストで、この助言が正しいことを実証する話を読みました。大量生産の機械を備えた大工場で、従業員がチームになって働いていました。ある機械の担当チームに問題がありました。一人がよく遅刻するのです。工場長はその男に言いました。「もう一

度遅刻したら、首にするぞ。」

翌日、その手に負えない男は、また遅れて来ました。ここで質問です。「あなたが工場長なら、どうしますか。」

約半数の学生は「言ったとおり首にする」と答え、残りの半数は気の毒に思って「もう一度チャンスを与える」と言いました。教師の出した正解はこうです。「わたしなら、なぜ遅れたのか聞きます。もっともな理由があるかもしれませんから。」

**3. 福音を勉強する。**イエスは言われました。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」<sup>2</sup>

この神権時代には主は明言されました。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」<sup>3</sup>

主を知り、戒めを理解し、主に従いたいという望みを高めてください。そうすれば、希望の光が絶望の闇を追い散らし、悲しみは喜びに変わり、天父から愛されているという確かな思いが、人生における孤独感を消し去るでしょう。

**4. 戒めを守る。**神に仕えることを決意し、主の御言葉を学んでそれに従ってください。

ある若いアロン神権者は、スカウティングに活発で、正しい選択を積み重ねてきました。彼はスタースカウトに昇進するための面接で、スカウティングがどのように役立っているか聞かれて、こう答えました。「わたしがすべきことを行い、そうでないことはしないように助けてくれます。」合格でした。

格言が思い浮かびます。「悪いことを行えば正しい人にはなれないし、正しいことを行えば悪い人にはならない。」よく知られた賛美歌に、次のような歌詞があります。

「選べ、正義を選べよ  
みたまに導かれ  
正義に頼るときには

光、常にあり」<sup>4</sup>

ジョージ・アルバート・スミス第8代大管長は、「主の側にとどまりなさい」と勧告しています。<sup>5</sup>

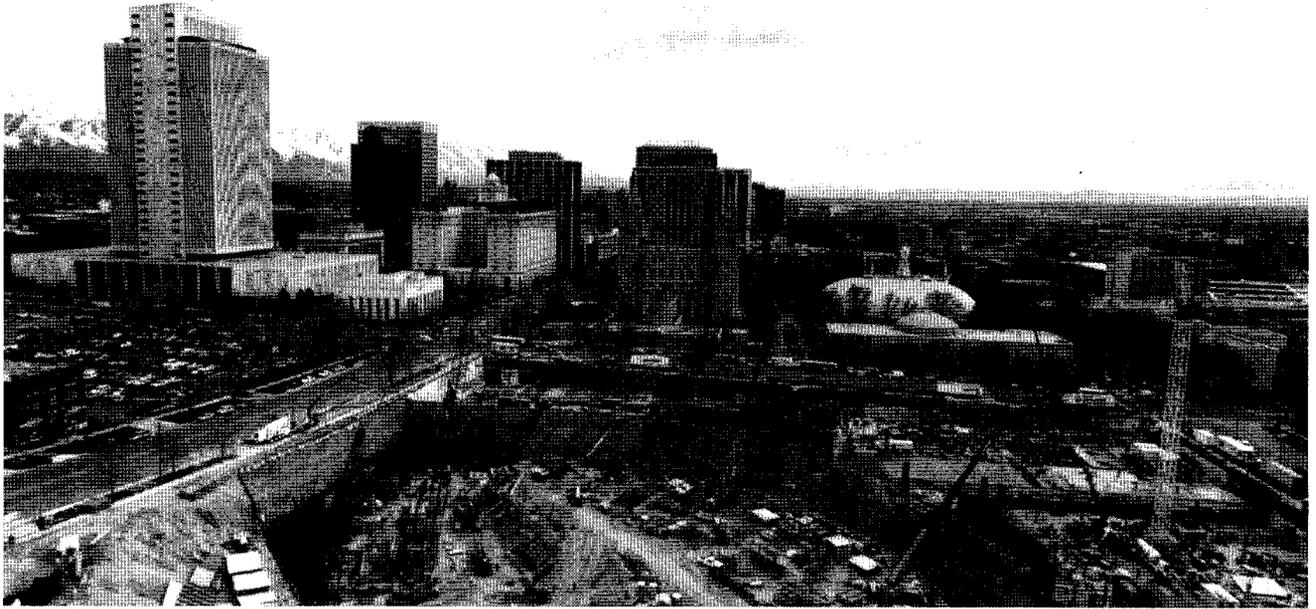
**5. 愛をもって仕える。**『スポークン・ワード』に次のような勧めがあります。「自分の才能を発見し、それを分かち合う機会を見いだすのは、各自の義務である。そして自分の能力を人のために役立てられるのは、家族や友達、隣人のおかげである。落胆や孤独、力のなさを感じるときはまさに、神からすばらしい可能性が与えられていることを思い出す必要がある。だれもが自分や愛する人々の生活の中で、大切な存在なのである。」<sup>6</sup>

イエスは奉仕の典型と言える御方です。「よい働きをしながら……巡回されました」と記されています。兄弟の皆さん、そのようにしていますか。機会は多くても、すぐに過ぎ去るものもあります。兄弟の皆さん、人をよい行いに導く際に皆さんの与えた助言や示した模範、教えた真理、及ぼした影響力をだれかが思い起こすなら、それは何とすばらしい喜びでしょうか。

青少年の指導者は、使徒パウロがテモテに与えた助言を忘れないでください。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」<sup>7</sup>監督は、義にかなうふさわしい人をアロン神権の指導者に召してください。同じ条件がスカウトの隊長にも当てはまります。

青少年の責任に召すときは、その人の会員証明書が監督の手もとにあることを確認しなければなりません。また、スカウティングで働く人を召すときは、正式に登録された人で、その召しにふさわしい業績があることを確認してください。この手順は何度も説明しましたが、いまだに羊の群れを減ぼそうとするおおかみが入り込んでいるのです。わたしはヒンクレイ大管長から、今晚この指示を強調するように頼まれました。

**6. 目的をもって祈る。**神には、すべてのことが可能です。アロン神権者とメルキゼデク神権者は、預言者ジョセ



基礎工事も終わり、テンプルスクウェア北側のアセンブリーホール（座席数2万1,000）の建設が始まった。西暦2000年4月の総大会までの竣工を目指すこの新しい建造物には、900人収容の劇場も併設される。後ろに見えるのは、教会本部ビル（左）、ソルトレーク神殿（中央）、ドーム型のタバナクル（右）。

フが聖なる森でささげた祈りを心に留めてください。周囲を見回して、祈りの答えとなるものを見つけるのです。祈りは霊的な力の源であり、安らぎへのパスポートです。

巡洋艦インディアナポリス号とは違って、自分が危険な道にいることに気づくならば、わたしたちの電気系統は壊れていません。父なる神につながっています。わたしたちの方で受ける備えができれば、主は助けくださるのです。

数年前の経験が思い出されます。友人たちとモルガン種の馬で遠乗りに出かけました。やがて、青々とした草が生え、きれいな小川がぐねぐねと流れている低地に出ました。ミュール鹿にとって、これ以上の住みかはないでしょう。しかし、危険が潜んでいました。野生の鹿は、周囲の藪のわずかな動きや、小枝の折れる音、人影などを敏感に察知します。しかし、無防備な方向があります。頭上です。ハンターが大きな木に台を設置し、上からその場所をねらっていました。多くの地域では禁じられていますが、草や水を求めて来る動物を獲物にするのです。小枝の音も、動きも、人影も、ハンターの居所を告げてはくれません。なぜでしょ

うか。迫り来る危険に非常に敏感な雄鹿であっても、直接上を見て敵を見つける能力がないからです。気づいたときは、まさに危険な道に踏み込んでいるのです。人にはそのような制限はありません。最も安全な道は、天を見上げる、すなわち「神に頼って生きる」<sup>9</sup>能力と願望にあるのです。

ある詩人がこう歌いました。

神の驚くべき業の中心を成し、  
その計画の最高を極めるのは、  
人の心に向上心を  
植えつけてくださったこと。<sup>10</sup>

兄弟の皆さん、人生の航海に備えていますか。時には海が荒れ狂うこともあります。心の動揺という恐るべき大波に襲われるかもしれません。進路を定め、よく注意し、すでに説明した安全の規準に従ってください。

1. よい友達を選ぶ。
2. 両親に助言を求める。
3. 福音を勉強する。
4. 戒めに従う。
5. 愛をもって仕える。
6. 目的をもって祈る。

これらを実行するなら、人生の海を安全に渡って、神の日の栄えの王国と

いう母港に着くことができるでしょう。そして、この世の航海を終えた船員は、次のように称賛する声を聞くでしょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。……主人と一緒に喜んでくれ。」<sup>11</sup>

・この祝福が与えられるよう、イエス・キリストの御名により心から祈ります。アーメン。

注

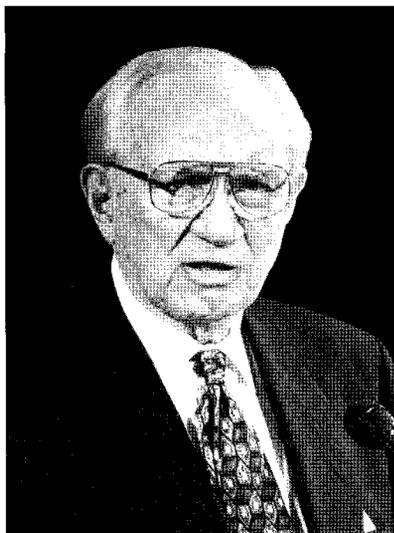
1. モロナイ7:16-17
2. マタイ11:28-29
3. 教義と聖約88:118
4. 『賛美歌』152番「選べ、正義を」
5. *Conference Report* 『大会報告』1945年10月、118
6. "Finding a Niche" *Music and the Spoken Word* 「適所を見いだす」『ミュージック・アンド・ザ・スポークン・ワード』1998年2月15日放送
7. 使徒10:38参照
8. 1テモテ4:12
9. アルマ37:47
10. ハリー・ケンプ, "God the Architect" *The World's Great Religious Poetry* 「神なる造り主」『世界の偉大な宗教詩』キャロライン・マイルズ・ヒル編、211
11. マタイ25:21

# いつか結婚する女性に ふさわしく生活する

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

世界でいちばんすてきなその女性にふさわしい人間となるように努力してください。そして生涯、その努力を続けてください。



1 週間前、ファウスト副管長と中央若い女性会長会がこのタバナクルで教会の若い女性の皆さんにお話をいたしました。

集まってくださっている美しい若い女性の皆さんの顔を拝見して、「彼女たちにふさわしい若い男性を育てているだろうか」という思いがわたしの胸をよぎりました。

彼女たちはさわやかで活発です。美しく、そして、輝いています。能力があります。忠実です。清く、誠実です。すてきで楽しい若い女性たちです。

そこで今宵、この偉大な神権会で、彼女たちと肩を並べるあなたがた若い男性の皆さんにお話ししたいと思います。テーマは「いつか結婚する女性にふさわしく生活する」です。

皆さんと結婚する女性は、大きなかけをするようなものです。彼女は結婚する若者にすべてをゆだねることになります。その男性は彼女の残りの生涯にかなりの影響を及ぼすでしょう。これから彼女は、伴侶の名前を名乗るようになるのです。

アダムはエデンの園でこう語りました。「わたしの骨の骨、わたしの肉の肉。……」

それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2：23-24)

皆さんは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、とりわけ神の神権を持つ若い男性として、結婚する女性に対してとても大きな義務を負っています。そのことについて今はあまり考えていないかもしれませんが、そのことについて考えるようになる日は、遠からずやって来るでしょう。妻として、そして主の前にあって対等な伴侶として彼女を迎えるその最も大切な日のために、今は準備をする時なのです。

義務の第一は絶対的な忠誠です。古代英国教会の結婚式の言葉にこうあります。「豊かでも貧しくとも、病気の時も健やかなときも、恵まれたときもそうでないときも」あなたはその人を妻とするのです。どのような生活を送ろうと、彼女は皆さんのもの、皆さんだけのものとなります。そして皆さんも彼女のもの、彼女だけのものとなるのです。ほかの女性に目を移してはなりません。互いに絶対的な、妥協の

ない忠誠がなければなりません。皆さんは主の宮で永遠の神権の権能により、彼女と永遠の結婚をすることでしょう。そして生涯、北極星のように互いに不動の誠実さを持たなければなりません。

皆さんが結婚しようとしている女性は、皆さんが完全に清い状態で結婚の聖壇にやって来ることを期待しています。思いと言葉と行いのすべてに清い若い男性を待っているのです。

今宵若い男性の皆さんに訴えたいのは、世の汚れに染まらないようにしてほしいということです。学校で軽薄な話に時間を費やしたり、みだらな冗談を言ったりしてはなりません。インターネットでポルノサイトをあさるようなことがあってはなりません。長距離電話をかけて卑しい話を聞いてはなりません。種類を問わず、ポルノビデオを借りてはなりません。そのようなわいせつなものは皆さんのためのものではありません。疫病を避けるようにポルノグラフィーを避けてください。それらは破壊的です。習慣となります。そのようなものにふけているとそこから離れられなくなります。病みつきになってしまうのです。

ポルノグラフィーは制作する人々にとって50億ドルのビジネスです。人々の気持ちをくすぐるような魅力的なものにして、その犠牲者を誘い、滅ぼすのです。どこにでもあります。わたしたちみんなの周りにあります。若い男性の皆さん、こうしたものに決してかかわらないでください。そのようなことにかかわっている時間などないはずですよ。

皆さんと結婚する女性は、こうした汚れた、心をむしばむものに染まらなかった人を夫にする資格があります。

知恵の言葉をありきたりのものと考えないでください。健康に関する最も優れた文書だとわたしは考えています。知恵の言葉は1833年、人の食生活についてあまり知られていなかった時代に預言者ジョセフ・スミスに与えられました。そして今日において科学的研究が進めば進むほど、知恵の言葉の原則の真実性が証明されてきています。今やたばこの有害性の証拠には圧倒され

るほどです。しかし、若い男女の喫煙者数は、驚くべき増加を見せています。アルコールについても同じです。

わたしにとって、ガソリンスタンドでビールを売るのは皮肉なことです。ビールを飲めば、ほかのアルコール類と同じように酔っ払い、車を運転するには危険な状態になります。単に飲む量の問題です。車の運転ができるようにガソリンを売るガソリンスタンドが、ビールを売って酒気帯び運転をさせ、道路上での脅威の原因を作っているのは、まったく矛盾しています。

そのようなものを避けましょう。何もういことはありません。取り返しのつかない害を受ける可能性があります。飲んで車を運転して死亡事故を起こすとどうなるでしょう。生きているかぎり苦しむでしょう。四六時中悩みは去りません。すべきことは簡単です。触れなければいいのです。

同様に、不法な薬物を避けてください。不法な薬物は間違いなく皆さんを滅ぼします。理性を奪ってしまいます。たちの悪いひどい方法で皆さんを奴隷にしていきます。そして皆さんの心と体を滅ぼし、望むものは何としてでも手に入れようという思いを募らせるのです。

麻薬常習の、アルコールの奴隷になっている、ボルノグラフィーにふける若い男性を夫に望む人が、正しい心を持った女性の中にいるのでしょうか。

冒瀆的な言葉を避けましょう。学校ではどこでも聞かれます。若人はわいせつな話をしたり冒瀆的な言葉を使ったり、主の御名をみだりに口にしたりすることを誇りに思っているようです。これはたちの悪い習慣で、若いうちに慣れてしまうと一生抜けなくなります。汚れた冒瀆的な言葉遣いをする人をだれが結婚相手に望むのでしょうか。

多くの若人にとって習慣となっている重大なことがもう一つあります。怒りです。小さなことでも、怒りを抑えられなくなっかんしゃくを起こしてしまうのです。そのような意志の弱い人を見るとかわいそうになります。でもそれが高じると理性をまったく失い、後で嘆くようなことをしてしまうこと

が多いのです。

最近車を運転しての争いが多く見られるようになりました。少しのことで怒りをあらわにし、かっとなって殺人にまで発展するのです。そして、後悔の人生が始まります。

箴言の作者はこう言いました。「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言16:32)

短気な人は、今からコントロールの仕方を学んでください。若ければそれだけ直すのも簡単です。この教会の会員であれば、自分をコントロールできなくなるような不必要で見苦しい態度は避けましょう。そして、結婚生活を平安で落ち着いたある言葉で満たしましょう。

わたしは神殿で結婚したにもかかわらず、後に離婚し、神殿の結び固めを解くための申請をしてくる会員の問題を、絶え間なく取り扱っています。結婚当初、彼らは期待で胸をふくらませ、幸福に満ちていました。しかし、この愛の花は、批判と不平、乱暴な言葉、抑制の利かない怒りという空気にさらされておれてしまいました。愛は窓から飛び去り、代わりに憤りが姿を現します。兄弟たち、繰り返しますが、皆さん若人の中に短気で困っている人がいれば、それを改める努力をぜひとも今から始めてください。そうしないと、皆さんが将来築く家庭に涙と悲しみをもたらすことになるでしょう。『モルモン書』の中でヤコブは、結婚生活における邪悪な状況について民を戒め、こう言っています。「見よ、あなたがたは、同胞であるレーマン人よりもひどい罪悪を犯した。あなたがたは妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ、子供たちの信頼を失った。彼らの心のむせび泣きが神のみもとに上って、あなたがたを訴えている。また、あなたがたを責める神の御言葉が厳しいために、多くの者が心に深い傷を負って、死んだようになっている。」(『モルモン書』ヤコブ2:35)

教育を受けるために努力してください。受けることのできる訓練はすべて



受けてください。社会は、皆さんの力にふさわしい報いを与えてくれることでしょう。パウロはテモテに次のように言いましたが、決して婉曲的な言い方をしてはいけません。「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上にわるい。」(1テモテ5:8)

自分の家族を養うことは、皆さんにとって何よりも大切な責任です。

皆さんの奥さんは、外に出て仕事探しをしなくても済むなら、幸せに思うはずですが、夫が家族を食わせるために働き、自分が家にとどまることができれば、それは女性にとって2倍の祝福となるでしょう。

教育は経済的に恵まれた機会を得るための鍵です。主はわたしたちに「研究によって、また信仰によって」学問を得るようにと命じておられます(教義と聖約109:14)。皆さんはこれから社会の一員になっていきますが、その中で何か価値あることをするために頭と手を鍛えるなら、家族を養う者としてより良い機会を得られるようになるでしょう。

いろいろと欲しいものがあっても、つましい生活を心がけてください。結婚生活を始めるときから、大きな借金をして大きな家を買う必要ありません。大きな負債はしないで済ませることができず、そうすべきです。大きな負債以上に、結婚生活に過大な緊張をもたらすものはありません。そのような負債は、皆さんを債権者の奴隷にして

しまうのです。家を初めて持つときには、お金を借りる必要があるかもしれませんが、昼も夜もそのことで頭がいっぱいになってしまうほどの多額のローンを組むべきではありません。

わたしは結婚したときに、賢明な父親からこう言われました。「あまり大きくない家にして、借入れ金を返済しなさい。そうしておけば、経済的に難しい状況になっても、妻子を路頭に迷わすようなことにならないから。」

皆さんと結婚する女性は、皆さんが度を過ぎて出費を抑えるような生活することを望まないでしょう。また浪費の多い生活も望まないと思います。妻となる女性には、家の財政状態のすべてを知っておく権利があります。彼女はあなたのパートナーなのです。このことについて、夫婦の間に完全な理解がないと問題の種になる誤解や疑いが生じ、さらに大きな問題に発展していく可能性もあります。

彼女が結婚相手として望むのは、自分を愛して、信頼し、歩みを共にする人であり、最高の友、連れ合いとなる人です。また自分の才能を伸ばし、人々のためにさらに貢献するのに役立つ教会や地域社会の様々な活動への参加を勧めてくれる人です。奉仕の精神を持ち、教会やほかの有意義な事柄のために献身する気持ちのある人（みこころ）を求めています。そして主を愛し、主の御心をなそうと努力する人との結婚を望んでいます。ですから、伝道に出て、無私の心をもって人生の「じゅうぶん」を天の御父にささげること、自分の利益をまったく考えずに世界のどこへ遣わ



されようとも平和の福音を説き広めるために出て行くことが一人一人の若い男性に勧められているのです。宣教師として良い働きをするなら、皆さんは続けて主に仕え、戒めを守り、御心を果たしたいという望みをもって、家に戻って来ることでしょう。そのような行いは、皆さんの結婚生活に計り知れない喜びをもたらします。

これまでも述べたように、皆さんはある一つの場所、たった一つの場所で結婚したいと思うようになるでしょう。そのたった一つの場所とは主の宮です。皆さんが自分の伴侶（はんりよ）に贈れるもので、永遠の結婚に伴う結び固めの聖約という守りの翼の下に、神の聖なる宮で結婚すること以上にすばらしいものはありません。それに代わり得る適切なものはありません。ほかに取るべき道はありません。

注意深く、そして賢明な選択をしてください。その結婚相手は、皆さんの永遠の連れ合いとなる人です。どんなことがあっても、晴れの日にも嵐の日にも、互いに愛し合っていくのです。そしてその女性は、皆さんの子供の母親になります。天の御父の娘、息子である貴い子供の父親となること以上にすばらしいことが、この世の中に何かあるでしょうか。わたしたちはそれぞれの子供に対して、この地上における管理の責任を果たす権利と責任を与えられています。

小さな子供は、ほんとうに大切な存在です。また驚くべき存在です。家族は最高のものです。妻や子供に誇りにしてもらえる父親になれるよう、それにふさわしい生活をしてください。

主はわたしたちが結婚し、愛と平安と一致の中でともに暮らし、子供をもうけ、神聖な方法で育てるようにお定めになりました。

愛する若い男性の皆さん、皆さんはまだそのことを深く考えないかもしれませんが、しかし、いずれ皆さんは恋をするようになります。そして、寝ても覚めても、その相手のことだけで頭がいっぱいになります。世界でいちばんすてきなその女性にふさわしい人間となるように努力してください。そして

生涯、その努力を続けてください。お互いに、親切で誠実であり、優しくしてください。世の中には憎しみが満ち満ちています。怒りに任せた言葉から生じる苦しみや悲しみであふれかえっています。不実な行為が原因の涙があふれています。しかし、伴侶を喜ばそうという努力と、幸せにしようという強い望みがあれば、大きな喜びがあふれるようになるのです。

結局のところ、福音はそれらの大切さを教えているのです。家族は神が造られたものであり、非常に重要なものです。国家を強めるには、人々の家庭を強めるのがいちばんの方法です。

わたしたちが罪悪ではなく、互いに徳を求めらば、家庭がはるかに幸福な場になると確信しています。そして離婚、不貞、怒り、うらみ、反目が影をひそめ、ゆる赦し、愛、平安、幸福が増し加えられるようになるでしょう。それが主の望まれていることなのです。

若い男性の皆さん、今こそ将来への備えをなす時です。将来、永遠に絶えることのないきずなによって皆さんと結ばれることを最大の望みとするすばらしい若い女性が現れることでしょう。

いずれ皆さんは家庭の中における幸福以上に大きな幸せはないということが分かるようになります。また、皆さんが持つようになる責任で、家庭における責任以上に大切なものはありません。人生の成功を示す最も確かなしるしは、皆さんの結婚生活そのものなのです。

親愛なる若い男性の皆さんのうえに、神の祝福が注がれますように。わたしが皆さんに望む最もすばらしいもの、それは皆さんの伴侶に対する愛、絶対的で純粋な愛です。伴侶となる女性をあらゆる点で誇りに思うとともに、彼女にあらゆる点でふさわしくなってください。この選択は、皆さんが人生の中でするあらゆる選択のうち最も大切なものです。皆さんの選びのうえに天のほほえみがありますように。皆さんが導きを得られますように。悔いがない生き方ができますように。これらのことをイエス・キリストの御名（みな）により祈っています。アーメン。

# 神に頼って生きる

第一副管長

トーマス・S・モンソン

人生の苦難に押しつぶされそうなときには、ほかの人々も同様の経験をし、それに耐え、乗り越えてきたことを思い起こしてください。



今朝のメッセージを、一つの質問から始めたいと思います。皆さんは、家族そろって旅行に出かけたことがあるでしょうか。まだの方は、将来旅行に出かけられるときに思いも寄らない経験をなさるでしょう。数年前、妻とわたしは子供夫婦と孫と一緒に南カリフォルニアのディズニーランドへ行きました。この有名な遊園地の門をくぐると、一行は当時オープンしたばかりの乗り物「スターツアーズ」のある所へ一目散に走って行きました。宇宙ロケット風の乗り物に入り、座席に着くと、シートベルトを締めました。突然、乗り物が激しく動き始め、スピーカーからのけたたましい機械音声が「乱気流に突入」と叫んでいるように聞こえました。(わたしはそれ以来この乗り物に乗ったことはありません。でも、責任を果たすために日ごろあちこち飛行機で移動し、本物の乱気流を

実際に経験しているので、それで十分だと感じています。)

何分か休憩した後、わたしたちは遊園地の中でいちばん長い列ができて「スプラッシュマウンテン」と呼ばれる乗り物の所へ行きました。蛇行する列はゆっくりゆっくりと進んで行きます。待っている大勢の客に聞こえるように音楽がスピーカーから流れていました。歌詞の内容はこうです。

「ズイパデードゥーダー、ズイパデイーエー。

何てすばらしい日だろう。

幸福の光が降り注いでいる。

ズイパデードゥーダー、ズイパデイーエー」

程なく、わたしたちは急流下りのボートに乗り込みました。前を行くグループが絶叫とともに、滝を真逆さまに滑り落ち、終着点目がけて流れ込んで行きました。しかし、わたしは滝に落ちる寸前、壁に深遠なる真実の書かれた小さな看板があることに気づいたのです。そこに書いてあった言葉を引用したいと思います。「問題からは逃げられない。地の果てまでも追って来る。」

この短い言葉はわたしの心に残りました。それはスプラッシュマウンテンのテーマであるばかりか、わたしたちの現世の生涯にも当てはまる言葉なのです。

人生とは様々な経験をする学校のようなもので、試験期間と言えます。苦難に耐え心痛を乗り越えることによってわたしたちは様々なことを学ぶのです。

すべての人に降りかかってくる病、事故、死をはじめとする様々な試練の

ことを考えるとき、わたしたちはいにしへのヨブと同様、「人〔は〕生れて悩みを受ける』<sup>2</sup>と言えるのではないのでしょうか。ヨブは「全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかった」<sup>3</sup>人でした。ヨブは信仰深く、物質的にも豊かでしたが、普通の人なら耐え切れない試練を受けなければなりません。財産をすべて失い、友に侮られ、苦痛にさいなまれ、家族まで失い、悲しみで胸が張り裂けんばかりの彼は、「神をのろって死になさい」<sup>4</sup>と迫られました。しかし彼はこの誘惑に抵抗し気高い魂の奥底から「見よ、……わたしの証人は天にある。わたしのために保証してくれる者は高い所にある』<sup>5</sup>と宣言したのです。

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる……。」<sup>6</sup>こうして、ヨブは信仰を貫きました。

苦痛や大きな試練がまったくなかったという人は、恐らく、一人としていないでしょうし、人類史上、悩み、荒廃、苦難などがなかった時期はないと言ってよいでしょう。

わたしたちは、人生の厳しい局面に立たされたとき、「なぜわたしが」という疑問を投げかけたくなるものです。その苦境を自分ではどうすることもできないようなときでさえ、わたしたちは、自分を責めてしまいがちです。時折、苦境を、終わりのないトンネルや夜明けのない暗闇のように感じることもあります。また、心痛、破れた夢への落胆、絶望に取り巻かれているように感じます。そして、『聖書』に記された言葉を口にします。「ギレアデに乳香」はないのか、と。<sup>7</sup>こうしてわたしたちの心は、疎外感、悲嘆、孤独でいっぱいになるのです。

絶望しているすべての人々に、詩篇に記された次の約束をお伝えしたいと思います。「夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。」<sup>8</sup>

人生の苦難に押しつぶされそうなときには、ほかの人々も同様の経験をし、それに耐え、乗り越えてきたことを思い起こしてください。

苦難はあらゆる人に際限なく訪れるものです。問題は、それを乗り越えるにはすばらしい美德である忍耐を要する

ということをしばしば忘れ、即座に解決する方法を見いだそうとしてしまうことです。

次のようなチャレンジのいずれかを、皆さんは経験されたかもしれません。

- 障害を持つ子供たち
- 愛する者の死
- 失業
- 自分の技能の衰え
- 不従順な息子や娘
- 精神的、情緒的な病氣
- 事故
- 離婚
- 虐待
- 過剰債務

数え上げればきりがありません。現代の世界では、時折、あらゆる良い賜物を下さる神から遠ざかり、孤立すら感じる傾向があります。人々は人生を独りで歩いていくことに不安を感じます。そして、「どう対処したらよいでしょう」と尋ねます。しかし、わたしたちに究極の慰めをもたらしてくれるものは、福音なのです。

苦しく、枕を涙でぬらした病床にあって、わたしたちを靈的に高めてくれるのは、「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない」という神の確証と貴い約束です。<sup>9</sup>

紆余曲折する現世の道を歩むとき、そのような慰めには、計り知れない価値があります。輝くしや大きな声を介して確信を得ることはまれです。むしろ、御霊の声は、穏やかで静かで、心を高揚させ、魂に安らぎを与えてくれます。

遭遇する苦難について、わたしたちは主を疑わないようにしなければなりません。神の知恵は、人にとって愚かに見えることもある、ということ覚えておきましょう。しかしながら、わたしたちがこの世で学べる最も大切な教訓は、「人は神が語られたことに従っていれば、必ず正しい」ということなのです。

「テシベと」エリヤの経験は、これが真理であることを物語っています。ひどい飢饉と干ばつに見舞われて、飢え、苦しみ、そして恐らくは死をも覚悟したときに、「主の言葉が彼に臨んで言った、『立って……ザレパテへ行って、

そこに住みなさい。わたしはそのところのやもめ女に命じてあなたを養わせよう。』」<sup>10</sup>

エリヤは主の言葉を疑いませんでした。「そこで彼は立ってザレパテへ行ったが、町の門に着いたとき、ひとりのやもめ女が、その所でたきぎを拾っていた。彼はその女に声をかけて言った、『器に水を少し持ってきて、わたしに飲ませてください。』

彼女が行って、それを持ってこようとした時、彼は彼女を呼んで言った、『手に一口のパンを持ってきてください。』

彼女は言った、『あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ二、三本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。』

エリヤは彼女に言った、『恐れるにはおよばない。行って、あなたが言ったとおりにしなさい。しかしまず、それでわたしのために小さいパンを、一つ作って持ってきなさい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。

「主が雨を地のおもてに降らす日まで、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない」とイスラエルの神、主が言われるからです。』<sup>11</sup>

実現しそうにもない約束でしたが、彼女は疑いませんでした。「彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。

主がエリヤによって言われた言葉のように、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。』<sup>12</sup>

ここで歴史のページを早めくりして、羊の群れの番をしていた羊飼いたちが聖なる宣言を聞いた特別な夜に場面を移しましょう。御使いはこう宣言しました。「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。』<sup>13</sup>

ベツレヘムに幼子が誕生したことによって、大きな祝福がもたらされまし

た。それは武器よりも強い力であり、カイザルの金貨よりも永続する富でした。こうして長い間予告されてきた約束が成就しました。幼子のキリストがお生まれになったのです。

少年イエスは「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」ことを、聖なる記録は明らかにしています。<sup>14</sup>そして、目立たない記述ですが、さらに長じたイエスは「よい働きを」されたことが記録されています。<sup>15</sup>

イエスの卓越した模範、イエスが人々を招いておられる言葉、そして数々の神聖な業に関する記録は、ナザレから長い年月を経て今日まで伝えられてきました。これらの記録はわたしたちに、苦しみを堪え忍ぶよう励まし、悲しみに耐える力を与え、死に直面する勇気を与え、人生に立ち向かう自信を与えてくれます。わたしたちは神の導きなしに、混乱と試練と不安定が渦巻く現在の世の中を生きていくことはできません。

ナザレ、カペナウム、エルサレムそしてガリラヤで与えられた教えは、距離と時間という障害を乗り越え、理解の壁を突き破って、悩み苦しむ人々に光と道をもたらしています。そして、行く手にはゲツセマネの園とゴルゴタの丘が待っています。

『聖書』にはこのように記されています。「それから、イエスは彼らと一緒に、ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、『わたしが向こうへ行って祈っている間、ここにすわっていなさい。』

そしてペテロと〔ヤコブとヨハネ〕とを連れて行かれたが、悲しみを催しまた悩みはじめられた。

そのとき、彼らに言われた、『わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさましていなさい。』

そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた……。』<sup>16</sup>

「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようになさってください。』

そのとき、御使が天からあらわれて

イエスを力づけた。

イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。』<sup>17</sup>

世の罪を贖うためにイエスはどれほどの苦しみを受け、どれほどの犠牲をささげ、どれほどの苦悶を経験されたことでしょうか。

一人の詩人がわたしたちのために、次のような詩を詠んでいます。

「わたしたちが若く、全地が陽気で  
歌の響きわたる常夏の島のように思  
えるとき、  
また、魂が喜び、心に光があって、  
一点の陰りもなく感じる時、  
夜空の下に何が隠れているかを  
だれも知らない。  
それはわたしたちが行かなければな  
らない園、  
ゲツセマネの園。……  
破れた夢で橋がかけられた、  
暗い小道の先、  
見知らぬ小川の向こうに、  
記憶の薄れた遠い歳月の陰に、  
涙でできた大きな池の向こうに  
この園は存在する。  
どんなにもがいても、  
園を避けて行くことはできない  
昔も今も、この世のすべての道で  
ゲツセマネを通らない道はない。』<sup>18</sup>

世の救い主のこの世における使命は急速にその終局を迎えようとしています。神の御子の血に飢えた者たちが犯した極悪非道な行為、カルバリの十字架が行く手に見えます。そのような人々に対してイエスは簡潔でありながら深遠な祈りをもってこたえておられます。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。』<sup>19</sup>

そして、終局が訪れます。「『父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。』こう言ってついに息を引きとられた。』<sup>20</sup>偉大な贖い主は亡くなられました。イエスは墓に葬られました。そして、3日目の朝によみがえられました。主の弟子たちは救い主に会いました。この歴史上最も大いなる瞬間に発せられた

次の言葉は、時という隔たりを超えて、今日もなお、わたしたちの心に慰めと確信を与え、癒しと約束を与えてくれます。「もうここにはおられない。……よみがえられたのである。』<sup>21</sup>こうして復活は、全人類にとって現実のものとなりました。

先週、わたしはローレンス・M・ヒルトンから信仰あふれる手紙を頂きました。揺るぎない信仰によって悲劇を乗り越えた物語を紹介したいと思います。

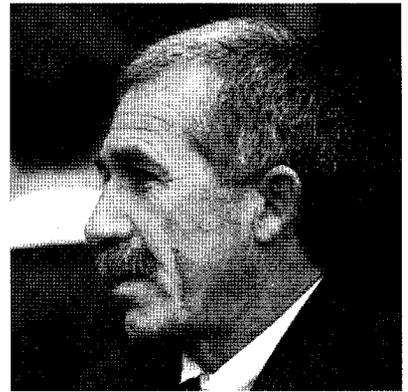
ローレンスの祖父母であるトーマスとサラ・ヒルトンは1892年にサモアへ向かって旅立ちました。サモアに到着後、トーマスは伝道部長に任命されました。このとき、二人は生まれたばかりの娘を連れて行きました。そして、伝道中に二人の息子に恵まれました。不幸なことに3人の子供たちは全員サモアで亡くなりました。このようにして子供のいない夫婦となってしまったヒルトン夫妻は、1895年に伝道を終えて帰国しました。

ヒルトン家族と親しかったデビッド・O・マッケイは彼らが子供たちを失ったことを聞いて、たいそう心を痛めました。1921年、各国の教会員を訪れるために旅立ったマッケイ長老は、同行したヒュー・J・キャノン長老とともにサモアに立ち寄りました。マッケイ長老は世界訪問に旅立つ前に、3人の子供たちの墓を訪れることを、当時すでに未亡人となっていたヒルトン姉妹に約束していました。サモアからヒルトン姉妹にあてて書き送ったマッケイ長老の手紙をここで紹介したいと思います。

「親愛なるヒルトン姉妹、

1921年5月18日水曜日、高くそびえるココナツの木の頂に日差しが降り注ぐ午後、わたしたち一行5人はサモアに到着しました。そして、ファガリイ墓地の小さな墓の前で頭を垂れました。……覚えておられるでしょうが、出発の前にお約束したとおり、わたしたちは墓地を訪れたのです。

墓地と墓石は傷むことなく、良い状態で保存されています。……埋葬された場所に巡らされた石壁の外側から……墓石に刻まれた文字を書き写しましたので、御覧ください。



ジャネット・ヒルトン

誕生：1891年9月10日

死亡：1892年6月4日

『愛するジェニー、ここに眠る』

ジョージ・エメット・ヒルトン

誕生：1894年10月12日

死亡：1894年10月19日

『安らかに眠りなさい』

トーマス・ハロルド・ヒルトン

誕生：1892年9月21日

死亡：1894年3月17日

『この丘の中腹で、安心して休みなさい』

これら3つの小さな墓を見ている間、わたしはあなたが若い母親としてここサモアで生活した日々を想像しました。そうしている間に、これらの小さな墓石はその下に幼子が眠っていることの記念碑であるだけでなく、真理と命の原則に対する母親の信仰と祈りの証でもあることに気づきました。ヒルトン姉妹、眠っている3人の幼子は、30年近く前にあなたが始めた尊い伝道の業が現在も続けられていることを雄々しく感動的に語りかけています。これからも、彼らの地上における最後の休息地を手入れする優しい人々がいるかぎり、あなたの3人の子供たちは語り続けることでしょう。

愛があふれる手によって、彼らの日は閉じられました。

愛があふれる手によって、彼らの手足はここに納められました。

異国の人々の手によって、つましい墓は飾られています。

彼らの見知らぬ人々が彼らをたた

え、悲しみを寄せています。

トファ・ソイファ〔訳注——サモア語で「さようなら」の意〕

デビッド・O・マッケイ〕

この感動的な話は嘆き悲しむ人々に「人知ではどうも測り知ることのできない……平安」を与えます。<sup>22</sup> 天の御父は生きておられます。主イエス・キリストはわたしたちの救い主であり贖い主です。主は預言者ジョセフを導かれました。主は現在の主の預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長を導いていらっしゃいます。これが真実であることをわたしは<sup>あかし</sup>証します。

救い主がなさったように、わたしたちも悲しみに耐え、重荷を負い、恐れに立ち向かえるように祈っています。わたしは救い主が生きておられることを知っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

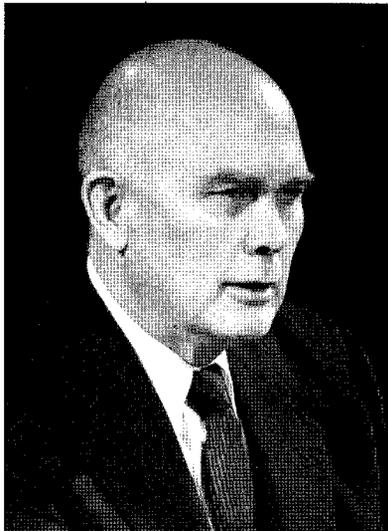
1. レイ・ギルバート, ©1945ウォルト・ディズニー・ミュージック・カンパニー
2. ヨブ5:7
3. ヨブ1:1
4. ヨブ2:9
5. ヨブ16:19
6. ヨブ19:25
7. エレミヤ8:22
8. 詩篇30:5
9. ヨシヤ1:5
10. 列王上17:8, 9
11. 列王上17:10-14
12. 列王上17:15, 16
13. ルカ2:10, 11
14. ルカ2:52
15. 使徒10:38
16. マタイ26:36-39
17. ルカ22:42-44
18. エラ・ウィーラー・ウィルコックス, "Gethsemane" *Sourcebook of Poetry* 「ゲツセマネ」『詩大全集』アル・ブライアント編, 435
19. ルカ23:34
20. ルカ23:46
21. マタイ28:6
22. ピリピ4:7

# あなたは救われていますか

十二使徒定員会会員

ダリン・H・オークス

末日聖徒が「救われる」や「救い」という言葉を用いる場合、少なくとも6つの異なる意味があります。



だれかに「あなたは救われていますか」と尋ねられたら、何と答えますか。この問いはあるクリスチャンの間では普通に交わされる会話です。しかし、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとっては、普段このような言い方をしないため奇妙に聞こえるかもしれません。会員は、「救われる」または「救い」という言葉を未来の出来事を表すときに用い、すでに起こった事柄について話す際にはあまり用いない傾向があります。

善良なクリスチャンは、福音の中で<sup>かぎ</sup>鍵となる「救われる」や「救い」などの言葉に異なる意味を付け加える場合があります。「救われていますか」と聞いた人の意図のままに答えるとしたら、わたしたちは「はい」と答える

でしょう。しかし、「救われる」や「救い」という言葉に込められたいろいろな意味を考慮して答えるのであれば、その答えは「はい」か「はい、でも条件付きで」のどちらかになります。

1

わたしの理解では、これらの言葉を用いる善良なクリスチャンにとって「救われる」または「救い」とは、イエス・キリストをわたしたち個人の主、救い主として受け入れると誠実に宣言、すなわち告白することを意味します。これは、使徒パウロが当時のクリスチャンに教えた言葉が元になっています。

「自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。」

なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。」(ローマ10:9-10)

末日聖徒はこのパウロの教えから、「救われる」または「救い」という言葉を次のようにとらえます。それは、イエス・キリストとの現在の聖約関係であり、従順を条件に罪の結果からの救いを保証されるものです。この意味に基づけば、すべての忠実な末日聖徒は「救われて」います。回復されたイエス・キリストの福音に改宗し、悔い改め、バプテスマを受け、<sup>せいさん</sup>聖餐を受けることによりバプテスマの聖約を新たにしているからです。

末日聖徒が「救われる」や「救い」という言葉を用いる場合、少なくとも6つの異なった意味があります。このうち幾つかの意味からすれば、わたしたちの救いは約束されています。つまりすでに救われています。しかしほかの意味から言うと、救いは未来の出来事として(例——1コリント5:5)、あるいはそのように条件の下に(例——マルコ13:13)語られるべき出来事となります。しかし、これらどの意味においても、また意味に基づくどの救いの定義にも言えるのは、救いはキリストによって、キリストを通じてもたらされるということです。

まず、すべての人間はイエス・キリストの復活によって永遠の死から救われました。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(1コリント15:22)

罪や罪の結果という点から、わたしたちが救われているかどうかとの問いに対しては、答えは「はい、しかし条件付きで」となります。その信条について信仰簡条第3節で言及されています。

「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」(信仰簡条1:3)

『聖書』には、イエス・キリストが世の罪を取り去るために来られたと宣言する聖句が数多くあります(例——ヨハネ1:29; マタイ26:28)。また『新約聖書』は、神の恵み、また神の恵みによる救いについて何度も触れています(例——ヨハネ1:17; 使徒15:11; エペソ2:8)。しかし、個人の振る舞いに関する具体的な戒めや行動の大切さについての聖句も多く見られます(例——マタイ5:16; エペソ2:10; ヤコブの手紙2:14-17)。さらに救い主は、救われるためには最後まで堪え忍ばなければならぬと教えておられます(マタイ10:22; マルコ13:13参照)。

わたしたちは『聖書』の教えを全面的に信頼し、かつ近代の啓示を通して明らかにされた事柄を土台として、主

イエス・キリストが授けられた救いの計画と戒めとは次のようなものであると証します。すなわち、キリストの贖罪による罪からの清めとは罪人個人の信仰を条件として行われるものであり、それは、悔い改めてバプテスマを受け、聖霊を受けよとの主の戒めに従うことによって示されるのです(使徒2:37-38参照)。イエスはこう教えられました。「よくよくあなたに言うておく。だけれども、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5。マルコ16:16; 使徒2:37-38も参照)このように、再び生まれることを経験したわたしたち末日聖徒は、条件付きで罪から救われたと言うことができます。しかし、悔い改めや忠実な生活、奉仕を続けて最後まで堪え忍ぶことによりこの世の生涯を終えるまでは、最終的に救われたことにはなりません。

クリスチャンの中には、末日聖徒は救いを自分で勝ち取ると主張することによって神の恵みを否定していると非難する人々がいます。わたしたちはこの非難に対して『モルモン書』の二人の預言者の言葉をもって答えたいと思います。ニーファイはこう教えました。「わたしたちは子孫……に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧め……ている。それは、わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。」(2ニーファイ25:23)「最善を尽くした後」とはどういうことでしょうか。悔い改め(アルマ24:11参照)やバプテスマ、戒めを守ること、最後まで堪え忍ぶことを含むのは確かです。モロナイは嘆願しています。「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。」(モロナイ10:32)

わたしたちは罪があるままでは救わ

れません。すなわちキリストに告白をすればその後で罪を犯しても無条件で救われることはないのです(アルマ11:36-37参照)。わたしたちが罪から救われるのは(ヒラマン5:10参照)、毎週悔い改めることにより再び生まれ、神の恵みと救いの計画により清められて救われるのです(3ニーファイ9:20-22参照)。

人が救われているかどうかの問いについて「再び生まれる」という表現を用いることがあります。『聖書』でも『モルモン書』でも、この言葉をよく目にします。前にも述べたように、イエスは人が水と霊とから「新しく生れ」(ヨハネ3:3)なければ神の国に入れないと教えられました(ヨハネ3:5参照)。また『モルモン書』には、「再び生まれ[る]」ことや「神から生まれ[る]」ことの必要性を教える聖句がたくさんあります(例——モーサヤ27:25。モーサヤ27:24-26; アルマ36:24, 26。モーセ6:59も参照)。これらの聖句を理解すれば、再び生まれているかとの問いに対し、わたしたちは「はい」と答えます。水と霊とから生まれ、イエス・キリストの御名を受けることにより救い主と聖約の関係に入るとき、わたしたちは再び生まれます。そして毎週安息日に聖餐を受けることにより、再生を新たなものとするのです。

このようにして新たに生まれた人はイエス・キリストの霊の息子、娘になると、末日聖徒は主張します(モーサヤ5:7; 15:9-13; 27:25参照)。しかしそれでもなお、この再生の状態から得られるはずの祝福を理解するには、



聖約を守り続け、最後まで堪え忍ばなければなりません。そうすればやがて神の恵みにより、霊の両親と、栄光の受け継ぎを受ける可能性とを得た新たな存在として再び生まれることができるのです。

救われることの4つ目の意味は、父なる神とその御子イエス・キリスト、人生の目的、そして人の行く末に対する無知という暗闇からの救いです。この救いはイエス・キリストの導きと教えの業により福音が知れ渡りようになったために、わたしたちにも授けられました。イエスは教えられました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」また、こう宣言されました。「わたしは光としてこの世にきた。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。」(ヨハネ8:12; ヨハネ12:46も参照)

末日聖徒にとって「救われる」とは、次の世で栄光の王国に入るとの確信を得て(1コリント15:40-42参照)、第二の死(最後の霊的な死)から救われる、または解放されることを意味します。復活が万人にもたらされるように、この地上に生を受けた人は、わずかな人を除き、この意味での救いを得ることができます。近代の啓示にはこうあります。

「天からの声がわたしたちに証した福音、すなわち喜びのおとずれはこれである。

『彼、すなわちイエスは、世のために十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖め、それをすべての不義から清めるため世に來た。

御父からイエスの力の下に置かれて、彼により造られたすべての者が、彼によって救われるためである。

彼は御父の栄光を現し、そして、御父から御子を示された後に御子を否定する滅びの子らを除く、その御手によって造られたすべての者を救われる。』(教義と聖約76:40-43、下線付加)

預言者ブリガム・ヤングは次のような言葉でこの教義を教えました。「慈悲の日を追いやるほどの罪を犯さなけ

れば、そして悪魔の使いにならなければ、すべての人が復活して栄光の王国に住むというのは真実です。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』315)ここでの「救い」の意味は、主であり救い主であるイエス・キリストの恵みにより、全人類を高貴な存在にすることです。この意味で、すべての人は「はい、わたしは救われています。御子の福音と賜物と恵みを授けてくださった神に栄光あれ」と答えることができます。

最後に、これも末日聖徒特有の親しまれた意味合いですが、「救われる」や「救い」という言葉を永遠の命への昇栄(アブラハム2:11参照)を表す意味に使います。これはしばしば「完全な救い」(ブルース・R・マッコンキー、*The Mortal Messiah*『地上のメシヤ』1:242)と呼ばれます。この救いを得るには悔い改めと正当な神権の権能によるバプテスマ以上のものがが必要です。また、神の神殿における永遠の結婚を含む神聖な聖約を交わすことや、最後まで堪え忍ぶことによりその聖約に忠実であることが求められます。救いをこの「昇栄」と同義語として用いるならば、この世にいる間に「救われた」と言える人はだれもいません。その栄光は、生者と死者双方の偉大な裁き主である主の最後の裁きの後にしか得られないのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の忠実な会員が救われているか、あるいは再び生まれているかとの問いへの短い答えとして、わたしは熱烈に「はい」と言うべきであると提案してきました。わたしたちは救い主と聖約の関係にあるので、質問者の意図からすれば、わたしたちは「救われて」おり、「再び生まれて」います。近代の預言者の中には「救い」や「救われる」という言葉を現在のこととして表現している人がいます。ブリガム・ヤング大管長はこう述べました。

「わたしたちが救いの状態を保つには、今、救われること、今、聖霊から影響を受けるという状態を日々維持しなければなりません。……

わたしは今、救いを求めています。

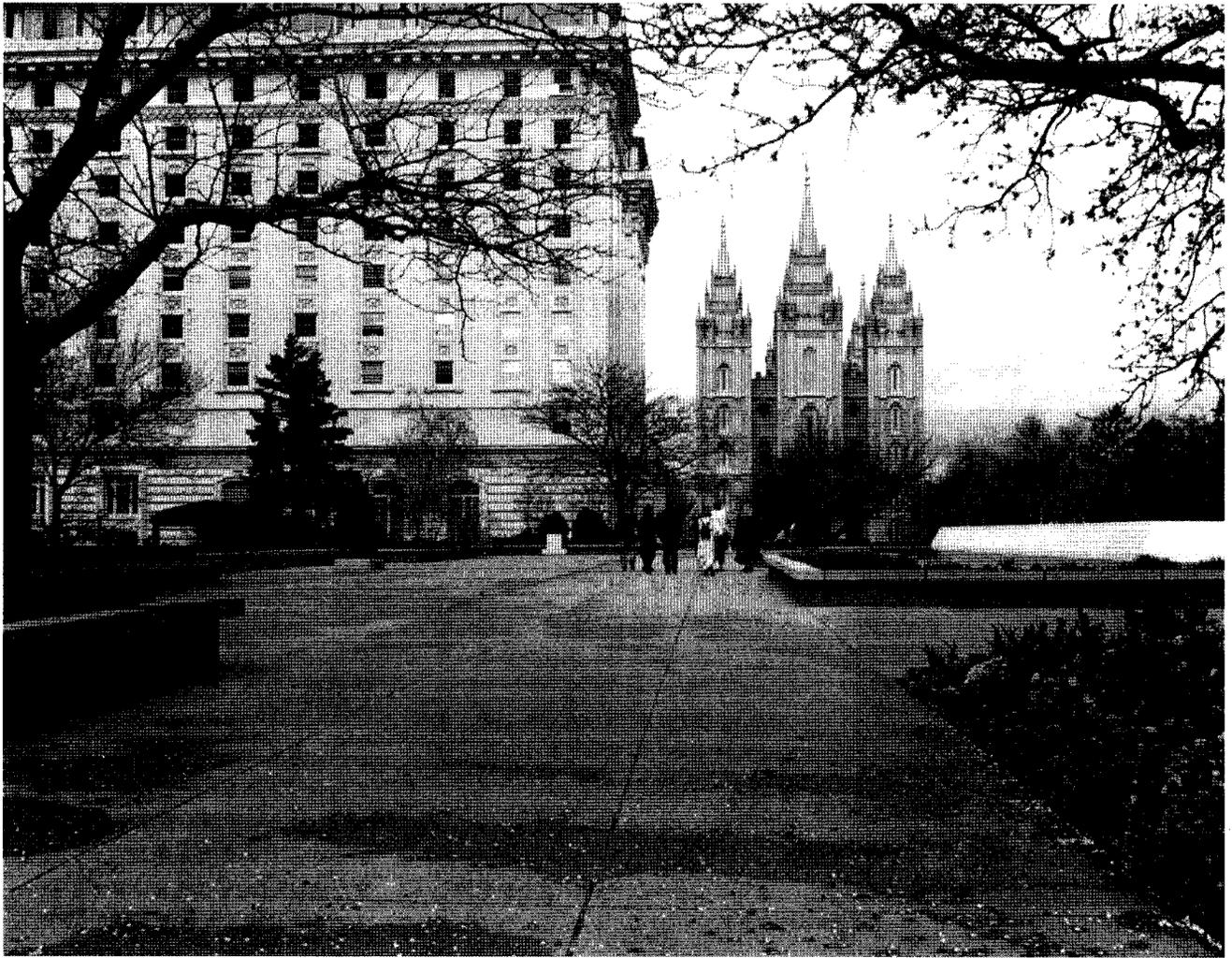
……人生はわたしたちのためにあります。救いは福千年まで待つのではなく、今日得るためにあります。今日救われるための方法に従いましょう。」(*Discourses of Brigham Young*『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウィッツォー選、15-16)同様に、デビッド・O・マッケイ大管長もこう述べています。「明らかにされたイエス・キリストの福音は、まさに救いに至る神の力である。それはここでの現在の救いである。そしてすべての人に今ここでの、そして後の世での完全な生活をもたらす。」(*Gospel Ideals*『福音の理想』6)

### 3

最後に、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員や指導者が尋ねられるもう一つの大切な質問について話したいと思います。「なぜクリスチャンに宣教師を派遣するのか」というものです。好奇心からの、また時には憤慨しての質問です。

この質問について、わたしは決して忘れることのできない経験をしました。何年前か、当時は東側ブロックと呼ばれていた国でのことです。東側諸国は長年の間、共産党による宗教敵視の中にありましたが、突然、奇跡的に宗教の自由が認められました。門戸が開かれたとき、キリスト教の多くの教派が宣教師を送りました。当教会は準備の一部として、大管長会が十二使徒定員会の会員をそれらの国々に派遣して、政府や諸教会の指導者と会談する機会を設けました。わたしたちの任務は教会の紹介と宣教師の活動内容の説明でした。

ラッセル・M・ネルソン長老とわたしはある国の東方正教会の指導者を訪ねました。共産党の弾圧の暗黒の数十年間、キリスト教の灯火をともし続けてきた人です。わたしは彼のことを日記に、温厚で優しく、キリストの僕であるとの印象を受けたと書いています。このことに触れるのは、約1時間のわたしたちの会談には横柄な態度や対立がまったくなかったことを知っていたからです。心地よい、温かな、自らの理解に従って主を愛し、主に仕



ソルトレーク神殿とジョセフ・スミス記念館（左）

えようとする人々の会話によく見られる思いやりにあふれた語りでした。

彼は共産党の弾圧の中で彼の教会がどのような活動をしていたかを話してくれました。またその弾圧の時代を終えて、彼の教会が国家や国民の心の中にかつての存在感を取り戻していくうえでの数々の課題についても説明してくれました。

彼は尋ねました。「あなたがたの宣教師が教えるのは不信者だけですか。それとも信者もですか。」わたしたちは、メッセージは万人のものであり、信者、不信者を問わないと答えました。その理由として二つのことを挙げました。原則面と実践面からです。まず原則面では、回復された福音であるわたしたちのメッセージは、全人類が得ている知識や幸福、平和を補完する重要なものであるということです。実践面

では、信者か不信者かの区別がつかないので全員を対象にするというものです。わたしはこの著名な指導者にこう問いかけました。「前に立って会衆の皆さんの顔を御覧になったとき、ほんとうの信者とそうでない人との区別がつかますか。」彼は苦笑いをしました。わたしの真意を理解してくださったのでしょう。

回復された福音のメッセージは、宣教師と会員を通してクリスチャンか否かを問わず全世界の人々に伝えられています。クリスチャンでない人々にはキリストについて証をし、主の回復された福音の真理と儀式を伝えます。またクリスチャンの人々にも同様に伝えます。たとえ彼らが前に述べた一つだけの意味で「救われている」としても、学び経験すべきことがほかにもあることを教えます。ヒンクレイ大管長は近

ごろこう語りました。「[わたしたちは]論争を好みません。議論はしません。ただ、こう言うだけです。『あなたが得ている良いものはそのまま大切にしてください。わたしたちの方で何が補完できるか考えてみましょう。』」（「ブリガム・ヤング大学における経験」ブリガム・ヤング大学ディボーションナル、1997年11月4日）

末日聖徒イエス・キリスト教会はすべての神の子に、末日に回復されたイエス・キリストの完全な福音を学んでいただく機会を提供します。すべての神の子に、救いと昇栄に必要なすべての儀式を受ける特権を差し上げています。

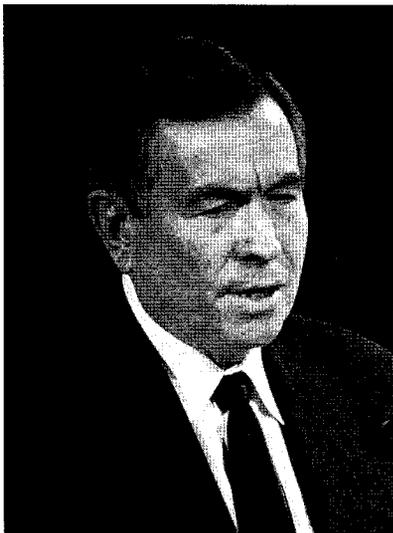
すべての人がこのメッセージを聞き、それに従うようにとの御霊の証を得ていただきたいと思います。これらが真実であることをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

# 子供たちと家族

七十人会長会

W・ユージン・ハンセン

家族の強いきずなは、偶然には生まれません。時間が要ります。決意と、祈りと、動きが要ります。



聖文を読むと、そこには子供たちへの主の愛が明確に記されていて、「子供たちは神から賜った嗣業…である」(詩篇127:3)ことがよく分かります。

『新約聖書』の中で救い主は、「これらの小さい者を傷つけたり、つまづかせたりすることの重大さを指摘されました。マタイ伝にこう記録されています。「大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。」(マタイ18:6)

イエス・キリストについてのもう一つの証、『モルモン書』には最も感動的な光景の一つが記されています。救い主の時代に西半球に住んでいたニーファイ人が、復活された主の訪れを受けたときのことです。主はそのときに、幼い子供たちを優しく教え導かれました。

記録によれば、主は群衆に子供たちを連れて来させると、その真ん中にひ

ぎまずいて、彼らのために御父に祈られました。その言葉はあまりに神聖なので、書き記せませんでした。主は涙を流し、子供たちを一人一人抱いて祝福されました。

群衆が天を見上げると、天が開いて天使が降って来るのが見えました。子供たちは火に包まれ、天使から恵みを受けました。

幼い子供たちに示された主の愛を理解すれば、少しも驚くことではありませんが、今この地上で主を代表する人々が、子供に対する親の責任について、優しくまた力強く宣言しました。

大管長会と十二使徒評議会が発表した『家族——世界への宣言』のことで。そこにはこうあります。

「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。……両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。」(『聖徒の道』1996年6月号, 10)

これは誇張のない言葉です。実際に、家族の持つ伝統的な価値や影響力が、サタンの攻撃を受けています。家族を危険な状態に追い込んでいく傾向を変えるために、多くのことを行う必要があるのは明らかです。

社会は絶望の中で、この世間的な解決に目を向けています。様々なプログラ

ムが制定され、政府は公的な基金や計画を導入して、破壊的な傾向に歯止めをかけようとしています。時には成功が見られても、全体的な傾向は相変わらず警告を発しているのです。永続する真の変化を起こすには、霊的な源に返るしかないと、わたしは思います。預言者の勧告に聞き従う必要があるのです。

現代の啓示である家族の宣言から再び引用しましょう。「家族は神によって定められたものです。……子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。」

この現代の啓示の霊感あふれる言葉について考えるとき、わたしはよい家庭で育てられるという祝福に感謝します。両親がこの世の名声や富よりも、神から授かった子供のことにもっと関心を寄せる家庭です。

わたしは8人兄弟の上から2番目でした。家族はユタ州北部の小さな農場に住んでいました。家が貧しかったので、恵まれたことに、幼いころから働く習慣を身に付ける必要がありました。事実、収入が限られていたので、子供たちは儉約し、ある程度の年になればすぐに家計を助けるように求められました。怠けることについて、父には好き

な言葉がありました。「怠けた暮らしほど退屈なものはない。それをやめて休めないのだから。」

時代は変わりましたが、原則は同じです。今日の両親は、一人一人の子供に、家族のために貢献する機会を与える必要があります。そのような家族では、子供たちがいっそう幸福になり、家庭には愛と一致の精神があります。

わたしはあの小さな農場で学んだのですが、金銭や財産は幸福や成功の鍵ではありません。もちろん、生活を支えるだけには必要ですが、金銭それ自体が、幸福を生み出すことはまずないのです。

我が家の農場では、謙遜<sup>けんそん</sup>について学ぶ機会もありました。作物の収穫や価格が期待できそうなときでも、早霜や雹<sup>ひょう</sup>の被害に遭えば、かろうじて生活するだけの収入しか得られません。

父がよくこう言うのを耳にしました。「試練という学校で鍛えられるのは何でもないが、大変なのはなかなか卒業できないことだ。」

経済的にいつも苦しくても、恵まれた生活でした。家庭に愛がありました。家族のだれもが家庭にいたいと思いました。家族の必要を満たすために、自分の欲しいものをあきらめるのは、わたしたちにとってよい経験でした。

我が家の居間の家具は、雑誌の表紙を飾るような代物ではないのですが、二つだけとても大切なものがありました。ピアノと本棚でした。このありふれた二つの所持品が、成長期に大切な創造的な才能や興味をはぐくむうえで、どんなに重要な役割を果たしたことでしょうか。

よい音楽と書物の影響は、次の世代に受け継がれていきました。わたしたちの家庭では、テレビでさえ、このピアノや本棚に取って代わることはありませんでした。

わたしたちはまた、両親から祝福を受けました。二人は対等<sup>たいりょう</sup>の伴侶として、家族を育てるというきわめて重大な責任を果たしました。わたしは、両親が最も効果的な方法、すなわち模範によって子供たちを教えるのを見て、多くのことを学びました。

父からはこのような教えです。

● 何度も自分の仕事をおいてワードの会員を助けに行く父を見て、義務と慈愛について学びました。

● 父の祈りを聞き、家族やワードの会員に神権の祝福を授ける父を見て、信仰について学びました。

● 年老いた両親の世話をする父を見て、愛について学びました。

● 父が経験や出来事をとらえて従うべき道を教えてくれたときに、標準について学びました。

● 高校時代に、目覚まし時計と一緒に5頭の牛の乳搾りと朝晩の世話を任されたときに、信頼について学びました。

● わたしは、父の不正直な行いを一度も見ることがないと断言できますが、そのことから誠実について学びました。

母からも多くの教えを受けました。

● 開拓者の格言、「使い切るか、間に合わせるか、なしで済ませる」を実践する母から、節約について学びました。

● 子供のために自分はなしで済ませる母を何度も見て、犠牲について学びました。

● 子供のころから道徳的に清くあるように期待されていることをはっきり教えられて、純潔について学びました。

● 家庭で母の愛を目にし、感じるときに、愛について学びました。

● 決して不親切なことをしなかった母から、優しさを学びました。

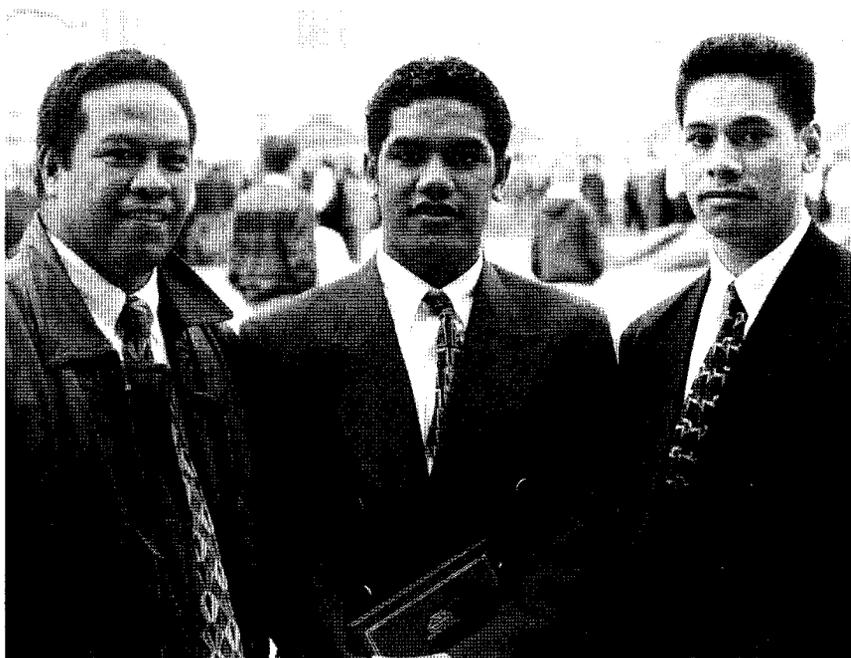
わたしは、愛にあふれた両親から霊的、道徳的に価値あることを学び、絶対的な真理があることをはっきり教わったことに感謝しています。その中には、教会への出席<sup>じゅうぎん</sup>、什分の一、聖文の勉強、両親や教会指導者を敬うことがあります。そして最も大切なことは、両親が言葉ではなく、模範によって教えたことです。

家族を強める際に理解すべき重要な点は、家族の強いきずなは偶然には生まれにくいということです。時間がかかります。決意と、祈りと、働きが必要です。両親が責任を理解し、進んで果たす必要があります。そうすれば、やがて言いようのない喜びと幸福がもたらされるでしょう。

わたしたちの愛する預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、こう勧告しています。「子供たちを養い、愛し続けてください。……どのような資産も、子供ほど貴重ではないからです。」(Church News『チャーチニュース』への引用、1996年2月3日付け、2)

先ほど引用した家族の宣言が、末日の預言者を通して主から与えられた現代の啓示であることを証します。

神が生きておられ、イエスがキリストであられ、この教会が生ける預言者に導かれる主の教会であることを、イエス・キリストの御名<sup>みかど</sup>により証します。アーメン。



# キリストのもとに来る

中央若い女性会長  
マーガレット・D・ナドール

わたしたちがキリストのみもとへ行きたいと思うのは、キリストによる以外に御父のみもとへ戻れないことを知っているからです。



この復活祭の季節に、またどのようなときにも、わたしたちは、人類に与えられた最も意義深い言葉のすばらしさを味わいます。それは、キリストのもとに来るようにとの招きの言葉です。その招きはすべての人に向けて与えられています。聖文にはこのすばらしい招きの言葉が、繰り返し記録されています。次の賛美歌には、その内容が美しい言葉で要約されています。

「主に來たれ  
國々や島々より來たれ  
『われに來よ』と主は呼ぶ  
すべての人を呼ぶ」  
（『主に來たれ』『賛美歌』67番）

主はわたしたちを愛し、わたしたちが主を必要としていることを御存じなのでこの招きの言葉を下さるのです。主はわたしたちを助け癒してください

ます。主がわたしたちをよく理解しておられるのは主御自身の体験のゆえです。「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは……御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」するためでした（アルマ7：11—12）。わたしたちがキリストのみもとへ行きたいと思うのは、キリストによる以外に御父のみもとへ戻れないことを知っているからです。

何年も前のある出来事がありました。今まで片時もそれを忘れたことはありません。それが、救い主の使命について考えさせてくれた出来事だったからです。子供らしい出来事でしたが、意味のある出来事でした。それは、わたしたちの双子の子供がわずか5歳のころにあった出来事です。二人は何とか自転車に上手に乗れるようになりとう一生懸命練習していました。わたしが窓の外に目をやると、やっと乗れるようになった二人にとっては手に負えないほどのスピードで道路を走っているのが見えました。アダムは突然すさまじい音を立てて転んでしまいました。自転車ともつれるように転倒し、その後日に入ったのは、自転車のハンドルや車輪に腕や足がからみ合った姿のアダムでした。その一部始終を見ていた弟のアロンは、急いで自転車を止め、それを放り出して、大好きな兄を助けるために駆け寄りました。小さな双子は、まさしく心が一つでした。一人が苦しめば、もう一人も苦しみ、片方がぐすぐぐされると、もう一方も一緒に笑いだすのです。一人が何かを言い始めると、もう一人がその締めくくり

を言うという具合でした。片方があることを感じると、もう一人も同じように感じるのです。ですから、アロンにとってアダムの衝突は見るに堪えない苦しい出来事だったのです。アダムは惨めな状態でした。ひざは擦りむけ、頭の傷口からは血が出ていました。そして、プライドも傷ついて、泣いているばかりでした。5歳のアロンは、そとアダムが立ち上がるのを助け、その傷を調べると、次に最高に感動的なことをしたのです。彼はアダムを抱きかかえて家まで運んだのです。いや、何とか運ぼうとしたのです。自分と同じ大きさの体のアダムを抱いて運ぶのは容易なことではありません。しかし、アロンはそれをしようとしたのです。自分の力を振り絞って兄を抱き上げ、半分引きずるようにしながら、やっとの思いで玄関の所まで着きました。そのときには、アダムはもう泣きやんでいました。ところが、アロンの方が泣いているのです。「アロン、どうして泣いているの」と聞かれた彼が答えたのは「だって、アダムがけがしたんだもの」という返事だけでした。彼は兄を助けるために家まで運ぼうとしました。家に着けばそこには、何をしたらいいかを知っている人がいました。傷口をきれいにし、包帯を巻き、手当てをしてくれる人がいました。そうです、アロンは愛のある家庭にアダムを運んだのです。

困っている双子の兄が弟に助けられたのと同じように、わたしたちも皆、救い主イエス・キリストによって抱え上げられ、助けられるのです。キリストはわたしたちが感じるのと同じように感じ、わたしたちの心を御存じです。キリストの使命は、わたしたちの涙をぬぐい、傷を清め、その癒しの力をもって祝福することです。キリストは、そのたぐいえない愛の力をもってわたしたちを天の御父のおられる家に運ぶことがおできになります。

神の子供であるわたしたちが互いに手を差し伸べ合い、助け合い、人々をキリストのみもとへさらに近づけるなら、主はきっとお喜びになるでしょう。「わたしの兄弟であるこれらの最も小

さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と主はお教えになりました(マタイ25:40)。また主はわたしたちが「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰め」(モーサヤ18:9)、そして「愛をもって互に仕え」るように望んでおられます(ガラテヤ5:13)。

スーザン・エバンス・マックロードはこう表現しています。

「われ主を愛して その道進まん  
奉仕の業なし 力み悟らん  
われ主を愛して 従い行かん

兄弟守りて その傷癒さん  
迷いて疲れし 子羊訪ねん  
やさしく仕えて 従い行かん

兄弟愛して 主にならい行き  
光と力を 天より受けん  
われ主に仕えて 従い行かん  
(「われ主を愛して」『賛美歌』134番)

愛する兄弟姉妹の皆さん、この歌詞はわたしがへりくだる思いをもって望んでいることを表現してくれています。わたしは教会の若い女性とともに歩むようにという、天の御父から与えられた用向きを、喜びをもって果たし始めています。わたしは主に仕える者として、喜んで働く意志を持っています。そして常に、主にあって力と光を見いだせるように祈っています。

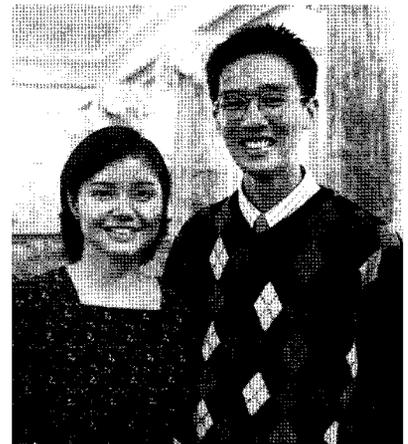
若い女性たちの霊的な成長を助け、キリストのみもとへ来るように彼女たちを備える家族を援助することが「若い女性」の組織の使命であり最大の望みでもあります。

非常に多くの若い女性が、立派にこの道を進んでいます。例えば、聖餐会のどういうところが好きかを、何人かの若い女性に質問したとき、ある少女は「聖餐です。聖餐は主と、主がわたしたちのためにしてくださったすべてのことを思い起こさせてくれるからです」と答えてくれました。また別の若い女性は「聖餐会に出席することによっていつも心が満たされます。わたしは聖餐を受けるのが大好きです」と言

いました。どのくらい祈っているかを聞くと、多くの若い女性が「朝と夜」と答えてくれました。彼女たちは、試験の前や試練のさなかに祈り、聖文を読んでいます。このすばらしい若い女性たちは、個人の備えを行いながら、人々の生活に祝福をもたらしています。

彼女たちの愛の奉仕を受けた人から寄せられた感謝の手紙をお読みしたいと思います。

「[わたしのワードの]若い女性たちは文字どおりわたしの命の恩人です。そのときわたしはまだ29歳の若い監督で4人のかわいい娘がいましたが、その中の一人は、わたしの妻が天の御父のみもとへ召されたときに、まだほんの小さな赤ちゃんでした。わたしは娘たち一人一人と話し、母親の死が彼女たちにどのような衝撃をもたらすのか尋ねてみました。4歳のエミリーは多くのことを心配していました。中でも『教会へ行くとき、だれがわたしの髪をとかして、カールしてくれるの。だれがりボンを付けてくれるの』と心配していました。それはわたしにとっても良い質問でした。『だれがそれをするのか?』わたしは、家族全員ができるだけ今までどおりに生活したいと考えていました。ということは、わたしが新しい生活の仕方をすべて学ばなければいけないということでした。わたしは娘たちの父親であり、ただ一人の親なのです。しかし、母親の役割を果たすだけの技術を身に付けていないことに気づきました。それで、わたしはワードの若い女性に、髪の手入れの仕方を教えてほしいと頼みました。彼女たちはわたしの家に何度も足を運び、手を取って教えてくれました。6か月の娘ナタリーの洗髪の仕方まで難なく教えてくれました。『この訓練が終了]するころには、わたしは娘たちの髪を、かわいいヘアスタイルにまとめ上げることができるほどになっていました。また、その技術だけでなく、その若い女性たちはわたしのこれからの人生がどのようなものになろうとも、4人の娘の父親として娘たちを愛し、世話をし、ともに歩んでいけるという自信を与えてくれたのです。」マイケル・マ



ーストン兄弟、心温まるお手紙ありがとうございました。

世界中にいるすばらしい若い女性たちの両親が、愛をもって彼女たちを導くという親としての務めに、常に感謝の気持ちを抱いておられるように祈っております。若い女性の指導者たちが、各自の責任が持つ永続的な重要性をよく理解するように願っております。また、一人一人の若い女性が、天の御父の娘であることがどれほどの祝福であるかを理解するように祈っています。天の御父は彼女たち一人一人を深く愛し、成功するように望んでいらっしゃいます。

最後に、わたしの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。まず、キリストがお教えになった愛に満ちた家庭で育てられたこと、そして、愛する夫スティーブンと歩みを共にできることに感謝しています。夫との生活の中でわたしは常に祝福され、備えられ、支えられてきました。また、大切な子供たちにも感謝しています。いつも優しく助けてくれる子供たちの生き方は、わたしを励まし、大きな喜びを与え、何度も進むべき道を示してくれています。

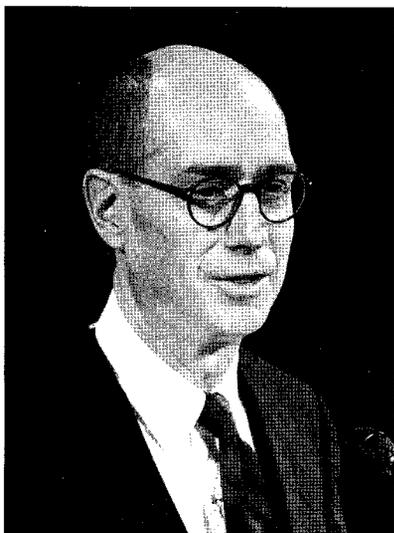
キリストのみもとへ来るようにとの招きを受け入れるとき、主がすべての傷を癒してくださることを証いたします。主はわたしたちの重荷を負い、運んでくださいます。そしてわたしたちは「主の愛の御腕に永遠に抱かれている」ことを感じるができます(1ニーフай1:15)。イエス・キリストの御名によってお話ししました。アーメン。

# わたしたちが一つと なれるように

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング

世の救い主は、一つになることと、そのために自分を変える方法について話されました。



**世**の救い主イエス・キリストは、主の教会に属する人々にこう言われました。「一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」(教義と聖約38:27) 男女が創造されたとき、結婚によって一つとなることが、希望としてではなく、戒めとして与えられました。「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2:24) 天の御父はわたしたちが心一つにするように望んでおられます。この愛における一致は、単なる理想ではありません。必要不可欠なものなのです。

一つになれるという要求は、この世だけのものではありません。終わりが無いのです。最初の結婚は、アダムとエ

バがエデンの園で死なない状態のときに、神によって行われました。神は創世の初めから、男女が夫婦として結び合い、義にかなった完全な一致の中で永遠の家族になりたいと望むようにされました。また、神の子供たちが、すべての人と平和に暮らしたいと願うようにされました。

しかし墮落によって、一致した生活が簡単ではないことが明らかになり、間もなく悲劇が起こりました。カインが弟のアベルを殺したのです。アダムとエバの子供たちは、サタン<sup>かき</sup>の誘惑を受けようになりました。サタンは憎しみをもって巧妙に目的を達しようとし、それは天の御父と救い主の目的とは正反対です。神は完全な一致と永遠の幸福を与えてくださいます。神とわたしたちの敵であるサタンは、創世の以前から救いの計画を知っていました。永遠の命だけが神聖で喜びにあふれた家族関係を永続させることも知っていました。サタンは家族を引き裂いて、惨めな状態にしようとし、人の心に不和の種をまいて、分裂を起こさせようとし、分裂を起

だれでも一致と分裂の両方を経験しています。時々、家庭やほかの場所で、人のために自分のことを後回しにする愛と犠牲の精神を見たことがあると思います。まただれでも、仲たがいや孤独の悲しみや寂しさを知っています。どちらを選ぶべきか助言は要りません。分かっているからです。しかしわたしたちは、この世で一つとなれるように、

そして来るべき世で永遠にその関係を持つにふさわしくなるように、願う必要があります。また、何をすべきか知るために、この偉大な祝福がどのようにしてもたらされるか理解する必要があります。

世の救い主は、一つになることと、そのために自分を変える方法について話されました。この世を去る前に、使徒との最後の集まりで祈りをささげ、その中ではっきり教えられたのです。その神聖で美しい祈りは、ヨハネの福音書に記録されています。すべての人が永遠の命を得られるように、恐ろしい犠牲を払う時が近づいていました。主はまさに、御自身が聖任し、愛し、教会を導く鍵<sup>かき</sup>を託した使徒たちのもとを離れようとしておられました。そこで主が天の御父に、完全な息子が完全な父に、祈られたのです。その言葉から、家族が一つとなり、救い主とこの僕<sup>しんべ</sup>に従うすべての天の御父の子供たちが一つとなる方法が分かります。

「あなたがわたしを世につかわさるるように、わたしも彼らを世につかわしました。」

また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ17:18-21)

このわずかな言葉の中で、主はイエス・キリストの福音がいかにかに人々の心一つにするか明らかにされました。主の教えられた真理を信じる人々は、権能を持つ僕から儀式と聖約を受けることができます。そして、儀式と聖約に対する従順を通して、自らの性質<sup>かき</sup>を変えるのです。このように救い主の贖いによって、わたしたちは聖別されま

す。そうすれば、きっと一つとなって生活でき、この世では平和を得て、永遠の世では御父と御子とともに住めることでしょう。

当時の使徒や預言者たちの務めは、今日と同じように、アダムとエバの子孫をイエス・キリストを信じる信仰の一致に至らせることでした。彼らが教えたことも、わたしたちが教えることも、その究極の目的は、家族が一つになることです。それは夫、妻、子供、孫、先祖、そしてついには、自ら選択するアダムとエバのすべての家族に及びます。

覚えていると思いますが、救い主は、使徒たちが「真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします」と祈られました（ヨハネ 17：19）。聖霊は聖別する御方です。聖霊を伴侶にできるのは、主が預言者ジョセフ・スミスを通してメルキゼデク神権を回復されたからです。神権の鍵は今地上にあります。その力によって、聖霊を常に伴侶とする聖約を結ぶことができます。

人々が御霊とともにいると、調和を期待することができます。御霊はわたしたちの心に真理の証を告げて、その証を分かち合う人々を一つにします。神の御霊は決して争いを起こしません（3ニーファイ 11：29参照）。また、不和のもとになる差別感情をもたらしません（ジョセフ・F・スミス『福音の教義』127参照）。むしろ平安と一体感へと導きます。心を一にするのです。一致した家族、一致した教会、平和な世界は、心を一にされることによるのです。

子供でも、聖霊を伴侶にするために何をすべきか理解できます。聖餐の祈りが教えています。聖餐会に出席して毎週聞く祈りです。この神聖なひとときに、わたしたちはバプテスマで交わした聖約を新たにします。そして、教会員に確認されたときの聖霊を受けるという約束を、主によって思い起こすのです。聖餐の祈りにこうあります。「進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを……証明して、いつも



御子の御霊を受けられるように……。」（教義と聖約 20：77）

わたしたちは聖約を守ることによって御霊を受けることができます。第1に、主の御名を受けると約束します。すなわち、自分を主のものに見なすのです。生活の中で主を最優先します。自分の望みや、世の中で望むように教えられることではなく、主が望まれることを求めるのです。この世の事柄を何より先に愛しているかぎり、平安はありません。物質的なものによって家族や国家に快適な生活をもたらそうとしても、結局は分裂に終わってしまいます（ハロルド・B・リー、*Stand Ye in Holy Places* 『聖なる場所に立ちなさい』97参照）。しかし、主が望んでおられることを互いに行うならば、これは主の御名を受けた人の自然な行為ですが、やがてわたしたちは地上における天国のような霊的な状態に達することができますでしょう。

第2に、いつも主を覚えると約束します。わたしたちは主の御名で祈る度にこれを行います。特に、頻繁にしなければならぬことですが、赦しを求めるときに、主を覚えます。このとき、悔い改めと赦しを可能にした主の犠牲を思い起こすのです。また嘆願をするとき、天の御父との仲保者である主を思います。そして、赦しや平安がもたらされたとき、主の忍耐と永遠の愛を心に刻むのです。こうしてわたしたちの心は愛で満たされます。

わたしたちはまた、家族で祈るとき

や聖文を読むときに、主を覚えるという約束を果たします。朝食のテーブルを囲んだ家族の祈りで、子供の一人がその日に試験や何か発表のある兄弟のために祝福を求めることができます。そして祈りがかなうと、祝福された子供は朝感じた愛と、その祈りの仲立ちをしてくださった主の優しさを忘れないでしょう。心が愛で結ばれるのです。

主を覚えるという聖約は、家族で聖文を読む度に守っています。聖文は主イエス・キリストを証します。それが聖文のメッセージであり、常に預言者たちのメッセージだからです。たとえ子供がその言葉を覚えていなくても、聖文の真の著者イエス・キリストのことは忘れないでしょう。

第3に、聖餐を取るとき、すべての戒めを守ると約束します。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は、総大会の説教で何度となく一致について語り、従うものを選ぶことについて、次のように警告しました。「主は無駄なものや不必要なものは何一つ与えておられません。主は聖文を、わたしたちが救いを得るためになすべきことで満たされました。」

クラーク副管長はさらにこう続けています。「聖餐を取るとき、わたしたちは主の戒めを守ると聖約します。これに例外はありません。区別も、差異もありません。」（*Conference Report* 『大会報告』1955年4月、10-11）クラーク副管長は、わたしたちがたった一つの罪でなく、すべての罪を悔い改め

るように、戒めすべてを守ることを聖約すると教えています。難しそうに聞こえますが、簡潔です。ただ救い主の権能に服し、主が命じられることにすべて従うと約束します。家族として、教会として、天の御父の子供として、わたしたちを一つにするイエス・キリストの権能に従うのです。

主は預言者を通して、謙遜な僕に権能を授けられます。この信仰により、ホームティーチャーや訪問教師の召しが主の務めになるのです。主の指示により、主に代わって行きます。普通の男性と10代の後輩同僚が家庭を訪れ、天の力により、家族が一致して、かたくなや偽り、陰口、悪口がないように助けを与えます。主がこれらの僕を召されるといふ信仰があれば、責められたときも彼らの欠点を無視できるでしょう。人間としての弱点よりも、善意がはっきりと見えてくるでしょう。怒る気持ちよりも、その人々を召してくださった主への感謝の気持ちがわき上がってくるのです。

わたしたちが守らないと、一致が崩れる戒めもあります。何を話すか、また相手の言葉にどう対処するかについての戒めです。人の悪口を言うてはなりません。互いの良い点を見て、できるだけ良いことを話すのです（デビッド・O・マッケイ『大会報告』1967年10月、4-11参照）。

同時に、神聖なものを侮辱する人に



は、反対する態度を執らなければなりません。そのような攻撃の結果として、御霊が汚され、争いや混乱が起こるからです。スペンサー・W・キンボール大管長は、争わずに立場を守る方法を教えています。病院の担架で運ばれていたとき、いらだった付き添い人が主の名をみだりに口にすることを聞いて、こう言ったのです。「やめてください。それはわたしの主のお名前です。」一瞬静まり返った後、その人が小さな声で「すみません」と言いました（*The Tea-chings of Spencer W. Kimball* 【スペンサー・W・キンボールの教え】エドワード・L・キンボール編、198）。靈感と愛にあふれた叱責により、一致をもたらすことができます。しかし、聖霊に導かれたときに行わないと、争いを招くことになるでしょう。

一つとなるためには、自分の気持ちについて守らなければならない戒めがあります。たとえ傷つけられても、相手を赦し、決して悪意を抱かないことです。救い主は十字架の上で模範を示されました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」（ルカ23：34）わたしたちには、傷つけてくる人の気持ちが分かりません。また自分の怒りや心の痛みの源がすべて分かるわけでもありません。使徒パウロは、自分自身を含め、世の不完全な人々をどのように愛するか教えています。「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。」（1コリント13：4-5）それからパウロは、自分のことを忘れて人の過ちを責めることに対して重大な警告を与えています。「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。」（1コリント13：12）

聖餐の祈りが毎週思い起こさせるように、一致の賜物はイエス・キリスト

の福音の律法と儀式に従うことによってもたらされます。主の御名を受け、いつも主を覚え、すべての戒めに従うという聖約を守るとき、主の御霊を伴侶として受けるのです。それによって心は和らぎ、わたしたちは一つとなります。しかし、この約束には二つの警告があります。

まず、聖霊がとどまられるのは、わたしたちが清い状態で、この世のものに執着していないときだけです。汚れた選択は、聖霊を追い出します。御霊は、この世のことより主を選ぶ人にしか宿らないのです。「清くあれ」（3ニーファイ20：41；教義と聖約38：42）、「心を尽くし、勢力と思いと力を尽くして、主なる神を愛」しなさい（教義と聖約59：5）、これらは提案ではなく、戒めです。御霊を伴侶とするうえで欠かせません。御霊なしに一つになることはできないのです。

もう一つの警告は、高慢です。御霊によって和らげられた家族や人々が一つになると、大きな力がもたらされます。やがてその力が世の中で認められるようになります。そして褒められ羨望的になると、わたしたちは高慢になるかもしれません。高慢は御霊を妨げます。不一致の源である高慢を防ぐ方法があります。それは、神が与えてくださる恵みを、主の愛のしるしとしてだけでなく、周囲の人々とさらに大いなる奉仕によって交わる機会としてとらえることです。夫婦が一致するには、似ている点から互いを理解し、異なる点から互いを補い合って、伴侶や周囲の人々に奉仕していくことです。同じようにして、わたしたちは、教会の教義を受け入れなくても天の御父の子供たちを祝福したいと願う人々と一致できます。

わたしたちは「平和をつくり出す人」（マタイ5：9）になって、祝福された神の子と呼ばれるにふさわしくなれるのです。

父なる神が生きておられ、御子イエス・キリストが教会の頭で、すべての教会員に「平和の旗」を掲げるように求めておられることを、イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

イエス・キリストの証に雄々しく生きているヒロインに関する話は、わたしたちの身近にたくさん見いだせます。しかし彼女たちの話は、人々の間で語り継がれるべきでありながら、ほとんど称賛を受けることがありません。



さて、わたしの愛する友人の皆さん、わたしは聖なる御霊の導きを祈っています。皆さんがわたしを大管長として支持してくださってから、今日で3年が経過しました。ここで少し私的なことを言わせていただきますが、わたしは皆さんの愛と支持に、そして祈りと信仰に心から感謝しています。わたしは精力的にも体力的にも、もはや若人と肩を並べることはできません。年を取ってきたわたしは、ヘイト兄弟に負けないように頑張っています。瞑想と祈りで時間を過ごすことも多くなってきました。ロッキングチェアに座り、医師の勧める薬を飲みながら、穏やかな音楽に耳を傾け、宇宙の出来事について思いをはせるのも悪くないかもしれないと思うこともあります。しかし、そのような生活には、

何のチャレンジもなく、人々の役に立つものもありません。

わたしはむしろ立ち上がって行動を起こす方を望みます。決意と目的に満ちた毎日を送りたいと考えます。目を覚まして時間をすべて使って、人々を励まし、重荷に苦しむ人々を祝福し、信仰を確立し、証を強める手助けをしたいと願っています。ある寛大な友人のたいなる好意のおかげで、わたしはこの3年の間に、世界各地を飛び回り、何十という国々で教会員を訪ねる機会にあずかってきました。何千、何万という人々が集まり、ある場所では、会場となったスタジアムまで教会員を運ぶバスが200台以上並ぶような状況でした。

その間、富める人々とともに集ったこともありましたが、貧しい人々とともに集うことの方が多くありました。この世のものに貧しい人々や、教会の面からも貧しい人々です。わたしはいささか目の色の異なる人々もいました。また、肌の色の異なる人々もいました。しかし、一度そうした人々の中に入れば、そのような差異は消えうせ、まったく無意味なものになってしまいます。皆、わたしたちの御父の息子娘となり、神聖な生得権にあずかっている子供たちとなるのです。わたしたちの話す言葉は違っていても、皆、共通の言語である兄弟愛は理解できるのです。

そうした人々にお会いするために遠方まで旅をすることは、疲れることですが、人々としばらく一緒に時間を過ごした後でその人々のもとを離れるの

は、つらいものです。どこへ出かけるときも、集会が次々に計画されており、わずかな時間の滞在しか許されていません。もっと長く一緒に時間を過ごせたらと願います。集会の終わりには、自然に「神よ、また逢うまで」(『賛美歌』85番)の歌がわき上がってきます。皆、涙をぬぐうためにハンカチを取り出し、やがてそのハンカチを、惜別の思いを込めて振り続けるのです。いちばん最近では、わずか7日間のメキシコ滞在中に、別々の都市で、11の大きな集会を開きました。

わたしのアドレナリンが刺激されるのは、そのようなすばらしい人々とお会いしているときです。さらに、わたしの活力の源は、彼らの愛に満ちたまなごしなのです。

わたしは終日、自分の執務室にこもって時間を過ごし、そのような生活を何年間も続け、山積する問題を処理することもできるでしょう。そうした問題の大半は、それほど重大な結果を引き起こすようなものではありません。実際、執務室でそのようにして過ごすこともあることは事実です。しかし、わたしは、執務室から出て、人々のもとへ行くことに、もっと大きな使命を、また、もっと大きな責任を感じています。この何千、何万という人々は、いや、この数百万という人々は、一つのものを共通して持っています。それは一人一人が持っている証です。この業が、わたしたちの天の御父である全能の神の業であるという証であり、カルバリの十字架上で亡くなり、復活された主イエスは、明確に神と異なる存在として、現に今も生きておられるという証であり、さらに、この業は、最後のすばらしい神権時代に回復された、その御二方の業であるという証であり、さらに、古代の神権があらゆる鍵や権能とともに回復されたという証であり、また、『モルモン書』は世の贖い主について証するためにちりの中から語り始めた記録であるという証です。

わたしたちが証と呼ぶこの確信は、教会の偉大な力です。それは信仰と行動の源泉です。言葉で説明することも、測ることもたやすいことではありません

ん。理解し難い、不思議なものです。それでも、この地上にある様々な力と同様に、現実に存在し、しかも、強力なものです。主は、ニコデモにお話しになったとき、その証について、次のように言われました。「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである。」(ヨハネ3:8) わたしたちが証と呼ぶこの確信は、定義することも簡単ではありませんが、しかし、その実は明白です。聖なる御霊がわたしたちを通じて証をしておられるのです。

個人の証は、人々が教会に加入するとき、その生き方を変える要因になります。その証があると、教会員は主に仕えるときにはあらゆるものを捨てても仕えたいという気持ちになります。この証は静かな励ましの声であって、信仰によって歩いている者を、その生涯の終わりの日まで、休むことなく支え続けてくれるものなのです。

証とは神秘的で不思議なものであって、神から人に与えられる賜物です。人が奉仕の業に召されるときには、証は貧富の差を超越した働きをします。教会員の心の中にこの証があると、進んで義務を果たそうという気持ちになります。証は、若い人も年老いた人も同じように持っています。セミナーの生徒も、宣教師も、監督も、ステーク会長も、伝道部長も、扶助協会の姉妹も、中央幹部一人一人も、皆同じように持っています。証は、教会員であること以外には特に責任のない人々から聞くこともあります。証は、この業に不可欠なものです。証は、主の業を全世界に向かって進めるときの原動力となっています。証は人を行動へ駆り立てます。証があると、わたしたちは求められていることを実際に行うようになります。証は、人生には目的があり、ほかよりはるかに大切な事柄が存在するというのを、そして、わたしたちは永遠の旅路の途中であり、また、わたしたちは神に報告をする責任があるということ、確信させてくれます。

アメリカの詩人エミリー・ディキンソンは、そうした証の一面を次のよう

に表現しています。

「わたしは原野を見たことがない。  
海も見たことがない。  
それでもわたしは知っている、  
ヒースの花も、波のことも。  
わたしは神と話したことはない。  
天を訪ねたこともない。  
それでも存在は確かなのだ。  
まるで地図でもあるように。」

(“Chartless”, *A Treasury of the Familiar* 「地図のない旅」『愛唱詩集』ラルフ・L・ウッド編, 179)

最初は弱く、どこか頼りなさそうに見えても、求道者が改宗の道へと歩み始めるのは、この証を持つようになるからです。そして、改宗者が確固たる信仰を持つようになるのも、この証のためです。この確信があったからこそ、わたしたちの先祖は、イングランドを後にし、ヨーロッパの国々を後にしたのです。そして、悲惨な目に遭いながらも大海を渡り、歩みの遅い牛や壊れそうな手押し車のわきを歩きながら、西部の山々に向かって、一向に終わる気配のない旅を続けたのです。先祖たちは、苦しみ、働き、幾千という人々はその運命の旅の途中で亡くなりました。その証の精神は今、わたしたちの代に至るまで伝えられています。わたしたちは、先祖たちの貴い信仰を受け継ぐ者なのです。

教会が組織されている所ではどこでも、この証の力が感じられます。わたしたちは自らの足で立ち、「わたしたちは知っています」と言います。まるであらかじめ相談したかのように、わたしたちはそう言います。わたしたちがそう言うのは、ほかに表現する言葉を知らないからです。はっきりしていることは、神が生きておられ、イエスは確かにキリストであり、この教会は御二方の大義であり王国であるということ、わたしたちが確かに知っているということです。使う言葉は簡潔でも、その言葉にかける思いは心からわき上がってきたものです。教会が組織されている所では、また、宣教師が福音を教えている所では、そして、教会員が

その信仰を人々に伝えている所では、決まってこの証の影響力が感じられるのです。

証には論議の余地がありません。反論する人たちは、聖句を引用し、教義について延々と議論を仕掛けてきます。そういう人たちは賢く、説得力のある場合もあるかもしれません。しかし、ある人が「わたしは知っています」と言ったら、それ以上論議することはできないでしょう。その言葉は相手に受け入れられないかもしれません。しかし、確信をもって語りかける心の底からの静かな声を、論議したり、否定したりすることのできる人がいるのでしょうか。

最近わたしがメキシコで聞いた話を皆さんに紹介したいと思います。トレオンという所で、わたしは立派な車で送迎していただきましたが、今日の話はその車の持ち主の話です。その持ち主の名は、デイビッド・カスタンニョーダといいます。

30年前、彼と奥さんのトマサと子供たちは、トレオンの近くの乾燥地にある、小さな荒れた牧場に住んでいました。所有しているものは、30羽の鶏と、2匹の豚と、1頭のやせた馬だけでした。鶏はわずかながらも卵を産んで家族を支え、時にはささやかな収入をもたらすこともありました。生活自体は貧困でした。そんなある日、宣教師がこの家族を訪ねたのです。カスタンニョーダ姉妹はこう言っています。「長老たちはわたしたちの目から覆いを取り去り、生活に光をもたらしてくれました。わたしたちはイエス・キリストについて何も知りませんでした。長老たちが訪ねてくれるまで、わたしたちは神様のことについて何も知らなかったのです。」

姉妹は学校教育を2年しか受けておらず、ご主人はまったく受けていませんでした。長老たちはこの家族を教え、ついに彼らはバプテスマを受けました。やがて、この家族はベルメヒーヨという小さな町に引っ越しました。幸いなことに、彼らはこの町で事故車を買集める廃車処理のビジネスを始めることができました。この仕事を通じて、

保険会社やそのほかの会社との提携も始まりました。父親が5人の息子さんと一緒に働くこのビジネスも、次第に軌道に乗り、業績も上がってきました。純真な信仰によって、<sup>じゆうふん</sup> 什分の一も納め、主に全幅の信頼を置いて、福音の教えに従った生活をしました。召されればどのような職であっても一生懸命仕えました。息子さんのうち4人と娘さんのうち3人が伝道に出ました。今、いちばん末の息子さんがメキシコのワーハーカで伝道中です。今では、この家族は、ビジネスの分野でも立派に成功を収め、恵まれた生活を送っています。彼らを批判し、あざける人々もいます。しかし、彼らの答えは、自分たちの生涯は主の力で導かれているという証なのです。

この家族に影響されて、親族や友人の中から200人ほどが教会に加わりました。また、親族や友人の息子娘が、30人以上伝道に出ました。今、教会堂が建っている土地は、この家族が寄付したものです。

立派に成長した子供たちと両親は、毎月順番にメキシコ・シティーへ出かけて行きます。神殿で奉仕をするためです。この家族は、人々を高め変えてくれる主の業の偉大な力の生きた証です。この家族と同じように、この業が真実であるという証がその生活の中にもたらされたときに、モルモンの教えに伴う奇跡を実際に体験した人々は、世界中に何千何万といふのです。

この確信、この証は、神のあらゆる賜物の中<sup>たまもの</sup>でも最も貴重なものの一つとすることができます。適切な努力をすれば、これは天から間違いなくもたらされるものです。人がその心の中に、この偉大な末日の業が真実であり、その業を指揮しておられるのが生ける神と主イエス・キリストであるという確信を得ることは、この教会に属するあらゆる人々の特権であり、責任です。

イエスはそうした証を得る方法を、次のような言葉で説明されました。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。

神のみこころを行おうと思う者であ



れば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:16-17)

わたしたちが、仕え、研究し、祈るにつれて、信仰も知識も深まっていくのです。

イエスが5,000人の飢えを満たされたとき、その人々はイエスの行われた奇跡を認め、不思議に思いました。しかし、戻って来た人々はわずかでした。主はその人々に、御自分の使命は御父から託されたものであるという教義を教え、自らが命のパンであると言われました。そして、人々が教えに関心を持たず、むしろ、肉体的飢えを満たすことにのみ関心を持っていることに触れて、人々をお責めになりました。この主の御言葉と教えを聞いて、中にはこう言う者もいました。「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか。」(ヨハネ6:60) こんな人物の教えていることを、だれが信ずるものか、と言うのです。

「それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか。」

〔主は幾らか落胆した気持ちでおっしゃったことでしょう。〕

シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましよう。永遠の命の言<sup>ことば</sup>をもっているのはあなたです。』

わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。』(ヨハネ6:66-69)

これは大きな意義を持つ問いかけであり、またそれに対する答えです。わたしたちは皆、同じように自問して見る必要があります。もし、あなたでないとされるのなら、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましよう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。』

生ける神の実在、その愛する御子の神性、この時代における御二方の業の回復、そしてその後の栄光に満ちた数々の現れに対して、心の内からわき起こる静かな確信こそが、わたしたち一人一人の信仰の基となっています。これがわたしたちの証となっているのです。

この大会の冒頭で話しましたように、わたしは最近ニューヨーク州パルマイラを訪れる機会がありました。その辺

り一帯で起こった出来事について、人はこう言わざるを得ません。「それは起こったか、起こらなかったかのどちらかである。灰色の部分、いわば中途半端な部分はない。」

それに対して信仰の聲がささやきます。「それは皆起こったことなのです。ジョセフ・スミスが起こったと言ったとおりに起こったのです。」

近くにクモラの丘があります。この丘から古代の記録が取り出され、それが翻訳されて『モルモン書』となりました。その神聖な出所に関して、人は受け入れるか、拒むか、どちらかを選ぶ必要があります。しかし、その証拠の重さを考えれば、その書物を信仰をもって読んだ人々は、こぞって、「これは真実である」と言うに違いないのです。

そして、わたしたちが、古代の福音の回復、古代の神権の回復、古代の教会の回復と呼ぶ、一連の奇跡的な出来事も、同じように、「真実である」と言うことができるのです。

この証は、これまでも常にそうであったように、今でも、わたしたちが知っているままの真理の宣言であり、また、真理の率直な表明でもあります。この業の頭かしらに立っておられる主に関して、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、実に簡潔で力強い言葉を残しています。

「そして今、小羊あがしについてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」(教義と聖約76:22-24)

これと同じ気持ちで、わたしは自身自身の証を付け加えたいと思います。

わたしたちの永遠の御父は生きておられます。御父は、宇宙の大いなる神として、威厳と力をもって統治しておられます。それでも、その神は、わたしの御父ですので、わたしは、御父が祈りを聞き、心に留め、こたえてくださるという確信をもって、みもとに祈りをささげています。

イエスはキリストであり、神の不滅の御子です。御子は、御父の指示の下に、この地球の創造者となりました。この御方こそ、『旧約聖書』の偉大なエホバであり、やがて、この地上に身を落とされ、メシヤとなられた御方です。さらに、わたしたちを愛するがゆえに、人知の及ばない贖罪しよくざいを果たすために、カルバリの十字架上でその命をささげられた御方です。わたしたちが現在携わっている業は、その御二方の業であり、わたしたちはその僕しもべであって、御二方から責任をゆだねられているのです。以上のことを、イエス・キリストの聖なる御名なにより証します。アーメン。



テンブルスクウェア内のかもめの記念碑は、大会訪問者にとって絶好の会合の場となっている

# 扶助協会

十二使徒定員会会長代理  
ボイド・K・バッカー

**姉妹の皆さんは、扶助協会に出席するという考えを卒業して、所属するという気持ちを持たなければなりません。**



わたしの目的は、不十分ながらも扶助協会への薦めの言葉を述べて、すべての女性の加入と出席を促し、あらゆるレベルの神権指導者の行動を求めて、扶助協会がさらに繁栄するように助けることです。

扶助協会は、靈感に導かれた預言者と使徒によって組織され、名付けられました。そこには輝かしい歴史があります。扶助協会は、困っている人々に常に励ましと生活物資を与えてきました。

姉妹たちの優しい手は、癒しや励ましという穏やかな接触をもたらします。それは、男性の手がいかにか善意に満ちていても、決してまねのできないものです。

扶助協会は女性を霊的に鼓舞し、女性に必要なもの、すなわち「好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」で生活を飾る方法を教えます。大管長会は女性の参加を促して

こう言いました。「なぜなら、扶助協会の働きには、ほかのどの組織にも見られない知的、文化的、霊的な価値があって、姉妹たちの一般的な必要をすべて満たしてくれるからです。」<sup>2</sup>

扶助協会は、母親が娘を育て、夫や息子、兄弟との関係を深め、礼儀、勇気、そして価値ある人に必要なあらゆる徳を養えるように、指針を与えます。扶助協会の発展は、成人女性や少女のためだけでなく、まさに成人男性や少年のためでもあるのです。

数年前に、わたしは妻と一緒に、まだ鉄のカーテンで閉ざされたチェコスロバキアを訪れました。ビザの取得は容易でなく、会員たちの安全や生活を脅かさぬよう細心の注意を払いました。彼らは何世代にもわたり、言語に絶する弾圧の下で、信仰を守るために戦ってきました。

最も心に残った集会は、ある建物の2階で開かれました。ブラインドが下ろされ、夜なのに、出席者はバラバラの時間に、あちこちの方角からやって来ました。人目を引かないようにするためです。

12人の姉妹が集まりました。わたしたちは歌詞だけが印刷された50年以上前の本から、シオンの賛美歌を歌いました。霊的生活のレッスンは、手作りのテキストを使って敬虔に行われました。わたしたちが持つて行くことのできた教会文献の数ページが、夜の間にタイプされ、12部の写しができていました。数少ない貴重な資料をできるだけ多くの会員に分かち合うためでした。

わたしはその姉妹たちへの話の中で、彼女たちが地上で最も規模の大きい、

あらゆる点で最も偉大な女性組織に属していると言いました。そして、預言者ジョセフ・スミスと兄弟たちが扶助協会を組織したときの言葉を引用しました。「わたしは今、すべての女性のために鍵を回します。

この協会は、女性の性質にかなって組織されます。……あなた方は今や、神があなた方の胸に植えられた思いやりの心に従って行動できます。……あなた方がその特権にふさわしい生活をするならば、天使たちは喜んであなた方の友となるに違いないのです。……

この組織が、教会の指導者を通して、全能者の勧告に聞き従うなら、女王たちに命じる力を持つでしょう。」<sup>3</sup>

御霊がそこにありました。敬虔で上品な態度で司会をしていた愛らしい姉妹が、声を上げて泣きました。

わたしは、国に帰ると扶助協会の大会で話す責任があることを伝えて、何かメッセージがあるか尋ねました。数人がメモを書きました。どの言葉も、どの姉妹も、何かを求めるのでなく、与える精神にあふれていました。一人の姉妹の言葉が忘れられません。「姉妹たちの小さな輪から、すべての姉妹たちに心と思いを込めて送ります。主の助けがありますように。」

「姉妹たちの輪」という言葉に御霊を感じました。姉妹たちがその部屋から全世界に広がる輪の中に立っているかのように見えました。わたしは、預言者と使徒たちがかつて見たビジョンをとらえたのです。今や扶助協会は、単なる輪ではなく、大陸中に広がるレースの織物のようになっています。

扶助協会はメルキゼデク神権者の指示の下に働きます。「教会における他のすべての権能または職は、この神権に付属する」<sup>4</sup>からです。それは「神権の規範に従って」<sup>5</sup>組織されました。

姉妹の皆さんは、兄弟たちが神権定員会で男性の必要についてほとんど話し合わないのを知ったら、驚くかもしれません。確かに、そういったことに気を取られていません。福音や神権、家族について話し合うのです。

この規範に従えば、皆さんはいわゆる「女性の必要」に心を奪われることは



大会時のタバナクル内部の様様

ないでしょう。家族を最優先し、自分の組織で奉仕すれば、皆さんの必要はすべて満たされ、怠慢はなくなり、虐待や乱用はすべて正されるでしょう。

地域社会の活動には、皆さんが支援するのに値するものがたくさんあります。しかし、幸福な家族に欠かせない価値観をむしろ傷物もあります。皆さんの必要を真の意味で満たせない旗の下に取り込まれないようにしてください。中央扶助協会の会長が定めた進路から外れてはなりません。会長会の述べた目的は、女性と家族をキリストのみもとに導くのを助けることです。

わたしは伝道部長のときに、伝道部の扶助協会の大会に出席しました。伝道部の扶助協会会長は、比較的新しい改宗者で、教科課程の変更について発表しました。地元の扶助協会の指導者の中にわきにそれる人がいたので、彼女は、中央扶助協会の会長会からの指示にもっと厳密に従うように勧めました。

すると一人の姉妹が立ち上がり、反抗的な態度で言いました。「会長の勧めには従えません。わたしたちは例外

なんです。」少し慌てた会長が、助けを求めて振り向きまわりました。わたしもどう答えていいかわかりませんでした。しかし、激しい勢いのその女性に立ち向かう気にはなれないので、会を進めるように合図しました。そのとき、靈感がもたらされたのです。

この愛らしい扶助協会会長は、小柄で体に障害がありましたが、優しく、しかしきっぱりと言いました。「姉妹、最初から例外について考えるのはよしましょう。まず規則に従って、それから例外に目を向けましょう。」教科課程の変更は受け入れられました。

彼女の助言は、扶助協会や神権組織、家族にも当てはまります。規則と一緒に例外を伝えれば、まず例外を受け入れるものです。

兄弟たちは、自分が神権定員会に所属していることを自覚しています。しかし、実に多くの姉妹たちは、扶助協会は出席すべき一つのクラスにすぎないと考えています。単なる出席でなく、扶助協会への帰属感が一人一人の姉妹の心に養われなければなりません。姉

妹の皆さん、扶助協会に出席するという考えを卒業して、所属するという気持ちを持たなければなりません。

男性は多くの神権の力と権能を有し、多くの知恵と経験を蓄積しているかもしれませんが、家族の安全、完全な教義や儀式、聖約、さらに教会の未来は、女性の肩にも同じようにかかっているのです。家庭や家族の守りは、妻や母親、娘が扶助協会に所属するときに、大いに強化されます。

いかなる男性も、傍らに女性がいなければ完全な神権を受けることはできません。また、預言者ジョセフが語ったように、主の神殿以外の場所で完全な神権を得ることもできません。その聖なる場所では、男性の傍らに女性がいます。そして男性の受けるすべてを分かち合います。男女は個々に、エンダウメントに含まれる儀式を受けます。しかし、伴侶なしに、最高の儀式である結び固めの儀式にあずかることはできません。いかなる男性も、妻からの賜物なしに、ふさわしい父親という崇高な状態に到達できないのです。

家庭と教会において、姉妹たちはその特質を尊重されるべきです。男女の特性が生み出す男らしさと女らしさを消し去るような影響力や活動について、知らずにそれらを助長しないように気をつけてください。父親である男性は、一般に女性の仕事と思われている多くのことを行えます。逆に、母親である女性も、必要となれば、自分の役割をおろそかにせずに、男性の責任と一般に考えられている多くのことを行えます。たとえそうであっても、指導者と特に両親は、家庭と家族の土台に欠かせない明確な男らしさと女らしさがあることを認識する必要があります。何であれ、男女の違いを乱したり、弱めたり、消し去ろうとしたりするものは、家族をむしろ、それにかかわるすべての人から幸福への可能性を奪っていくのです。

家庭において神権が機能する方法は、教会において機能する場合と異なっています。教会では、奉仕は召しによりますが、家庭では選びによるのです。教会における召しは通常、一時的なものです。やがて解任される時が来るからです。家庭や家族における立場は、選びに基づくもので、永遠に続きます。

教会には、明確な神権の系譜があります。わたしたちは、自分を管理する人によって召された場所で奉仕します。

家庭では、夫婦が対等の伴侶として一致し、決定を共にし、常に協力し合います。夫や父親には、靈感を受けてふさわしい指導力を発揮する責任があり、妻はその夫の後ろでも前でもなく、横に並ぶのです。

扶助協会や若い女性、初等協会の指導者は皆、ワードやステークの評議会の一員であり、扶助協会の会員として一つに結ばれています。もし指導者がこれらの姉妹たちの影響力と貢献を無視するなら、その度合いに応じて、評議会や家庭での神権の働きは制限され、弱められるでしょう。

神権定員会で働く兄弟も、評議会に座を占める姉妹も、家庭がいかに大切であるかという意識を、一時たりとも失ってはなりません。

正常に機能しない家族が増加してい

ます。教会は彼らの必要を満たすために、様々な活動や働きかけを行って、家庭から失われたものを補おうとしています。

神権組織と補助組織の指導者、そして両親は特に、こうした活動が指導者と会員の両方に時間や金銭面で負担をかけすぎないように、靈感のもたらす知恵を用いなければなりません。もし負担になるようであれば、思いやりの深い会員は、手もとにわずかな金銭や時間しか残らないために、自分の子供の世話のままならなくなります。家庭に取って代わるのではなく、家庭を支え助けるように細心の注意を払ってください。

責任が重荷になって全部を果たせない場合、両親は知恵と靈感によって判断し、家庭外の活動をどれだけ行うのが自分の家族にとって最もよいか、決めます。評議会に集まった神権指導者は、姉妹や母親の声を注意深く聞かなければなりません。

強固な扶助協会を、母親と娘、ひとり親や独身の姉妹、お年寄り、病弱な人に力強い守りと癒しをもたらします。

初等協会や若い女性の責任に召される姉妹たちは、扶助協会のクラスに実際には出席できないかもしれません。しかし、扶助協会に所属しています。アロン神権の組織で働く多くの兄弟たちも、定員会の集会には出られません。疎外感を持ったり、この無私<sup>selfless</sup>の奉仕について不平を言ったりしないでください。

わたしたちは、子供や、今では孫たちが、仕事や学校で家族から離れるのを見てきました。一人か二人の子供を連れ、家庭に必要な家具など、ほとんど持っていません。

彼らがどこに行こうと、教会員の家族が待っていてくれると思うと、どんなに慰められることでしょう。引越したその日から、夫は神権定員会に、妻は扶助協会に所属するのです。そこで彼女は、自分の母親の代わりに、「おばあちゃん」と呼べる人を見つけて、料理がうまいかいないときや、機嫌の悪い赤ちゃんが病気かどうか知りたいときに、その人に尋ねることでしょう。そして、新しい「おばあちゃん」から賢明で確かな助言を受けるでしょう。

さらに、ホームシックで長い間苦しむときには、慰めの言葉をかけてもらうことでしょう。こうして若い家族、すなわち定員会の夫と、扶助協会の妻は、安心して暮らせるのです。二人には家族を永遠に守るという最高の目標があります。

次の詩は、扶助協会がよく歌われるものです。

シオンの娘、主の業に  
仕えて共に 恵み得ん  
み国の力 強むため  
疲れし者を 救わん

天使の務め、いそしまん  
天よりたもう 召しあり  
やさしき手伸べ、支うため  
愛の泉を 分かたん

み業はわれの手を求む  
心を尽くし、働かん  
みたまの教え、われ助け  
導き、知恵をたまわん<sup>7</sup>

初めに戻りましょう。わたしの目的は、扶助協会への薦めの言葉を述べることです。また、イエスがキリストであり、扶助協会が靈感を通して組織されたことを証することです。扶助協会に出席する姉妹たちのうえに祝福があるように祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 信仰箇条 1: 13
2. *A Centenary of Relief Society* 『扶助協会百年祭』 7
3. *History of the Church* 『教会歴史』 4: 607, 605
4. 教義と聖約 107: 5
5. サラ・M・キンボール, "Auto-biography," *Woman's Exponent* 「自叙伝」『ウーマンズ・エクスポネント』 1883年9月1日, 51
6. 教義と聖約 131: 1-3 参照
7. エミリー・H・ウッドマンシー 「シオンの娘」『賛美歌』 195番

# 「忍び抜いた人たちは さいわいであると、 わたしたちは思う」

十二使徒定員会会員  
ロバート・D・ヘイルズ

今何か困難なことが起きた場合に、それから逃げるような生活をしている人が、後になって堪え忍ぶことができるようになるなどということとは望めません。



聖典の中で、最後まで堪え忍ぶことが必要であると言われています。

「あなたがたは、神の戒めに従順で最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に救われるでしょう。まことにそのとおりです。」(1ニーファイ22:31)

「苦難の中で忍耐強くありなさい。あなたは多くの苦難を受けるからである。しかし、それに耐えなさい。見よ、わたしはあなたの生涯の最後まで、あなたとともにいるからである。」(教義と聖約24:8)

「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。」(ヤコブの

手紙5:11)

神の御心を果たすために試練や苦難を耐え、勇気を示したあらゆる時代の預言者が、忠実に最後まで堪え忍んだ例を示しています。

わたしたちの最も偉大な模範は、救い主であり、贖い主であるイエス・キリストの生涯の中に見出すことができます。カルバリの十字架の上で苦しみを受けられたイエスは、「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と天の御父に叫ばれました(マタイ27:46)。このとき主は孤独を感じておられました。この世の救い主は、御自身の自由意志と選択により、贖いの使命を全うするという選択の自由の結果、一人残されたのでした。

イエスは、御自分が神の御子であることを御存じでした。また、贖いを通して御父の御心を果たすという目的も理解しておられました。イエスが思い描いておられたのは、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」という、永遠に関する事柄でした(モーセ1:39)。

主は、御自分を十字架から降ろすために天使の群れを呼ぶこともおできになりました。しかし、主は忠実に最後まで堪え忍び、御自分が地上に遣わされた目的を全うし、地上に生を受けるすべての人々に永遠の祝福をもたらされたのです。

御父が各神権時代の預言者たちに御子を紹介なさるときに、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」(2ペテロ1:17)、あるいは「わたしの愛する子を見なさい……わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた」と言われましたが(3ニーファイ11:7)、これはわたしにとって大変感動的なことです。

この神権時代において、預言者ジョセフ・スミスは、末日聖徒イエス・キリスト教会の回復という天の御父の御心を果たすために、あらゆる種類の妨害と困難を堪え忍びました。ジョセフは怒り狂った暴徒たちによって苦しめられ、つけねられました。彼は貧困、屈辱的な告発、無慈悲な行いを辛抱強く耐えました。ジョセフに従う人々は、町から町、州から州へと力づくで追い立てられました。ジョセフはタールを塗られ、その上に羽根を付けられたこともありました。また偽りの告発によって投獄されたこともありました。

ミズーリ州リバティに投獄され、自分自身の苦難と聖徒たちが受けている試しと苦しみは、いつになっても終わらないのではないかという、つかの間の深い情動に動かされたとき、ジョセフは次のように祈りました。「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。……まことに、おお、主よ、彼らがどれほど長くこれらの不当な扱いと不法な虐待を受ければ、あなたの心は彼らに和らぎ、あなたの胸は彼らに対する哀れみの情に動かされるのですか。」(教義と聖約121:1, 3) ジョセフに対する答えはこうでした。「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。」(教義と聖約121:7)

ジョセフは、この偉大な業を推し進める働きをやめれば、恐らく自分のこの世での苦しみが和らぐであろうことを知っていました。しかし、彼にはそうすることはできませんでした。なぜなら、彼は自分が何者であり、地上においてどのような使命を託されているかを知っていたからです。そして、彼には神の御心を果たしたいという強い望みがあったのです。

イリノイ州ノーブーをはじめ様々な場所から家を捨て、大平原を横断し、ソルトレーク盆地に入植した開拓者たちも、自分たちが何者であるか、すなわち、自分たちが地上に新たに回復された主の教会の会員であるということを知っていました。また彼らは、自分たちの目標はシオンを見つけるだけでなく、それを確立することだということも理解していました。彼らはそのことを理解していたために、シオンの確立のためにはどのような苦難も堪え忍ぼうとしたのです。

昨年の1年間を通じて、わたしはこの教えを理解している人々に深い感銘を受けました。彼らは日々の生活の中で反対、試練、苦しみを忠実に堪え忍んできました。また、彼らはそのような経験を通して、自分自身を強めるだけでなく、その信仰によって周囲の人々も強めたのでした。

ある若い女性は、自動車事故で受けた頭部の重傷を治療する過程で学んだ幾つかの教訓について次のように書いています。

「1996年の春まで、わたしは自分の強さがどれほどのものかを理解していませんでした。ある日の午後の出来事が、将来どのようなことを学ばなければならないかという自分の予想をまったく変えてしまいました。その前までのわたしには、ほかの高校生たちと同じような将来へ続く道がありました。しかし、その出来事の後、わたしの人生はまったく異なるものになりました。わたしは一度も想像しなかった方法で、自分自身を強める道を歩くことになったのです。……新しいことを学ぶよりも、もう一度学び直す道に入ったのです。……わたしは物の食べ方を学び直しました。口に入れた食べ物を飲み込む方法をまた一から学ぶのはつらい仕事でした。わたしはベッドから車いすに移り、5か月の間に少しづつ、立ち上がり、歩けるようになりました。……わたしはこの1年間様々な試練を通して多くのすばらしい真理を学びました。祈りは確かにこたえられます。断食はわたしの家族に力を与えています。愛がわたしの命を支えてきま



中央若い女性集会で中央若い女性会長とあいさつするゴードン・B・ヒンクレー大管長とトーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長

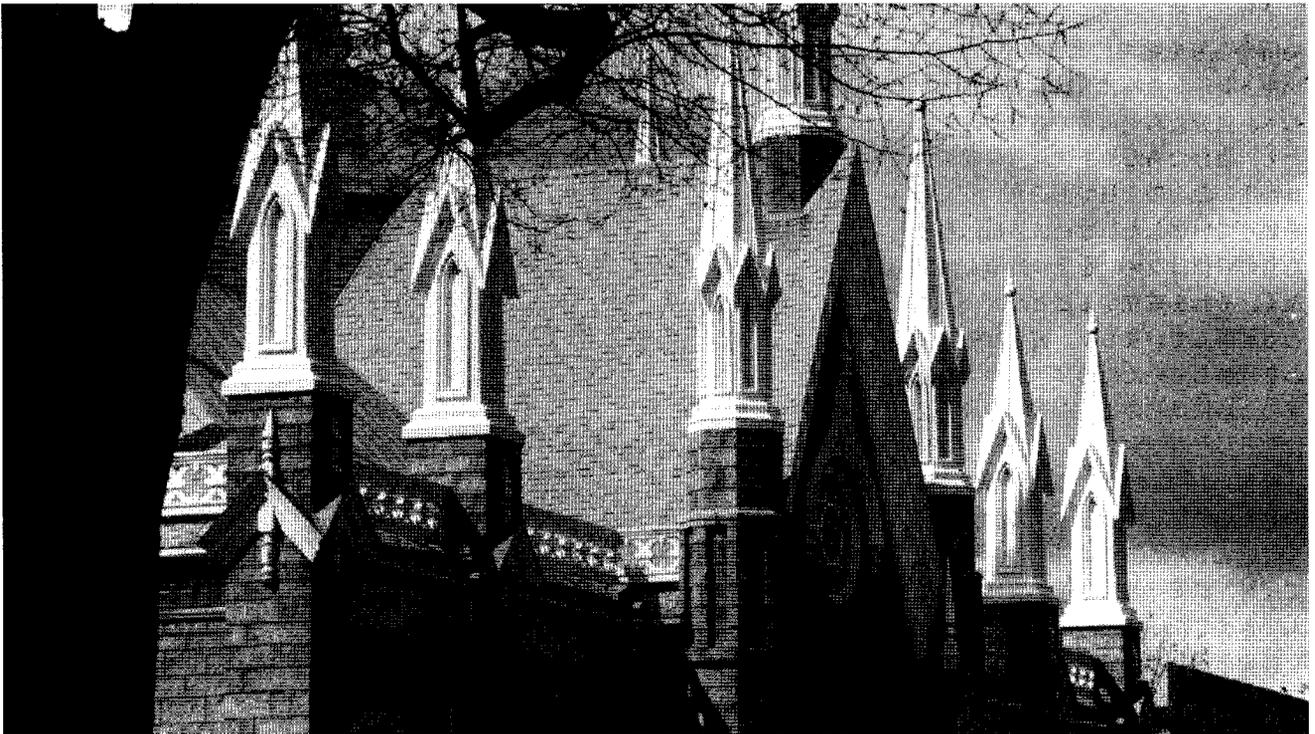
した。……自分がどのようなことに耐えられるかも分かってきました。……それらすべてのことを通して、わたしは自分で考えていたよりもずっと強かったということが分かってきました。そして、助けが必要なきには、それを求めてもよいのだということも学びました。わたしたちには皆限界があり、長所もあれば短所もあります。……一つ一つの知識は……『日々使用するお金』のようにどれもわたしにとって必要なものです。鳥のひなが殻を破って出て行くように、わたしはもう一度飛び方を学んでいます。」(エリザベス・マークレーの手紙より)

しばしばわたしたちは、信仰の試しを経験するまで、自分が何に耐えられるか分からないものです。わたしたちは主から、耐えられない試しを受けることは決してないと教えられています(1コリント10:13参照)。

1968年ジョン・ステイブン・アクワリという名のマラソンランナーがタンザニアの代表選手として国際競技大会に参加しました。「[1位の選手]がゴールインしてから1時間と少したってから、アクワリが……レースの最終走者としてスタジアムに近づいて来ました。彼は〔疲労、足のけいれん、脱水

症、方向感覚の喪失などで憔悴していましたが、]心の中から走り続けるように呼ぶ声があったので走り続けたのです。その後、このような記事が出ています。『若いアフリカのランナーが「勇気」という言葉の意味を実行で示し人間の卓越した精神を象徴してくれました。』ある人にとっては、個人的な報いしかありません。〔メダルはなく、ただ〕彼らは目標としていたことを達成したという記憶だけが残っているのです。』(The Last African Runner, Olympiad Series 『アフリカ人の最終ランナー』オリンピック・シリーズ、脚本・監督・制作/バッド・グリーンズパン、キャビー・プロダクション、ビデオカセット) もう勝ち目がないと分かっているレースなのになぜ完走したのか尋ねられた際、アクワリはこう答えました。「わたしの国は8,000キロも離れた土地でレースに出てスタートを切るためだけにわたしを送り出したのではありません。レースを完走するために送り出してくれたのです。」

彼は自分がタンザニアの代表選手であることをわきまえていました。そして、レースを完走するという自分の目的を理解していました。誇りをもってタンザニアへ戻るためには、最後まで



テンブルスクウェア内にあるアッセンブリーホールの尖塔

堪え忍ばなければならないことを知っていたのです。わたしたちの人生の使命もそれとほとんど同じです。わたしたちは天の御父からただ単に生まれてくるためにこの世に送られてきたのではありません。わたしたちは、堪え忍び誇りをもって天父のみもとに戻るためにこの世に送られてきたのです。

わたしたちがこの世の中で生活することは、現世における試しの一部です。わたしたちに与えられているチャレンジは、世に住みながらも、世の誘惑に屈しないことです。それらの誘惑はわたしたちを霊的な目標から遠くへそらししてしまうものです。一人の人が努力することをやめ、悪魔の策略に屈してしまうと、その人を失うだけでは済まなくなる場合があります。わたしたちが敵に屈すると、この世代のわたしたちに関係する人々も失われてしまうことになりかねません。わたしたちが誘惑に負けると、将来の子孫や家族にも影響を与えるのです。

教会は1代では築かれませんが、教会が着実に成長するには忠実な聖徒が3、4代以上続く必要があります。一つの世代から次の世代へと、最後まで堪え忍ぶ信仰を伝えていくことは、わたし

たちの子孫への計り知れないほどの祝福という、神聖な賜り物なのです。また、わたしたちは一人だけで最後まで堪え忍ぶことはできません。ですから互いに助け合い、励まし合うことが大切なのです。

わたしたちは聖文の中ですべてのことには反対のものがあると教えられています(2ニーファイ2:11参照)。わたしたちが試練に対して心構えができているかどうよりも、試練に対してい心構えができていのかの問題なのです。わたしたちは、何の警告もなくやって来る試練に対していつでも対応できるよう準備しなければなりません。

最後まで堪え忍ぶうえで必要な基本的事柄の中には、次のようなことがあります。まず、自分が何者であるかという認識、すなわち自分は現世の生涯の後に主のみもとへ戻りたいという望みを持つ神の子供であるという認識です。次に、最後まで堪え忍び永遠の命を得る、という人生の目的を理解し、そして永遠への展望をもって、すべてのことを堪え忍ぶ望みと決意をもって従順な生活をするということです。永遠への展望は、この世における妨げを克服し、最終的には永遠の命という約束された

報いと祝福が得られるように、わたしたちを導いてくれます。

もしわたしたちが苦難を忍び、それらをよく耐え、主を待ち望んで、現世における教訓を学ぶなら、主がわたしたちとともにいてくださり、この人生の最後まで励ましを与えてくださることでしょう。「最後まで〔忠実に〕耐え忍ぶ者は救われ」(マルコ13:13)、誇りをもって天の御父のみもとへ戻るができるのです。

わたしたちは、現在の責任を全うすることにより、最後まで堪え忍ぶことができるようになります。そして、それを生涯続けていくのです。今何か困難なことが起きた場合に、それから逃げるような生活をしている人が、後になって堪え忍ぶことができるようになるなどということは望まれません。

最後まで堪え忍ぶことは、神の戒めのすべてに当てはまります。主は若人を宣教師の責任に召されます。宣教師は、友人や家族に別れのあいさつをするために派遣されるわけではありません。誉れある伝道の業を行い、名誉の帰還を果たすために召されるのです。伝道の召しを果たすには、自分が何者であるか、すなわち主の教会を代表する宣

教師であることを理解する必要があるとあります。宣教師たちは、イエス・キリストの福音を受け入れる備えのできた人々を探し出して教え、主の教会を確立する助けを行うという自分たちの目的を理解しています。宣教師たちは、必ずやって来る試練と苦難を克服して行く中で、忍耐力を養っていきます。彼らは新たな技術を学ぶに十分な謙遜さと、最後まで堪え忍ぶという決意を持っています。宣教師がどんなに犠牲を払って伝道に出ても、その宣教師に取っておかれた義になかった祝福を受けるためには伝道中従順でいなければならないのです。

こう言う人がいるかもしれません。「どうしたらわたしのような人間が宣教師になって、最後まで堪え忍ぶことができるのでしょうか。わたしは生まれつき内気で、知らない人に話すなんて、ドキドキして舌がもつれてしまいます。」あるいは「わたしは勉強するのが苦手で、レッスンなんてとてもできそうにありません」という人もいるでしょう。主はわたしたちに、宣教師になったら困難を取り除く、という約束はしておられません。しかし、さらに努力することにより、わたしたちは自分自身の欠点に対処する能力を伸ばしていくことができます。そして、その対処能力は、対人関係、職業、家族の中において、生涯を通して必要とされるものです。どのような人にも、何か克服すべきものがあります。それがほかの人よりも顕著な場合もあります。

わたしたちが宣教師として働き、自分のことを後回しにして主の業を果たし人々を助けることに専念するようになると、すばらしい成長と成熟への機会がやって来ます。若い長老たちは、居心地のよい家庭や友人を後にして、現実の世界に対処していくための技術をマスターしていくとき、一人前の男性となり、主が自分自身を導いてくださることへの信仰を強めていきます。

宣教師は以前には対処したことのない数多くのチャレンジに直面します。伝道地にやって来たときに身に付けていたものをすべて出し切っても、召しを果たすには不十分です。堪え忍ぶた

めには、主から与えられているそのほかの賜物を伸ばすことによって、今日よりも明日と自分を改善していく必要があります。主と伝道の指導者の言葉に耳を傾け、宣教師として求められるすべてのことを行うようになるには、信仰が必要です。もちろん、それは簡単なことではありません。だからこそ、すばらしい賜物となるのであり、そのような大いなる報いが伴うのです。

わたしたちは自分自身が何者であるかを認識し、自分たちの最終目的を成し遂げなければなりません。そしてその後、最後まで堪え忍ぶという固い決意をもって、どのような障害も克服するという決心をする必要があります。

何らかの責任を引き受けるとき、次のように考えなければなりません。「あらゆる尊い手段によって、この務めを果たすすべてを学び、主の方法によってその務めを果たそう。学び、尋ね、調べ、祈ろう。わたしには学び続ける可能性がある。この責任を完遂するまで自分の務めが終わったとは言えない。」これが終わりまで堪え忍び、務めを果たすということです。

堪え忍ぶとは、ただ生き長らえて死が来るのを待つだけではありません。終わりまで堪え忍ぶには、大いなる信仰を要します。ゲツセマネの園で、イエスは「うつぶしになり、祈って言われた、『わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにはではなく、みこころのままになさって下さい。』」(マタイ26:39)

次のように天の御父に祈るには、大いなる信仰と勇気が必要です。「わたしの思いのままにはではなく、みこころのままになさって下さい。」主を信じ、堪え忍ぶという信仰は偉大な強さをもたらします。皆さんの中には、自分に十分な信仰があれば、時には試練や苦難を引き起こす環境を変えられる、と口にする人がいるかもしれません。信仰を用いるのは、環境を変えるためでしょうか、それとも環境に対して堪え忍ぶためでしょうか。これからも、人生の様々な局面を変え、わたしたちが遭

遇している状況を和らげてくださるよう、信仰を込めた祈りをささげられるかもしれませんが、祈りを終えるときは常に、「みこころが行われますように」という思いを持たなければなりません(マタイ26:42)。主への信仰には主に對する信頼も含まれます。よく堪え忍ぶ信仰は、主の御心と人生で生ずる出来事から学んだ教訓を受け入れる姿勢が基盤となっています。

主に信仰を持ち、永遠の事柄に絶えず目を向けるならば、いかなる試しも受け入れられるよう祝福されます。御存じのように、この世の生涯は一時的なものであり、よく堪え忍ぶならば主は次のように約束されています。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」(教義と聖約14:7)

個人として、わたしたちは自分の生涯がいつ終わるか知りません。待ち受けている時代がどれほど困難なものであろうと、堪え忍ぶ力を増し、今日の責任を果たす必要があります。

パウロがテモテに語ったように、わたしたちも次の言葉を語れるよう願っています。「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。」(2テモテ4:7)

「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。」(ヤコブの手紙5:11)

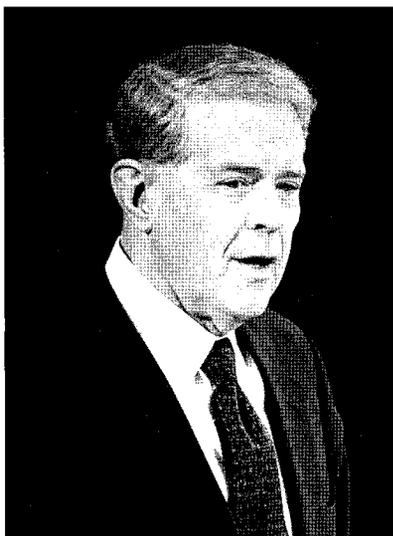
わたしたちが堪え忍んでいる事柄はイエスはすべて御存じです。主はわたしたちが天の御父に祈るよう望んでいらっしゃると思います。わたしたちが忠実で、献身的であるならば、わたしたちの祈りはこたえられ、様々な問題が解決し、不安が解消します。また、真理の光がわたしたちを訪れ、暗闇に満ちた絶望感が消え、わたしたちは主に近い者となり、主の愛と聖霊による慰めを感じるようになります。わたしたちが終わりまで堪え忍んでいく信仰と勇気、強さを見いだし、天の御父の御腕に戻るといふ喜びを得られますように、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

# 特権である什分の一<sup>じゅうぶん</sup>

七十人

ロナルド・E・ポールマン

わたしたちは什分の一の律法を知り、それに従う特権を得ている時代に生きています。この律法に従うことにより得られる祝福は、物心両面にわたるものです。



1930年代、アメリカはひどい経済不況に陥っていました。我が家にはわたしを含めて小さな子供が数人いましたが、父は何か月も仕事がありませんでした。失業者への公的援助はありませんし、教会の福祉プログラムもまだ始まっていません。わたしたちが必要としていたものは数多くあり、貧困状態にあったと言ってもいいくらいでした。子供ながら、親の思い悩む心を感じ取ったものです。

わたしたち家族は毎朝ひざまずき、順番に一人が代表で祈りました。その日は母の番でした。母は幾つかの願い事をして、それから什分の一の律法を守ることを天の御父に感謝しました。わたしはすぐに安心したのを覚えています。什分の一の律法を守ることは特権であり、祝福をもたらします。わたしはそのことを疑いもしませんで

した。母がそれを知っていたからです。その思いは消えることなく、逆に生涯にわたって強くなっていきました。

わたしが初めて納めた什分の一は5セントです。父と監督室に行きました。監督は1セント玉5枚を厳粛な面持ちで受け取り、領収書を書いてくれました。それから立ってデスクの向こうからわたしのそばにやって来て隣に座り、肩に手を置きました。そして、小さな、でも大切なその領収書を渡しながらこう言いました。「ロナルド、よくやったね。これからもずっと今日のように続けられれば、什分の一は完全だよ。」完全という概念は、どんなことであれわたしの能力をはるかに超えているように思われました。ですからただ、良い子になろうと努力しました。でも監督の言葉のおかげで、わたしは福音の基本概念の一つである什分の一については完全を目指しました。そして、物心両面にわたり豊かな祝福を頂いています。

以来、什分の一を納めることが特権であるとの証<sup>あかし</sup>を確認する機会が頻繁に訪れました。とりわけ、什分の一の律法に従順であったので、聖なる神権に聖任され、主の宮でエンダウメントを受け、フルタイムの伝道に召され、この世から永遠にわたる家族との結び固めを受けました。また、繰り返し神殿に参入して奉仕をし、永遠の原則についての教えを受けています。

什分の一が神聖なものであることは、救い主御自身が確認されました。復活の後、また現在アメリカ大陸として知られている場所で主が民の間で教導の業に携わっておられたときのことで

『モルモン書』には、救い主がニーファイ人に教えを施されたときに、彼らが持っていた聖文を使いながらも彼らにはない別の聖文について語り、御父がマラキに授けられた次の言葉を書き記すようにお命じになったことが記されています。

「人は神から盗むだろうか。ところが、あなたがたはわたしから盗んでいる。しかし、あなたがたは、『わたしたちはどのようにしてあなたから盗んでいるのでしょうか』と言う。什分の一とささげ物によってである。……」

わたしの家に食物があるように、什分の一をすべてわたしの倉に携えて来なさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、受け入れる余地がないほどの祝福を、あなたがたに注ぐかどうかを見なさいと、万軍の主は言う。(3ニーファイ24:8, 10)

救い主はまた、ニーファイ人への次の言葉の中でこの戒めの大切さを強調しておられます。「あなたがたの持っていないこれらの聖文が、後の時代の人々に伝えられることは、父の知恵にかなっていただけで、父は、これらの聖文をあなたがたに伝えるようにわたしに命じられた。」(3ニーファイ26:2)

わたしたちは什分の一の律法を知り、それに従う特権を得ている時代に生きています。この律法に従うことにより得られる祝福は、多くの人が証するよう、物心両面にわたるものです。

この末日に主は言われました。「見よ、今、人の子の来臨<sup>らいりん</sup>までは今日と呼ばれる。まことに、今日は犠牲の日であり、わたしの民が什分の一を納める日である。」(教義と聖約64:23)

什分の一を納めることは犠牲でしょうか。そのとおりです。特に(「犠牲(sacrifice)」という英語の言葉の)語源であるラテン語の二つの言葉を理解すればそれが言えます。ラテン語の"sacer"と"facere"は結合して「神聖にする」の意味になります。わたしたちが什分の一として主にお返しするものはまさに神聖なものとされ、それに従う人々は高められるのです。

それよりかなり前のこと、主はモーセに什分の一の神聖さについて強調さ

れました。レビ記にこうあります。「地の十分の一は……すべて主のものであって、主に聖なる物である。」(レビ27:30)

わたしたち夫婦が初めての子供を授かるうとしていたときのことです。わたしは夜、ガソリンスタンドで働きながら、昼は大学で法律の勉強をしていました。お金はありません。地下のアパートには中古の家具と木箱が並んでいました。

やがて出産の日が近づき、必要なものをそろえましたが、ベビーベッドがありません。買うお金もないのです。

わたしたちは毎月の断食日曜日に什分の一を納めるようにしていました。その日が近づいて、わたしたちは什分の一の支払いを先に延ばしてベッドの頭金にしようかと考えました。でも、断食の霊に満たされて祈った後で、什分の一を納めて後は主に頼ろうと決心しました。

数日後、オフィス街で偶然にわたしの前の伝道部長と会いました。彼はわたしに学生なのかそれとも働いているのか尋ねました。両方ですとわたしは答えました。

「結婚しているの?」「はい。」

「子供は?」「いいえ。でも、最初の子があと数週間で生まれます。」

「ベビーベッドはあるの?」わたしはその率直な問いに驚きながらも、遠慮がちに「いいえ」と答えました。

「そう。」彼は言いました。「今、わたしは家具の仕事をしているのだが、ベビーベッドをアパートに運ばせるよ。わたしからのプレゼントだ。」

安らぎと感謝と証が豊かにわたしを包みました。

そのプレゼントは物質的な必要を満たしてくれました。でも、そのときに感じた御霊は強烈で、什分の一が約束を伴う戒めであることを再確認したのです。

人生にあってほんとうに重大な問題に直面したときに求められるのは、物質的な助けではなく、むしろ御霊の賜物です。病気や悩み、愛する人との死別、家族の反抗と不従順、言いがかり、失意などの試練の中で、わたしたちは



信仰を深め、靈感と慰め、勇気、忍耐、人を赦す力を増し加えていかなければなりません。そして、そのような祝福は天の窓から注がれるのです。

父アルマの教えを信じて神の群れに加わった善良で忠実な人々のことが思い出されます。『モルモン書』は彼らが従順で義にかなった人々であったと記録しています(モーサヤ18章参照)。彼らはその善良さにもかかわらず、敵の手により大きな苦難にさらされます。そして、心を神に注ぎ出したときに神は彼らに慰めの言葉を与え、苦難にある彼らのもとを訪れると約束されました(モーサヤ24:14参照)。

こうあります。「主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。」(モーサヤ24:15)

わたしたちもこのように強く、また従順でありたいと思います。

たとえ什分の一の律法を守っていても、この世の試練や苦難はなくなりません。しかし、主の御前に正しく生活していれば、逆境に遭っても信仰と力と知恵、それに人々からの助けが与えられて逆境を克服できるだけでなく、

その経験から学び、成長できるのです。

わたしたちの預言者であり指導者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語っています。「わたしは自分の体験を通して什分の一の律法とそれにかかわる祝福について証をすることができます。また、この教会の会員で正直に什分の一を納め、主に正直な人は、この原則が神からのものであることを証できることでしょう。」(Ensign『エンサイン』1996年7月号, 73)

そのような教会員の一人として、わたしも証します。什分の一の原則に従うことにより得られる祝福は、わたしたちの心に平安をもたらし、信仰と靈感を増し加え、天の御父のすべての戒めにさらに完全に従おうという望みをもたらしてくれることでしょう。

最後に、最も大切なことについて証します。それは、生ける神はわたしたちの霊の父でありわたしたちを愛してくださっていることです。また、ナザレのイエスは神の御子で、わたしたちの救い主であり贖い主であります。今日、わたしたちは生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長によって導かれているのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 選択の自由と怒り

七十人

リン・G・ロビンズ

サタンの策略の巧妙な点は、怒りを選択の自由の支配下から切り離すことにより、自分は自制できぬ感情の犠牲者だと、わたしたちに信じ込ませることです。



「わたしのすてきな家族……。」すべての子供たちの望みがこの賛美歌に歌われています(『賛美歌』187番参照)。

家族に関して、わたしたちはこのように宣言しています。「家族は……創造主の計画の中心を成すものであり……」,「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに」,「愛と義をもって子供たちを育て……るという神聖な義務があります。」(『家族——世界への宣言』1995年9月23日)

家族はサタンにとっても最大の標的ですが。サタンは家族に対して戦いを挑んでいます。サタンは敵の前線に侵入するための巧妙で悪知恵にたけた策略を巡らして、ほかならぬわたしたちの家庭と生活の中に入り込もうとしています。

サタンはわたしたちの家庭を囲う壁

をも乗り越えて入り込み、家族に危害を加え、しばしば破滅に追いやります。サタンは家族の間に怒りをあおり立てる戦略を用います。サタンは「争いの父」であって、「互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる」のです(3ニ一ファイ11:29,下線付加)。この「あおり立てる[stir]」という方法は、災いをもたらすレシピのようなものです。まず、中火でいらだちを温めて辛辣な言葉に加えて混ぜ[stir]、煮立たせませす。そのままどろどろするまでよく混ぜて冷やします。不快な感じのまま数日間放っておきます。冷たくしてからどうぞ。おかわりも十分できます。

サタンの策略の巧妙な点は、怒りを選択の自由の支配下から切り離すことにより、自分は自制できぬ感情の犠牲者だと、わたしたちに信じ込ませることです。「かっとなる」という言葉を耳にします。かっとなって自制心を失うという言葉は、興味ある単語を選んで組み合わせられています。これは広く一般的に使われている慣用句でもあります。「何かを失う」とは、「故意にではない」「たまたまそうなった」「好んで行ったことではない」恐らくは「責任を問われない」不注意による出来事かもしれませんが、いずれにしても「責任がないこと」という意味を含んでいます。

「彼がわたしを怒らせたんです。」これもよく耳にする言葉で、同様に、自らをコントロールせず、選択の自由を行使していない状態を表しています。このような迷信は正体を暴かなければなりません。わたしたちを怒らせる人

などいないのです。だれかがわたしたちを怒らせるわけではありません。何ら強制力は働いていないのです。怒りは意識的に選ぶものであり、意志に基づいて決めることなのです。ですから、わたしたちは怒らないという選択が可能なのです。わたしたちが選ぶのです。

「しかし自分ではどうすることもできません」と言う人に、ウィリアム・ウィルバンクスは「それはたわごとだ」と答えています。

「争いを好む、……怒りを抑える、怒っていることを人に話す、金切り声を上げる、大声でわめく」などの行為はすべて、怒りに対処するために計算のうえで取る戦術です。「わたしたちは過去の経験から効果を実証されているものを選んでいるのである。上司に不満を持っていても感情を抑えられるにもかかわらず、友人や家族からうるさくされると我慢できないことに気づいているだろうか。」(The New Obscenity「現代に見られるみだらな行為」『リーダーズダイジェスト』1988年12月号,24,下線付加)

ウィルバンクスは高校2年生のときに、学校のバスケットボールチームの入学テストを受けて合格しました。練習の初日に、ウィルバンクスは全選手が見守る中で1対1のプレーをするようにとコーチから言われました。ウィルバンクスは簡単なシュートを外したときに、思わず頭に血が上ってじだんだを踏み、泣き言を言いました。するとコーチがやって来て言ったのです。「今度そんな態度を見せたら、二度とうちのチームではプレーさせないぞ。」(23)それから3年間、ウィルバンクスは自制心を失うようなことは一度もありませんでした。後年、彼はこの出来事を振り返って、その日コーチから、人生を変える原則を教えられたと知りました。それは、怒りはコントロールできるということです。

ジョセフ・スミス訳のエペソ人への手紙第4章26節で、パウロはこのように問いかけています。「あなたがたは怒りながら罪を犯さずにいられようか。」主はこの問題について非常に明確な答えを与えておられます。「争いの心を持つ者はわたしにつく者ではな

く、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる。

見よ、互いに怒るように人々の心をあおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」(3ニーファイ11:29-30)

主がお与えになったこの教義すなわち戒めは、わたしたちに選択の自由があることを踏まえたうえで、良心に基づいて決断を下すよう呼びかけています。主はわたしたちに、怒らないという選択をするよう望んでおられます。

いかなる場合でも、怒りを正当化することはできません。主はマタイによる福音書第5章22節(欽定訳)でこのように述べておられます。「しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して理由なく怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。」(下線付加)興味深いことに、ジョセフ・スミスの靈感訳(マタイ5:24参照)と第三ニーファイ第12章22節には、「理由なく」という語句が見当たりません。主は「理由なく」という語句を取り除いて、わたしたちが言い訳する余地を取り払われました。「このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」(3ニーファイ11:30) わたしたちは怒りを「やめる」ことができます。なぜならば主がそのように教え、命じておられるからです。

怒りとは、自制心を放棄することにより、サタンの影響下に身を置くことです。それは心の中で犯す罪であって、やがて憎しみの気持ちや行動へと発展していきます。また、それは高速道路でほかの運転者に怒りを向ける起爆装置であり、スポーツ競技場での激高した姿であり、家庭内暴力となって現れています。

抑制されない怒りはいとも簡単に、残酷な言葉があふれ出る引き金になったり、感情を虐待する様々な形態と化したりして、人々の純粋な心に傷跡を残します。「口から出るものが人を汚すのである」と救い主は述べておられます(マタイ15:11)。デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べてい

ます。

「夫婦は『家が火事で燃えている場合を除いて』、相手に向かって大声を上げてはなりません。」(デビッド・O・マッケイ, *Stepping Stones to an Abundant Life* 『豊かな人生への踏み石』294)。

肉体への虐待は、怒りが抑制の利かない状態にまで達した結果であって、決して正当化できるものではありません。いかなる場合にも、義とされることはありません。

怒りは人に罪悪感を抱かせる野蛮な行為であり、人を正そうと試みる残忍な方法にはかなりません。これはしつけと混同されがちですが、ほとんどの場合、逆効果に終わります。このため、聖典には次のような警告が記されています。「夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない」、さらに「父たる者よ、子供をいらだたせてはならない。心がいじけるかも知れないから。」(コロサイ3:19, 21)

選択と責任は互いに切り離すことのできない原則です。怒りは選択の結果であるために、『世界への宣言』では

強い警告が発せられています。「伴侶や子供を虐待する人々……は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。」

わたしたちの生活から怒りを取り除く第一歩は、選択の自由と怒りとの関係を理解することです。わたしたちは怒らないよう選ぶことができます。そして、この選択は今日、今すぐ実行できます。「わたしは二度と怒るのをやめよう。」この決意をすることを深く考えていただきたいと思います。

教義と聖約第121章は正しい指導原則を見いだせる最も優れた聖文であると言えます。第121章を応用する最も大切な対象は伴侶であり、両親ではないでしょうか。わたしたちは説得により、寛容により、温厚と柔和により、優しさにより、また偽りのない愛により家族を導くのです(教義と聖約121:41-42参照)。

子供たち一人一人が心に抱いている夢、すなわち「わたしのすてきな家族」が実現するよう願っています。イエス・キリストの御名によって祈り、証します。アーメン。

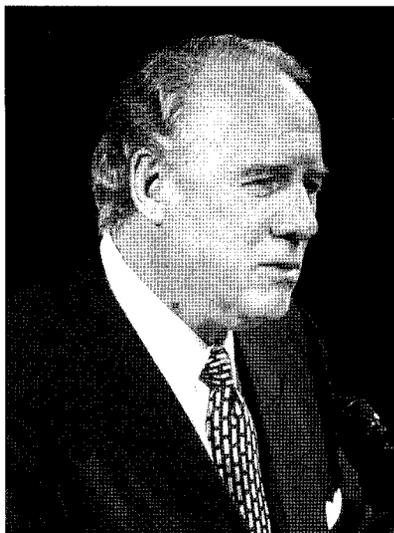


# 従順——人生の 大きなチャレンジ

七十人

ドナルド・L・ステリー

**主は多くの人々の性癖を御存じです。すなわち、順調なときには主の勧告から離れますが、問題に陥ると、主とその祝福を求めます。**



兄弟姉妹の皆さん、わたしは今日へりくんだり、皆さんの前で話をする責任に感謝します。わたしには恵まれて、すばらしい妻と家族がいます。また、幹部の兄弟たちの力に支えられて、ともに奉仕する機会があります。しかし、何にも増してわたしが大切にしているのは、救い主との関係と自分の証です。主が生きておられ、愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長を通して、この教会を導いておられることを証します。

わたしはこの1年の間、組織化されたビジネスの世界を離れて、24時間、天の御父の忠実な僕となり、イエス・キリストの特別な証人になろうと努めてきましたが、それはわたしにとって実にすばらしい経験でした。そのお

げで、福音の原則に従順な人々にもたらされる責任や祝福、機会に対して、以前より敏感になりました。

ボイド・K・バッカー長老は、よく次のように言いました。「わたしたちは皆、聖霊の御霊によって靈感と導きを受ける権利がある。」そして、こう付け加えました。「しかし、その特権を十分に活用していない。」この言葉に当てはめて考えると明らかなように、わたしたちの多くは「生活の中で重要なことより、あまり大切でない事柄を優先させる」ことによって、霊的な機会と祝福を失っているのです。

「人生でいちばん大切なものは何ですか」と聞かれたら、ほとんどの会員は即座に、自分の家族を挙げて、それが福音によって永遠に結ばれることと答えるでしょう。しかし、日常生活の様々なプレッシャーによって、しばしば、巧妙に、自分が誇り高く宣言した道からそらされてしまうのです。その過程では、ほんとうに大切なことを後回しにして、究極の目標とほとんど、あるいはまったく関係のない一時的な必要に心を奪われてしまいます。そして多くの場合、あまり大切でないことへの誘惑やプレッシャーに負けて、人生の誤った道へ引きずり込まれるのです。

スパンサー・W・キンボール大管長はこう警告しています。「世の煩いは実に多く、善良この上ない人々までが、この世のことに心を使いすぎて真理の道から離れていく。」<sup>1</sup>

わたしは生活の中で従順について学

んできましたが、最も印象に残っているのは、少年のときに母と犬から教えられたことです。わたしが8歳のころに、父が子犬を連れて帰りました。わたしはすぐにスポットと名付け、大の仲良しになりました。そして、幾つかの芸や命令に従うことを教えようと思いました。スポットはよく覚えましたが、どうしても直らない癖がありました。南ユタの小さな町で、家の前のほこりっぽい道を車が通ると、後を追いかけてほえるのです。どんなに教えても、この悪い癖は直りません。ある日、近所の人が運転する大型トラックが猛スピードでやって来ました。彼はスポットのことも悪い癖も知っていました。いつものようにスポットが歯をむき出して近づいたそのとき、トラックが急に向きを変えたのです。スポットは後輪に巻き込まれてしまいました。

わたしは泣きながらスポットを抱きかかえると、家に走り込んで母や兄に助けを求めました。額の血をふいたときに、不従順な行為の結果が命取りになったことがすぐに分かりました。スポットを埋めて涙が乾いたころに、わたしは母から、人生で最も大切な教訓の一つを学びました。母は従順の原則とそれを生活で実践することを説明しました。そして、見たところ小さな不従順な行為でも、やがては不幸や後悔、そして致命的な結果をもたらすことさえあると、はっきり教えてくれたのです。

わたしたちは福音の中で成長するにつれて、従順の価値について学んでいきます。それは、救い主や預言者の教えに絶えず導いてくれる原則に対する従順です。主の教えに従順であれば、救い主の次の御言葉の意味が理解できるようになります。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失うものは、それを見いだすであろう。」<sup>2</sup>

だれもが従順というチャレンジを時折受けるので、ヒンクレー大管長の次の励ましに勇気づけられることでしょう。「主はわたしたちに、守れない戒めは下さらない〔し、〕不可能なことをせよとは言われません。」<sup>3</sup>

わたしたちは、特に若人の皆さんは、



日々の生活で仲間からプレッシャーを受けるときに、預言者のこの勧告を思い出すとよいでしょう。わたしたちは成熟して大人になり、さらに年を取るにつれて、仕事と教会と家庭の間に優先順位を定めて様々なプレッシャーをうまく処理し、バランスの取れた行いをするようになります。しかし、これには絶えず再評価が必要です。

時々、こう自問するとよいでしょう。「今歩んでいる道をそのまま行ったら、わたしはどこに行き着き、家族はどうなるだろうか。」永遠の家族の基盤を築いているのでしょうか、それとも個人の業績やこの世的な成功に心を奪われて、ほんとうに大切な事柄を後回しにしているのでしょうか。

何歳であろうと、また人生のどの時期にしよう、福音の原則に対する日々の従順が永遠の幸福に至る唯一の道なのです。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、厳しく述べています。「従順が心をいだかせるものでなく、自ら求めるものになるとき、神はその

ときに力を授けてくださるであろう。」

『モルモン書』は、従順さが時代とともに変わっていった様々な民の歴史物語です。不従順の結果は明らかです。彼らが受けた警告は、現代のわたしたちにも当てはまるものです。

聖典が明らかにしているように、主は多くの人々の性癖を御存じです。すなわち、順調なときには主の勧告から離れますが、問題に陥ると、主とその祝福を求めます。主はこう勧告されました。「そして、わたしの民は、たとえ苦しみを受けることによらなければならないとしても、従順を学ぶまで、必ず懲らしめを受けなければならない。」<sup>4</sup>

人生の荒波にもまれて、懲らしめや試練を受けようとも、救い主と預言者たちの教えに従順であれば、ベニヤミン王が神の戒めを守る人々に与えた偉大な約束にふさわしくなれるでしょう。「見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であ

り続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。」<sup>5</sup>

救い主の「わたしに従ってきなさい」<sup>6</sup>という呼びかけや、「わたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」<sup>7</sup>という訓戒に対して、わたしたちはあいまいな態度を捨ててははっきりとこたえなければなりません。主の呼びかけに従順であれば、主の愛と平安のうちに生活できることを、イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>によって証<sup>あかし</sup>します。アーメン。

注

1. 「預言者の声を聞け」『聖徒の道』1978年10月号、122
2. マタイ16:25
3. 「主の御業を推し進める」『聖徒の道』1986年1月号、82
4. 教義と聖約105:6
5. モーサヤ2:41
6. ルカ18:22
7. ヨハネ14:15

# 不確かな事柄と 確かな事柄との隔たり をなくす

七十人

リチャード・E・ターレー・シニア

この驚嘆すべき回復の業を通してもたらされたものがあります。それは、……天の御父の喜ばれない誤った哲学や生活様式を認識するうえで必要なものです。



10年ほど前になりますが、妻とわたしは、日曜日にほぼ一日かけて、ハーバード大学の若い大学院生をもてなしたことがあります。この青年はわたしたちの教会が「本物」かどうか確かめるために、ソルトレーク・シティーを訪れていました。ニューイングランド州に住むご両親から、宣教師のレッスンを受けてバプテスマの予定があるとの知らせを受けた彼は、自分がソルトレーク・シティーを訪問するまでバプテスマは待つてほしいと頼みました。テンプルスクウェアやほかの教会施設を見学するうちに、彼は自

分と同様に科学や工業に関する知識を持つ人と話してみたいと言いました。そこでわたしの名前が挙がり、わたしが電話を受けたわけです。

当時わたしたち夫婦はとても忙しく、この青年と会えるのは日曜日だけでした。わたしたちは、モルモンの生活を御覧になりたいければ、喜んで一日一緒にしますと伝えました。この青年と過ごした時間は、興味深く、楽しいものでした。その日わたしは彼を二つの聖餐会に案内しました。一つは息子夫婦が話者の割り当てを受け、もう一つはわたしたち夫婦が話者でした。わたしたちが話すことになっている教会に入ると、監督の出迎えを受け、そのまま祈り会を行う監督室に通されました。わたしたち全員が、先の青年も含めて、監督の机を囲んでひざまずき、監督が謙遜に心に浮かぶまま祈りをささげました。

監督室を出ると、わたしたちは礼拝堂に入りました。青年を若い夫婦に紹介し、青年は集会の間ずっと彼らと一緒に座りました。その会で、妻とわたしは『モルモン書』について話しました。このテーマは、特にこの青年にとって理想的なものでした。『モルモン書』を読むチャレンジをすでに受けていたからです。

集会の後で、青年を我が家へ招待し、

妻は得意料理をごちそうしました。そしてその後は、『モルモン書』やイエス・キリスト、主の教会の回復への証を分かち合いました。翌日この青年はボストンへ帰りました。

後に、この青年のご両親と話す機会がありました。青年はご両親に対し、確かにモルモン教会は「本物」だと報告していました。また、『モルモン書』の研究を通して、イエス・キリストに対して抱いていた疑いを払拭できたとも語っていました。

わたしたちの理解するかぎり、この青年は自らを不可知論者と称し、神の性質や存在については、直接の経験を通してしか知ることは不可能だと考えていました。幸いにも、彼は自らソルトレーク・シティーを訪問することにより、教会に属する家族の生活の一部を実際に見るといって、直接的な経験と機会を得ました。しかし、ただ観察するだけではイエスがキリストであられるという結論には到達できなかったはずでした。

『モルモン書』を読み終えるに当たり、この青年は『モルモン書』が真実か否か、イエスがキリストか否かを知るうえで最も大切な鍵を見いだしていたことでしょう。また実際にすべての真理を知る究極の鍵も見いだしていたことでしょう。モロナイは『モルモン書』の最後の章で、次のように語りました。「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」(モロナイ10:5)

わたしは何年にも及ぶ経験から、不確かな事柄と確かな事柄との隔たりをなくせるのは、聖霊の力以外にないと悟るようになりました。これについて理解すれば、イエスがなぜピロ・カイザリヤでペテロに次のように言われたか分かります。イエスは弟子たちにご尋ねられました。「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。」(マタイ16:15)

するとペテロが答えました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」(マタイ16:16)

これに対し、イエスはこうお答えに

なりました。「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」(マタイ16:17)

言い換えれば、天の御父は聖霊の力によって、今わたしたちに明らかにされると同様、ペテロに次のように明らかにされたのです。それは、ナザレのイエス、天の御父が最も愛される御子、天の御父に最も従順な御子が、文字どおり、創世以来すべての預言者によって預言されてきた待望のメシヤだということなのです。

ボストンからやって来たこの青年について振り返ったとき、人生に関する数多くの質問に対する答えを探し求めながらも答えを見いだす方法を知らない多くの若人についても考えました。彼らは真空状態の中で生活しているわけではありません。わたしたちと同じように、パウロの言葉を借りれば「様々な教の風おしほ」にさらされているのです。パウロがエペソ人にあてた手紙の中から読んでみましょう。ここでパウロは、主がわたしたちのために使徒や預言者、またそのほかにも靈感を受けた指導者や教師を備えられた理由を明らかにしています。「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがない。」(エペソ4:11-14)

「だまし惑わす」者に気づくよう助けしてくれる古代と現代の預言者に心から感謝しています。

預言者イザヤは、示現の中で今日の世界を見ました。そこで主はこのように告げられました。「この民に、再び驚くべきわざを行う、それは不思議な驚くべきわざである。彼らのうちの賢い人の知恵は滅び、さとい人の知識は隠される。」(イザヤ29:14)

この驚嘆すべき回復の業を通してもたらされたものがあります。それは、たとえ政治的また社会的には受け入れられていても、天の御父の喜ばれない誤った哲学や生活様式を認識するうえで必要なものです。不可知論者であつ

ても、モロナイのチャレンジにこたえることによって信じるようになるのならば、ほかの人々も同様に、なぜ最初に地球が与えられたのか理解できるようになるはずです。回復されたモーセの記録の中で、主は地球の創造された目的に関する質問に対し、次のように答えておられます。

「モーセは神に呼び求めて言った。『どうぞわたしにお話してください。これらのものはどうしてこうなのですか。そして、あなたはこれらのものを何によってお造りになったのですか。』……

主なる神はモーセに言われた。『わたし自身に目的があってこれらのものを造った。……

見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。』(モーセ1:30-31, 39)

世の中には、人間の価値を落とすような哲学が蔓延まんえんしています。モーセの記録の中で、あのモーセですら神のあらゆる被造物を目にして人間は取るに足りない存在である感じましたが、逆に神は、人間はすべてであると断言されました。

わたしたちが考えるうえでもう一つ参考になる資料は、1995年に中央幹部より発表された家族に関する宣言です。この宣言には、人類に対する神の目的と期待が明確に示されています。

地上のすべての国々が、毎年何十億という資金を費やし、地球や銀河系の起源と目的に関してさらに多くを発見しようとしています。しかし、答えはここにあるのです。地球は人類が「不死不滅と永遠の命」に至る助けをするために創造されました。確かに創造に関する詳細は興味深いものですが、優先順位のうちではるかに大切なのは、わたしたちの創造主についてより多くの事柄を学び、主に従うという主からの呼びかけにこたえて自らの可能性を最大限まで引き出す必要があるということです。

不確かな事柄と確かな事柄との隔たりをなくすよう求めていくうえで、御霊みたまが助けとなるはずですが、イエス・キリストはわたしたちの光です(3ニューフェイス18:24参照)。この主から放たれる光に従い、ほかの人もこの光に従うよう招こうではありませんか。イエス・キリストの御名により、アーメン。

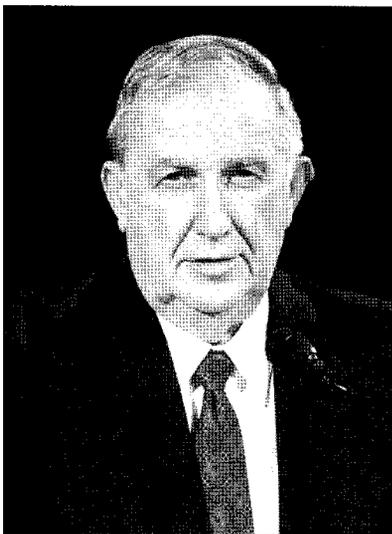


# 幸福に至る障壁を 取り除く

十二使徒定員会会員

リチャード・G・スコット

民族的、文化的、国家的伝統を大切にすることは、きわめて健全なことであり、そこから受ける恩恵も多々あります。しかし、それは同時に、献身的な末日聖徒なら当然捨てなければならないような生き方も継承していく可能性もあるのです。



わたしはこの話を準備している間、できるかぎり、明確に、また効果的に伝えることができるよう、導きを求めて熱心に祈ってきました。わたしが助けの手を差し伸べたいと思っている人々から、わたしの言葉が決して誤解されることがないよう、御霊を通じて理解していただくことが、どうしても必要だからです。

現在の世界は、自分たちの民族的、文化的、国家的伝統や遺産を守っていきたくて熱心に考える人々が次第に細分化されるという傾向が顕著になってきています。そのような人々の努力は、先祖たちが行ってきたことを、しばしばそうしたものを軽視する傾向が強ま

る中で、純粋に評価したいと思う気持ちに動かされる場合が普通です。民族的、文化的、国家的伝統を大切にすることは、きわめて健全なことであり、そこから受ける恩恵も多々あります。しかし、それは同時に、献身的な末日聖徒なら当然捨てなければならないような生き方も継承していく可能性もあるのです。

わたしのお話ししたいことは非常に微妙な問題ですので、誤解を避けるために、皆さんとわたしが二人きりで静かな場所にいると考えてください。わたしたちは深い友情のきずなで結ばれており、何でも率直に話し合えるような信頼関係にあると想像してください。ではまず、あなたがわたしに、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることによって受ける最大の恩恵は何かということを探ねたと仮定してみましょう。わたしは、あなたが信仰と確信を持っている人物だということを知っています。さらに、あなたが自分のユニークな伝統を熱烈に重んじていることを、わたしはよく知っています。あなたは、その伝統という糸が心の奥深くまで織り込まれている布地のようなものです。あなたはこれまで、その伝統から多くの恩恵を受けてきました。また、あなたは、その伝統という土壌の中に根が深く入り込み、自分の子供たちも孫たちも同じように恩恵を受けてほしいと心から願っています。しか

し、それでもわたしは、そのような生き方の中にはイエス・キリストの教えと対立する要素もあり、失望や問題を引き起こすことがあることを、指摘しておきたいのです。友人として、わたしはあなたがこのような可能性について考えるお手伝いをしたいとは思いますが、決してあなたに不快な思いをさせたり、いかなる意味でも、あなたが維持し基としている伝統の大切な部分を過小評価しようなどという意図がないことは分かっていたいただきたいと思います。

あなたがイエス・キリストの教えとその幸福の計画を受け入れることにしたとき、あなたはバプテスマを受け、この地上における主の王国の会員として確認されました。その身に主の御名を受けることにしたのです。そして、主の教えに従順に歩むという決意をし、その教えが求めることなら人生をどのようにでも変えると決心したのです。完全な喜びにあずかるためには、神殿の儀式を受ける必要があります。そのような生き方は、この地上においても、永遠の世にあっても、最大の幸福をもたらすものです。ほとんどすべての人にとって、教会に加入するためにはそれまでの生活様式を根本的に変える必要があります。知恵の言葉を破ったら、それを正す必要があります。純潔の律法に違背するようなことがあれば、悔い改める必要があります。教会員であることの意味と重さを正しく理解している人なら、その王国のふさわしい会員に与えられる祝福にあずかるために、そのような生活をためらうことなく改めます。またほかにも、それほどはっきりとは述べられたことはないかもしれませんが、主の王国の会員となって完全な意味での幸福を享受するために、捨てなければならないものも存在しているのです。

ハンター大管長はそれを次のように説明しました。「わたしはこれから、わたしが非常に重要だと考えることについて皆さんにお話ししたいと思いません。皆さんは、生涯を通じて、数多くの選択の機会に直面します。数々の選択肢の中からどう選ぶかが、この人生

における皆さんの成功と幸福を決めることとなります。皆さんがこれから下す決定の中には、非常に大切なものもあって、それが皆さんの人生全体に影響を及ぼす場合もあるでしょう。数々の選択肢を考えるとときには、イエス・キリストの教えを物差しにして、十分に吟味してください。

そのような正しい決定を下せるようになるためには、主の教えを知り、理解する必要があります。皆さんが信仰を働かせ、靈感を受けるにふさわしい生活を送っていると、重要な決定を下すときには導きを受けることができますはずです。」

ハンター大管長は続けて、このように言いました。「わたしは皆さんに、まず、イエス・キリストの教会の会員であることを、優先順位の第一に置くよう提案します。皆さんがだれかから何かをするように依頼されたときには、それが家族からのものであれ、愛する人からのものであれ、あるいは文化的な伝統に基づいたものであれ、また皆さんが受け継いでいる慣習に基づいたものであれ、あらゆるものを救い主の教えを物差しとして吟味してください。そして、もし救い主の教えに背くようなものであれば、そのようなものは捨てて、二度と追求めないでください。それは決して幸福をもたらすようなものではないからです。」「(学生と大学職員に与える勧告」ニュージーランド・チャーチ・カレッジ、1990年11月12日)

なぜ主の教えを優先順位の第一にしなければならぬのでしょうか。それは幸福に至る<sup>かんべき</sup>完璧な手引書だからです。救い主はあなたの<sup>あがな</sup>贖い主です。主は、その犠牲のゆえに、あなたを裁く者となり、その戒めに従順な者には最終的に最大の祝福を授けてくださることになっています。主は完全な模範です。主は神として無限の力をお持ちですが、それでも、<sup>けんそん</sup>謙遜で、御父に従順です。自分が認められたいというようなおごりも望みもありません。

皆さんの天の御父は、皆さんをある特別な血統のもとに生まれるように選ばれました。その血統を通して、皆さんは人種的なものや文化的なもの、習

慣的なものを受け継いでいます。その血統は豊かな受け継ぎを約束するとともに、大いなる喜びの基となります。しかしながら、皆さんには、そうした受け継ぎの中に、主の幸福の計画に反するがゆえに捨てなければならないものがないかどうかを決める責任がゆだねられているのです。

皆さんは、ある伝統が主の教えに反してそれを捨てなければならないとき、どうやってその決定を下すことができるのか、疑問に思うかもしれません。それは決してたやすいことではありません。わたしは自分でも、自分の不適切な習慣を幾つか克服するために努力していますから、それがどれほど難しいことか、よく分かります。しかしながら、その必要性を認識することは、成功への大きなステップになります。習慣や伝統はわたしたちが生まれながらに受け継ぐものです。それを客観的に評価することは、決してたやすいことではありません。主が皆さんにどのような生き方を望んでおられるのか理解するために、聖文や預言者の勧告を注意深く研究してください。それに応じて、自分の生活のあらゆる面を評価し、必要な変更を加えてください。だれか皆さんの尊敬する人の助けを仰いでください。不動のものと思われていた確信や習慣を、主の計画と相いれないからという理由で、捨てることのできた人がいるはずですよ。何か疑問を持ったら、こう自問してみてください。「これは救い主がわたしに望んでおられることだろうか。」

すでに自分の一部となっている生活様式を変えることは非常に難しいことです。かつての友は、あざけり、批判し、時には迫害することもあるでしょう。しかし、救い主をひたすら信じ、従順に歩むことによって、そのようなつらい経験を通じて、より大きな祝福にあずかることができるようになります。聖文には、確信や信仰があれば神の計画に反する伝統を克服することができ、一人一人に、ひいては幾世代にもわたって祝福をもたらすことになるという例が数多く書かれています。アブラハムは、真理に忠誠を尽くし間違



った伝統を排斥するという、揺るぎない決意を抱いたがゆえに、大いに祝福を受けました。アブラハムの忠誠によって、イスラエルの家の従順な者たちは皆、豊かな報いという冠を頂けるようになったのです。ほかに、長く歴史のある伝統を捨てた劇的な例として、好戦的なレマン人がキリストに謙遜に従う者へと変わっていった話があります。彼らは、キリストの王国の会員として交わした聖約に違背するよりも、喜んで死ぬ方を選んだのです。

皆さんの中で、すでに文化面での選択を正しく行った人がいたら、ほかの人ができるように、どうぞ助けてあげてください。天の御父やその計画、御子のことを優先順位の第一にすると決意することによって、平安や幸福という長期にわたる祝福にあずかれることを教えてください。アンモンの模範に従ってください。アンモンはラモーナイ王が間違った伝統に気づき、それを捨てるまで、忍耐強く教えました。王のその決断により、多くの人々が祝福を受けました。アンモンが真理を実ははっきりと教えたために、ラモーナイ

は御霊<sup>みたま</sup>によって心を動かされ、誤った伝統をことごとく捨て去りたいと願うようになったのです（アルマ18：24—41；19：35—36参照）。

皆さんの文化では、夫が威張り散らしたり、独裁的であったりして、家族の大切な決断を一人でことごとく行うようになっていないでしょうか。もしそうなら、そのような在り方は軌道修正する必要があります。夫と妻が対等のパートナーとして、夫婦のために、家族のために、一致して決断を下すのです。恐れや強制の下では、どんな家族も長く維持することはできません。そんなことをしても、論争と反感を生むだけだからです。愛が幸福な家族の基盤です。

次のような習慣が、伝統のいかなる部分であっても見られたとしたら、捨て去る必要があります。

- 知恵の言葉に反するようなもの
- 多くの場合、家系で決められるような地位の権力によって、人を強制的に従わせることを前提にしているようなもの
- 身分階級制度を助長するようなもの
- ほかの文化との衝突を引き起こすようなもの

イエス・キリスト教会の会員であること以上に文化的な伝統を重視すると、重大な危険を招くこととなります。自分自身の文化を擁護したいという熱意がありすぎると、行きすぎた行動を取ってしまうことがあるかもしれません。よく知られているように、間違っ

ても、「彼ら」と「わたしたち」の対立の図式のために正当化されてしまうのです。暴力団やギャングと呼ばれる集団が、社会を破滅させる可能性を持ちながらも、なおあれだけはびこるのは、善悪の原則よりも集団としての文化を優先させているからです。その理由が何であれ、一つの文化が別の文化を迫害するなどということは、神の戒めに反しています。

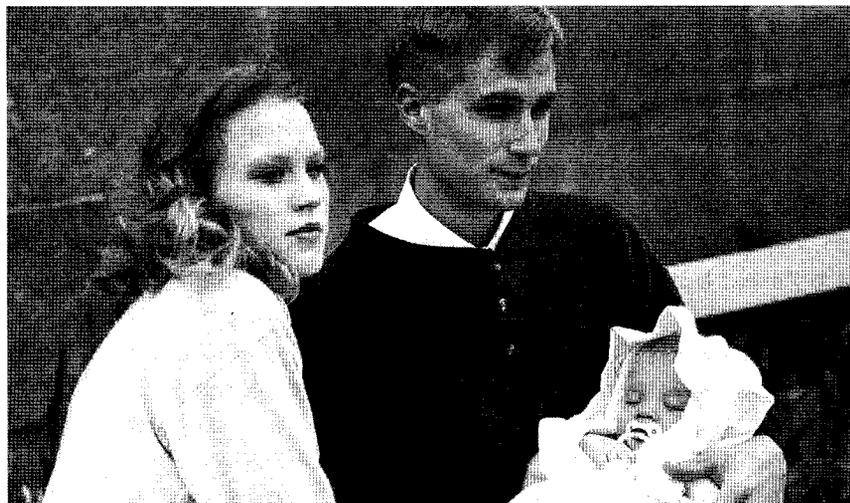
たとえそれが知らずに行うことであつたにしても、もし主の教えに反するような伝統に従うことを選んだ場合には、バプテスマのときに交わした神聖な聖約に違背する方を選んだことになります。すでに神殿の聖約が交わされている場合、そのような選択は、はるかに重大な結果を引き起こします。そのような行為によって、創造主が定められた幸福と平安と永遠の喜びの計画から離れ、皆さんの生活に祝福をもたらすという点では、はるかに価値のない、また能力もないものへと心を奪われていくことになるからです。主の王国と主の教えを何よりも優先させ、救い主と天の御父の愛と一つになるとき、皆さんの文化的伝統の美しい味わいもユニークさも見事に花開き、豊かな祝福という収穫を生み出すことになるでしょう。

正しいことを実践してください。ほかの人が何をしているのかは、あまり気にしないでください。ほかの人が間違った選択をしているという理由で、あなたが今正しいと分かっていること

から離れようとしているとしたら、決してそのような行為を正当化しないでください。

サタンは家族を破壊しようとしています。わたしたちの天の御父の計画は、この世においても永遠の世においても、愛に満ちた家族関係がその中心です。悪魔は権威や秩序といったものを軽んじようとしています。しかしながら、義になかった方法で行使される権能は、家族のことで、教会のことで、また王国のあらゆる面でも、御父の業の中核を成すものです。サタンは、御父の子供たちを様々な集団に分離させようとし、ひたすら個人のことだけに興味や関心を持たせようとしています。サタンは、ほかの人にどのような影響を与えるのかは考えさせずに、そのような個人的な興味関心に頑固なまでに固執させようとしています。御父の計画は、次のような御子の御言葉の中に表されています。「見よ、……わたしはあなたがたに言う。一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」（教義と聖約38：27）サタンは、人生は絶えず個人の享楽に満ちたものでなければならないという考え方を喧伝<sup>けんでん</sup>しています。そのようなものを探求することで、他人の幸福を脅かすことがあってもかまわないと考えています。一方、天の御父はわたしたちに幸福の計画を授けてくださっていますが、その計画は、個人の利益を捨て去る気持ちを生み出し、人への奉仕を通じて幸福をもたらす計画です。イエスの模範と教えは、文化や出自を超え、王国の会員という共通の旗印の下に、御父の子供たちを一つにする力を持っています。それについて、ブリガム・ヤングは次のように教えています。

「完全な一致は人々を救うことになる。それは、英知ある者たちが、完全な意味で一つになるためには、……永遠の命に関する原則に従って行動するしかないからである。悪しき者たちは、邪悪な目的のために部分的に一致することはあるかもしれない。しかし、……彼らが部分的に一致するよりどころとなるその原則そのものが、……暫定



的な協定を破壊するための争いを生み出すのである。真理と義……だけが永遠に続く完全な一致を確かなものに行うことができる。それは、真理と真理によって聖められた者たちだけが、日の栄えの栄光のうちに住まうことができるからである。』(Discourses of Brigham Young『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウイツォー選、282)

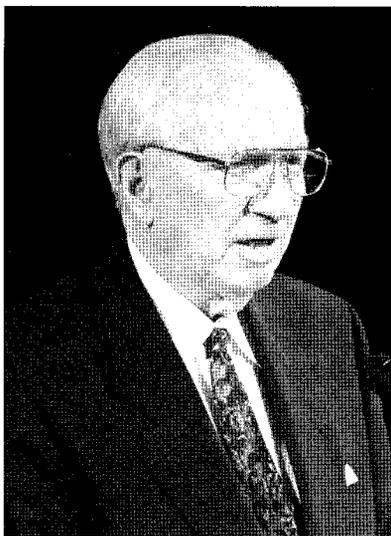
真理を語るに当たってわたしがごちない言い方をしたのために、気分を害された方がいたとしたら、申し訳なく思います。どうぞ、わたしの言葉の至らなさには目をつぶり、語られた真理の言葉を理解するように努めてください。静かな黙想の時間を設け、御父とその愛する御子が人生の優先順位をどのように定められたか、深く考えてみてください。自分自身の生活を振り返り、あらゆる面でその原則と一致しているかどうか、確認してみてください。わたしが今、皆さんにお伝えしようと思っていることはそれだけです。わたしは自分自身の国を旅し、世界の様々な国々を旅して回って、存在する優れた文化からすばらしい恩恵を受けている様子も目にしてきました。しかしながら、そのような恩恵も、時には、主の教えに反するような伝統や習慣からもたらされるマイナスの影響のために、影が差すこともあるのです。

わたしは証します。皆さんが優先順位の筆頭にイエス・キリスト教会の会員であるという事実を置き、その教えを人生の基盤とするならば、幸福に至る障壁を取り除き、大いなる平安を見出すことができるのです。家族や国家の伝統や習慣が神の教えに反するときには、どうぞ、そのような伝統や習慣を捨ててください。伝統や習慣が神の教えと一致しているなら、どうぞ、それを大切に、その文化や伝統を守り続けてください。皆さんが決して変える必要のない大切な文化的伝統が一つあります。それは、皆さんが天の御父の娘であり息子であることで受け継いでいる文化です。幸福になるために、その大切な受け継ぎによって御自分の人生を整えてくださいますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 福音の「最高の祝福」 をもたらす新しい神殿

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちが主の永遠の業をなすために、<sup>み表え</sup>勇気と信仰をもって御前を歩むときに、一つの民としてわたしたちに天の窓が開かれ、祝福が注がれるように祈っています。



自分の席から、タバナクル前列にいらっしやるオタパロインディアンの皆さんの姿を拝見していました。エクアドルの高地から来られた皆さんです。このすばらしい方々に感謝の言葉をお伝えしたいと思います。忠実な末日聖徒であり、この大会に出席するために、はるかな遠くの地から来られた皆さんです。兄弟姉妹、ほんとうにありがとうございます。

オタパロがどこか御存じでしょうか。まずキトへ行き、そこから自動車でも赤道を越えると、エクアドルの雄大な高地の中に村々が見えてきます。そこが、この穏やかで、すばらしい皆さんが住んでいる所です。

このすばらしい大会の様子は国の内

外に伝えられてきましたが、その最後に当たり、謙遜にまた感謝の思いをもって、耳を傾けてこられた方々も含めて参加されたすべての皆さんに心からお礼の言葉を申し上げたいと思います。感動的な音楽、靈感あふれる祈りでした。また、数々のお話は聖霊のささやきによって準備され、語られてきました。わたしたちは感謝の心をもって、ともに楽しんでまいりました。さて家に戻ってからは、この大会で聞いてきた真理を日々の生活の中で実践することが、わたしたちの義務と責任になります。

最後に、一つの発表をしたいと思えます。これまでに話ししたように、ここ数か月、わたしたちは非常に遠く離れた地の教会員たちの間を旅してまいりました。この世の富にはあまり恵まれていない多くの方々とお会いしてきました。しかしその方々は、心の中に末日の業に対する非常に熱い思いを持っています。彼らは教会を愛しています。また福音を愛しています。そして、主を愛し、主の御心を果たしたいと望んでいます。わずかな額かもしれませんが、<sup>みこころ</sup>十分の一を納めています。この人々は神殿に行くために、大変な犠牲を払っています。安い料金のバスや古い船に乗り、何日も何日も旅を続けるのです。そのためには、生活を切り詰めて、お金をためます。

この人々には、小さくても美しく十分な機能を持つ神殿が近くに必要です。

そこで、わたしはこの機会をとらえて、30ほどの小さな神殿を早急に建設するプログラムを、教会全体に発表いたします。それは、アメリカ合衆国、カナダをはじめ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、フィジー、メキシコ、中南米、アフリカにも建設されます。主の宮の儀式を行うに必要な施設はすべて備えている神殿です。

これはすばらしい事業となるでしょう。過去に例のない事業です。これらの神殿は、イギリス、スペイン、エクアドル、ボリビア、ドミニカ共和国、ブラジル、コロンビア、モンタナ州ビルリクス、テキサス州ヒューストン、マサチューセッツ州ボストン、ニューヨーク州ホワイトプレインズ、ニューメキシコ州アルバカーキ、そして、アラスカ州アンカレッジ、ユタ州モンテイセロ、メキシコのコロニアファレスの小規模神殿など、現在建設中の17の建物に加えて、建設が進められます。これによって現在儀式が行われている51の神殿のほかに、合計47の新しい神

殿ができることとなります。「わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストが肉体を取って来られてから」2000年に当たる今世紀の最後までにさらに2つを加え、ちょうど100にできればと考えています(教義と聖約20:1)。神殿建設事業において、わたしたちはかつてない速さで前進しています。

今の時点では具体的な場所は発表できませんが、用地が確保されると、ステーク会長の方々に対して連絡がなされます。その神殿が自分たちの町に建てられるかどうかということについて、教会員の皆さんは様々な推測をされることでしょう。

わたしは神殿の儀式が回復された福音の重要な要素であることを証します。そうである以上、わたしたちには、それが成し遂げられるようにするための手段を講じる責任があります。わたしたちが非常に大きな規模で進めている家族歴史の探求は、そのすべてが神殿事業に向けられています。そのほかの目的はありません。神殿の儀式は教会が

提供すべき最高の祝福となっています。

ただこれらの神殿のうち30から32が建設された時点で、さらに新たな神殿建設の発表がなされるということは言えません。

忠実な末日聖徒のうえに神の祝福がごぞいますように。皆さんが戒めに従うときに、繁栄がもたらされますように。何分の一やそのほかの献金を、すべての人々が正直に、かつ惜しみなく納められるように願っています。そして、わたしたちが主の永遠の業をなすために、勇気と信仰をもって御前を歩むときに、一つの民としてわたしたちに天の窓が開かれ、祝福が注がれるように祈っています。

わたしは、ロナルド・ポールマン兄弟の何分の一に関する話を聞いて、心に深い感動を受けました。彼とわたしは同じワードの地域で、同じ監督のもとに子供時代を過ごしました。子供だったわたしたちは小額ながら何分の一を納めました。そして、主はこれまでの年月、わたしたちに祝福を注いでくださいました。わたしはそのことを証することができます。わたしは心の中に、彼の優しい母親が家族とともにひざまずいて主に祈りをささげ、戒めに従って、限られた中からささげ物をするというすばらしい特権に対して感謝の言葉を述べている姿を思い描くことができます。

皆さんの家庭と家族のうえに、安らぎと一致と愛がありますように。この偉大な業が神聖なものであるという明らかな真理に対する皆さんの証が、日々の生活の中に反映されますように。皆さんが声をそろえて主をたたえられますように。主は、すべての祝福の源であり、わたしたちの栄光ある指導者、偉大な贖い主です。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この偉大で有意義な歴史的大会もいよいよその幕を閉じることとなりますが、これがわたしの心からの祈りです。皆さんが神の助けを受け、わたしが祈りの中で述べた最高の意味において、すばらしい末日聖徒となれますように。イエス・キリストの御名によって、アーメン。



# 家族に心を向ける

中央若い女性会長  
マーガレット・D・ナドール

天の御父は子らのために一つの計画を立てられました。その計画の中心にあるのが家族です。



アジアからアフリカに至るまで、ニュージーランドからノルウェーに至るまで、全世界で、末日聖徒イエス・キリスト教会のすばらしい若い女性たちは家族に心を向けています。今年1年間、わたしたちは全世界で家族をたたえています。ご承知のように、天の御父が子らのために立てられた計画において、家族は大切な位置を占めています。このことは『家族——世界への宣言』で説明されています。

わたしはこの宣言が提示されたときのことをはっきりと記憶しています。そのときのことはわたしにはとても強い印象を残したのです。それは1995年9月23日、中央扶助協会集会在開かれた日のことでした。教会の女性たちはそのすばらしい集会に出席していました。わたしたちの預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長が立って話しました。大管長は話の中で、『家

族——世界への宣言』と呼ばれる文書を読みました。これが公の席で読み上げられた最初でした。大管長と十二使徒定員会はこの宣言の中で再び、天の御父は子らのために一つの計画を立てられたこと、その計画の中心にあるのが家族であることを教えてくれました。これはきわめて大切なことです。したがって、神がそれほどまでに重要視しておられる家族を、わたしたちはどうしても強めなければなりません。

若い女性の皆さんには、少なくとも3つの家族において果たさなければならない大切な役割があります。第1は、皆さんが現在属している家族であり、第2は皆さんの将来の家族であり、そして第3はわたしたち全員がその一員である天の家族です。ではこれら3つの家族でわたしたちがどのような立場にあるかを考えてみましょう。

最初に皆さんが今成長の場としている家族について考えてみましょう。わたし自身が育った家族について考えてみますと、まず思い出すのは妹と寝室やピアノを共同で使い、それに皿洗いを一緒にしたことです。夕食のときに弟とふざけて、あまり笑ってばかりいたために、静かにするまで食堂から追い出されたこともありました。

皆さんも家族からたくさんのお話を学んでいるのではないのでしょうか。その一つ一つが大切なことです。お祈り、分かち合うこと、笑うこと、愛すること、働くこと、人と仲良くすることなどを学びます。わたしは家族から学んだすべての大切な人生の教訓に感謝しています。

多くの若い女性は、家族との経験や

家族に心を向けることによって学んだ事柄を文章にまとめて、わたしたちと分かち合ってくれました。12歳のキャティ・クインはこのように書いています。

「わたしのお母さんにはおなかに赤ちゃんがいました。……具合が悪くて、ベッドで寝ていることがほとんどでした。……わたしは子供たちの中でいちばん年長なので、大きな責任が突然わたしの肩にかかってきました。中学生になったばかりでしたから、宿題もたくさんありました。

手伝うことがありすぎて、何をどうしたらよいか分からなかったのでお祈りしました。おばあさんが何週間か手伝いに来てくれました。そして、おばあさんの話を聞いたときに、お祈りの答えを頂いたことを感じました。おばあさんは、幌馬車をたった一人で牛に引かせながら、大平原を横断してソルトレーク盆地までやって来たわたしの先祖の一人について話してくれました。彼はそのとき、まだ11歳でした。両親とも旅の途中で亡くなってしまいました。このため、彼は4人の妹の世話をしながら、シオンまで連れて行かなければなりません。妹たちのうちの一人はまだ赤ちゃんだったそうです。この話を聞いて、わたしはこのひいひいひいおじいちゃんのように頑張ろうと思いました。

妹たちのために昼食を用意して紙袋に入れておいてあげたり、洗濯物を畳んだり、アイロンをかけたり、そのほかの雑用を片付けたりして家族を助けようと決心しました。

お父さんは朝早く仕事に出かけるし、お母さんはつわりがひどくて起きられないので、わたしは毎朝学校へ行く前に弟と妹たちを集めて、家族で聖文を読む習慣を続けました。

お互いに助け合わなければならなかったもので、家族は……それまでよりももっと親しくなりました。そして、1997年5月1日に大きな祝福がもたらされました。ハンナ・アダ・クインが生まれたのです。」(本人の承諾を得て引用)

キャティ、お手紙をありがとう。

キャティはずっと昔にこの世で生活していた5代前の先祖から、強い意

志と勇気、そして家族に対する忠誠心を学んだのです。そして彼女は自分を必要としている家族のためにそれらの資質を実際に使いました。皆さんも家族に祝福をもたらす、家族を助けるために同じようなことをしていると思います。

キャティーや皆さんは両親や兄弟姉妹との経験の中で学び実践することによって、将来の家族のために準備をしていることに気づいているのでしょうか。

ここで、将来の家族について少しの間皆さんに考えていただきたいと思います。あなたが母親になったときのことを想像できるでしょうか。目を閉じてください。これから10年間のあなたを心に描いてください。あなたは何をしていますでしょうか。学校に通っているのでしょうか、それとも将来役に立つ技術を学んでいるのでしょうか。あなたはどのような女性になっているのでしょうか。目を開けてください。あなたの心の目には、天の御父の大切な息子娘たちを育てている自分の姿が映し出されているのでしょうか。家庭の中で幼い弟や妹を愛し、親切にすることによって、また愛情のこもった優しい言葉で語りかけることによって、皆さんは今から母親になるための練習をすることができます。あなたは母親として子供たちに算数や理科あるいは歴史を教えている自分の姿を思い浮かべられるのでしょうか。もしそうであれば、学校でよく勉強しておく必要があるのではないのでしょうか。あなたは美しく、音楽と教養のある家庭を築きたいと思っていますでしょうか。あなたは、自分の将来の家庭と家族のために芸術や音楽の才能を伸ばす努力を今日から始めることができます。あなたは平和で秩序のある家庭を持ちたいと思っていますでしょうか。愛する若い姉妹の皆さん、もしそうであれば、平和を作り出す人になってください。現在の家庭を清潔で秩序のあるものにしてください。衣類の洗濯を手伝ってください。あなたの将来の家族が食卓を囲んで、笑い声を響かせ、それぞれが自由に意見を分かち合いながら、あなたが愛情を込めて作ったおいしい、栄養のある食事を楽

しんでいる姿を想像できるでしょうか。それなら、料理の作り方を覚える必要があるのではないのでしょうか。食事の支度を手伝ってください。お母さんやおばあさんから料理を教わってください。シュトルーデル〔果物・チーズなどを薄いパン種で巻いて焼いたドイツ菓子〕、ポイ〔ハワイのタロイモ料理〕、トルティーヤ〔とうもろこしの粉をこねて薄く焼いたメキシコ料理〕など何であれ、家族の好きな料理の作り方を覚えてください。

わたしが皆さんをどのように考えているかをお話ししたいと思います。わたしは皆さん若い女性の中に、教育を受け、その教育によって人々に祝福をもたらすために準備をしている姿を見えています。あなた自身と将来の家族のために、優れた教育を受けるようにしてください。立派な人物になってください。円熟した女性になってください。一生懸命に努力してください。あなたが若い女性の中に、わたしは愛の家庭、秩序の家庭、信仰の家庭を築こうとしている少女の姿を見ているのです。

わたしは、今日行うことが明日の強く忠実な女性を作る、ということを理解している若い女性を見えています。主は主の子らを祝福するためにそのような女性を必要としておられます。皆さんは天の御父と御父が示された道について自分の家族に教えたいと思っていますことでしょう。そのための準備をどこでどのようにしたらよいかをもうすでに御存じだと思います。そうです。聖文の研究、教会の集会、祈り、セミナー、家庭の夕べです。

将来の備えとして、皆さんが今晚家に帰ってからすぐにもできることを提案したいと思います。日記を取り出して、あなたがなりたいと思う女性についてあらゆることを書き出してみてください。次に、あなたの将来についてのその夢を実現させるために努力してほしいのです。このような方法によって、いつの日かあなたが持つことになる家族に心を向けることができます。

では、これから天の御父の家族において皆さんがどのような立場に置かれ

ているかということについてお話ししたいと思います。皆さんは天の御父にとってこの上なく大切な娘であって、天の御父は皆さんを愛しておられます。皆さんはこの世が造られる前に、とても素晴らしい特別なことを行うために選ばれていました。教義と聖約第138章56節に記されている聖句をよく聴いてください。「まことに、彼らは生まれる前に、ほかの多くの者ととともに、霊の世界において最初の教えを受け、主の定められたときに出て行って人々の霊の救いのために主のぶどう園で働く準備をしたのである。」このことを知っていたのでしょうか。天の御父は目的があってわたしたちをこの地上に遣わされました。

女性として生まれることは神聖でかけがえのない祝福です。天の御父は御自身の娘である皆さんに、とても貴重な資質を多く祝福されました。それは、感受性、霊性、愛情、子を養い育てていく力です。様々な機会をとらえてこれらの神聖な賜物を伸ばすようにしてください。そして、人々に恵みをもたらすためにそれらを活用してください。いつも明るく、光を道にまいてください。あなたが尊敬する忠実な女性をよく観察し、彼女たちを優れた、幸せな神の娘にしている資質をあなたの生活に取り入れてください。神はあなたがなり得る最高の女性になることを望んでおられるので、そのように努力するあなたを助けてくださるでしょう。

わたしたちは、試しを受けて、神のふさわしい娘であることを証明するために地上にきました。このため、物事が計画どおりにうまくいかないこともあります。地上の生活ではそのようなことが避けられないのです。けれども、覚えておいてほしいことがあります。それは、一生懸命に努力して、人々に役立つ女性となるために自分を備え、バプテスマの聖約と神殿で交わす聖約を守っていれば、皆さんは信仰と希望と勇気をもって人生のあらゆるチャレンジに立ち向かっていけるということです。天の御父は計画の中で、この世で生活するわたしたちを助けるために救い主を用意されました。救い主はわ

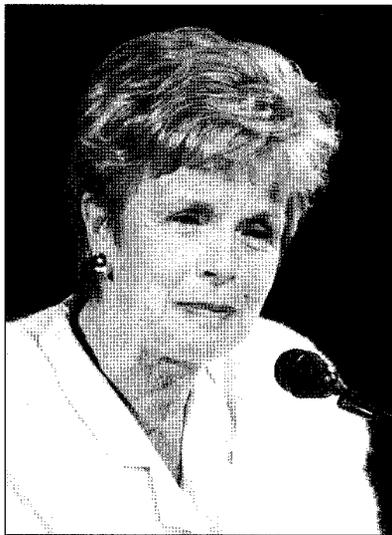
わたしたちが天の御父のみもとへ帰ることができるように助けてくださいます。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である」と主は言われました(モーセ1:39)。主は皆さんを愛しておられます。皆さんが成功することを主は望んでおられます。そして、皆さんの人生における使命を立派に成し遂げることができるように主は助けてくださいます。

今晚わたしがお話を始めたとき、自分が育った家族のことを思い浮かべていました。話を終えるに当たって、その家族について覚えていることをもう少しお話ししたいと思います。わたしがまだ9歳だったときに、我が家の赤ちゃんとして生まれた弟は、生後1日で亡くなりました。わたしたちはとても悲しみ、落胆して、ずっと泣いていました。そのとき、父はどうしたと思えますか。父はわたしたちを集めて、ひざまずき、家族の祈りをささげました。ほんとうに短い間でしたがこの幼子おとこを与えてくださったことを天の御父に感謝し、今では天へ行ったこの幼子のデビッドを祝福して下さるよう主にお願いしました。父はまた、とても具合が悪かった母を祝福して下さるよう天の御父にお願いしました。母は健康を取り戻しました。そして、わたしたちはいつの日かデビッドと一緒に家族として暮らせるように生活してきました。わたしはいつもデビッドのためにお祈りしています。デビッドはいつまでもわたしの弟です。わたしたちは、両親が神殿で結婚したので永遠の家族です。皆さんは子供たちにこれと同じ賜物たまもの、つまり永遠の家族の一員となる祝福を与えることができます。これは皆さんが子供たちに与えることのできるかけがえのない贈り物です。そのような家族を築くよう計画してください。その計画を実行するための準備をしてください。その祝福を受けるためにふさわしい生活をしてください。そのような皆さんを主が祝福して下さいますよう、イエス・キリストの御名なによってお祈りします。アーメン。

# わたしたちのまことの 身分を理解する

中央若い女性第一副会長  
キャロル・B・トーマス

皆さんやわたしは遠い昔、天の御父の家族の娘として生まれ……皆さん一人一人は、前世において勇敢であり、高潔な女性だったのです。



うに心に残る、神聖な経験となったのです。

前世について教えてくれたのは父でした。皆さんやわたしは遠い昔、天の御父の家族の娘として生まれたのだと説明してくれました。前世で生活していたときにわたしたちは神聖な決意をし、そのことは現在、わたしたちが行っていることに影響を及ぼしています。わたしが若かったころ、祖父が祝福を与えてくれました。祖父はわたしが「前世で気高く果たしてきた自分の務めを、この世においても引き続き果たせるように」と祝福してくれました。さて、わたしが前世で行う務めがあったとするならば、皆さんにも同じことが言えます。皆さんが世界史上この時期に生まれてきたのは偶然ではありません。皆さん一人一人は前世において勇敢であり、高潔な女性だったのです。

アブラハムはこのように述べました。「さて、主はわたしアブラハムに、世界が存在する前に組織された英知たちを

**家**族、それはわたしたちが最も愛する人々を呼ぶ、何と神聖な名でしょう。自分の家族の最もすばらしい点について尋ねられたとすれば、それは何でしょうか。わたしの家族を含めて、ほとんどの家族は完全ではありませんが、お互いにより親切になろう、思いやりを持とうと毎日努力しています。先月、父が亡くなりました。わたしは父から多くの教訓を学びました。父は偉大な信仰の持ち主でした。父は「死ぬことは、ほかの部屋に歩いて入るようなものだ」と話していました。父が亡くなった日、わたしは思いました。「父は今日亡くなりました！ 地上での最後の日となったのです！ 彼は別の部屋に歩み去ったのです！」父の死は、家族とわたしにとって、ほんと



見せてくださった。そして、これらすべての中には、高潔で偉大な者たちが多くいた。」(アブラハム3:22) アブラハムは皆さんのことを語っていたと知っていましたか？ 皆さん一人一人が高潔であり、偉大であり、この時代に生きるために生まれてきたのです。

わたしたちは皆、境遇の異なる家族から来ています。この中には困難な状況の下で生活している人がいますが、そのような状況の中でもほんとうによく頑張っています。家族の皆とうまくやっっていこうとするときにお母さんやお父さんとの関係について心配している人もいるでしょう。そして皆さんは救い主が困難な状況を解決してくださったり、またそのような状況にあっても平安を感じられるよう助けてくださることを学んでいます。

ジェフリー・R・ホランド長老の言葉を使って表現するならば、「[家庭]は完全な人々が集う修道院ではない」のです。時に家庭は、わたしたちが愛する人たちに滋養と助けを与える病院なのです(「主は、飢えている者を良いもので飽かさなさいませ」『聖徒の道』1998年1月号、74参照)。

ある若い女性がこのように書いています。「家族の中のだれもが問題を抱えています。しかしわたしは家族のそばにいて、彼らを助けようと心がけて



います。……家族として永遠と一緒にいたいからです。」

わたしたちは若い女性の皆さん一人一人が、自分の家族に心を向けていることに大変感動しています。ある若い女性は、行く先々で周りの人々を幸福な気持ちにしています。彼女はどのように記しています。「わたしは家族の皆がにこやかに生活できるよう努力しています。家族が悲しんでいるとき、再び彼らが幸せを感じられるように努めています。」また別の若い女性はどのように語りました。「教会員ではない家族と一緒に暮らしているのです、わたしが家庭でしている奉仕は若い女性が福音に添って生活しようとする模範になっていると思います。少しずつではありますが、わたしが唯一まことの教会から受けている祝福とよい感情を、家に持ち帰っているのです。」アフリカでは、姉と妹であるガーナの若い女性二人が、美しいシオンの歌を歌い、家族に平和の御霊みたまをもたらしています。

家族が全員そろっていないことで、特別な訓練を受ける若い女性もいます。去年の夏アラスカで、ある若い女性の会長と会いました。この会長の母親は、彼女が3歳のときに亡くなりました。それ以来、彼女は父親の手によって育てられ、14歳のときに教会に入りました。わたしは彼女に髪かみの結い方やテーブルをきれいに整える方法など、女性が行う事柄についてどのように学んできたのか尋ねました。彼女はどのように答えました。「若い女性の指導者を観察していたのです！ 料理の上手な指導者がいれば、彼女を見て自分もそのようになりたいと思いました。今でも、家を掃除する度に、ローレルのアドバイザーのことを思い出します。」ですから、たとえ皆さんの家族が完全でなくても、自分の将来の家族を思い描いて、計画することができるのです。

皆さんが各々主婦になるための訓練をしているとき、あなたはまさに主があなたに望んでいらっしゃることを行っているのです。若い女性一人一人の心には、いつか妻となり母となることに対する強いあこがれがあります。そのような感情は、地上に来るずっと以

前に、あなたがたの霊の中ではぐくまれたものです。ヒンクレイ大管長はどのように述べています。「大部分の女性たちは家庭や家族の中に最も大きな幸福を見だし、最も充実した気持ちを感じます。」(ゴードン・B・ヒンクレイ、*Teachings of Gordon B Hinckley* 『ゴードン・B・ヒンクレイの教え』387)

家族に心を向ける！ 1998年の世界の祭典では、自分の先祖を含む、家族に心を向けるための数々の方法が提案されています。エリヤの霊は若い女性とともにあります。世界中に、自分の先祖やルーツを探すことのできる、家族歴史センターがあります。若い女性は先祖を探ることが好きです。ある若い女性はこのように書いています。「家族歴史センターに初めて行ったとき、ほんとうは行きたくなかったのです。つまらない所のように思えたからです。でもコンピューターで自分の高祖母の名前を見つけたとき、とても興奮してしまいました。」先祖を探し、彼らのために神殿で奉仕をしたいと望むときに、主の宮に参入することから得られる力を知るようになるでしょう。

コロンビアの若い女性の指導者であるマーサ・メラネズ姉妹はこのように記しています。「わたしたちの神殿は間もなく奉獻されます。地元の若い女性たちが自分の先祖のために〔バプテスマ〕を受ける姿を目にするのは、何とすばらしい経験となることでしょうか。〔この祭典〕は靈感にあふれているものなので、わたしも進んで自分の家族に心を向けています。これが、ここコロンビアの主の神殿においてわたしたちが主にささげる奉仕の業なのです。」

若い女性の皆さんが行ってくださるあらゆる奉仕の業に感謝しています。世界の祭典を引き続き堪能たんのうするときに、御霊の力により強められていくことを感じるでしょう。祈り、聖文を読み、戒めを守るときに、皆さんが天の御父の王家に属して、御父にとっても愛されていると、聖霊がささやかれるでしょう。このことをイエス・キリストの御名みなによって証します。アーメン。

# 若い女性——自由の旗

中央若い女性第二副会長  
シャロン・G・ラーセン

特別な人になるために司令官モロナイのようにする必要はありません。天の御父が求めておられるのは、皆さんが家庭にあって、自らの責任を果たすことです。天の御父はそうに計画されたのです。



——ファイ人の司令官は憤りました。邪悪で野心に満ちた離反者、アマリキヤが、義を守るニーファイ人の家庭と家族、国家を滅ぼそうとしたからです。司令官モロナイは、自分の衣を裂いて、旗を作りました。その衣に次のような言葉を書き込みました。「我々の神と宗教、自由、平和、妻子のために。」(アルマ46:12) それから、彼はこの衣を竿の先にしっかりとくくり付け、それを「自由の旗」と呼びました。全地の至る所、すべての塔に、邪悪な侵入者から家族を守る象徴として、この自由の旗が高く掲げられたのです。

若い女性の皆さん、皆さんは、利己心、無慈悲、怒り、争いといった侵入者から家族を守ろうと懸命に努力するとき、「自由の旗」のような存在になるのです。皆さんの掲げる旗は、平和、

愛、家族への奉仕を象徴しています。

ある若い女性の言葉に耳を傾けてみましょう。彼女から次のような手紙が届きました。「今、わたしの家族は、つらい時期を経験しています。最近ずっと、わたしは母親の役割を果たさなければなりません。弟の面倒を見るために放課後の活動に参加できないこともあります。夕食の準備や、食料品の買い物のために友達と外出できないこともあります。」手紙はさらに続きます。「でも、この責任があるからこそ、母親になることや、大人になって、自分のためだけでなく、ほかの人のために責任を果たすことの意味について、数多く学びました。」

自由の旗、自分自身の旗を掲げるとき、皆さんは家族に祝福をもたらし、家族を愛し、心を配るためのたくさんの方法を見いだすことでしょう。

例えば、娘のシェリーが伝道から帰って来たときのことで。わたしは自分の衣服を竿に付けていたわけではありませんが、細長く赤いカーベットの断片を見つけたのです。それで、シェリーは家に戻ったとき、玄関まで続く赤いカーベットの土を歩くことになりました。

だからといって、赤いカーベットのや、裂いた衣が必要なわけではありません。時として、愛を示すうえで、枕にたった1枚メモを残したり、ほんの1度ほほえんだり、抱き締めたりする方が、ほかに思いつくいかなる方法よりも効果的な場合があります。

奉仕によって愛が伝わります。

リンゼイは、母親に奉仕したときに、

自らの旗を高く掲げました。手紙にはこうあります。「母はうたた寝をしていました。その間に家の中を掃除してしまっただけです。母は目を覚ますと驚きました。」ここで、リンゼイの次の言葉に注意してください。「心の中にとっても良い気持ちを感じました。」リンゼイの母親はどう感じたでしょう。天の御父はリンゼイの行いをどう思われたでしょう。

若い女性の皆さん、わたしは心の中で皆さん一人一人のために赤いカーベットの布を広げ、起立し拍手をもって皆さんを称賛します。

特別な人になるために司令官モロナイのようにする必要はありません。天の御父が求めておられるのは、皆さんが家庭にあって、自らの責任を果たすことです。天の御父はそうに計画されたのです。皆さんがいなければ、皆さんの家族は違ったものになるでしょう。皆さんはとても大切な存在なのです。

わたしがまだビーハイブの年代のころ、(あまりに古く、まるで恐竜が地球上を闊歩していた時代までさかのぼるようなものですが) 姉ははるか遠方の学校に通学するために家を出て行くようにしていたときのことを忘れません。わたしは慰めようもないほどに泣いていました。姉はわたしを慰めようとしてこう言いました。「シャロン、泣かないで、戻って来るんだから。」するとわたしは、涙でぬれた顔で姉を見上げ、こう言ったのです。「戻って来るのは分かっているわ。でも、お姉さんがいない間、一体だれが台所の床ふきをやってくれるというの。」あのとときのわたしは、いわば、「自分に心に向ける」〔訳注——今年度の若い女性世界の祭典のテーマは「家族に心に向ける」〕状態だったと思います。

やがてわたしは、床の掃除の手助けより、さらに大きなものを失うことがあると気づきました。わたしたちは互いに必要な存在です。ともに支え合う必要があるのです。

それから数年の後、この姉がわたしを気遣ってくれたことがありました。それは、友人宅を訪問するため姉に車



中央若い女性集会の説教の中でシャロン・G・ラーセン姉妹の用いた視覚資料。保育器で寄り添う未熟児の双子の姉妹、プリエル・ジャクソンとキリー・ジャクソン。許可を得て掲載。

を借りる許可を求めた時のことです。姉は同意してくれましたが、4時までには返すようにと言いました。わたしは喜んで車に乗り、出かけました。ほんとうに楽しいひとときを過ごしました。信じられないことでしたが、時計に目をやると、すでに6時を指していたのです。わたしが慌てて家に駆けつけると、姉の姿はありませんでした。ただ、テーブルの上に、わたしの大好物のチョコレートケーキと次のようなメモが置いてありました。「心配しないで。楽しかったんでしょう。車は何とか手配できました。あなたのことを大切に思っています。」これこそ、自分自身の心を家族に向け、自らの旗を高

く掲げるということです。わたしが迷惑をかけたにもかかわらず、そのわたしの気持ちを姉は気にかけてくれたのです。

姉妹たちの間には強いきずなががあります。兄弟姉妹の間にも強いきずながあります。そして親と子供たちの間にも互いを支え合うきずながあります。お互いに「救い合う」強いきずなさえるのです。

以下の話から、人に救いをもたらすそのような力について考えてください。数年前に、双子の女の子、プリエルとキリーが未熟児の状態でジャクソン家に生まれました。感染の危険を減らすべく、二人の赤ちゃんは別々の保育器

に入れられました。体重1キロ強の、大きい方の赤ちゃんキリーは、すぐに体重が増え始め、よく眠れるようになりました。しかし、誕生時に体重が1キロにも満たなかったプリエルは、キリーの発育について行けませんでした。ある日、突然、プリエルは危篤に陥りました。病状を安定させるために、担当の看護婦はあらゆる方法を試みました。にもかかわらず、酸素の吸入量は激減し、心拍数は急増して、プリエルはもがいたり、ぐずったりしました。そのときです。その看護婦は以前に聞いたことのある一つの方法を思い出し、心配する両親にこう告げました。「とにかくプリエルをキリーと一緒に保育器に入れさせてください。効果があるか試してみしましょう。」両親はその提案に同意しました。看護婦はもがいているプリエルをもう一方の保育器に静かに降ろし、キリーの横に寝かせました。保育器のドアが閉まるやいなや、プリエルはキリーにすり寄り、すぐに落ち着きを取り戻しました。そして数分とたたないうちに、プリエルの血中酸素量は、生後最も正常な値を示しました。プリエルがうとうとすると、キリーはその小さな手を自分よりも小さい姉を包み込むように置いたのです（ナンシー・シーハン、A Sister's Helping Hand「妹からの助けの手」『リーダーズ・ダイジェスト』1996年5月号、155-156参照）。

医者も看護婦もともにあらゆる医学的、科学的方法を用いてその赤ん坊を助けようとしたましたが、どの方法も効果はありませんでした。苦しんでいる赤ん坊を助けられるのは、その妹しかいなかったのです。これこそ、兄弟、また家族の一員にしかできないことなのです。

若い女性の皆さん、皆さんの生活そのものが、邪悪な侵入者から家族を守るために大きな力となる「自由の旗」なのです。皆さんが最も愛する人々、すなわち皆さんの家族のために、親切と美徳そして奉仕のとりでとなっていたいただきたいのです。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

# 天使に近い者となるために

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

善を行うという天使のような働きにおいて一致し、義に飢え渴くなら、皆さんはすばらしい女性になるでしょう。



すばらしい若い女性の皆さんとともにこの会に出席できうれしく思っています。今晚は特に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長とトーマス・S・モンソン副管長をお迎えする光栄に浴しています。すばらしいメッセージを下されたナドル姉妹、トーマス姉妹、ラーセン姉妹に賛辞を呈したいと思えます。若い女性の皆さんのコーラスはすばらしいものです。ビデオに関与された方々、また家族にどのように仕えるかについて手紙を書くようにという、中央若い女性会長会の要請にこたえてくださった方々に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

皆さんは、前世において霊として存在していたときに、義にかなった選択をしたために、女性が多くの自己実現

の機会に浴することができるこの時代に地上に生を受けるように定められました。この会場に集っている皆さんの中に、わたしのかわいい孫娘たちの顔も見えます。皆さんの多くはわたしの孫たちと大体同じ年代だということに気づきました。また、ある人が祖父母について話した言葉を思い出しました。「おじいちゃん、おばあちゃんというのは、甘やかし放題にする人、うるさいくらいに心配する人、そして50歳以上の人。」<sup>1</sup> 今晚は皆さんを自分の孫だと思って、お話ししたいと思えます。皆さんの愛らしい顔は、これから立派な女性に成長していくつぼみのような魅力的な雰囲気にあふれています。

尊い若い女性の皆さん、まず、あらゆる意味において徳高い生活をしなければなりません。徳という言葉には、道徳的に優れていること、正しい行動と考え、人格的に優れていること、女性としての清純さなど、様々な意味があります。大管長会は次のように述べています。「清い若者、それは何と輝かしく、天使に近いものでしょう。そのような若者は、この世において言葉に尽くせぬ喜びを味わい、次の世において永遠の幸福を得ることでしょう。性的な清さは、若者の最も大切な宝です。それは、すべての義の基なのです。」<sup>2</sup> これは、若い女性の道徳的な高潔さは天使に等しいという意味です。<sup>3</sup> また徳を備えた女性、すなわち「多くの人々の中にあってひとときを輝く徳を備えた女性」でなければ、偉大な女性になる

ことはできません。<sup>4</sup> 善を行うという天使のような働きにおいて一致し、義に飢え渴くなら、皆さんはすばらしい女性になるでしょう。救い主は「まず神の国と神の義とを求めなさい」と言われました。<sup>5</sup> もし、それができていないとしたら、ほかのどのようなことよりも重視して考える必要があります。

皆さんは、映画、本、音楽、雑誌、インターネット、ラジオなどによる、露骨な性的不道徳の攻撃に常にさらされています。世の中は「だれが賢い妻を見つけることができるか、彼女は宝石よりもすぐれて尊い」<sup>6</sup> という教訓を忘れてしまっているようです。また尊い若い女性の皆さんは、神の娘であるということも申し上げておきます。神は皆さんを愛しておられます。皆さんは神によって創造された貴い存在です。皆さんの高潔さと自尊心は、デビッド・O・マッケイ大管長が語った次の言葉をきっと思い起こさせてくれるでしょう。マッケイ大管長は、すべての「女性は自分自身の体を神聖に保たなければならない」<sup>7</sup> と言いました。

若い女性の皆さんは、次のことをはっきりと理解しておく必要があります。交際している若い男性が、もし道徳的な罪の中にいるなら、その人は皆さんを尊び敬うことはないでしょう。ここで、罪の中にいる方々に申し上げます。神は悔い改めた人の罪は「思い起こさ〔れ〕ない」<sup>8</sup> ことをはっきり理解していただきたいと思えます。悔い改めと赦しへの道は、両親と監督のもとへ行くことから始まります。

わたしは、皆さん一人一人が大いに価値のある人物になり、この世においても永遠の世においても自分の能力を伸ばしていく徳高い人になるように望んでいます。皆さんは女性として、男性にはない、独自の賜物を数多く授けられて、この世に生を受けました。

スペンサー・W・キンボール大管長は、男性と女性のそれぞれの役割について、次のように述べています。「この地上に来る前のことを考えてみてください。忠実な男性が神権に関するある種の責任に予任されていたのと同じように、忠実な女性にも何らかの責任が



課せられていました。それが何であるのか今すぐには思い出せなくても、かつてわたしたちが同意した栄えある事柄を変えることにはなりません。皆様には、わたしたちが預言者や使徒として支持している人々と同じように、前世で与えられた務めを果たす責任があるのです。……たとえ男女の永遠の役割が異なっている、男性と女性とともに進歩するという点で多くのなすべきことが残されています。』<sup>9</sup>

この言葉は、男性も女性も、この世に誕生する前に幾つかの決意をしていること、また、それぞれに異なる、すばらしい賜物を豊かに授けられてこの地上に来ることに同意したのを示しています。わたしたちは、男性も女性も、それぞれの方法で、またそれぞれの責任の中で、大いなる働きをなすように求められています。

皆さんは何から始めたらいいのかと思っていることでしょうか。まず自分がしてみたいと思うすべてのことを挙げるのではなく、どうしてもやってみたいと思うことを考えてください。人生の中で絶対に経験してみたいと思う事柄を2、3選んでください。大切な事柄を成り行きに任せるようなことはしないでください。次に、家族、教会、地域社会に奉仕することにより、人々に対してどのような貢献ができるのかを考えてください。また、自分が人生の中で何を求められているのかについて考えてください。どれも価値のある事

柄です。わたしたちは多くのことを期待されています。男性のようになりたいというのは、答えにはなりません。むしろ、その答えは、自分が一体何者であるかということ、また、御父と交わした誓約を守り、神の子供としての可能性に恥じない生活をするということの中にあります。

現代社会において女性は何をなすべきか、何をなすべきでないかという点について騒ぎ立てる数多くの相争う声を信用してはいけません。特に声を大にして叫んでいるのは、女性としての役割に不満というよりは、自分自身に対して満足できない人、また、生活全般に対して不満を抱いている人々です。

幸福を求め、自分が何者であるかを探求していく中で、決して欺かれないようにしてください。皆さんがこれまで見てきたお母さんやおばあさんの生き方は時代遅れで、魅力に欠け、退屈で、単調な苦勞ばかりと、説得しようとする人がいるかもしれません。それは確かに古風だったかもしれませんが。また変化がなく、時には苦勞の多い仕事でした。しかし、皆さんのお母さんやおばあさんは、気高い愛と女性としての崇高な思いを表現した歌を歌ってきました。そして、わたしたちを養い、教えてきました。単調で苦勞の多い仕事を、この上なく貴い仕事に変え、その働きを神聖なものにしてきたのです。

皆さん自身が「家事」だと思えば、そのすべての仕事が「家事」になりま

す。日常は、心をいだかせる仕事、また型にはまった魅力のない仕事とともに、満足感ももたらしてくれます。それは法律事務所でも病院の薬局でも実験室でも商店でも同じことです。しかし、家の中を整える仕事以上に大切な仕事はありません。C・S・ルイスはこう述べています。「主婦の仕事は……ほかのすべての仕事の基になるものである。』<sup>10</sup>

現在ステーキの若い女性の会長として奉仕しているカレン・グラハムは、自分自身の生活の中において家事を行うのに必要な技術の大切さについて次のように書いています。

「わたしが高校3年、17歳のローレルだったときのことで。学校から帰宅すると、母が脳出血でまったく突然に亡くなっていました。わたしの二人の姉はすでに結婚していて、遠く離れた所に住んでいました。そのため、悲しむ父と12歳と13歳の二人の弟がいる家の世話をするのはわたしの仕事になりました。

それからの2年半、洗濯、食料品の買い入れ、食事の支度など、家の中の仕事はわたしがしました。……生活費の管理を17歳の子供に任せるというようなことが想像できるでしょうか。優しい父は、思いやりのないことを言ったことは一度もありませんでした。洗濯をして白のワイシャツをピンクにしてしまったり、ひどい料理を作ってしまったときでも、父は決して不平

を言ったりはしませんでした。高校の友達は何、卒業後の生活をいろいろと計画していました。ユタ州立大学へ行くという人たちもいました。……わたしは以前にリックスカレッジに行きたいと考えたこともありました。家族の状況を考え、家に残って父や弟たちを助ける道を選びました。

母が亡くなってから2年後、わたしは帰還宣教師のギャリーと交際を始めました。2度目のデートのときに、彼はわたしに、土曜日にはどのようなことをしているのかと聞いてきました。……一日中、掃除をしたり、買い物をしたり、洗濯をしたりしているというわたしの話を聞いて、彼は少し驚きました。彼はわたしを家の中のことにかかり切りの人間だと思ったようです。半年後に、このすばらしい男性はわたしを神殿に連れて行き、それから二人の新しい生活が始まりました。彼は料理の仕方や家計のやり繰りの仕方を知っている女性を妻にしたことを喜びました。

結婚してから1年後のある日の晩、結婚して間もない幾人かの友人たちと食事をしました。何組かの夫婦が、結婚生活になじむためにかなり苦勞をしたということについて話し始めました。ギャリーとわたしはそんな話が信じられず、思わず顔を見合わせてしまいました。結婚生活になじむ？ わたしたちには、どういうことなのか分かりませんでした。わたしたちの最初の1年はとても穏やかに過ぎていました。後で話し合っただけで分かったのは、それは、わたしが結婚前に家事の仕方を覚えていたからだということでした。……わたしは料理や洗濯、家計管理などのことで失敗しても、あれこれ悩んで、ストレスを感じたりすることはありませんでした。父が優しく、また忍耐強く賢明に、すべてを見守ってくれたのです。ですから、ギャリーとわたしは、お互いの関係だけに気持ちを集中させることができました。それはとてもすばらしいことでした。自分の関心を二の次にして、家族の必要を考えたことが、後になって大きな祝福となって返ってきたのです。』<sup>11</sup>

彼女がこの大変なときに父親のため

に働いたことは、皆さんが立派な女性になるための大切な準備としている善を行うという天使のような働きの一つなのです。

今の時代の女性たちは、一部の人々から、蓄財、旅行、結婚、子育てをすべて行い、社会にあっては自分自身の仕事を持つようにと勧められています。主体性を確立し、主に仕え、教育を受け、才能を伸ばし、家族に奉仕し、できれば自分自身の家族を作るということは、確かに女性が幸福になるための大切な要素です。

しかし、皆さんはこれらのすべてを同時にうまくこなしていくことはできません。パン屋に並んでいるパンを一度にすべて食べることはできません。そんなことをすればおなかを痛めてしまいます。妻、母親、教会の召しを受けている者、職業人、社会における奉仕者など、いずれの分野においても、同時に100パーセントの力を出し切るということはできません。これらすべての役割をうまく調整するには、どうしたらよいのでしょうか。わたしが皆さんに提案したいのは、順々に行くという方法です。

「順々に行く」とは、一つのことが済んだら、次のことに移るというようにして、物事を進めるという意味です。伝道の書にこう書かれています。「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。」<sup>12</sup> 家族の世話をするという女性の伝統的な役割に対して、異義を唱える声が増え強くなっています。しかし、妻や母親としての役割は皆さんの心の中心を占めるものであり、また、皆さんの中にはその役割を果たしたいという強い望みもあります。ほとんどの女性は生来、善良な男性を愛したいという望みを持ち、またそのような人に愛されたいという望みを持っています。そして、神から与えられた母親また養育者という、女性特有の奥深い感情にこたえたいと望んでいます。幸いにして多くの女性は、男性のように生涯にわたって行う仕事を見つけなければならない立場にはありません。女性は幾つかの関心事を、人生のいろいろな時期に組み入れてい

くことができます。

姉妹の皆さんに、この地上において義の業を推し進めるため、自分の賜物や才能のすべてを伸ばすようにお勧めします。皆さんが、自分にできるすべての知識を身に付けるように願っております。できるかぎり有益な技術を身に付けるようにしてください。ただし、そのことだけにかまけて、最も大切なものを犠牲にしてしまうことがないようにしてください。そうでないと、人生の様々なすばらしい機会を見失ってしまうことになりかねません。

ファウスト姉妹とわたしは娘たちに教育を受けるように熱心に勧めました。それは、家庭の中の仕事に役立つというだけでなく、いざというときには、生計を立てることができるように備えさせるためでした。大学や専門学校へ行くことはすばらしい体験です。お金も必要ですし、努力することも、時間も求められます。しかし、それによって、職を得るのに必要な技術を身に付ける備えができるのです。

若い女性の皆さんがどのような教育を受けたらよいかを、わたしが言うことはできません。それは皆さんが自分自身で決めるべきことだからです。皆さんには選択の自由があります。皆さんはいずれ、自分にできるすべてのことを学び、才能を伸ばすために懸命に勉強しなければならなくなります。ほんとうに価値あるものを得るのは容易なことではありません。わたしは皆さんに、何が一人の人間としての主体性、有意義な目標、幸福をもたらすかを伝えたいだけなのです。わたしはまた、自分の可能性を伸ばし、価値のある人間になり、立派な女性となるよう皆さんにチャレンジします。ほとんどの皆さんの家庭には、立派な女性の模範となる人がいます。ですから、皆さんはその手本に倣ってください。

皆さんは「成長するわたし」のプログラムの中で、若い女性として様々な計画を実践する機会を与えられています。ユタ州センタービルのアンナ・ニコルスという若い女性は、自分自身の特別な体験について次のように書いています。

「わたしは去年、ローレルのプログラ

ムをしましたが、それを通して、前には全然知らなかった祖母をととも身近に感じられるようになりました。祖母は、わたしの母が5歳のころにひどい痛で亡くなりました。母は昔のスライドや手紙を集めたものを大切に保管していました。わたしはそれを全部見せてもらい、その中から、祖母とその家族が写っている写真、それに、祖母が亡くなる前に自分の考えていることを妹にあてて書いた手紙を選び出しました。

わたしはそれを祖母の思い出として、1冊のスクラップブックにまとめ、祖父に渡しました。1ページ、1ページそれをめくり、それぞれの写真の思い出を話す祖父の顔を見ながら、わたしはととも厳肅な気持ちを感じました。わたしたちは一緒に涙を流しました。祖父は祖母を失ってととも悲しい思いをしています。このスクラップブックがほんの少しではありますが祖母を再び祖父の生活の中によみがえらせたようでした。

わたしはこのスクラップブックのおかげで、祖母との間に個人的な関係ができました。祖母の霊を身近に感じています。わたしが困っているときに、祖母はわたしを守り、助けてくれました。わたしは祖父の家に行くと、いつも、祖母のことやいろいろなことを話します。今では祖父のところへ行って、一緒に時間を過ごすのがととも楽しみです。』<sup>13</sup>

ここでもう一度強調したいと思います。何をする場合にも、まず神の国と神の義とを求めようにしてください。<sup>14</sup>無条件で、救い主、またジョセフ・スミス、ゴードン・B・ヒンクレー大管長を、神に選ばれた方々として受け入れてください。神が召し聖任された指導者を信仰と祈りと実際の行いによって支持しようとする人は、男性であれ女性であれ、神によって高めていただくことはできません。ですから、若い女性の皆さん、教会において、また家庭において、神権によって自分たちを導く人を支持してください。

神権の力による指導を受けるのは、自分たちの選択の自由を損なうことになると考える人がいるかもしれません。

神権の権能は強制や強要、不正な支配によって行使されるものではありません。スティーブン・L・リチャーズ副管長はこう述べています。「わたしたちの一致は、義の原則による全体の一致と、御父の御霊の働きに対する教会員の一致した対応から生じるものです。それは恐れから生じるものではありません。しかし、ただ一つの例外があります。その例外とは、わたしたちの働きの導き手である神の不興を買うことへの恐れです。』<sup>15</sup>

教会の指導者に従うことは、主が常に御自身の教会を導いておられることに対する信仰の表れです。それは神の摂理の原則を進んで受け入れることです。

皆さんはいつか、自分自身が持つ女性としての自然な本能にこたえなければなりません。預言者ジョセフ・スミスは、それは皆さんの天性と調和の取れたものであると言っています。「皆さんが自分に与えられている特権にふさわしい行動をするなら、天使を友とすることも差し止められなくなります。』<sup>16</sup>皆さんはこれらの本能と善を行うようにとのささやきに進んでこたえる必要があります。心を静め、聖霊のささやきに耳を傾けてください。前世において、皆さんの心の奥深く神によって植え付けられた気高く直観的な感情に従ってください。そうすることによって、皆さんは神の聖なる御霊にこたえ、真理によって聖められるようになります。また、永遠の誉れと愛を受けられるようになるのです。皆さんの行いの多くが、愛と憐れみに対するそのすばらしい力によって、人々を豊かにすることでしょう。

最後に質問したいと思います。皆さんはどうしたら立派な女性になることができるのでしょうか。皆さんは自分自身の気高い女性としての愛と憐れみの天性に磨きをかけ、まず自分の家族に、それからほかの人々に対して惜しみなく実践する必要があります。皆さんが、明らかにされたイエス・キリストの福音の枠の中で常に義に飢え渇くように願っています。善を行うという天使の働きをなすときに、皆さんが永遠の将来に対する展望を持つように望

んでいます。それは、皆さんを立派な女性にするだけでなく、最終的には永遠の世界において女王とすることでしょう。

わたしは、主の祝福が若い女性の皆さん一人一人のうえに注がれ、詩篇の作者が述べたように「み言葉の声を聞いて、これを行う」<sup>17</sup>主の使いとなるように願っています。皆さんが心の中に義にかなった望みを持つように祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. エバン・エサルによる再引用、*20,000 Quips and Quotes* 『警句と名文—2万選』357
2. "The Message of the First Presidency to the Church" *Improvement Era* 「大管長会メッセージ」『インブルーメント・エラ』1942年5月号、273
3. *Collected Discourses of George Q. Cannon* 『ジョージ・Q・キャノン説教選集』1890年10月5日付け参照
4. *The Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編、398
5. マタイ6:33
6. 箴言31:10
7. *Gospel Ideals* 『福音の理想』471
8. 教義と聖約58:42
9. 「義なる女性の役割」『聖徒の道』1980年3月号、141
10. *Letters of C.S. Lewis* 『C・S・ルイスの手紙』262
11. 若い女性会長会あてのカレン・グラハムの手紙、1997年10月16日付け
12. 伝道3:1
13. 若い女性会長会あてのアンナ・ニコルスの手紙(日付の記載なし)
14. マタイ6:33参照
15. *Conference Report* 『大会報告』1938年10月、116
16. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールドディング・スミス編、226
17. 詩篇103:20

# 七十人に召された新幹部

**第**168回年次総大会において、3人の中央幹部が七十人第一定員会会員に、13人の中央幹部が七十人第二定員会会員に召された。また、16人の新たな地域幹部七十人が七十人第三、第四、および第五定員会会員に召された。

シュeldon・F・チャイルド、クエンティン・L・クック、フランシスコ・J・ビーナスの各長老は、七十人第二定員会から七十人第一定員会に召された。3人とも1996年4月に七十人第二定員会会員として支持されている。

七十人第二定員会に召された13人の中央幹部は、アトス・M・アモリン、E・レイ・ベイトマン、バル・R・クリステンセン、ロナルド・T・ハルバーソン、アール・M・モンソン、メリル・C・オークス、H・ブライアン・リチャーズ、ネッド・B・ローシェイ、D・リー・トブラー、ゴードン・T・ワッツ、ステイーブン・A・ウエスト、ロバート・J・ホエットン、レイ・H・ウッドの各長老で、ブラジル、メリーランド州、オハイオ州から1人ずつ、テキサス州から2人、ユタ州から8人が召された。

16人の新たな地域幹部七十人は、以下の各長老である。フィリピン・ミクロネシア地域を担当するヘンリー・F・アセバド、メキシコ南地域を担当するホアン・A・アルバラデホ、フィリピン・ミクロネシア地域を担当するモデスト・M・アミスタッド・ジュニア、南アメリカ北地域を担当するホラシオ・P・アラヤ、チリ地域を担当するグスタボ・A・バリオス、北アメリカ西地域を担当するクレイグ・A・ブロック、ブラジル地域を担当するアダマール・ダミアニ、フィリピン・ミクロネシア地域を担当するエドガルゴ・E・フェルナンド、ヨーロッパ西地域を担当するフランツ・R・ガーク、南アメリカ北地域を担当するダニエル・L・ジョンソン、チリ地域を担当するウィルフレ

ッド・R・ロベス、ブラジル地域を担当するジャイロ・マツザガルディ、北アメリカ南東地域を担当するジェズ・ニエビス、メキシコ北地域を担当するアドリアニ・オチョア、アフリカ地域を担当するエマニュエル・O・オパレ・シニア、南アメリカ北地域を担当するウィリー・F・ズズナガ。

\* \* \*

## 七十人第二定員会



アトス・M・アモリン長老

**七**十人第二定員会のアトス・M・アモリン長老は、多くの人が予想するような退役陸軍将校ではありません。ブラジルの最高軍事法廷のチーフスタッフとして働くチャンスが訪れたときも、アモリン長老はその誘いを断り、リオ・デ・ジャネイロ州レセンデの自宅で「庭仕事」にいそしむ方を選びました。アモリン長老はその美しさに引かれて花を育てています。また、「朝夕に、楽しげに庭でさえずる鳥たちの声を聞くのが好き」なので、自宅の周りを自由に飛び回る鳥たちに、えさを与えています。

アモリン長老はどこで仕えるかよりも、どう仕えるかということに、より心を向けています。アモリン長老はサンパウロ神殿の神殿長を解任された後、ワード長老定員会第二副会長として召

され、「その召しを受けてとても幸福でした。」なぜなら、どんな召しであろうと、アモリン長老は天の御父の子供たちと働くことが好きだからです。

そうした愛の始まりは、少なくともアモリン長老が1972年にバプテスマを受けたころにさかのぼります。アモリン長老は心に変化が生じていることを強く感じましたが、言葉に表すことは依然難しい感情でした。でもその日、自分が生まれ変わったことを長老は知っています。

アモリン兄弟を教会員として確認して、将来この新会員が伝道部長になるだろうと言った謙遜な宣教師のことを、彼は覚えています。後にアモリン長老は、ブラジルのフォルタレザ伝道部を管理しています。また、地方部長としても働き、軍の任務で転勤する間には、現在ではステークとなった幾つかの小さな支部で支部長を務めました。

アモリン長老は1932年6月14日リオ・デ・ジャネイロで生まれ、1957年5月31日にマリア・アリス・フェラオ姉妹と結婚しました。夫妻は1978年にワシントン神殿で結び固めを受けています。息子2人と7人の孫に恵まれています。

アモリン長老は次のように語っています。アモリン姉妹は、「主に仕えるために、いつもよくわたしを助けてくれました。」姉妹も、今回の新しい召しに対してアモリン長老が抱いている畏敬の念と幸福感を抱えています。なぜなら、「妻は教会で奉仕することを愛し、とても強い証を持っているからです。」

アモリン長老は、奉仕によって「主の業に携わる喜びを表せるよう望んでいます。わたしは教会の仕事が好きですし、人々を愛することはわたしにとってとてもたやすいことです。イエス・キリストに対するわたしの証を、みんなと分かち合いたいです。それが、わたしの一番の望みです。」



E・レイ・ベイトマン長老

レイ・ベイトマン長老とマイラ・ベイトマン姉妹は、36年間の結婚生活のほとんどを故郷のユタ州から離れて、カリフォルニア州、ニューヨーク州、コロラド州、ミズーリ州で過ごしました。「いつも親戚とは離れて暮らしてきたので、わたしたち家族はとて親密な関係にありました」とベイトマン長老は語ります。「毎年ユタ州を訪れていましたが、滞在中出席したどのワードも自分たちの家族のようになりました。そして、福音はわたしたちの生活の中心に位置していました。」

E・レイ・ベイトマン長老はユタ州サンディの出身で、1937年10月20日マーロン・サミュエル・ベイトマンとメアリー・アームストロング・ベイトマン夫妻の間に、4人兄弟の三男として生まれました。ベイトマン長老は当時カナダ伝道部内にあったトロントで1957年から59年まで伝道する前にブリガム・ヤング大学で学び、帰還後はユタ大学へ進み、ビジネスを勉強しました。

大学在学中に、ユタ州モンティセロ出身のマイラ・ドリーン・オデット姉妹と出会いました。二人は1961年11月11日に、ユタ州ソルトレーク・シティで学生結婚し、カリフォルニア州サンフェルナンド・バレーに移りました。レイは、そこで見つけた最初の仕事、プリストルマイヤーズ・スクイブ・カンパニーの営業職で成功を収め32年間その会社に在籍しました。

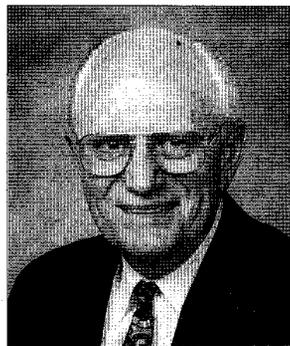
七十人に召されたときは、カリフォルニア州カールスバッド伝道部の部長を務めていましたが、これまでベイトマン長老は日曜学校教師、監督、複合地区福祉ディレクター、ステーキ伝道

部長、ステーキ高等評議員としても働きました。

ベイトマン夫妻には5人の子供があり、3人の娘と2人の息子がいます。そして9人の孫に恵まれましたが、現在は8人です。

「かわいい孫娘はわずか9日間の命でした」とベイトマン長老は語っています。「しかし、どれほどわたしたちが彼女を身近に感じる事ができたかを考えると、驚くばかりです。わたしたちは彼女が今いる所にたどり着けるよう、今を大切に生きていたいと思っています。」

1997年7月カリフォルニア州サンディエゴ神殿で、ベイトマン夫妻は末の二人の子供たちと、その伴侶との結び固めに立ち会いました。「5人の子供たちとその伴侶と一緒に神殿に入ったのは、そのときが初めてでした。そこでわたしたちの心が通い、また孫娘も近くにいることを感じました。それは、すばらしい経験で、天国をかいま見たようでした。」



パル・R・クリステンセン長老

幼いころ日曜学校で、パル・R・クリステンセン長老は、自分がこの世で唯一まことの生ける教会に属していることを教えられました。「その瞬間、わたしはその証に確信を持ちました」とクリステンセン長老は回想しています。「当時の教室や教師、そしてここが真実の教会であるという確信をどのようにして得たのかも覚えています。そのことに疑いを持ったことは人生で一度もありません。」

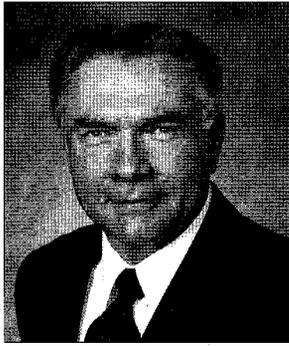
パルは、1935年9月27日ユタ州フーバ

ーで、レオナード・リグビー、ジャネット・ロー・リグビー夫妻の間に生まれ、農家で育ちました。「父はわたしが幼いころ亡くなったので、早くから働くことを学び、動物の世話をし、作物を植えて育て、農場を経営することを学びました」と語ります。「今ではひとり親家庭と呼ばれる、そんな環境の中で育つことは、ある意味でチャレンジだったと思いますが、愛情や関心を示されなかったと感じたことはありません。」

1955年から1957年までカナダ西部で伝道後、パルはユタ州立大学で英語の学士号と中等教育教育管理の修士号を取得し、続けてミシガン州立大学で博士号を取得しました。クリステンセン長老は高校生のときに、缶詰工場で将来の妻となるルツ・アン・ウッド姉妹と出会っています。二人は1958年にソルトレーク神殿で結婚し、5人の子供と16人の孫に恵まれています。クリステンセン兄弟は、軍隊で数年間働いた後、高校で教鞭を執り、その後ユタ州オグデンにあるブリガム・ヤング大学の生涯教育センターに勤務しました。1965年にはユタ州立大学で採用され、1996年に退職したときは学生サービス部門の副学部長でした。

クリステンセン長老はこれまで、地区代表、ステーキ会長、ステーキ副会長、高等評議員、監督、副監督を歴任してきました。1996年の7月からは、アリゾナ州フェニックス伝道部の部長を務めていました。「わたしの心と思いは、いつもこの召しのことでいっぱいでした」とクリステンセン長老は語ります。「将来、教会の指導者になるであろう200人以上もの宣教師の前に座することは、とても霊的な経験でした。わたしたちは彼らを愛しています。そして、集会では度々、わたしの好きな『共に愛し合え』を一緒に歌います。宣教師の犠牲と、彼らを送り出すために払った家族の犠牲に感謝しています。」

\* \* \*



## ロナルド・T・ハルバーソン長老

□ロナルド・T・ハルバーソン長老は次のように話しています。「わたしはこれまでの人生の中で、非常に祝福され主の御手の働きを目にしてきました。また、従順な生活をするなら、福音が幸福と喜びをもたらすことも学んできました。」

ロナルドは、マーロー・ハルバーソンとヒルダ・トムリンソン・ハルバーソン夫妻の4人の息子の中の第3子として、1936年12月18日に、ユタ州オグデンで生まれました。オグデンで成長した彼は、後にウェバー州立単科大学（現在は総合大学）に進み、そこで、ユタ州フーパー出身のリンダ・ケイ・ジェンセン姉妹と出会いました。1957年から59年にかけて、彼はノルウェー・オスロ伝道部で宣教師としての召しを果たしました。そして、伝道を終えた後、ユタ大学在学中の1960年10月13日にソルトレーク神殿においてリンダと結婚しました。今二人には息子4人と娘1人、そして孫が11人います。

ユタ大学卒業後、ハルバーソン長老は父親の経営するマーロー配管・暖房社で働きました。間もなく彼は、自分の事業の才能に気づき、兄弟と一緒に、ハルバーソン・メカニカル社、H&Hメカニカル社、RHYCO社を発足させました。

ハルバーソン長老は政治の分野でも活発に働き、州議会の下院と上院で通算16年間（1966年から82年）議員として務めた経歴があります。また約10年間、ユタ州建築委員会の委員長、ウェバー州立大学の理事会の会員としても働いています。

ハルバーソン家族は、スキー、スノ

ーモービル、デザートサイクリング（砂漠地帯で行うサイクリング）、釣り、狩猟など野外でのスポーツや活動をよく楽しんでいます。また、馬の飼育と調教もしています。

ハルバーソン長老は教会の召しも熱心に果たし、その熱心さは、個人的にもまた社会的にも多くの人々にその名を知られています。ハルバーソン長老はこれまでに、ステーキ会長、ステーキ副会長、地区代表、また1990年から93年にかけてはノルウェー・オスロ伝道部の部長、そしてユタ北地域において七十人第五定員会会員として召しを果たしてきました。

ハルバーソン長老は次のように話しています。「わたしの証は、ここにも少し、そこにも少し、教えに教えを加えられて強められてきました。そして長年にわたって個人的に数々の霊的な体験をする特権に浴してきました。わたしは、イエスがキリストであられ、人はキリストによる以外に御父のみもとへ戻ることはできないということに対して、非常に強い証を持っています。」



## アール・M・モンソン長老

アール・M・モンソン長老は神殿について強い証を持っています。教会の神殿・特別事業部門のディレクターとして働いていたときに、モンソン長老は大管長会の管理の下、神殿の建築と設計の業務を担当しました。モンソン長老は次のように話しています。「わたしは程なく、この地上には神殿が使われたり、建設されたりするのを望まない強い力があるのに気づきました。しかし、いったん主がお望みにな

ると、わたしたちが信頼しさえすれば、神殿の建設とその使用について道が見いだせるように主御自身が助けを与えてくださるのです。」

1932年7月26日に、ユタ州ソルトレーク・シティーに生まれたモンソン長老は、活発な末日聖徒の家庭の中で成長しました。恵まれた環境の中で育ったにもかかわらず、モンソン長老は「それでも、証は自分自身で得なければならぬものです」と語っています。モンソン長老は青少年のときに祝福師の祝福を受けましたが、それは非常に重要な体験となりました。「わたしはその前によく準備をし、幾つか重要な事柄について答えを求めていました。そして、祝福師が祝福の中でその答えを示してくれたのです。それは力強い体験でした。」

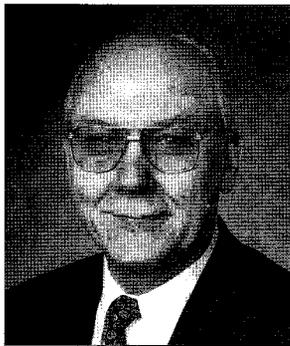
朝鮮戦争のときにはアメリカ陸軍の軍人として2年間従軍しましたが、この時期に彼は歩兵としての訓練を受け、福音と家族への感謝の思いを新たにしました。「自分に与えられていたすべてのものに対する理解の目が突然開かれたのです。それまでわたしは、自分がどれほど大きな祝福を受けていたか理解していませんでした。」

モンソン長老はユタ大学で建築学の学士号を、またアイオワ州立大学で構造力学の修士号を取得しました。1954年にはソルトレーク神殿でドナ・メイ・ヒル姉妹と結婚し、5人の子供と12人の孫に恵まれています。

モンソン長老はこれまで教会において、ステーキ若い男性会長、監督、高等評議員、ステーキ会長、ステーキ伝道部長などの召しを果たしてきています。モンソン長老は次のように述べています。「わたしたち一般の教会員が指導者として働くこの方法は、この教会の非常にすばらしい点だと思います。教会の召しは学び、助けを求めるようにとの刺激になり、わたしたちの証を強めてくれます。」

モンソン長老は今回の新たな召しについてこう述べています。「わたしたち夫婦はこれまで数多くの祝福を受けられ、すばらしい人々と交わってきました。わたしたちは、この業を推し進

め、人々に救い主について話すのは、いつの場合でも心躍る経験であり、救い主に対する感謝の気持ちを示す一つの方法であるという思いを分かち合っています。」



メリル・C・オークス長老

**×**メリル・C・オークス長老の父親が亡くなったのは、彼がわずか4歳のときでした。その後長い間、母親一人で、その両親の助けを得ながら、3人の子供を育てました。オークス長老はこう話しています。「わたしの証は母とともに過ごした家庭生活の中で始まりました。母はほんとうに素晴らしい人で、偉大な教師でした。母が祈るとき、天の御父に語りかけるその言葉はとても直接的で感情のこもったものでした。それでわたしは、その場に天の御父が立って祈りを聞いていらっしゃるのではないかと思い、目を開けてそれを確かめてみたいと思ったほどでした。」

オークス長老は1936年1月12日にアイダホ州のツインフォールズで生まれましたが、その若い時代のほとんどをプロボで過ごしました。彼はカナダのオンタリオ州で宣教師として伝道しましたが、福音について証し、福音が人々の生活を大きく変えるのを目の当たりにして、証が「大きく花開きました。」伝道後はブリガム・ヤング大学で学業を続け、学士号を受けました。在学中にユタ州ペイソン出身のジョゼフィーヌ・アン・クリステンセン姉妹と出会い、二人は1958年9月に結婚しました。オークス長老は後にロチェスター医科大学で学位を取得し、その後、

ケンタッキー大学でインターンとして勤務し、ミズーリ州セントルイスのワシントン大学で眼科学の研究を専門に行いました。

オークス長老は次のように述べています「医学を勉強していると証が試されます。しかし、深く学んでいくと、人間の体とその働きに対して深い畏敬の念を覚えるようになります。人体の仕組みの中に神の御手を認め、それが決して偶然にできるものではないと分かります。」

オークス長老は長年にわたり世界中を旅して、ほかの医師や学生に眼科学を教えてきました。オークス姉妹と9人の子供たちの幾人かは、オークス長老のこれらの旅によく同行してきました。その訪問先の中には、バーレーン、中国、インドなどの地もあります。

オークス長老は監督の責任を2度務め、ほかにもステーキ高等評議員、ステーキ副会長、ステーキ会長などの責任を果たしてきています。現在はワシントン州シアトル伝道部の部長の責任にありますが、6月中に新たな責任を果たすために再び任命を受ける予定です。オークス長老は、福音が生活にどのような影響を与えてきたかを問われて、次のように答えています。「福音はわたしの命です。わたしはこの業が神の業であることに絶対的な確信を持っています。」



H・ブライアン・リチャーズ長老

**H**・ブライアン・リチャーズは、9歳のころ、日曜学校に出席して預言者ジョセフ・スミスに関するレッスンを聞きました。ブライアンは家へ

帰ると父親にこう尋ねました。「この教会が正しいことをほんとうに知るにはどうすればいいの。」

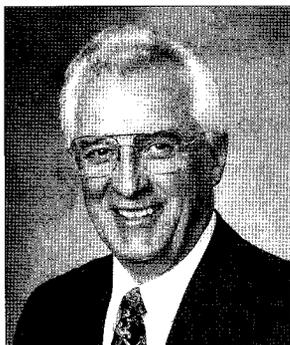
「父と一緒に腰かけると、ジョセフ・スミスの物語を話してくれました。それからというもの、教会について疑いを持ったことはありません」とリチャーズ長老は語っています。リチャーズ長老は1934年3月18日にユタ州ソルトレーク・シティーで生まれ、同地で成長しました。学生時代のブライアンはスポーツ、特にバスケットボールをこよなく愛しました。後に彼は青少年のスポーツチームのコーチとして多くの時間を過ごしました。

ブライアンはブリガム・ヤング大学に進学しました。ある日ジョセフ・スミス・ビルディングに入ろうとしたブライアンは、入り口の階段付近に立ち止まっていた一人の女性を見かけ、「いつか、こんな女性と結婚できたらなあ」と思いました。それから数か月後の1955年、ブライアンはグレートレークス伝道部で宣教師として働く召しを受けました。伝道を終えてブリガム・ヤング大学へ戻った彼は、ある日、教室に向かう途中で再びあの女性に出会いました。そして彼女の名前がリンアン・テラーだと知りました。二人はデートをするようになり、1957年8月23日、ソルトレーク神殿で結婚しました。

リチャーズ夫妻はソルトレーク・シティーに住まいを構えて、8人の子供をもうけています。この間、リチャーズ長老は、航空機の部品とナビゲーション機器を製造するE・システムズ社に勤務し、最終的には厚生部長を務めました。教会においては、監督会で7年間、ステーキ会長会で14年間、そのうち9年間はステーキ会長として働きました。地区代表を3年間務めた後、リチャーズ長老は1994年から1997年までイングランド・マンチェスター伝道部の部長として働く召しを受けました。「子供たちを育てることを除いて、伝道部を管理する責任は妻とわたしが二人で味わった最も素晴らしい経験の一つに挙げることができます」とリチャーズ長老は語っています。「わたしはこの伝道で人がそれぞれに持つ価値を

知り、その一人一人を贖うためにイエス・キリストが払ってくださった代価についていっそう深い理解を得ることができました。」

長年の経験を通して築き上げられたすばらしい信仰を持つリチャーズ長老は、教会は文字どおり驚くべき業と不思議である、と感じています。「この教会はイエス・キリストの教会です。『モルモン書』はキリストの神性に関するもう一つの民からもたらされた証であり、ジョセフ・スミスは回復の預言者です」とリチャーズ長老は語っています。



ネッド・B・ローシェイ長老

ネッド・ローシェイは、1934年8月5日に生まれ、ユタ州ケイズビルの農場で育ち、若いころから勤労について学びました。子供時代、彼の両親は教会にあまり活発ではありませんでした。しかしある晩、社交ダンスが好きだったネッドは、MIAのダンスパーティーでのショーを手伝うように頼まれました。ローシェイ長老は当時のことを振り返りながら、次のように語っています。「火曜日の晩にダンスに行き、日曜日には教会へ行こうと決めました。それから教会に通い始め、その後やめることは決してありませんでした。」1年後、当時21歳の彼は監督より伝道の召しを受けました。「伝道に出ることが正しいことと知っていました。」ローシェイ長老はそのように述べています。

メキシコでの伝道後、ネッドは1958年にソルトレーク神殿でジョアン・シェフィールド姉妹と結婚し、ユタ大学で工学を学びました。5人の子供のう

ち3番目の子供の誕生後、IBM社との面接があり、入社を希望するようになりました。それから1年間ウィバー・カレッジで電子工学の教育を受けた後、ローシェイ兄弟はIBMでワールドエンジニアとして働き始めました。ローシェイ兄弟はそれから31年間IBMに勤務することになります。

その間、ローシェイ兄弟は仕事以外の時間をローシェイ夫人、家族、地域社会、そして教会にささげました。ローシェイ夫人については、支えとなる人、靈感を受ける人と表現しています。ローシェイ兄弟はケイズビル第1ワードおよび第6ワードで監督として働き、後に約10年間ステーク第一副会長として働きました。ローシェイ兄弟は社会的です。あまり教会に活発でない友人と釣りに出かけたとき、ローシェイ兄弟はそのときその友人が次のように語ったことを覚えています。「あなたが得ている祝福や特質はどれも、わたしの欲しいものばかりです。」それは友人にとって人生の転機となりました。ローシェイ兄弟はこのように語っています。「人々と働くときに受ける導きに喜びを感じています。そして常に主に仕えるよう備え、喜んで仕える意志があるので、幸せに思っています。」

ステーク会長会を解任されるとすぐ、ボーイスカウトの責任を受けて4年間働きました。その間ローシェイ兄弟はIBMを退職しています。その後1994年から1997年までベネズエラ・バルセロナ伝道部の部長に召されたローシェイ兄弟はこう語ります。「ボーイスカウトの責任は、伝道部長の責任を果たすうえでよい備えとなりました。」

七十人に召されたローシェイ長老は次のように語っています。「妻とわたしは主に仕えることを楽しみとしています。預言者ジョセフ・スミス、『モルモン書』、主の生ける預言者、そしてわたしたちの贖い主、救い主である御方、またわたしたちの生活に常に祝福をもたらす主の回復された教会に対し、わたしは強い証があります。」

\* \* \*



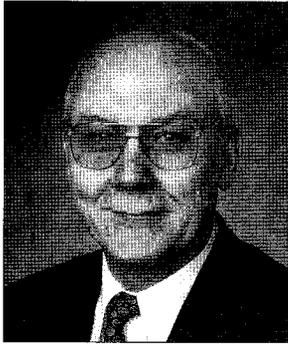
D・リー・トブラー長老

1953年から1956年までスイス・オーストリア伝道部で伝道したD・リー・トブラー長老は次のように述べています。「当時の自分やその後の自分を形成した中で最も重要だったのは伝道でした。健全で堅固な福音を土台として育ってきましたが、青少年期には自信が持てずに難しい時期もありました。伝道中、主について、また自分がどのような存在であり、主が自分のために何をされるかについて、さらに理解できるようになりました。それが転機となり、その後は飛躍的に成長しました。自信をなくす時期も何度かあったものの、総じて上昇していったのです。主の祝福に感謝しています。」

リーは1993年7月25日ユタ州プロボで、4人兄弟の2番目として生まれました。ネバダ州とアイダホ州で育ち、ブリガム・ヤング大学で学士号を、そしてシカゴのノースウェスタン大学では経営管理学の修士号をそれぞれ取得しました。ニューヨークにあるエクソン社に入社し、14年後コネチカット州ハートフォードの「アエツナ生命障害保険」に転職し、10年間勤務しました。その後テキサス州ヒューストンで再び石油産業に4年間従事した後、オハイオ州アクロンのBFグッドリッチ社で働きました。現在は副社長兼財務部長の任にありますが、1998年7月付けで退職となります。

リーは1956年ソルトレーク神殿でダーリーン・ツーソン姉妹と結婚し、6人の子供と12人の孫に恵まれています。トブラー家はオハイオ州マーシャルビルに居住し、約2ヘクタールの農場を所有しています。農場ではリー自身が

め、人々に救い主について話すのは、いつの場合でも心躍る経験であり、救い主に対する感謝の気持ちを示す一つの方法であるという思いを分かち合っています。』



メリル・C・オークス長老

**×**メリル・C・オークス長老の父親が亡くなったのは、彼がわずか4歳のときでした。その後長い間、母親一人で、その両親の助けを得ながら、3人の子供を育てました。オークス長老はこう話しています。「わたしの証は母とともに過ごした家庭生活の中で始まりました。母はほんとうにすばらしい人で、偉大な教師でした。母が祈るとき、天の御父に語りかけるその言葉はとても直接的で感情のこもったものでした。それでわたしは、その場に天の御父が立って祈りを聞いていらっしゃるのではないかと思い、目を開けてそれを確かめてみたいと思ったほどでした。」

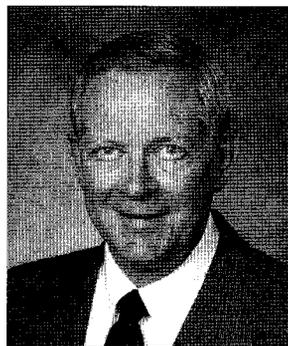
オークス長老は1936年1月12日にアイダホ州のツインフォールズで生まれましたが、その若い時代のほとんどをプロボで過ごしました。彼はカナダのオンタリオ州で宣教師として伝道しましたが、福音について証し、福音が人々の生活を大きく変えるのを目の当たりにして、証が「大きく花開きました。」伝道後はブリガム・ヤング大学で学業を続け、学士号を受けました。在学中にユタ州ペイソン出身のジョゼフィーヌ・アン・クリステンセン姉妹と出会い、二人は1958年9月に結婚しました。オークス長老は後にロチェスター医科大学で学位を取得し、その後、

ケンタッキー大学でインターンとして勤務し、ミズーリ州セントルイスのワシントン大学で眼科学の研究を専門に行いました。

オークス長老は次のように述べています「医学を勉強していると証が試されます。しかし、深く学んでいくと、人間の体とその働きに対して深い畏敬の念を覚えるようになります。人体の仕組みの中に神の御手を認め、それが決して偶然にできるものではないと分かります。」

オークス長老は長年にわたり世界中を旅して、ほかの医師や学生に眼科学を教えてきました。オークス姉妹と9人の子供たちの幾人かは、オークス長老のこれらの旅によく同行してきました。その訪問先の中には、バーレーン、中国、インドなどの地もあります。

オークス長老は監督の責任を2度務め、ほかにもステーキ高等評議員、ステーキ副会長、ステーキ会長などの責任を果たしてきています。現在はワシントン州シアトル伝道部の部長の責任にありますが、6月中に新たな責任を果たすために再び任命を受ける予定です。オークス長老は、福音が生活にどのような影響を与えてきたかを問われて、次のように答えています。「福音はわたしの命です。わたしはこの業が神の業であることに絶対的な確信を持っています。」



H・ブライアン・リチャーズ長老

**H**・ブライアン・リチャーズは、9歳のころ、日曜学校に出席して預言者ジョセフ・スミスに関するレッスンを聞きました。ブライアンは家へ

帰ると父親にこう尋ねました。「この教会が正しいことをほんとうに知るにはどうすればいいの。」

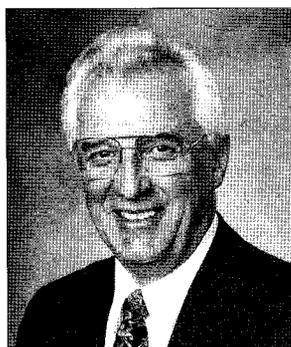
「父と一緒に腰かけると、ジョセフ・スミスの物語を話してくれました。それからというもの、教会について疑いを持ったことはありません」とリチャーズ長老は語っています。リチャーズ長老は1934年3月18日にユタ州ソルトレーク・シティーで生まれ、同地で成長しました。学生時代のブライアンはスポーツ、特にバスケットボールをこよなく愛しました。後に彼は青少年のスポーツチームのコーチとして多くの時間を過ごしました。

ブライアンはブリガム・ヤング大学に進学しました。ある日ジョセフ・スミス・ビルディングに入ろうとしたブライアンは、入り口の階段付近に立ち止まっていた一人の女性を見かけ、「いつか、こんな女性と結婚できたらなあ」と思いました。それから数か月後の1955年、ブライアンはグレートレークス伝道部で宣教師として働く召しを受けました。伝道を終えてブリガム・ヤング大学へ戻った彼は、ある日、教室に向かう途中で再びあの女性に出会いました。そして彼女の名前がリンアン・テラーだと知りました。二人はデートをするようになり、1957年8月23日、ソルトレーク神殿で結婚しました。

リチャーズ夫妻はソルトレーク・シティーに住まいを構えて、8人の子供をもうけています。この間、リチャーズ長老は、航空機の部品とナビゲーション機器を製造するE・システムズ社に勤務し、最終的には厚生部長を務めました。教会においては、監督会で7年間、ステーキ会長会で14年間、そのうち9年間はステーキ会長として働きました。地区代表を3年間務めた後、リチャーズ長老は1994年から1997年までイングランド・マンチェスター伝道部の部長として働く召しを受けました。「子供たちを育てることを除いて、伝道部を管理する責任は妻とわたしが二人で味わたった最もすばらしい経験の一つに挙げることができます」とリチャーズ長老は語っています。「わたしはこの伝道で人がそれぞれに持つ価値を

知り、その一人一人を贖<sup>あか</sup>うためにイエス・キリストが払ってくださった代価についていっそう深い理解を得ることができました。」

長年の経験を通して築き上げられたすばらしい信仰を持つリチャーズ長老は、教会は文字どおり驚くべき業と不思議である、と感じています。「この教会はイエス・キリストの教会です。『モルモン書』はキリストの神性<sup>あかし</sup>に関するもう一つの民からもたらされた証であり、ジョセフ・スミスは回復の預言者です」とリチャーズ長老は語っています。



ネッド・B・ローシェイ長老

**ネ**ッド・ローシェイは、1934年8月5日に生まれ、ユタ州ケイズビルの農場で育ち、若いころから勤労について学びました。子供時代、彼の両親は教会にあまり活発ではありませんでした。しかしある晩、社交ダンスが好きだったネッドは、MIAのダンスパーティーでのショーを手伝うように頼まれました。ローシェイ長老は当時のことを振り返りながら、次のように語っています。「火曜日の晩にダンスに行き、日曜日には教会へ行こうと決めました。それから教会に通い始め、その後やめることは決してありませんでした。」1年後、当時21歳の彼は監督より伝道の召しを受けました。「伝道に出ることが正しいことと知っていました。」ローシェイ長老はそのように述べています。

メキシコでの伝道後、ネッドは1958年にソルトレーク神殿でジョアン・シェフィールド姉妹と結婚し、ユタ大学で工学を学びました。5人の子供のう

ち3番目の子供の誕生後、IBM社との面接があり、入社を希望するようになりました。それから1年間ウィーバー・カレッジで電子工学の教育を受けた後、ローシェイ兄弟はIBMでワールドエンジニアとして働き始めました。ローシェイ兄弟はそれから31年間IBMに勤務することになります。

その間、ローシェイ兄弟は仕事以外の時間をローシェイ夫人、家族、地域社会、そして教会にささげました。ローシェイ夫人については、支えとなる人、靈感を受ける人と表現しています。ローシェイ兄弟はケイズビル第1ワードおよび第6ワードで監督として働き、後に約10年間ステーク第一副会長として働きました。ローシェイ兄弟は社会的です。あまり教会に活発でない友人と釣りに出かけたとき、ローシェイ兄弟はそのときその友人が次のように語ったことを覚えています。「あなたが得ている祝福や特質はどれも、わたしの欲しいものばかりです。」それは友人にとって人生の転機となりました。ローシェイ兄弟はこのように語っています。「人々と働くときに受ける導きに喜びを感じています。そして常に主に仕えるよう備え、喜んで仕える意志があるので、幸せに思っています。」

ステーク会長会を解任されるとすぐ、ボーイスカウトの責任を受けて4年間働きました。その間ローシェイ兄弟はIBMを退職しています。その後1994年から1997年までベネズエラ・バルセロナ伝道部の部長に召されたローシェイ兄弟はこう語ります。「ボーイスカウトの責任は、伝道部長の責任を果たすうえでよい備えとなりました。」

七十人に召されたローシェイ長老は次のように語っています。「妻とわたしは主に仕えることを楽しみとしています。預言者ジョセフ・スミス、『モルモン書』、主の生ける預言者、そしてわたしたちの贖<sup>あかし</sup>い主、救い主であられる御方、またわたしたちの生活に常に祝福をもたらす主の回復された教会<sup>あかし</sup>に対し、わたしは強い証があります。」

\* \* \*



D・リー・トブラー長老

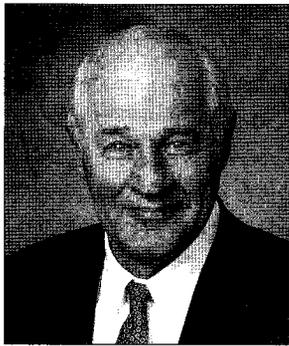
**19**53年から1956年までスイス・オーストリア伝道部で伝道したD・リー・トブラー長老は次のように述べています。「当時の自分やその後の自分を形成した中で最も重要だったのは伝道でした。健全で堅固な福音を土台として育ってきましたが、青少年期には自信が持てずに難しい時期もありました。伝道中、主について、また自分がどのような存在であり、主が自分のために何をされるかについて、さらに理解できるようになりました。それが転機となり、その後は飛躍的に成長しました。自信をなくす時期も何度かあったものの、総じて上昇していったのです。主の祝福に感謝しています。」

リーは1993年7月25日ユタ州プロボで、4人兄弟の2番目として生まれました。ネバダ州とアイダホ州で育ち、ブリガム・ヤング大学で学士号を、そしてシカゴのノースウェスタン大学では経営管理学の修士号をそれぞれ取得しました。ニューヨークにあるエクソン社に入社し、14年後コネチカット州ハートフォードの「アエツナ生命障害保険」に転職し、10年間勤務しました。その後テキサス州ヒューストンで再び石油産業に4年間従事した後、オハイオ州アクロンのBFグッドリッチ社で働きました。現在は副社長兼財務部長の任にありますが、1998年7月付けで退職となります。

リーは1956年ソルトレーク神殿でダリー・ツーン姉妹と結婚し、6人の子供と12人の孫に恵まれています。トブラー家はオハイオ州マーシャルビルに居住し、約2ヘクタールの農場を所有しています。農場ではリー自身が

熱心に造園を手がけ、花、低木、野菜などを育てています。彼はまた歴史書や伝記の読書やテニスも趣味としています。

トブラー長老は教会で、1996年4月から北アメリカ北東地域で地域幹部七十人として働いてきました。また以前にステーキ会長、ステーキ副会長も歴任し、監督は2度務めました。トブラー長老は次のように述べています。「特に監督としての召しが楽しかったです。監督の召しは、激務で、多くを要求されますが、ワードの会員を愛して、気にかけることはほんとうに祝福です。実際、いかなる召しも、神権もそのほかのものも、すべては愛が基となっています。まず救い主を愛し、それが真実の愛であるならば、自分の兄弟姉妹をも愛するようになるでしょう。」



ゴードン・T・ワッツ長老

**現**在フィリピン・ケソンシティー伝道部の部長を務めているゴードン・B・ワッツ長老は、伝道部長やそのほかの経験を通して、主の預言者に従うことの重要性を学んできました。ワッツ長老は次のように断言しました。「預言者の語る言葉は、ある特定の人に向けられたものではありません。世界全体に向けられているのです。」

1935年2月23日、ユタ州サウスウイバーに生まれたワッツ長老はユタ州で育ち、ウェーバー州立単科大学（現在は総合大学）を卒業しました。そしてアメリカ陸軍で軍務に就いた後、ハワイ諸島で伝道しました。後にユタ州立大学で経営学および教育学の学位を修得しています。1963年9月19日、ロ

ーガン神殿でコニー・ウェリング姉妹と結婚しました。フォード社で営業およびマーケティングで管理職にあったワッツ長老は、勤続していた32年の間、広範な地域を回りました。その結果夫妻と4人の子供たちはアメリカの様々な場所で過ごし、最も最近ではテキサス州ロアノークで生活していました。

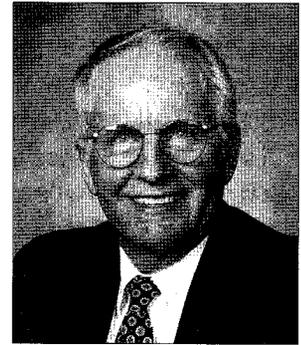
多くの人々と出会う機会に恵まれたワッツ家族は、意識してほかの人々の良き模範になるよう心がけました。オハイオ州クリーブランドではあるとき、ワッツ家族は市営バスを借り切り、近所の人々を教会員と宣教師のファイヤサイドに招待しました。その経験がきっかけとなり、近所に住む二人が教会に入ったのです。

ワッツ長老は妻、子供、そして孫たちと時間を共にするのを楽しみとしています。また木工細工、絵画、ゴルフ、そして庭仕事を趣味としています。庭仕事について、ワッツ長老は次のように話しています。「とても整然としたきれいなものには、大きな誇りを持っています。」

ワッツ長老は教会において、これまでに2度監督として働き、ステーキ会長会の副会長としても働いてきました。1993年2月に地区代表に召され、テキサス州ヒューストン東地区およびテキサス州プラノ地区でその務めを果たしました。現在の伝道部長の責任はこの7月で任期を終えます。

これまでの人生で受けてきた祝福は、両親から教わった、労働に対する強い倫理観と福音を中心とした生活によるものだ、ワッツ長老は考えています。両親からは度々このように教わってきました。「家族、教会、そして教会の標準に添った生活を、人生で最も大切にすべきです。」ワッツ長老はそれらを今日も固く信じており、加えてこのように語りました。「神はわたしたちに導きを与えてくださいます。〔この〕業の神性について、また主イエス・キリストについて何の疑いもありません。」

\* \* \*



スティーブン・A・ウエスト長老

**ス**ティーブン・A・ウエストとマーサ・アリス・シアーズ・ウエスト夫妻は、ユタ州ローガンでの新居購入が完了した当日、テキサス州サンアントニオ伝道部の部長の召しについて面接を受けました。召しはその3日後に通達され、間もなく夫妻はテキサスへと向ったのです。行く決心することに何のためらいもありませんでした。ウエスト長老は次のように語ります。「これまでの人生でいかなるときも、証と教会の教えがわたしたちの決心を定めてきました。」そして伝道部長としての任にある中、今回の七十人第二定員会の召しを受けました。

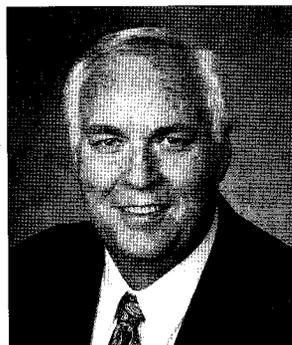
1935年3月23日、ソルトレーク・シティーで生まれたスティーブンは、アメリカ北西部での伝道を終えた後、ユタ州に戻り、ユタ大学で法学学士号および法学博士号を取得しました。その間スティーブンとマーサは1960年3月21日にソルトレーク神殿で結婚しました。現在3人の子供に恵まれています。

スティーブンは裁判官として働き、その後ソルトレーク・シティーの法律事務所で働き、その後1967年にワシントンD.C.に移りました。1年後メリーランド州ベテスダのマリオット社に入社し、後にマリオット・インターナショナル社の先任副社長および筆頭顧問弁護士となりました。1994年に退職後、ウエスト兄弟とマーサ夫人はユタ州ローガンに移り、伝道部長に召される前に家を探し始めました。

これまで監督、副監督、高等評議員、ワシントン〔D.C.〕神殿の結び固めの儀式執行者として働いてきました。ウエスト長老は奉仕の機会すべてに感

謝していますが、とりわけワシントン D.C.中心部にある小さな支部で副支部長をした経験から多くを学んだ様子について「すばらしい経験となりました」と語り、また、長老は今でもその支部の会員たちの「信じられないほどの信仰と強さ」に感銘を受けています、とも語っています。

ウエスト長老は次のように述べています。「テキサス州サンアントニオ伝道部のテーマ聖句は第三ニコファイ第5章13節です。その聖句にはこのように書かれてあります。『見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリストから召された。』この聖句を読むといつも感極まって言葉が詰まります。わたしが目標とする人格、行いはすべてこの聖句に示されているのです。」



ロバート・J・ホエットン長老

一つの文化と二つの言語に深いかわりを持ちながら成長することは特別な経験だったと、七十人第二定員会に新たに召されたロバート・J・ホエットン長老は自分の半生を振り返って語っています。1943年4月12日、メキシコ北部にある末日聖徒の移民地で生まれ、教会が経営する同地の学校で教育を受けたホエットン長老はスペイン語と英語、メキシコとアメリカ合衆国の歴史と文化に触れながら成長しました。

後に、メキシコで生まれ、成長期のほとんどをアメリカ合衆国で過ごし、

二か国の言語と文化を同じように愛した妻、ラケル・ロベス姉妹に出会ったのはホエットン長老にとって祝福でした。二人は1966年12月17日にアリゾナ神殿で結婚し、8人の子供に恵まれています。

二人は様々な国に住んで、それぞれの国での生活を満喫しようと将来を語り合いました。このようなわけで、ホエットン長老はブリガム・ヤング大学で修士課程を修了すると、国際金融を業務とする会社に就職しました。彼らは数年間にわたってメキシコおよび南アメリカの各国を次々に転勤することになります。やがて同社を退職したホエットン長老は、テキサス州エルパソに移って、コンサルティング会社、電子機器製造会社で働いた後、再び銀行で働くことになりました。ホエットン長老は1996年にパラグアイ・アサンシオン伝道部の部長に召されたとき、エルパソのノーウェスト銀行の頭取を務めていました。

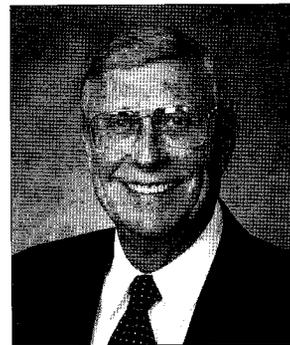
様々な職歴と教会の責任を通じて成長する機会を得た、とホエットン長老は感謝の気持ちを込めて言います（ホエットン長老は監督、高等評議員、ステーキ伝道部長会副部長を歴任しています）。この新しい召しは「わたしたちが持っているすべてとわたしたち自身を」主にささげる機会となるでしょう。

ホエットン姉妹は新しい召しを受けた伴侶を支え、ともに働く機会を心から喜んでいきます。「わたしたちは主を愛し、主の業を愛しています。王国を建設するために求められるすべてのことを喜んで行います」とホエットン長老は語っています。

「わたしの半生を振り返ってみると、特別な経験と祝福が与えられてきたことを感じます」と長老は言います。そして、これらの体験を通して得た教訓を、今後召しを通して仕える人々のために生かしたいと願っています。

「人生で学んだ偉大な教訓の多くは、祈りを通して与えられました」と長老は語り、モロナイ書第7章48節から「あなたがたは、……愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい」という教訓を引用しています。

「人生は瞬く間に過ぎていきます」とホエットン長老は説明します。このため、「わたしたちは人々に奉仕する業を毎日勤勉に行うことによって、いっそうキリストのような人物になるよう努めなければなりません。」



レイ・H・ウッド長老

レイ・H・ウッド、アン・アイレット・ウッド夫妻は家族がもつと一致し、主に近づくことを願って、1978年にカリフォルニア州中部の人口1,100人の小さな町サンフアン・パウティスタへ引越しました。彼らはサラトガに住む多くの隣人のもとを去って、新しい地に農場を買い、果樹園を作り、うさぎ280羽、豚5匹、牛3頭、鶏100羽、あひる3羽、犬1匹、猫1匹の世話をする生活を始めました。「子供たちはそれぞれ与えられた責任を果たすために朝4時半か5時には起きていました。それからセミナーへ行き、そして学校へ通いました」とウッド長老は当時を思い出して語ります。彼らの6人の子供のうち2人は、この生活を通して経験した事柄が福音に従う決意を新たにするうえで現在も役立っていると言います。

レイとアンは1955年8月8日、ローガン神殿で結婚したとき、主に仕えること、教会に活発に集うこと、永遠の家族を築くために努力することを約束しました。ウッド長老は、生活面でも教会面でも妻の助けがあったからこそ、監督、副監督、ステーキ副会長、ステーキ高等評議員などの責任を果たしてこられた、と述べています。ウッド長老は七十人第二定員会の召しを受けたとき、ソルトレーク・イーグルゲートステー

クの会長として働いていました。

1931年7月11日、ソルトレーク・シティーにおいてレイ・G・ウッド、メアリー・ハンター・ウッド夫妻の間に生まれたウッド兄弟は、1950年から1952年までイギリスで宣教師として働きました。伝道から帰還したウッド兄弟はユタ大学で学士号と法学博士号を取得した後、ソルトレーク・シティーの会計事務所に勤務しました。1958年に合衆国空軍で兵役を務め、ワシントン

州スポーケンとユタ州オグデンで3年間、空軍法務部の下士官として働きました。兵役を終えるとソルトレークへ戻り、ビート・マーウィック・ミッチェル社に就職して2年間ソルトレーク・シティーで働き、その後コロラド州デンバーへ転勤して2年間同地で勤務し、その後カリフォルニア州サンホゼに転勤し、1982年に同社の税務部顧問として退職するまで同地にとどまりました。ソルトレーク・シティーへ戻

ったウッド兄弟は教会の税務管理部長を務め、1997年に退職しました。ウッド兄弟はまた、14年間にわたってユタ州の税務申告委員会委員を務めています。

ウッド長老は家族の生活の中に主の導きがあったことを感謝するとともに、この新しい召しを謙遜に受け止め、このように述べています。「主はわたしたちを祝福してこられました。これから奉仕を行うことができるすばらしい機会を心から喜んでいます。」□

## 30の神殿建設が発表される

**総**大会の最後にゴードン・B・ヒンクレー大管長は、30ほどの新しい神殿の建設について発表し、次のように語った。「アメリカ合衆国、カナダをはじめ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、フィジー、メキシコ、

中南米、アフリカにも建設されます。……

これによって現在儀式が行われている51の神殿のほかに、合計47の新しい神殿ができることとなります。」さらにヒンクレー大管長はこう続けた。「今世

紀の最後までにさらに2つを加え、ちょうど100にできればと考えています。……今の時点では具体的な場所は発表できませんが、用地が確保されると、ステーク会長の方々に対して連絡がなされます。」□

## 福岡に小規模神殿の建設が発表される

**大**管長会は1998年5月7日付けの手紙で、福岡における神殿の建設を発表した。以下はこの手紙の抜粋である。

「わたしたちは日本の福岡に新しい小規模神殿の一つを建設することを喜びをもって発表いたします。この神殿が久しく、神殿地区に住む人々の必要を満ちし、人々から大いなる喜びをもって受け入れられることを期待しています。

この神殿のプランの中には、バプテスマ用の衣服のための小さな設備を除いてランドリーならびに通常の衣料関係の施設がありません。結び固めやエンダウメントのためにこの神殿に来られる方は、御自分の神殿着を持参していただく必要があります。

今回の神殿建設について教会員の皆様に発表するときは、自分の神殿着を

用意するようにお勧めください。また、すべての面において神殿推薦状を受けられる資格を得て、主の宮の儀式に参加することの大切さを強調してください。

わたしたちは聖徒の皆様の献身と忠実さに敬意を表するとともに、この新しい神殿の建設を通してもたらされる祝福に感謝しております。」□→『聖徒の道』1997年12月号ローカル、4ページ参照。



# 新ステーキ会長/地方部長

## 横浜南ステーキ(新設)

去る4月26日、新たに横浜南ステーキが組織された。ステーキ会長として西條誠司兄弟(写真中央)が、第一副会長として野田雄司兄弟(写真左)、第二副会長として相良健一兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。



西條誠司ステーキ会長の紹介

1947年、横浜市に生まれる。1957年に改宗。神奈川大学第二経済学部経済科卒業。1970年、日本西部伝道部にて専任宣教師として2年間奉仕する。1978年に鈴木真理子姉妹と結婚。1男7女の親となる。名前は上から、泰子、牧子、苑子、朝子、慶子、順子、真悟、愛衣。現在は鍼・灸院を開業。教会にあってはこれまで監督、副監督、高等評議員、大祭司グループリーダー、伝道主任、ワード書記、ステーキ宣教師、日曜学校教師などの責任を果たしてきた。保土ヶ谷ワード所属。

「……父がどれほどの大なる祝福を……あなたがたのために備えておられるかをまだ理解していない。」(教義と聖約78:17) 主は横浜の地を祝福され、南の地に新たにステーキを置いてくださいました。わたしたちは目を覚まして立ち上がり、器を清め、御言葉を行う人になりたいと思います。主が備えておられる祝福を会員が豊かに受けられますように願っています。神は確かに生きていらっしゃいます。

## 横浜ステーキ(再組織)

去る4月26日、横浜ステーキ会長会が再組織された。ステーキ会長、第一副会長として引き続き遠藤 大兄弟(写真中央)、宮内敏雄兄弟(写真左)が、第二副会長として新たに田口実康兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。



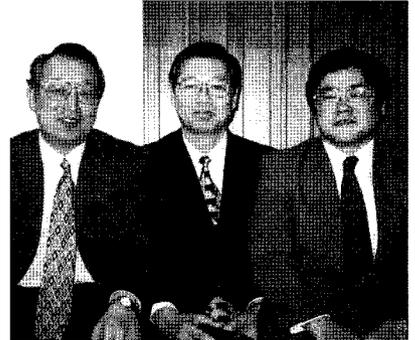
遠藤 大ステーキ会長の紹介

1941年、旧満州、大連市に生まれる。1962年、金沢市にて改宗。金沢美術工芸大学工業デザイン科卒業。1967年、水島孝姉妹と結婚、3人の子供がいる。上から順、謙、慎。日本ビクター(デザイン部)、多摩美術大学非常勤講師、工業デザイン事務所(自営)などを経て、現在、教会管理本部資材管理部勤務。教会においてはこれまでステーキ会長、ステーキ副会長、高等評議員、監督、長老定員会会長、ボーイスカウト横浜92团团委員長などの責任を果たしてきた。神奈川ワード所属。

横浜ステーキにとって町田ステーキを分割して以来、横浜南ステーキの分割は2度目です。ステーキ分割に必要な会員数の中には、多くのお休み会員が含まれています。数多くの宣教師や会員たちによって導かれたこれらの尊い霊たちと、福音を心待ちにしている人々が神殿の儀式に一人でも多くあずかれるように、全力を尽くして働かねばならないと決意しています。

## 広島ステーキ(再組織)

去る2月22日、広島ステーキが再組織された。新たにステーキ会長として住吉正博兄弟(写真中央)が、第一副会長として近藤成吉兄弟(写真左)、第二副会長として桐林 潤兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。



住吉正博ステーキ会長の紹介

1944年、旧満州、牡丹江省に生まれる。1961年、広島市にて改宗。大阪電気通信大学短期学部電子科卒業。1968年、西原克子姉妹と結婚、3人の子供がいる。名前は上から薫、朋美、顕。現在まで、大西ハイメック(株)営業部に28年間勤務。教会においては、これまでステーキ副会長、高等評議員、伝道部の副部長、地方部長などの責任を果たしてきた。高須ワード所属。

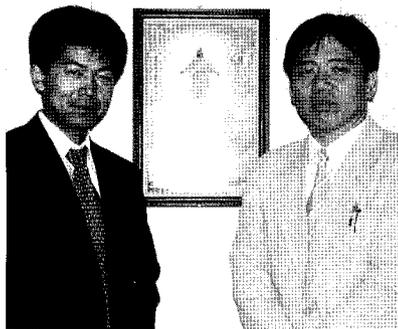
\*

神様の業を進めていくお手伝いができることを心から感謝しています。若いうちに教会を知ることができ、教会の中で人生の設計を立てて進めていくことができましたことを感謝しています。これまで働いてこられたステーキ会長の方々の働きを続けて推し進め、家族、個人一人一人が救いの道を歩いている実感が持てるように、働いていきたいと思っています。

# 奉献された教会堂

## 福知山地方部(再組織)

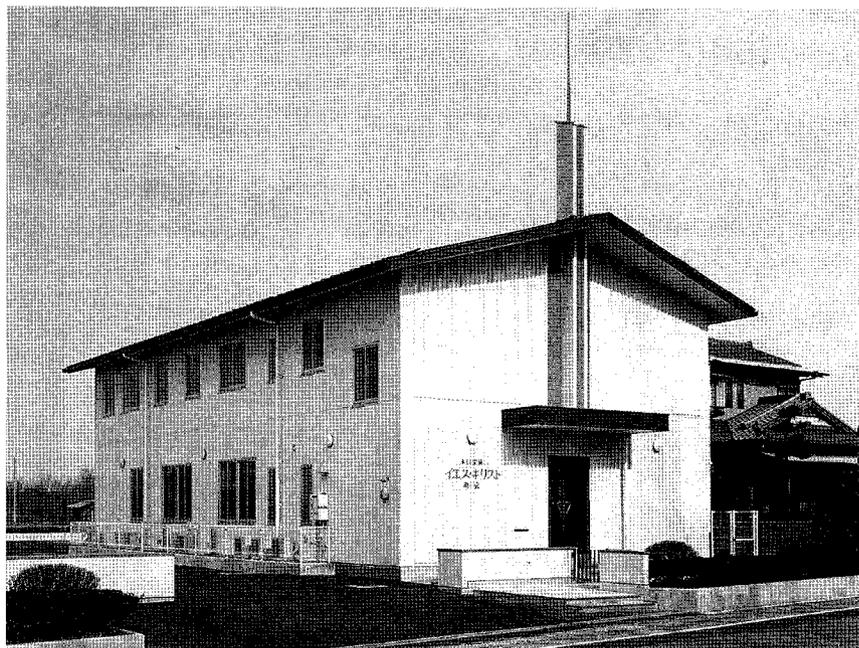
去る1997年11月16日、福知山地方部長会が再組織された。新たに地方部長として多田政広兄弟(写真左)が、第一副部長として細谷秀之兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。



### 多田政広地方部長の紹介

1959年、兵庫県豊岡市に生まれる。1986年に改宗。行岡保健衛生学園放射線科卒業。1998年、佐々木(細木)美津子姉妹と結婚、1男2女の親となる。上から祈愛(9歳)、崇司(7歳)、真愛(5歳)。丸茂整形外科病院(大阪府三島郡)を経て、昭和56年より国保久美浜病院に診療放射線技師として勤務、現在に至る。教会においてはこれまで支部長、支部書記、書記補助、日曜学校会長、日曜学校教師、長老定員会教師、インスティテュート教師などの責任を果たしてきた。豊岡支部所属。

1985年秋、初めて宣教師の訪問を受けたとき、わたしは縁あってすでに2冊の『モルモン書』を持っていました。母はその日お二人を、なぜかいつも来客時に出すコーヒーではなく温かい牛乳でもてなしました。その後レッスンを受ける中で知恵の言葉を学び、神様の御手を感じる事ができました。翌年4月にバプテスマを受けましたが、当時我が家は専業農家で猫の手も借りたい忙しさでした。ある日曜日、父に



頼まれ朝から農作業をしているとき、教会に行けるように御父に祈り求めました。すると急に土砂降りの雨になり、作業は中止となって教会に行くことができませんでした。また職場で参加している駅伝チームでは、知恵の言葉の約束どおり、走っても不思議と疲れたことはありません。百分の一の約束どおり、いつも天の窓を開いて恵みを豊かに頂いています。家庭の夕べや家族の祈りをするとき、福音に添った生活のすばらしさを味わうことができます。

この教会は神様が組織された地上で唯一まことの教会で、その教えは、自分自身が実行することによって真実であると知ることができます。従順になるとき『神の栄光を知るようになり、……神の慈しみを知り、神の愛を味わい、心に……非常に大きな喜び〔を受け〕……神の偉大さ……神の慈しみと寛容、……〔神〕の栄光、……正しく真実な事柄をますます知るようになる』ことを心から証します(モーサヤ4：11-12)。信仰に基づく従順は、わたしを永遠の命へと導いてくれます。

## 東京北伝道部 宇都宮地方部 古河支部

所在地 〒306-0101  
茨城県猿島郡三和町  
大字尾崎字道定野  
3038-22  
電話 0280-31-6487  
竣工日 1997年12月17日  
敷地面積 1170.24平方メートル  
建築面積 183.18平方メートル  
延床面積 352.80平方メートル

# 専任宣教師

1998年5月(224期生) 13人, 海外3人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット



**青池七生子**  
福岡伝道部  
横浜南ステーキ  
戸塚ワード



**系数哲宗**  
札幌伝道部  
東京ステーキ  
ひばりヶ丘ワード



**大田原理恵**  
名古屋伝道部  
札幌ステーキ  
厚別ワード



**志津野智恵**  
札幌伝道部  
東京ステーキ  
鎌ヶ谷ワード



**鈴木友視**  
札幌伝道部  
東京ステーキ  
長生ワード



**高橋糸真**  
札幌伝道部  
東京北ステーキ  
中野ワード



**中村 恵**  
東京南伝道部  
大阪東ステーキ  
高槻ワード



**西尾智恵子**  
福岡伝道部  
石川地方部  
小松支部



**日坂 勉**  
福岡伝道部  
名古屋西ステーキ  
福徳ワード



**福山芳美**  
札幌伝道部  
名古屋西ステーキ  
御器所ワード



**藤本真由美**  
札幌伝道部  
東京南ステーキ  
渋谷ワード



**松江典章**  
岡山伝道部  
町田ステーキ  
町田第1ワード



**喜村 寛**  
札幌伝道部  
沖縄那覇ステーキ  
小禄ワード



**北郷 元**  
コロラド州  
デンバー伝道部  
我孫子ステーキ  
我孫子ワード



**中橋一美**  
アリゾナ州  
デンビ伝道部  
札幌西ステーキ  
苫小牧支部



**新田聡美**  
ユタ州ソルトレーク  
テンブルスクウェア伝道部  
仙台ステーキ  
泉ワード

\*

## 皆さんの原稿を募集しています

◎「チャーチ・ニュース」では、現在以下のテーマについての記事を募集しています。

●祈りについての証

●ホームメーカー活動のアイデアとヒント  
1998年8月16日必着で下記までお寄せください。できれば写真を同封してください。

◎その他、一般のご投稿も歓迎いたします。

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。採用された原稿は編集の際、要約や手直しをさせていただくことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取られ次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、MTC入所予定月を明記)

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室  
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

# 役員の変動

1998年5月7日から6月3日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 札幌ステーキ厚別ワード  
監督: 辻元 基
- 日本横浜ステーキ  
第二副ステーキ会長: 田口実康
- 横浜ステーキ鶴見ワード  
監督: 熊沢幸雄
- 横浜ステーキ横浜中ワード  
監督: Tuttle, Boyd J
- 横浜ステーキ都筑ワード  
監督: 勝政英人
- 横浜ステーキ神奈川ワード  
監督: 山新田 浩
- 横浜ステーキ川崎ワード  
監督: 田中靖也
- 日本横浜南ステーキ  
ステーキ会長: 西條誠司  
第一副ステーキ会長: 野田雄司  
第二副ステーキ会長: 相良健一
- 横浜南ステーキ上大岡ワード  
監督: 浄泉正則
- 横浜南ステーキ戸塚ワード  
監督: 渡邊幸由
- 横浜南ステーキ旭ワード  
監督: 相良信行
- 横浜南ステーキ横須賀支部  
支部長: 天野良和
- 日本青森地方部  
地方部長: 三上 敬  
第一副部長: 森 浩典  
第二副部長: 泉田哲志
- 仙台ステーキ山形ワード  
監督: 荒木隆志
- 東京西ステーキ福生ワード  
監督: 吉野誠司
- 東京西ステーキ八王子第二ワード  
監督: 上野 誠
- 東京西ステーキ高尾ワード  
監督: 丸山幹夫
- 東京西ステーキ府中ワード  
監督: 馬場恵一
- 東京西ステーキ多摩ワード  
監督: 野口礼人

## ユニットの変更

1998年5月24日付けで、東京西ステーキの旧国立ワードが、国立ワードと福生ワードに分割、また旧八王子第二ワードが、八王子第二ワードと高尾ワードに分割されました。

# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

## 大管長会



第一副管長  
トーマス・S・モンソン



大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

## 十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



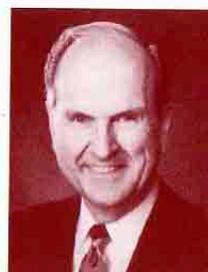
L・トム・ベリー



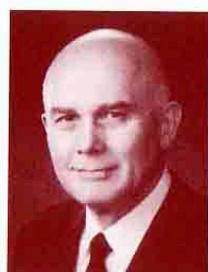
デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



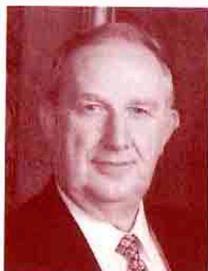
ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

## 七十人会長会



L・アルヴィン・ポーター



ジョー・J・クリステンセン



モンテ・J・ジョンソン



W・ユーゲン・ハンセン



ジャック・H・ゴースリッド



ハロルド・G・ヒラム



アール・C・ディンクラー

七十人第一定員会

七十人第二定員会



アンヘル・アフレア



カーロス・H・アマーン



ニール・L・アンダーセン



グラス・N・アーチボルド



ベン・B・バンクス



メリル・J・ペイトマン



ウィリアム・R・ブラッドフォード



リチャード・D・オールレッド



アトス・A・アモリム



E・レイ・ペイトマン



L・エドワード・ブラウン



エラン・A・コール



ビル・R・クリステンセン



F・エンツィオ・フッジェ



ジョン・K・カーマック



シェルドン・F・チャイルド



D・トッド・クリストファーソン



ゲーリー・J・コールマン



スペンサー・J・コンディー



ジーン・R・クック



リチャード・E・クック



クラウディオ・R・M・コスタ



デュエイン・B・ジェラード



ロナルド・T・ハルバーソン



ウェイン・M・ハンコック



J・ケント・ジョリー



クエンティン・L・クック



ロバート・K・テレンバック



ジョン・B・ディクソン



チャールズ・J・ディエ



ローレン・C・ダン



ボーン・J・フェザーストーン



ジョン・H・グローバーク



W・ドン・ラッド



ジェームズ・O・メーソン



リチャード・J・メインズ



アール・E・ミラー



アール・M・モンソン



メリル・C・オークス



ブルース・C・ヘーフェン



F・メルビン・ハモンド



F・バートン・ハワード



ジェイ・E・ジェンセン



マーリリン・K・ジェンセン



ケネス・ジョンソン



L・ライオネル・グンドリック



ブルース・D・ポーター



H・プライアン・リチャーズ



リン・G・ロビンズ



ネッド・B・ルーシェ



デニス・E・シモンズ



ドナルド・L・ステアリー



ウィリアム・ロルフ・カー



菊地良彦



クリー・L・コッフォード



ジョン・M・マドセン



リン・A・ミカルセン



アレクサンダー・B・モリソン



デニス・B・ノイエンシュバンダー



ジェラルド・L・テラー



D・リー・トブラー



リチャード・E・ターラー・シニア



ゴードン・T・ワッツ



スティーブン・A・ウェスト



ロバート・J・ホットン



グレン・L・ベイス



ジェームズ・M・バラモア



アンドリュー・W・ピーターソン



レックス・D・ピネガー



ヒュー・W・ピノック



ロナルド・E・ポールマン



カール・B・プラット



ランス・B・ウィックマン



リチャード・B・ワースリン



レイ・H・ウッド



セシル・O・サミュエルソン・ジュニア



デビッド・E・ソレンセン



ディーター・F・ウクトドルフ



フランシスコ・J・ビーナス



W・クレイグ・ズウィック

管理監督会



第一副監督  
リチャード・C・エッジリー

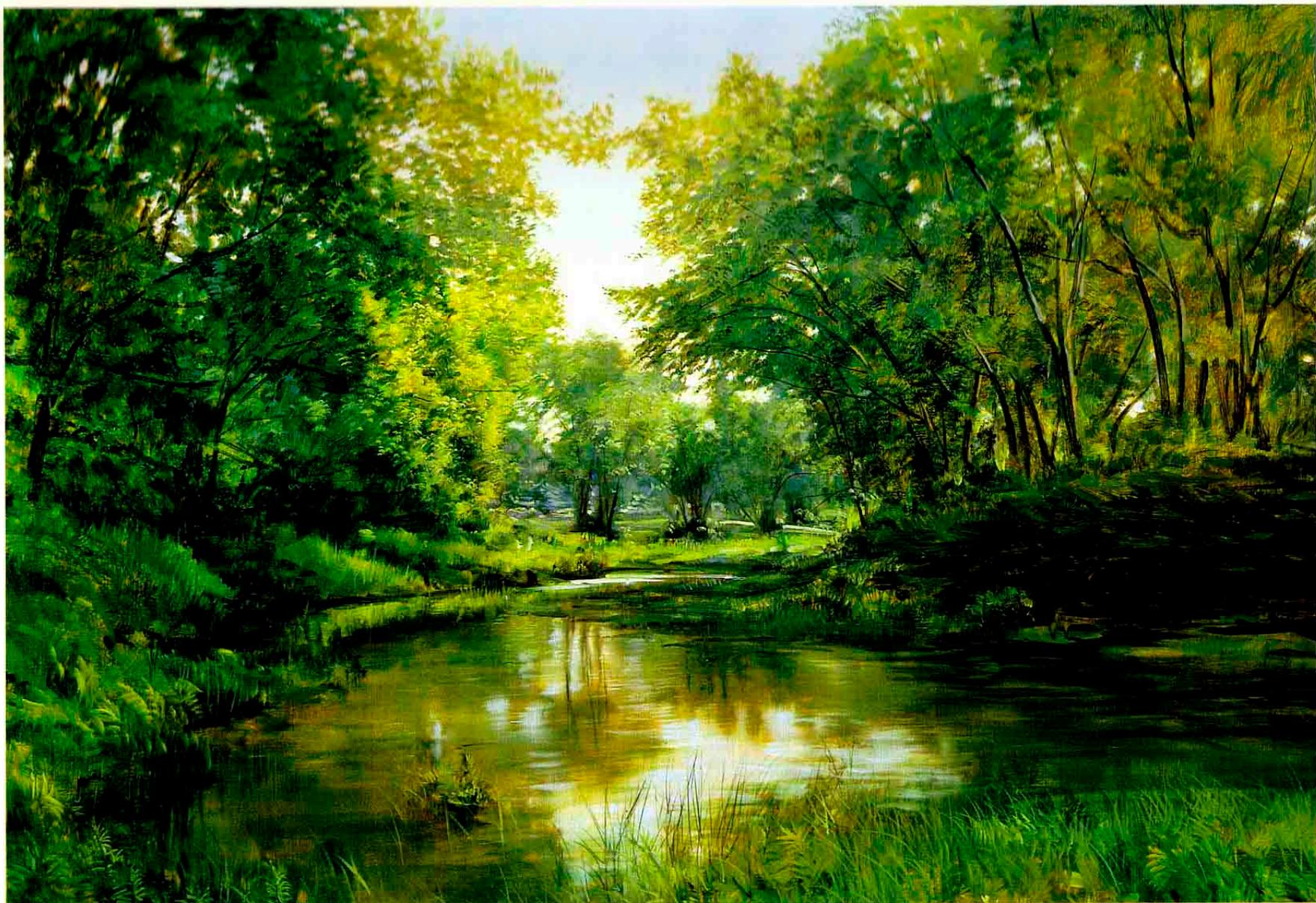


管理監督  
H・デビッド・バートン



第二副監督  
ケニス・B・マクマリン

(1998年4月5日現在)



「アロン神権回復の地」 フランク・マグレビー画

ペンシルベニア州ハーモニーの近くにある、現在のサスケハナ河畔が描かれている。

1829年5月15日、この地でアロン神権は預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに回復された。この出来事について預言者はこう説明している。  
「〔バプテスマのヨハネ〕はアロンの神権を授け〔た〕。これは天使の働きかぎの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。」  
(ジョセフ・スミスー歴史1：69)



「あ なたがたのうちに、百匹の羊を持っ  
ている者がいたとする。その一匹が  
いなくなったら、九十九匹を野原に残してお  
いて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜  
し歩かないであろうか。そして見つけたら、  
喜〔ぶ〕であろう。」（ルカ15：4-6）

